

令和7年度

# シラバス

看護学部 看護学科

学校法人 松本学園

松本看護大学

看護学部看護学科 教育課程表  
[看護師課程]

区分	No.	授業科目	配当年次	単位数		1単位時間数	授業形態	履修方法及び卒業要件
				必修	選択			
教養科目	コミュニケーション 関連科目	1 英語 I	1前	2		15	講義	必修科目3単位 + 選択科目3単位以上
		2 英語 II	2前		2	15	講義	
		3 中国語	2前		2	15	講義	
		4 人間関係論	1前	1		15	講義	
		5 カウンセリング理論	1後		1	15	講義	
		6 コミュニケーション支援論	1後		1	15	講義	
	科学的思考関連科目	7 情報リテラシー	1前		1	15	講義	必修科目1単位 + 選択科目5単位以上
		8 情報科学	1後	1		15	講義	
		9 科学論	1前		1	15	講義	
		10 社会学	1前		1	15	講義	
		11 生物学	1前		2	15	講義	
		12 日本国憲法	1前		2	15	講義	
		13 比較文化論	1前		1	15	講義	
		14 環境学	1前		1	15	講義	
		15 教育学	1前		1	15	講義	
	人間と生活・社会の理解 関連科目	16 生命倫理	1前	1		15	講義	必修科目4単位 + 選択科目3単位以上
		17 法と人権	1後	1		15	講義	
		18 家庭支援論	1後		1	15	講義	
		19 臨床心理学	1前	1		15	講義	
		20 国際理解入門	1後		1	15	講義	
		21 ボランティア論	1後		1	15	講義	
		22 音楽療法	1後		1	15	講義	
		23 松本の歴史と文化	1後		1	15	講義	
		24 健康とスポーツ	1前		1	15	講義	
		25 体育実技	1前	1		30	演習	
教養科目 小計(25科目)				8	22	—	—	19単位以上
連携科目	智の創造関連科目	26 教養ゼミナール	1前	1		30	演習	必修科目5単位 + 選択科目1単位以上
		27 連携ゼミナール I	2前	1		30	演習	
		28 連携ゼミナール II	3前	1		30	演習	
		29 研究入門	1後	1		15	講義	
		30 研究方法論	2後	1		15	講義	
		31 言語と表現	1前		1	15	講義	
	32 キャリア形成論	4後		1	15	講義		
連携科目 小計(7科目)				5	2	—	—	6単位以上
専門基礎科目	人体構造と機能	33 形態機能学 I	1前	2		15	講義	必修科目23単位 + 選択科目2単位以上
		34 形態機能学 II	1後	2		15	講義	
		35 形態機能学 III	1後	1		30	演習	
		36 生化学	1後	2		15	講義	
		37 臨床栄養学	2前	1		15	講義	
	疾病の成り立ちと 回復の促進	38 臨床薬理学	2後	2		15	講義	
		39 病態治療学 I	1後	2		15	講義	
		40 病態治療学 II	2前	2		15	講義	
		41 感染症学	2前	2		15	講義	
		42 感染看護学	2後		1	15	講義	
		43 看護とリハビリテーション	1後	1		15	講義	
	健康支援と保健医療システム	44 疫学	2後	2		15	講義	
		45 公衆衛生学	1後	1		15	講義	
		46 保健・医療・福祉行政論	3前		2	15	講義	
47 社会保障制度		1後	1		15	講義		
48 衛生関係法規		2後	1		15	講義		
49 保健統計学 I	2前	1		15	講義			
50 保健統計学 II	2後		1	15	講義			
51 看護援助的関係論	1後		1	15	講義			
連携科目 小計(19科目)				23	5	—	—	25単位以上
専門科目	看護の基礎	52 看護学概論	1前	2		15	講義	
		53 基礎看護技術 I	1前	2		30	演習	
		54 基礎看護技術 II	1後	2		30	演習	
		55 基礎看護技術 III	2前	1		15	講義	
		56 ハルスアセスメント	1後	2		30	演習	
		57 看護過程展開論	2前	1		30	演習	
		58 看護倫理学	2後	1		15	講義	
		59 地域・在宅看護学概論	2前	2		15	講義	
		60 地域・在宅看護援助論 I	2後	1		30	演習	
		61 地域・在宅看護援助論 II	3前	1		30	演習	
		62 地域包括ケア論	1後	1		15	講義	
		63 家族看護学	3前	1		15	講義	

看護学部看護学科 教育課程表

[看護師課程]

区分	No.	授業科目	配当年次	単位数		1単位時間数	授業形態	履修方法及び卒業要件
				必修	選択			
看護の実践	64	成人看護学概論	2前	2		15	講義	必修科目70単位 + 選択科目10単位以上 *ただし、選択科目には 「救急看護学実習+災害看護学実習」 「多職種連携実習」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」 のいずれか2単位を含む
	65	成人急性期看護論	3前	2		30	演習	
	66	成人慢性期看護論	2後	2		30	演習	
	67	緩和ケア論	2後		1	15	講義	
	68	老年看護学概論	2前	2		15	講義	
	69	老年症候群援助論	2後	1		15	講義	
	70	老年看護援助論	3前	1		30	演習	
	71	認知症ケア論	2後		1	15	講義	
	72	小児看護学概論	2前	2		15	講義	
	73	小児看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
	74	小児看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
	75	小児発達学	2後		1	15	講義	
	76	母性看護学概論	2前	2		15	講義	
	77	母性看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
	78	母性看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
79	地域母子保健学	2後		1	15	講義		
80	精神看護学概論	2前	2		15	講義		
81	精神看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習		
82	精神看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習		
83	地域精神保健学	2後		1	15	講義		
看護の発展と統合	84	救急看護学	3前		2	15	講義	
	85	災害看護学	3前		2	15	講義	
	86	地域医療連携システム論	2後		1	15	講義	
	87	在宅生活支援論	3前	1		15	講義	
	88	公衆衛生看護学概論	2前	2		15	講義	
	89	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後		2	15	講義	
	90	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		1	15	講義	
	91	健康支援論	2前	1		15	講義	
	92	公衆衛生看護管理論	4前		1	15	講義	
	93	公衆衛生看護方法論Ⅰ	3前		2	15	講義	
	94	公衆衛生看護方法論Ⅱ	3前		2	15	講義	
95	公衆衛生看護方法論Ⅲ	4前		2	30	演習		
96	ターミナル看護	4後	1		15	講義		
97	ヘルスカウンセリング	4後		1	15	講義		
98	看護マネジメント論	4前	1		15	講義		
99	卒業研究	4通	2		30	演習		
看護の実践(臨床実習)	100	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1		45	実習	
	101	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2		45	実習	
	102	地域・在宅看護学実習	3通	3		45	実習	
	103	成人急性期看護学実習	3通	2		45	実習	
	104	成人慢性期看護学実習	3通	4		45	実習	
	105	老年看護学実習Ⅰ	3前	1		45	実習	
	106	老年看護学実習Ⅱ	3通	2		45	実習	
	107	小児看護学実習Ⅰ	3前	1		45	実習	
	108	小児看護学実習Ⅱ	3通	1		45	実習	
	109	母性看護学実習	3通	2		45	実習	
	110	精神看護学実習	3通	2		45	実習	
	111	救急看護学実習	4前		1	45	実習	
	112	災害看護学実習	4前		1	45	実習	
	113	多職種連携実習	4前		2	45	実習	
	114	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前		2	45	実習	
	115	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		1	45	実習	
	116	公衆衛生看護学実習Ⅲ	4前		1	45	実習	
	117	公衆衛生看護学実習Ⅳ	4後		1	45	実習	
	118	統合実習	4前	2		45	実習	
専門科目 小計(67科目)				70	30	—	—	80単位以上
合計(118科目)				106	59	—	—	130単位以上

<卒業要件及び履修方法>

- 教養科目
  - (1)コミュニケーション関連科目 必修科目3単位を含む6単位以上
  - (2)科学的思考関連科目 必修科目1単位を含む6単位以上
  - (3)人間と生活・社会の理解関連科目 必修科目4単位を含む7単位以上
- 連携科目 必修科目5単位を含む6単位以上
- 専門基礎科目 必修科目23単位を含む25単位以上
- 専門科目 下記の(1)及び(2)を条件を満たす80単位以上
  - (1)必修科目70単位以上
  - (2)選択科目10単位以上(「救急看護学実習+災害看護学実習」「多職種連携実習」「公衆衛生看護学実習Ⅰ」のいずれか2単位を含めること)

<履修科目の登録上限>

・年間49単位

看護学部看護学科 教育課程表  
[保健師課程]

区分	No.	授業科目	配当年次	単位数		1単位時間数	授業形態	履修方法及び卒業要件	
				必修	選択				
教養科目	コミュニケーション 関連科目	1	英語 I	1前	2		15	講義	必修科目3単位 + 選択科目3単位以上
		2	英語 II	2前		2	15	講義	
		3	中国語	2前		2	15	講義	
		4	人間関係論	1前	1		15	講義	
		5	カウンセリング理論	1後		1	15	講義	
		6	コミュニケーション支援論	1後		1	15	講義	
	科学的思考関連科目	7	情報リテラシー	1前	1		15	講義	必修科目4単位 + 選択科目2単位以上
		8	情報科学	1後	1		15	講義	
		9	科学論	1前		1	15	講義	
		10	社会学	1前		1	15	講義	
		11	生物学	1前		2	15	講義	
		12	日本国憲法	1前	2		15	講義	
		13	比較文化論	1前		1	15	講義	
		14	環境学	1前		1	15	講義	
		15	教育学	1前		1	15	講義	
	人間と生活・社会の理解 関連科目	16	生命倫理	1前	1		15	講義	必修科目5単位 + 選択科目2単位以上
		17	法と人権	1後	1		15	講義	
		18	家庭支援論	1後		1	15	講義	
		19	臨床心理学	1前	1		15	講義	
		20	国際理解入門	1後		1	15	講義	
		21	ボランティア論	1後		1	15	講義	
		22	音楽療法	1後		1	15	講義	
		23	松本の歴史と文化	1後		1	15	講義	
		24	健康とスポーツ	1前	1		15	講義	
		25	体育実技	1前	1		30	演習	
教養科目 小計(25科目)				12	18	—	—	19単位以上	
連携科目	智の創造関連科目	26	教養ゼミナール	1前	1		30	演習	必修科目5単位 + 選択科目1単位以上
		27	連携ゼミナール I	2前	1		30	演習	
		28	連携ゼミナール II	3前	1		30	演習	
		29	研究入門	1後	1		15	講義	
		30	研究方法論	2後	1		15	講義	
		31	言語と表現	1前		1	15	講義	
	32	キャリア形成論	4後		1	15	講義		
連携科目 小計(7科目)				5	2	—	—	6単位以上	
専門基礎科目	人体構造と機能	33	形態機能学 I	1前	2		15	講義	必修科目26単位
		34	形態機能学 II	1後	2		15	講義	
		35	形態機能学 III	1後	1		30	演習	
		36	生化学	1後	2		15	講義	
		37	臨床栄養学	2前	1		15	講義	
	疾病の成り立ちと 回復の促進	38	臨床薬理学	2後	2		15	講義	
		39	病態治療学 I	1後	2		15	講義	
		40	病態治療学 II	2前	2		15	講義	
		41	感染症学	2前	2		15	講義	
		42	感染看護学	2後		1	15	講義	
		43	看護とリハビリテーション	1後	1		15	講義	
	健康支援と保健医療システム	44	疫学	2後	2		15	講義	
		45	公衆衛生学	1後	1		15	講義	
		46	保健・医療・福祉行政論	3前	2		15	講義	
47		社会保障制度	1後	1		15	講義		
48		衛生関係法規	2後	1		15	講義		
49	保健統計学 I	2前	1		15	講義			
50	保健統計学 II	2後	1		15	講義			
51	看護援助的関係論	1後		1	15	講義			
連携科目 小計(19科目)				26	2	—	—	26単位以上	
専門科目	看護の基礎	52	看護学概論	1前	2		15	講義	必修科目26単位
		53	基礎看護技術 I	1前	2		30	演習	
		54	基礎看護技術 II	1後	2		30	演習	
		55	基礎看護技術 III	2前	1		15	講義	
		56	ヘルスアセスメント	1後	2		30	演習	
		57	看護過程展開論	2前	1		30	演習	
		58	看護倫理学	2後	1		15	講義	
		59	地域・在宅看護学概論	2前	2		15	講義	
		60	地域・在宅看護援助論 I	2後	1		30	演習	
		61	地域・在宅看護援助論 II	3前	1		30	演習	
		62	地域包括ケア論	1後	1		15	講義	
		63	家族看護学	3前	1		15	講義	

看護学部看護学科 教育課程表

[保健師課程]

区分	No.	授業科目	配当年次	単位数		1単位時間数	授業形態	履修方法及び卒業要件
				必修	選択			
看護の実践	64	成人看護学概論	2前	2		15	講義	必修科目85単位
	65	成人急性期看護論	3前	2		30	演習	
	66	成人慢性期看護論	2後	2		30	演習	
	67	緩和ケア論	2後		1	15	講義	
	68	老年看護学概論	2前	2		15	講義	
	69	老年症候群援助論	2後	1		15	講義	
	70	老年看護援助論	3前	1		30	演習	
	71	認知症ケア論	2後		1	15	講義	
	72	小児看護学概論	2前	2		15	講義	
	73	小児看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
	74	小児看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
	75	小児発達学	2後		1	15	講義	
	76	母性看護学概論	2前	2		15	講義	
	77	母性看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
	78	母性看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
看護の発展と統合	79	地域母子保健学	2後		1	15	講義	
	80	精神看護学概論	2前	2		15	講義	
	81	精神看護援助論Ⅰ	2後	1		30	演習	
	82	精神看護援助論Ⅱ	3前	1		30	演習	
	83	地域精神保健学	2後		1	15	講義	
	84	救急看護学	3前		2	15	講義	
	85	災害看護学	3前		2	15	講義	
	86	地域医療連携システム論	2後		1	15	講義	
	87	在宅生活支援論	3前	1		15	講義	
	88	公衆衛生看護学概論	2前	2		15	講義	
	89	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後	2		15	講義	
	90	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後	1		15	講義	
	91	健康支援論	2前	1		15	講義	
	92	公衆衛生看護管理論	4前	1		15	講義	
	看護の実践(臨地実習)	93	公衆衛生看護方法論Ⅰ	3前	2		15	講義
94		公衆衛生看護方法論Ⅱ	3前	2		15	講義	
95		公衆衛生看護方法論Ⅲ	4前	2		30	演習	
96		ターミナル看護	4後	1		15	講義	
97		ヘルスカウンセリング	4後		1	15	講義	
98		看護マネジメント論	4前	1		15	講義	
99		卒業研究	4通	2		30	演習	
100		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1		45	実習	
101		基礎看護学実習Ⅱ	2前	2		45	実習	
102		地域・在宅看護学実習	3通	3		45	実習	
103		成人急性期看護学実習	3通	2		45	実習	
104		成人慢性期看護学実習	3通	4		45	実習	
105		老年看護学実習Ⅰ	3前	1		45	実習	
106		老年看護学実習Ⅱ	3通	2		45	実習	
107		小児看護学実習Ⅰ	3前	1		45	実習	
108	小児看護学実習Ⅱ	3通	1		45	実習		
109	母性看護学実習	3通	2		45	実習		
110	精神看護学実習	3通	2		45	実習		
111	救急看護学実習	4前		1	45	実習		
112	災害看護学実習	4前		1	45	実習		
113	多職種連携実習	4前		2	45	実習		
114	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4前	2		45	実習		
115	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前	1		45	実習		
116	公衆衛生看護学実習Ⅲ	4前	1		45	実習		
117	公衆衛生看護学実習Ⅳ	4後	1		45	実習		
118	統合実習	4前	2		45	実習		
専門科目 小計(67科目)				85	15	—	—	85単位以上
合計(118科目)				128	37	—	—	136単位以上

<卒業要件及び履修方法>

- 教養科目
  - (1)コミュニケーション関連科目 必修科目3単位を含む6単位以上
  - (2)科学的思考関連科目 必修科目4単位を含む6単位以上
  - (3)人間と生活・社会の理解関連科目 必修科目5単位を含む7単位以上
- 連携科目 必修科目5単位を含む6単位以上
- 専門基礎科目 必修科目26単位
- 専門科目 必修科目85単位

<履修科目の登録上限>

・年間49単位

## シラバス 目次

1. 英語 I (基礎)
2. 英語 II (コミュニケーション)
3. 中国語
4. 人間関係論
5. カウンセリング理論
6. コミュニケーション支援論
7. 情報リテラシー
8. 情報科学
9. 科学論
10. 社会学
11. 生物学
12. 日本国憲法
13. 比較文化論
14. 環境学
15. 教育学
16. 生命倫理
17. 法と人権
18. 家庭支援論
19. 臨床心理学
20. 国際理解入門
21. ボランティア論
22. 音楽療法
23. 松本の歴史と文化
24. 健康とスポーツ
25. 体育実技
26. 教養ゼミナール(初年次教育)
27. 連携ゼミナール I (キャリアデザイン)
28. 連携ゼミナール II (卒業研究の基礎)
29. 研究入門
30. 研究方法論
31. 言語と表現
32. キャリア形成論
33. 形態機能学 I (細胞組織・骨筋系・神経系)
34. 形態機能学 II (呼吸・循環・消化器・泌尿器系)
35. 形態機能学 III (内分泌・免疫・生殖・感覚器系)
36. 生化学
37. 臨床栄養学
38. 臨床薬理学
39. 病態治療学 I (循環器、消化器、脳神経系)
40. 病態治療学 II (呼吸器、骨筋、腎泌尿器、内分泌、生殖器系)
41. 感染症学
42. 感染看護学
43. 看護とリハビリテーション
44. 疫学
45. 公衆衛生学
46. 保健・医療・福祉行政論
47. 社会保障制度
48. 衛生関係法規
49. 保健統計学 I (基礎)
50. 保健統計学 II (応用)
51. 看護援助的関係論
52. 看護学概論
53. 基礎看護技術 I (日常生活援助技術)
54. 基礎看護技術 II (診療の補助技術)
55. 基礎看護技術 III (看護過程と看護理論)
56. ヘルスアセスメント
57. 看護過程展開論
58. 看護倫理学
59. 地域・在宅看護学概論
60. 地域・在宅看護援助論 I (援助方法論)
61. 地域・在宅看護援助論 II (援助の実際)
62. 地域包括ケア論
63. 家族看護学
64. 成人看護学概論
65. 成人急性期看護論
66. 成人慢性期看護論
67. 緩和ケア論
68. 老年看護学概論
69. 老年症候群援助論
70. 老年看護援助論
71. 認知症ケア論
72. 小児看護学概論
73. 小児看護援助論 I (健康障害と看護)
74. 小児看護援助論 II (看護技術と看護過程)
75. 小児発達学
76. 母性看護学概論
77. 母性看護援助論 I (対象の理解と援助)
78. 母性看護援助論 II (看護の展開とその理論)
79. 地域母子保健学
80. 精神看護学概論
81. 精神看護援助論 I (対象理解)
82. 精神看護援助論 II (看護の展開)
83. 地域精神保健学
84. 救急看護学
85. 災害看護学
86. 地域医療連携システム論
87. 在宅生活支援論
88. 公衆衛生看護学概論
89. 公衆衛生看護活動論 I (対象別支援)
90. 公衆衛生看護活動論 II (産業・学校)
91. 健康支援論
92. 公衆衛生看護管理論
93. 公衆衛生看護方法論 I (訪問・相談)
94. 公衆衛生看護方法論 II (地域診断)
95. 公衆衛生看護方法論 III (技術演習)
96. ターミナル看護
97. ヘルスカウンセリング
98. 看護マネジメント論
99. 卒業研究
100. 基礎看護学実習 I
101. 基礎看護学実習 II
102. 地域・在宅看護学実習
103. 成人急性期看護学実習
104. 成人慢性期看護学実習
105. 老年看護学実習 I
106. 老年看護学実習 II
107. 小児看護学実習 I
108. 小児看護学実習 II
109. 母性看護学実習
110. 精神看護学実習
111. 救急看護学実習
112. 災害看護学実習
113. 多職種連携実習
114. 公衆衛生看護学実習 I
115. 公衆衛生看護学実習 II
116. 公衆衛生看護学実習 III
117. 公衆衛生看護学実習 IV
118. 統合実習

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
1	英語 I (基礎)	2	30	必修	講義	1年前期	漆戸 敏夫
科目概要	<p>将来看護師として働くために必要な英語でのコミュニケーションの基礎力を身につけることを目標とする。特にリーディングとライティングに重点を置いて授業を進める。リーディングでは、英文の構造を理解し、大意をつかむ力をつけていく。ライティングでは、パラグラフの構成を理解し、自分の考えを簡潔で分かりやすい英文で表現できる力を培っていく。</p>						
到達目標	<p>1 日常生活における外来受診時や医療現場で、その場にふさわしい基礎的な英語を用いたコミュニケーションができる。  2 各ユニットでの患者との対話のリスニングやロールプレイを通して使用頻度の高い病名・症状名や診療科名、臓器名等の初歩段階の医療英語がわかる。  3 患者とのやり取りで必要となる表現や用語を身につけることができる。</p>						
DP との対応	ディプロマポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	60 %	語い・読む力・書く力を選択形式等で問う。	
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	40 %	話す力25%、積極性・態度を15%で評価	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %				
フィードバック	<p>・定期試験は語い・聞く力・読む力・書く力を評価し、全学生の試験終了後1週間以降に事務室にて採点後の答案用紙の閲覧と解答例の掲示を通じて行う。閲覧を希望する場合は、事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。  ・受講時の積極性、態度等は、話す力と態度面をそれぞれ点数化し、話す力については毎時間の始めのペアによるフリー対話についての各自の自己評価表に記載されたコミュニケーションスキルの獲得量に応じて3段階評価し、態度面についてはペアによる対話練習時の協調性と積極性を3段階で評価する。</p>						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	講義のオリエンテーション Unit 1 Power of Language A message from Dr. Hinohara	事前学習 ・「はじめに」「テキストの構成と効果的な使い方」を読み講義全体の見通しを持つ。 ・Unit1の日本語による説明文を読み、講義への期待感を持つ。英文の予習は不要。	1.5 時間		漆戸	
	講義	・本講義全体の見通しを持つためのオリエンテーションを行う。 ・大岡信の「言葉の力」と日野原先生のメッセージ文読解を通して主体的な学びに向かえる動機づけとする。	2 時間				
	事後学習	ハンドアウトに授業で書ききれなかった質問に対する解答をして記入し、2つの英文に共通する自分自身へのメッセージは何かを見つけ出す。	2.5 時間				
	2	Unit 2 Don't worry. 励ましの声をかけましょう 診療科名 医療用語の語源と意味	事前学習 Unit2の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測する。P15,17のvocabularyの各語の意味もチェックしておく。英文の予習は不要。	1.5 時間		漆戸	
	講義	・診療科の名所を知り、患者の症状についての会話聞き取ることを通して、患者にかけるのにふさわしい励ましの言葉を考える。 ・聞き取った会話をペアで役割を交代して自ら体験する。	2 時間				
	事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかける言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間				
	3	Unit 3 How may I help you? どうなさいましたか からだの部位名 'Namasute: I Am Mother Teresa'	事前学習 Unit3の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P23,25のvocabularyの各語の意味はチェックしておく。Small talkの予習内容は、授業にて指示。	1.5 時間		漆戸	
	講義	・人間のからだの部位の名称を知り、初診の患者から聞き取るべき表現を聞き取って、ペアで交代して患者と看護師の対話を体験する。 ・ある看護師がマザー・テレサとの出会いについて述べた文の概要を読み取る。	2 時間				
	事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかける言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間				
	4	Unit 4 How are you feeling? 気分をきいてみましょう 臓器名 Talking about your pain	事前学習 Unit4の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P31,33のvocabularyの各語の意味はチェックしておく。Small talk予習については、以下同様。	1.5 時間		漆戸	
	講義	・臓器の名称を知り、患者の気分や症状を会話から聞き取って、ペアで役割を交代して患者と看護師の対話をする。 ・アメリカ岸国立研究所が発行している患者向けのパンフレットの一部を読み取る。	2 時間				
	事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかける言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間				
	5	Unit 5 Could you fill in this medical questionnaire? この問診票にご記入いただけますか 病名1(内科・消化器系・循環器名) Touchy-Feeiy Stuff	事前学習 Unit5の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P39,41のvocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間		漆戸	
	講義	・内科・消化器科・循環器科の病名を知り、患者の病歴の会話を聞き取って、ペアで交代して対話する。 ・入院先の病院で白髪交じりの看護師から聞いたプロとしての心得の概要を読み取る。	2 時間				
	事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかける言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間				
	6	Unit 6 Take the elevator, please. 行き先を案内しましょう 病名2(精神科・小児科・外科・整形外科・耳鼻科・その他) A Nurse on Mars? Why Not?	事前学習 Unit6の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P47,49のvocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間		漆戸	
	講義	・精神科・小児科・外科・整形外科・耳鼻科・その他の病名を知り、病院内の案内の会話を聞き、ペアで役割を交代して対話する。 ・アメリカの看護師向けのある学術誌の記事の概要を読み取る。	2 時間				
	事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかける言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間				
	7	Unit 7 What are your symptoms? 症状を尋ねましょう Nurses Know 症状1(頭部)	事前学習 Unit7の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P55,57のvocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間		漆戸	
	講義	・頭部の症状表現を知り、症状を尋ねる会話を聞き取って、ペアで交代して対話する。 ・入院先で出会った幾人もの看護師がいかに患者に接していたかについての文を読み取る。	2 時間				
	事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかける言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間				
	8	Unit 8 Where does it hurt? 痛みの場所を聞きましょう 症状2(肩から下) AWAKENINGS(レナードの朝)	事前学習 Unit8の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P63,65のvocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間		漆戸	
	講義	・肩から下の症状の表現を知り、患者への適切な説明を聞き取り、交代で役割対話。 ・神経科医の体験を元にした「レナードの朝」という映画の概要を読み取り、医療・看護・人生について考え英文にして書き出す。	2 時間				
事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかける言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間					

教育内容	9	Unit 9 How long have you had these symptoms? 症状の持続時間を聞きましょう 症状3(全体症状) Animal-Assisted Therapy	事前学習	Unit9の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P71,73の vocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間	漆戸
			講義	・からだ全体の症状の名称を知り、症状の持続時間の尋ね方を含む会話を聞き、役割交代して対話する。 ・アニマルセラピー治療の効果についての文の概要を読み取る。	2 時間	
			事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかかる言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間	
	10	Unit10 I'm going to take a blood sample. 検査の手順を説明しましょう 検査と処置に関する用語 Surviving the Night Shift	事前学習	Unit10の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P79,81の vocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間	漆戸
			講義	・検査や処置についての名称を知り、説明の仕方を聞き取り、役割交代して対話する。 ・夜間勤務と体内時計との関係についての文の概要を読み取り、与えられた問いに対する解答を4人グループで討議しながら書き込む。	2 時間	
			事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかかる言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間	
	11	Unit11 Let me take your vital signs. 入院患者との会話を学びましょう 専門用語を解説1 A Smart Doctor Listens to the Nurses	事前学習	Unit11の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P87,89の vocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間	漆戸
			講義	・医療専門用語の解説方法を知り、バイタルサイン測定の際に使う表現を聞き取り、役割交代して対話する。 ・A smart doctor のあるべき姿について書かれた文の概要を読み取る。	2 時間	
			事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかかる言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間	
	12	Unit12 Your surgery will be tomorrow. 手術前後の説明をしましょう 手術・麻酔・体の痛みに関する用語 The Art of Saying Yes	事前学習	Unit12の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P95,97の vocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間	漆戸
			講義	・手術前後の説明を含む会話を聞き取り、役割交代して対話を体験する。 ・看護のプロとして重要な“The Art of Saying Yes”の姿勢についての文を読み取る。	2 時間	
			事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかかる言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間	
	13	Unit13 There are three kinds of medicine. 薬の説明をしましょう 薬に関する用語 'To the Nurse Who Knows My Name...'	事前学習	Unit13の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P103,105の vocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間	漆戸
			講義	・薬の簡単な説明表現を知り、それを含む会話を聞き取り役割交代して対話する。 ・ナイジェリアの病院での看護実習生の体験談から看護師としてのあり方を読みとり、自分の考えを英文で書く。	2 時間	
			事後学習	・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかかる言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間	
	14	Unit14 Are you worried about anything? 文化の違いによる心配事を聞きましょう 専門用語の解説2 Overseas Volunteer	事前学習	Unit14の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P111,113の vocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間	漆戸
講義			・医療専門用語の接尾辞等について知り、異文化理解も含む内容の文の概要を聞き取り、役割交代して対話する。 ・国境なき医師団経験者の看護師からのメッセージ文の概要を読み取る。	2 時間		
事後学習			・授業で使用したハンドアウトを読み返し、診療科名などの重要な語句や患者にかかる言葉として覚えるべき表現は声に出して繰り返し発音するなどして暗唱する。	2.5 時間		
15	Unit15 It's time to be discharged. 退院後の説明をしましょう 略語の意味 総復習	事前学習	Unit15の日本語による説明文を読み扱われる英文内容を推測しておく。P119,121の vocabularyの各語の意味はチェックしておく。	1.5 時間	漆戸	
		講義	・カルテなどで高い頻度で使われる略語を知り、退院後の患者との会話を役割を交代して対話する。 ・講義全体を通して学んだ基礎的医療用語・表現を振り返り、総復習する。	2 時間		
		事後学習	各Unitの重要語句・表現を整理して覚える。 Small talkで自ら獲得したコミュニケーションスキルを整理して書き出しておく。	2.5 時間		
16	定期試験		・リスニング問題(聞き取る力の評価) ・筆記問題(語い力・読む力・書く力の評価)		漆戸	
				総学習時間	90 時間	
テキスト			参考書			
『LIFESAVER』Basic English in Medical Situations 井上真紀、佐藤利哉著 ナショナルジオグラフィックラーニング 2024年1月 第6刷			・英和辞書または英英辞書(辞書アプリも可)			
実務経験と授業科目との関連性			履修要件			
中等教育での英語科指導の経験を持つ教員が、個々の学生の英語力に応じて学べるように選択的に質問を設けるなど工夫して、日常生活や医療現場で必要とされる基礎的英語やコミュニケーションスキルを意識した実践的なコミュニケーション力を指導する。			なし			
留意事項			オフィスアワー			
・授業資料は、毎回教室入り口に置きます。 ・スマホは辞書機能等授業内容に関わる使用に限り認めます。 ・水分補給のためのペットボトル等の持ち込みは可能です。			・時間:講義終了後 ・場所:講師控室			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
2	英語Ⅱ(コミュニケーション)	2	30	選択	講義	2年前期	Patrick Murphrey Carrigan
科目概要	日常生活場面を想定した実践的な英語表現能力の育成を図りそれから、文化を学びながら、ロールプレイ等によりコミュニケーション能力の向上を図っていく。						
到達目標	リスニングやスピーキングなどを通して、コミュニケーション能力を身につける。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	60 %	外国語理解の能力、文化の知識と理解	
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	40 %	スピーキングテストでの単語の数	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	スピーキングテスト第1と第2にフィードバックします。 スピーキングテスト方法: 2人1組になり5分間のConvassation(会話)を行う。テーマは当日講師より伝えられる。Convassation(会話)を録音し、聞き返し、自ら話した内容を書き出す。授業内で話した単語の数を集計。文法のチェックを講師が行い、点数をフィードバックします。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	講義のオリエンテーション	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey	
			講義	先生の自己紹介、それから、授業の説明	2 時間		
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間		
	2	学生の自己紹介	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey	
			講義	自己紹介の文を学んでそれから、自己紹介の活動	2 時間		
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間		
	3	家族	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey	
			講義	話し方を練習し始めます。話題は自分の自己紹介。家族の単語を学んで家族の絵を作ります。	2 時間		
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間		
	4	スピーキングテスト第一	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey	
			講義	テストを受けて結果を記入	2 時間		
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間		
	5	アンザックデー	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey	
			講義	アンザックデーを学んでスピーキングの話題は家族	2 時間		
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間		
	6	オーストラリア	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey	
			講義	話し方を練習してから、オーストラリアを学んでクラフトを作ります。スピーキングの話題は教科	2 時間		
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間		
	7	ニュージーランド	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey	
			講義	話し方を練習してから、ニュージーランドを学んでクラフトを作ります。スピーキングの話題は食べ物	2 時間		
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間		
	8	英語を話す国の音楽	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey	
			講義	話し方を練習してから、英語を話す国の音楽を学びながら、音楽を聴きます。スピーキングの話題はポップ文化	2 時間		
		事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間			

教育内容	9	スピーキングテスト第二	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey
			講義	テストを受けて結果を記入	2 時間	
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間	
	10	カナダデー	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey
			講義	話し方を練習してから、カナダを学びます。スピーキングの話題は友達	2 時間	
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間	
	11	カナダデー	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey
			講義	話し方を練習してから、カナダのクラフトを作ります。スピーキングの話題は天気	2 時間	
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間	
	12	アメリカの独立記念日	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey
			講義	話し方を練習してから、アメリカを学びます。スピーキングの話題は自然	2 時間	
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間	
	13	アメリカの独立記念日	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey
			講義	話し方を練習してから、アメリカのクラフトを作ります。スピーキングの話題はペット	2 時間	
			事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間	
	14	ディズニーの英語	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey
講義			ディズニーの人気ある英語を学びます。	2 時間		
事後学習			授業でとったメモの復習	2 時間		
15	スピーキングテスト第三	事前学習	スピーキングの話題を考える	2 時間	Murphrey	
		講義	テストを受けて結果を記入	2 時間		
		事後学習	授業でとったメモの復習	2 時間		
16	定期試験	試験			Murphrey	
				総学習時間	90 時間	
テキスト			参考書			
なし(プリント配布)			なし			
実務経験と授業科目との関連性			履修条件			
アメリカ出身で、メキシコ、フランス、韓国、タイなどで英語をはじめ語学を教育してきた経験を生かし、日常生活や医療現場で必要とされる実践的なコミュニケーション力を指導する。			なし			
留意事項			オフィスアワー			
なし			時間: 講義終了後 場所: 講師控室			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
3	中国語	2	30	選択	講義	2年前期	李 丹丹
科目概要	看護の国際化を鑑み、隣国である中国の文化の理解と教養を養う。具体的には、中国語がどのような言語であるのかをまず学ぶ。そのうえで、発音の基礎、簡単な決まり文句、挨拶などの日常会話、自己紹介などを学ぶ。また、動詞、目的語や時を表す名詞の位置などの基本的な語順についても学ぶ。中国文化を理解するために、テーマを設定して調べ学習をする。言語の基本を学ぶこととともに、中国文化の理解に努める科目である。						
到達目標	1. 中国語の発音表記を理解し、学習した単語・文の発音と聞き取りができるようになる。 2. 初歩的な語彙、文型を覚え、簡単な中国語会話が出来る。 3. 現代中国事情、中国人の考え方などについて理解を深める。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験		60 %	授業内容の全般についての理解度を評価する。	
	○	2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート		20 %	小テストを2回実施。授業の内容についての理解度を評価する。	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力	・受講時の積極性、態度等		10 %	授業への集中度、授業中の発言の頻度等を評価する。	
		4. 課題発見能力と課題解決力	・その他		10 %	発音の正確さ、リスニングや作文、会話能力を評価する。	
		5. 看護の知識と看護実践力	合計		100 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
フィードバック	・小テスト:テスト後に模範解答の配布。2週間以内に採点後の答案用紙を返却し、採点基準の解説を行う。 ・定期テスト(期末テスト):テスト後に模範解答を配布。点数が公開された2週間以内に解答用紙の閲覧と採点基準の解説が可能。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	ガイダンス、ウォーミングアップ	事前学習 不要	不要	0 時間	李	
	講義	・授業の進め方、評価方法、注意事項、心構えなどについて。 ・中国という国、中国語についての基本知識。 ・四声について。		2 時間			
	事後学習	中国についての基本知識を整理しながら、復習する。 四声を繰り返し練習する。		1 時間			
	2	・単母音、二重複母音、子音① ・現代中国文化・事情①	事前学習 不要	不要	0 時間	李	
	講義	・a o e i u ü ai ei ao ou ia ie ua uo üe b p m f ・挨拶用語 ・中国の地理		2 時間			
	事後学習	・学んだ母音と子音を繰り返し発音練習する。 ・四声を入れて各母音を発音する。 ・音節を読んでみる。 ・学んだ単語を音読・暗唱し、書き方を確認する。		3 時間			
	3	・三重複母音、子音② ・現代中国文化・事情②	事前学習 不要	不要	0 時間	李	
	講義	・iao iou uai uei d t n l g k h j q x zh ch sh z c s ・挨拶用語 ・中国の歴史		2 時間			
	事後学習	・学んだ母音と子音を繰り返し発音練習する。 ・四声を入れて各母音を発音する。 ・音節を読んでみる。 ・学んだ単語を音読・暗唱し、書き方を確認する。		2 時間			
	4	・鼻母音、ピンインを綴る時のルール、変調等	事前学習 不要	不要	0 時間	李	
	講義	・an en in ian uan uen ün üan ang eng ing iang uang ueng iong ong ・四声の書き方 ・子音のない音節の表記方法 ・第三声等の変調		2 時間			
	事後学習	・学んだ母音と子音を繰り返し発音練習する。 ・四声を入れて各母音を発音する。 ・音節を読む。 ・学んだ語彙を音読・暗唱し、書き方を確認する。 ・ピンインの綴りルール、変調ルールを覚える。		3 時間			
	5	・発音の総合練習 ・現代中国文化・事情③	事前学習 不要	不要	0 時間	李	
	講義	・読み書き練習 ・数字の言い方 ・中国人が好きと嫌いな数字		2 時間			
	事後学習	・ピンインの綴りのルール、変調ルールなどを活かして繰り返し発音練習する。 ・学んだ語彙を音読・暗唱し、書き方を確認する。 ・教科書を頼らず学んだ語彙・表現を言える。		4 時間			
	6	第一課 こんにちは ①	事前学習 語彙を発音してみる	不要	1 時間	李	
	講義	・新出語句解説 ・文法 ①副詞+動詞/形容詞 ②「～は…だ」の表現 ③「～ですか」:疑問を表す“吗” ④日常の挨拶表現		2 時間			
	事前学習	・学んだ語彙を音読・暗唱し、字の書き方を確認する。 ・教科書に頼らず学んだ語彙・表現で話すことができる、また書くことができる。 ・小テスト前復習		4 時間			
	7	第一課 こんにちは ②	事前学習 本文を読み、大まかな意味を理解する	不要	1 時間	李	
講義	・本文の学習 ・小テスト(一回目 10点満点 発音)		2 時間				
事後学習	・本文を音読・暗唱し、漢字の書き方を確認する。 ・教科書に頼らず本文に出た語彙・表現で話すことができる、また書くことができる。 ・ドリルを完成する。		3 時間				

教育内容	8	・第二課 あなたは中国人ですか ① ・現代中国文化・事情④	事前学習	語彙を発音してみる	1 時間	李
			講義	・文法 ①人称代詞 ②動詞述語+目的語 ③疑問詞疑問文(1) ④推測を表す助詞“吧” ・中国の茶文化①	2 時間	
			事後学習	・学んだ語彙を音読・暗唱し、字の書き方を確認する。 ・教科書に頼らず学んだ語彙・表現で話すことができる、また書くことができる。	3 時間	
	9	第二課 あなたは中国人ですか ② ・現代中国文化・事情⑤	事前学習	本文を読み、大まかな意味を理解する。	1 時間	李
			講義	・本文の学習 ・茶文化②	2 時間	
			事後学習	・本文を音読・暗唱し、漢字の書き方を確認する。 ・教科書に頼らず本文に出た語彙・表現で話すことができる、また書くことができる。 ・ドリルを完成する。 ・テスト前復習	4 時間	
	10	第三課 健康保険証を持っていますか ①	事前学習	語彙を発音してみる	1 時間	李
			講義	・新出語句の解説 ・文法 ①指示代詞 ②“的”の使い方 ③疑問詞疑問文(2) ・単語小テスト(二回目 10点満点 単語)	2 時間	
			事後学習	・学んだ語彙を音読・暗唱し、字の書き方を確認する。 ・教科書に頼らず学んだ語彙・表現で話すことができる、また書くことができる。	3 時間	
	11	・第三課 健康保険証を持っていますか ② ・現代中国文化・事情⑥	事前学習	本文を読み、大まかな意味を理解する。	1 時間	李
			講義	・本文の学習 ・呼称について	2 時間	
			事後学習	・本文を音読・暗唱し、漢字の書き方を確認する。 ・教科書に頼らず本文に出た語彙・表現で話すことができる、また書くことができる。 ・ドリルを完成する。	3 時間	
	12	・第四課 家族にはどんな人がいますか ① ・現代中国文化・事情⑦	事前学習	語彙を発音してみる	1 時間	李
			講義	・新出語句の解説 ・文法 ①ものの数え方・示し方 ②方位名詞 ③“有”を用いる存在文 ・中国の料理①	2 時間	
			事後学習	・学んだ語彙を音読・暗唱し、字の書き方を確認する。 ・教科書に頼らず学んだ語彙・表現で話すことができる、また書くことができる。	3 時間	
	13	・第四課 家族にはどんな人がいますか ② ・現代中国文化・事情⑧	事前学習	本文を読み、大まかな意味を理解する。	1 時間	李
講義			・本文の学習、練習 ・中国の料理②	2 時間		
事後学習			・本文を音読・暗唱し、漢字の書き方を確認する。 ・教科書に頼らず本文に出た語彙・表現で話すことができる、また書くことができる。 ・ドリルを完成する。 ・期末復習	4 時間		
14	・第五課 あそこで少しお待ちください ①	事前学習	語彙を発音してみる	1 時間	李	
		講義	・新出語句の解説 ・文法 ①場所指示代詞 ②“在”を用いる所在文 ③介詞“在”の用法 ④数量補語	2 時間		
		事後学習	・学んだ語彙を音読・暗唱し、字の書き方を確認する。 ・教科書に頼らず学んだ語彙・表現で話すことができる、また書くことができる。 ・期末復習	5 時間		
15	・第五課 あそこで少しお待ちください ② ・総復習	事前学習	本文を読み、大まかな意味を理解する。	1 時間	李	
		講義	・本文の学習、練習 ・総復習、質疑	2 時間		
		事後学習	・本文を音読・暗唱し、漢字の書き方を確認する。 ・教科書に頼らず本文に出た語彙・表現で話すことができる、また書くことができる。 ・ドリルを完成する。 ・期末復習する	5 時間		
16	定期試験	試験			李	
総学習時間					90 時間	

テキスト	参考書
・山田真一著『医療系学生のための初級中国語』(ISBN: 9784891749798 白帝社 2009年初版.2500円(税別))	適宜紹介する
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
医療現場で中国人に通訳した経験を活かして、医療現場で中国人患者と接する時に役立つ中国語について講義する。	特にありません。
留意事項	オフィスアワー
受講生の理解度を確認しながら授業を進めていくため、シラバスの予定より前後する可能性があります。	時間: 講義終了後 場所: 講師控室

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
4	人間関係論	1	15	必修	講義	1年前期	高下 梓
科目概要	一般的な人間関係におけるコミュニケーションの基本構造と、よりよい人間関係形成・対人支援に向けたコミュニケーション技法を理解する。また、患者-看護師関係・家族看護や、チーム医療等における連携など医療現場特有の人間関係の特徴を学び、事例をもとに検討する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護において、コミュニケーションが人々との相互の関係性に影響することを理解できる。</li> <li>2. 人々との相互の関係を成立させるための基本的なコミュニケーション技法を活用できる。</li> <li>3. 自分のコミュニケーションの傾向を把握し、自己課題を見出すことができる。</li> <li>4. 看護職に必要な対人援助・多職種連携の基本的知識について説明できる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験		60 %	授業内容の理解度を評価する。	
	○	2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート		20 %	小テストは第4・7・8回に実施し、授業内容の理解度を評価する。	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート		20 %	事後学修課題の提出状況を評価する。	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力	合計		100 %		
	○	5. 看護の知識と看護実践力					
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト(計3回実施)は、小テスト終了後(授業時間内)に正答解説および正答率に関するフィードバックを行う。</li> <li>・期末試験は、問題用紙に配点を明記するとともに、全履修者の試験終了から1週間後より、研究室で正答を閲覧・確認できるようにする。</li> </ul>						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	コミュニケーションの基礎知識	事前学習 シラバスを読み、授業内容や留意点等を理解する。	1 時間	高下		
	講義	コミュニケーションの基本的構造を理解する。 自分のコミュニケーションの特徴を振り返り、目標と課題を考える。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習し、日常のコミュニケーションで意識し、実践する。	2 時間				
	2	非言語的コミュニケーション① :人間関係のはじまり	事前学習 日常のコミュニケーションで、他者の非言語的表現に着目し、観察する。	1 時間	高下		
	講義	人間関係において第一印象に関わる非言語的コミュニケーション(表情・身だしなみ等)の特徴と留意点を学ぶ。また、看護の場面における留意点を理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習し、日常のコミュニケーションで意識し、実践する。	2 時間				
	3	非言語的コミュニケーション② :看護の場面における関わり	事前学習 日常のコミュニケーションで、他者の非言語的表現に着目し、観察する。	1 時間	高下		
	講義	非言語的コミュニケーションのうち、触れること・におい・相手との距離等について、看護の場面の例をもとに特徴と留意点を理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第4回実施の小テストの範囲を復習する。	2 時間				
	4	言語的コミュニケーション① :挨拶・言葉遣い・質問技法	事前学習 事前配布資料を読み、ワークに取り組む。	1 時間	高下		
	講義	挨拶・言葉遣いの要点と、質問技法の特徴と使用上の留意点を確認する。医療現場の例を通して質問技法の活用の仕方を理解する。ロールプレイを通して質問技法を練習し、逐語記録を取って振り返る。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、看護師国家試験の過去問題に取り組む。	2 時間				
	5	言語的コミュニケーション② :応答技法	事前学習 日常のコミュニケーションにおいて、傾聴技法を意識して活用する。	1 時間	高下		
	講義	傾き・繰り返し・要約等、傾聴に用いられる応答技法の特徴と留意点を確認する。医療現場の例を通して各技法の活用の仕方を理解する。ロールプレイを通して応答技法を練習し、逐語記録を取って振り返る。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習し、日常のコミュニケーションで意識し、実践する。	2 時間				
	6	言語的コミュニケーション③ :感情の反映技法	事前学習 日常のコミュニケーションにおいて、傾聴技法を意識して活用する。	1 時間	高下		
	講義	感情の反映の技法の特徴と留意点を確認する。医療現場の例を通して技法の活用の仕方を理解する。ロールプレイを通して感情の反映技法を練習し、逐語記録を取って振り返る。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第7回実施の小テストの範囲を復習する。	2.5 時間				
	7	チーム医療における人間関係	事前学習 第7回的小テスト範囲を中心に、これまでの授業内容を復習する。	1.5 時間	高下		
	講義	医療にかかわる様々な専門職の特徴を理解し、チーム医療における医療従事者間の人間関係と、連携について考える。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第8回実施の小テストの範囲を復習する。	2 時間				
	8	患者-看護師関係と家族看護	事前学習 これまでのすべての授業資料を整理し、不明点がないか確認する。	2 時間	高下		
	講義	患者-看護師関係における相互作用やプロセスの基本的知識を理解する。患者・家族の心理状態を理解し、患者の家族を援助する看護師の役割について考える。	2 時間				
事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、期末試験に向けて全内容を復習する。	5 時間					

9	定期試験	記述式(マークシート方式、一部自由記述)で、授業の内容全般についての理解度を評価する。	高下	総学習時間	45	時間
				テキスト	参考書	
	なし			・石川ひろの他著『系統看護学講座-基礎分野 人間関係論』(医学書院 第3版)		
	実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
	なし			なし		
	留意事項			オフィスアワー		
	・出席確認、小テスト、授業内に課す小課題等にMicrosoft Formsを利用します。スマートフォンを持参して送信できるようにしてください。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前・後の時間帯(講義教室)</li> <li>・金曜日(研究室)</li> <li>・担当教員の連絡先メールアドレスは、授業時に周知する。</li> </ul>		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
5	カウンセリング理論	1	15	選択	講義	1年後期	高下 梓
科目概要	カウンセリングの基本姿勢とその重要性、代表的なカウンセリング理論を理解するとともに、事例を交えてカウンセリングの各種技法の効果的活用を検討する。メンタルヘルスの不調や、災害発生直後において、対象者を専門家の支援へつなぐまでの心理的支援の方法を理解する。						
到達目標	1. 主要なカウンセリング理論の考え方や技法の特徴を説明できる。 2. メンタルヘルスの危機にある対象者への初期の心理的支援の行い方を説明できる。						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験		60%	授業内容の理解度を評価する。	
		2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート		40%	小テストは第4・5・8回に実施し、授業内容の理解度を評価する。	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート		0%		
	○	4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等		0%		
	○	5. 看護の知識と看護実践力	合計		100%		
フィードバック	・小テスト(計3回実施)は、小テスト終了後(授業時間内)に正答解説および正答率に関するフィードバックを行う。 ・期末試験は、問題用紙に配点を明記するとともに、全履修者の試験終了から1週間後より、研究室で正答を閲覧・確認できるようにする。						
教育 内容	回	項目		内容		時間	担当教員
	1	カウンセリングの基本姿勢 来談者中心療法		事前 学習	シラバスを読み、授業内容や留意点等を理解する。	0.5 時間	高下
				講義	来談者中心療法の考え方を通してカウンセリングの基本姿勢を学ぶ。効果的な環境の整え方について、ペアワークを通して体験的に理解する。	2 時間	
				事後 学習	本時の内容を復習する。	1.5 時間	
	2	精神分析		事前 学習	事前配布資料を読み、授業の準備を整える。	1 時間	高下
				講義	精神分析における心の構造・機能の考え方を学ぶ。また、様々な防衛機制の特徴について日常生活・看護場面における例を交えながら理解する。	2 時間	
				事後 学習	本時の内容を復習する。	1.5 時間	
	3	行動療法・認知行動療法		事前 学習	事前配布資料を読み、気づいたことを資料に記入する。	1 時間	高下
				講義	行動療法・認知行動療法の特徴を学ぶ。事例を通して対象者の認知・行動変容に役立つ様々な技法の活用方法を考え、ロールプレイを行う。	2 時間	
				事後 学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第4回に実施する小テスト範囲を復習する。	3 時間	
	4	遊戯療法		事前 学習	傾聴における非言語的かかわりの要点を「人間関係論」の学修内容から思い出す。	1 時間	高下
				講義	遊戯療法の特徴を学ぶ。カウンセリングにおける非言語的なやりとりの重要性について、ロールプレイを通して理解する。	2 時間	
				事後 学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第5回に実施する小テスト範囲を復習する。	3 時間	
	5	表現療法(1) : 描画療法、箱庭療法		事前 学習	事前配布資料を読む。	0.5 時間	高下
				講義	表現療法の代表例を学び、様々な表現手段を媒介とした心理療法があることを理解する。	2 時間	
				事後 学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、小テストの結果をもとに復習する。	2 時間	
	6	表現療法(2) : コラージュ療法		事前 学習	コラージュ療法に用いる素材を収集・準備する。	3 時間	高下
				講義	コラージュ療法について学び、コラージュ療法を体験する。	2 時間	
				事後 学習	本時に学んだ内容を復習する。	1.5 時間	
	7	心の応急処置(メンタルヘルス・ファーストエイド)		事前 学習	事前配布資料を読む。	0.5 時間	高下
				講義	こころの健康に問題を抱える人に対して専門家の支援の前に提供する支援(メンタルヘルス・ファーストエイド)の要点を理解する。	2 時間	
				事後 学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第8回に実施する小テスト範囲を復習する。	3 時間	
	8	心理的応急処置(サイコロジカル・ファーストエイド)		事前 学習	これまでのすべての授業資料を整理し、不明点がないか確認する。	1 時間	高下
				講義	ストレス・災害時に支援者が心理社会的支援を提供するためのガイドライン(サイコロジカル・ファーストエイド)の概要を理解する。	2 時間	
			事後 学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、期末試験に向けて全内容を復習する。	5 時間		

9	定期試験	記述式(マークシート方式、一部自由記述)で、授業の内容全般についての理解度を評価する。	高下	
			総学習時間	45 時間
テキスト		参考書		
なし		授業時に適宜紹介する。		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
臨床心理士・公認心理師として医療・教育等の現場で対象者と関わったり、傾聴技法の研修を担当してきた教員が担当し、カウンセリングの考え方や傾聴のスキルを学びます。		なし		
留意事項		オフィスアワー		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認、小テスト、授業内に課す小課題等にMicrosoft Formsを利用します。スマートフォンを持参して送信できるようにしてください。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前・後の時間帯(講義教室)</li> <li>・金曜日(研究室)</li> <li>・担当教員の連絡先メールアドレスは、授業時に周知する。</li> </ul>		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
6	コミュニケーション支援論	1	15	選択	講義	1年後期	高下 梓	
科目概要	コミュニケーションに関わる心理学の基本的知識を習得し、コミュニケーションに関する自己理解・他者理解を通してよりよいコミュニケーションに向けての自己課題を検討する。また、看護の様々な場面・対象者とのコミュニケーションや支援のあり方について、事例・ロールプレイを題材に討議・検討する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分自身の特徴を多面的に理解し、よりよいコミュニケーションに活用できる。</li> <li>2. 他者理解の多様な観点を理解し、よりよいコミュニケーションに活用できる。</li> <li>3. 看護の場面におけるコミュニケーションの特徴と配慮事項を説明できる。</li> </ol>							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験 ・授業内の小テスト、課題、レポート	60 %	授業内容の理解度を評価する。		
	○	2. 主体的行動力			40 %	小テストは第7回・8回に実施し、授業内容の理解度を評価する。 第1～4回に関するレポート課題を課し、分析の観点や記述内容について評価する。		
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力						
	○	4. 課題発見能力と課題解決力						
	○	5. 看護の知識と看護実践力						
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %					
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト(計2回実施)は、小テスト終了後(授業時間内)に正答解説および正答率に関するフィードバックを行う。</li> <li>・レポート課題については、評価基準をあらかじめ示す。</li> <li>・期末試験は、問題用紙に配点を明記するとともに、全履修者の試験終了から1週間後より、研究室で正答を閲覧・確認できるようにする。</li> </ul>							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	オリエンテーション 自己理解	事前学習	シラバスを読み、授業内容や留意点等を理解する。			1 時間	高下
			講義	対人援助職として自己理解・他者理解を深め、人間関係を学ぶことの意義を考える。自己理解に関わる簡易アセスメントツールを通して自分の特徴を知る。			2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習し、レポート課題(第1回目分)に取り組む。			1.5 時間	
	2	他者理解	事前学習	事前配布資料を読み、ワークに取り組む。			1 時間	高下
			講義	ソーシャルスタイル理論を通して、自分と他者のコミュニケーションの取り方のパターンや工夫点を理解する。			2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習し、レポート課題(第2回目分)に取り組む。			1.5 時間	
	3	エゴグラム	事前学習	事前配布資料を読み、ワークに取り組む。			1 時間	高下
			講義	エゴグラムを通して自分の特徴を知るとともに、交流分析理論を通してコミュニケーションの工夫点を理解する。			2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習し、レポート課題(第3回目分)に取り組む。			1.5 時間	
	4	アサーション	事前学習	事前配布資料を読み、ワークに取り組む。			1 時間	高下
			講義	アサーションの理論とスキルを学び、紙面上訓練とロールプレイを通して練習する。			2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習し、レポート課題(第4回目分・全体分)に取り組む。			3.5 時間	
	5	コミュニケーション障害への対応	事前学習	第1～4回までにに関する課題をまとめ、提出用に整える。			1 時間	高下
			講義	言語的コミュニケーションに必要な身体機能を学び、コミュニケーション障害がある人への対応を理解する。			2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習する。			2 時間	
	6	看護の様々な場面におけるコミュニケーション	事前学習	事前配布資料を読み、ワークに取り組む。			1 時間	高下
			講義	看護の様々な場面(問診、検査等)におけるコミュニケーションの留意点を学び、事例やロールプレイを通して検討・練習する。			2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第7回実施の小テストの範囲を復習する。			2.5 時間	
	7	看護の様々な対象者とのコミュニケーション	事前学習	第7回的小テスト結果をもとに復習する。			1 時間	高下
			講義	看護の様々な対象者(子ども・高齢者等)とのコミュニケーションの留意点を学び、事例やロールプレイを通して検討・練習する。			2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第8回実施の小テストの範囲を復習する。			2.5 時間	
	8	看護の様々な状況におけるコミュニケーション	事前学習	これまでのすべての授業資料を整理し、不明点がないか確認する。			2 時間	高下
			講義	これまでの学習を総合した事例を扱い、ディスカッションやロールプレイを通して検討・練習する。			2 時間	
事後学習			本時に学んだ内容を復習するとともに、期末試験に向けて全内容を復習する。			5 時間		

9	定期試験	記述式(マークシート方式、一部自由記述)で、授業の内容全般についての理解度を評価する。	高下	
			総学習時間	45 時間
テキスト		参考書		
なし		授業時に適宜紹介する。		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
臨床心理士・公認心理師として医療・教育等の現場で対象者と関わってきた教員が担当し、コミュニケーションの知識と実践を学びます。		なし		
留意事項		オフィスアワー		
・出席確認、小テスト、授業内に課す小課題等にMicrosoft Formsを利用します。スマートフォンを持参して送信できるようにしてください。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前・後の時間帯(講義教室)</li> <li>・金曜日(研究室)</li> <li>・担当教員の連絡先メールアドレスは、授業時に周知する。</li> </ul>		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
7	情報リテラシー	1	15	選択 (保健師必修)	講義	1年前期	小穴 一郎	
科目概要	医療現場では電子カルテ等の導入により、パソコン操作のスキルは必須となっている。また様々な情報がインターネット上に存在する現代において、自分が必要とする情報を入力するスキルを備えることも大切である。これら社会人として必須となるパソコン操作の習得と、ますます高度化する情報社会の現状を理解するとともに、その活用方法を考える。(自分のパソコンを利用した操作演習が主な授業となる)							
到達目標	1. パソコンの基本操作(Windos10)やファイル操作ができる。 2. インターネット上の情報検索、文献検索(図書館等の蔵書検索)や論文検索ができる。 3. 文書作成(Word)、データ分析(Excel)、カンパレンス用の資料(PowerPoint)の作成ができる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準		
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	70 %	選択問題15%/知識問題15%/技術問題40%		
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	15 %	Office操作演習の課題		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	15 %	情報検索の課題		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %					
フィードバック	授業内で、評価のポイント、回答例の解説、メール等による質問への回答などを説明する。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	Windowsの基本操作 情報検索の基本と応用	事前 学習	課題の理解、パソコンの準備			1.5 時間	小穴
			講義	学内ネットワークを活用した教材のダウンロード、インターネットブラウザの利用。クラウドコンピューティングについての理解を深める。			2 時間	
			事後 学習	学習データの整理、演習事項の再確認			1.5 時間	
	2	情報検索、及び高度な条件検索	事前 学習	課題の理解、パソコンの準備			1.5 時間	小穴
			講義	インターネットによる情報検索の仕組み、AND検索、OR検索、NOT検索、高度な条件検索などについて実践して理解を深める。			2 時間	
			事後 学習	学習データの整理、演習事項の再確認			1.5 時間	
	3	事例研究1(授業内課題)	事前 学習	課題の理解、パソコンの準備			2.5 時間	小穴
			講義	課題にそって複数サイトから情報検索を行い、回答を導き出す演習。			2 時間	
			事後 学習	学習データの整理、演習事項の再確認			3 時間	
	4	文書作成 (Word) 演習	事前 学習	課題の理解、パソコンの準備			1.5 時間	小穴
			講義	Wordによる文書整形、画像や表を組み合わせた文書の作成を学ぶ。			2 時間	
			事後 学習	学習データの整理、演習事項の再確認			1.5 時間	
	5	データ操作 (Excel) 演習	事前 学習	課題の理解、パソコンの準備			1.5 時間	小穴
			講義	Excelを活用したデータ操作、基本的な演算方法を学習する。			2 時間	
			事後 学習	学習データの整理、演習事項の再確認			1.5 時間	
	6	発表資料作成 (PowerPoint) 演習	事前 学習	課題の理解、パソコンの準備			1.5 時間	小穴
			講義	PowerPointを活用した発表資料の作成を学ぶ。			2 時間	
			事後 学習	学習データの整理、演習事項の再確認			1.5 時間	
	7	事例研究2(授業内課題)	事前 学習	課題の理解、パソコンの準備			1.5 時間	小穴
			講義	オフィスアプリによる課題レポート			2 時間	
			事後 学習	学習データの整理、演習事項の再確認			1.5 時間	
	8	まとめの講義 (高度化する情報社会の現状について)	事前 学習	課題の理解、パソコンの準備			2.5 時間	小穴
			講義	様々な情報発信と個人情報保護の知識を学ぶ。			2 時間	
事後 学習			学習データの整理、演習事項の再確認			3 時間		

9	定期試験	インターネットを活用した情報検索とオフィスアプリの使い方について出題。 (4択の知識問題、オフィスアプリの演習問題、情報検索の記述問題) パソコンの持ち込み可	小穴	
			総学習時間	45 時間
テキスト		参考書		
授業ごとにプリントを配布		技術評論社『基礎からわかる情報リテラシー』		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
ICTの導入や活用を支援するNPO活動による知見を生かし、PC操作やオフィスアプリなどの基本を理解する講義を行う。		ノートパソコンを準備すること。授業はWindowsベース、マウスがあると良い。		
留意事項		オフィスアワー		
1.他の学生の迷惑になるため、講義中の私語および携帯電話の使用は禁止。 2.講義中は自分のパソコンを利用するため、充電状況を確認して授業中の電源ダウンに備えること。 3.欠席者には申し出があれば、授業中に配布したプリント等を渡す。 4.公衆衛生看護学実習 I (保健師課程)を選択する人は受講してください。		時間: 講義終了後 場所: 講師控室またはメールにより質問に回答する メールアドレスは初回授業時に提示する。		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
8	情報科学	1	15	必修	講義	1年後期	小穴 一郎
科目概要	看護師や保健師が活躍する医療現場だけでなく、様々な場面でパソコン操作のスキルは必須となっている。こうした状況をふまえ、インターネットを活用した医学資料の検索や論文の入手方法、また看護研究に必要な資料の探し方を学ぶ。さらに医療現場でのICT導入の状況や、カンファレンスに必要なデータ分析の手法、個人情報保護などの法律知識を学ぶ。 (パソコンを利用して検索アプリ、オフィスアプリなどを実践的に学習する)						
到達目標	○Microsoft365(オンライン版オフィス)でのファイル操作ができる。 ○インターネット上のデータベースや医中誌などに掲載された論文検索ができる。 ○表計算(Excel)を活用した情報統計や資料作成(Word)ができる。 ○医療現場におけるICT利用の状況や患者に対する個人情報保護の知識を習得する。						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー			評価項目	配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	70 %	選択問題15%/知識問題15%/技術問題40%	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	15 %	Office操作演習の課題	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	15 %	情報検索の課題	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	授業内で、評価のポイント、回答例の解説、メール等による質問への回答などを説明する。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	インターネットの活用(1)	事前学習	課題の理解、パソコンの準備	1.5 時間	小穴	
			講義	インターネットセキュリティの理解、医療系情報検索を学ぶ AIを活用した情報検索と留意点を理解する	2 時間		
			事後学習	学習データの整理、演習事項の再確認	1.5 時間		
	2	インターネットの活用(2)	事前学習	課題の理解、パソコンの準備	1.5 時間	小穴	
			講義	医中誌Webの利用方法を学ぶ 学術検索サイト(GoogleScholar、Cinii)の利用方法を学ぶ	2 時間		
			事後学習	学習データの整理、演習事項の再確認	1.5 時間		
	3	事例研究1(授業内課題)	事前学習	課題の理解、パソコンの準備	2.5 時間	小穴	
			講義	課題にそった情報検索の実践、AI回答の正誤評価実践	2 時間		
			事後学習	学習データの整理、演習事項の再確認	3 時間		
	4	オフィスアプリ演習(1)	事前学習	課題の理解、パソコンの準備	1.5 時間	小穴	
			講義	スタイルを活用した看護計画文書の作成(Office Word)	2 時間		
			事後学習	学習データの整理、演習事項の再確認	1.5 時間		
	5	オフィスアプリ演習(2)	事前学習	課題の理解、パソコンの準備	1.5 時間	小穴	
			講義	医療統計の基本データ処理を学ぶ(Office Excel)	2 時間		
			事後学習	学習データの整理、演習事項の再確認	1.5 時間		
	6	オフィスアプリ演習(3)	事前学習	課題の理解、パソコンの準備	1.5 時間	小穴	
			講義	医療統計のクロス集計を学ぶ(Office Excel)	2 時間		
			事後学習	学習データの整理、演習事項の再確認	1.5 時間		
	7	オフィスアプリ演習(4)	事前学習	課題の理解、パソコンの準備	1.5 時間	小穴	
			講義	医療統計のデータベース操作を学ぶ(Office Excel)	2 時間		
		事後学習	学習データの整理、演習事項の再確認	1.5 時間			

8	事例研究2(授業内課題)	事前学習	課題の理解、パソコンの準備	2.5 時間	小穴
		講義	表やブラフの入った文書作成の演習	2 時間	
		事後学習	学習データの整理、演習事項の再確認	3 時間	
9	定期試験	インターネットを活用した情報検索とオフィスアプリの使い方について出題。 (4択の知識問題、オフィスアプリの演習問題、情報検索の記述問題) パソコンの持ち込み可			小穴
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
授業ごとにプリントを配布 医中誌Web検索ガイドを配布			太田勝正・前田樹海編『看護情報学』医歯薬出版		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
ICTの導入や活用を支援するNPO活動による知見を生かし、PC操作やオフィスアプリなどの基本を理解する講義を行う。			ノートパソコンを準備すること。またパソコンの基本操作(文字入力やマウス操作など)ができること。パソコンの操作に不安がある場合には、前期「情報リテラシー」を受講して下さい。		
留意事項			オフィスアワー		
1.他の学生の迷惑になるため、講義中の私語および携帯電話の使用は禁止。 2.講義中は自分のパソコンを利用するため、充電状況を確認して授業中の電源ダウンに備えること。 3.欠席者には申し出があれば、授業中に配布したプリント等を渡す。			時間:講義終了後 場所:講師控室またはメールにより質問に回答する メールアドレスは初回授業時に提示する。		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
9	科学論	1	15	選択	講義	1年前期	高木 勝広	
科目概要	科学論は、看護学を専攻する学生の基礎教養としての入門的講義内容である。高校までに修得した科学を踏まえ、自然科学の考え方について理解する。また様々な事情を科学的思考法に基づいて捉えられるように講義を展開する。							
到達目標	命や生活、人生を包括的にケアする看護職として様々な事象を科学的に捉えられるようになるために、この授業では、様々な事情を科学的思考に基づいて考え、説明できるようにすることを目指す。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	30 %	授業の内容全般についての理解度を評価する		
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	50 %	授業で出した課題を評価する		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %			
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	20 %	授業中の発言や質問の頻度を評価する		
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %			
フィードバック	授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	科学論を学ぶ意味	事前学習	なし			0 時間	高木
			講義	将来看護職につくものが科学を学ぶ必要があるのか。科学的に考えるってどういうことか、について考える。			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習してください。			2 時間	
	2	自然科学とは	事前学習	事前に資料を読んでください。			2 時間	高木
			講義	自然界のルールは人の作ったルールと違って「例外」がない。自然界のルールを知るための自然科学の手法の面白さを感じることを目指す。			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習してください。			2 時間	
	3	科学を進める力、歪める力	事前学習	事前に資料を読んでください。			2 時間	高木
			講義	宗教や伝統、生活習慣や権力者など、歴史の中でも生活の中でも科学は悪用されたりゆがめられたりしてきた。これをただすものは何なのかを考える。			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習してください。			2 時間	
	4	科学の方法	事前学習	事前に資料を読んでください。			2 時間	高木
			講義	科学の手法を知る。演繹法、帰納法、さらに社会調査とその分析などを整理しよう。			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習してください。			2 時間	
	5	科学と実験	事前学習	事前に資料を読んでください。			2 時間	高木
			講義	実験の正しい手法について学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習してください。			2 時間	
	6	科学と統計、文献	事前学習	事前に資料を読んでください。			2 時間	高木
			講義	統計データの読み取り方について学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習してください。			2 時間	
	7	科学的思考を磨く	事前学習	事前に資料を読んでください。			2 時間	高木
			講義	これまでに起こった事象を題材(新型コロナ、癌など)に、科学的思考を磨く。			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習してください。			2 時間	
	8	自分でやる「科学の方法」	事前学習	事前に資料を読んでください。			2 時間	高木
			講義	自分の日常の中で沸いた疑問を、科学的手法をもって解決する。図書館の文献や統計データを活用して、研究計画の立て方を学ぶ。			2 時間	
事後学習			授業内容を復習してください。			1 時間		

9	定期試験	筆記試験			高木
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
特にありません。その都度資料を配布します。			特にありません。		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
食品科学分野における研究活動の経験を活かし、看護をはじめとする様々な現象を科学的に思考できるための方法などを教授する。			講義の内容は相互に関連している。きちんと出席して、講義終了後にはその要点の整理をして次に備えること。		
留意事項			オフィスアワー		
1.他の学生の迷惑になるため、講義中の私語は禁止。 2.講義中は携帯電話の使用禁止(電源を切るか、マナーモードに設定する)。 3.欠席者には申し出があれば、授業中に配布したプリント等を渡す。			時間:講義終了後 場所:講師控室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
10	社会学	1	15	選択	講義	1年前期	三村 仁志	
科目概要	現代社会における様々な現象を理解するのに必要な基本的概念と考え方を学び、それらを具体的な問題に適用できるようにする。特に、社会における保健・医療のとらえ方など、看護職者をとりまく諸問題について考察する。							
到達目標	身の回りの出来事や自分の行動や価値観等を社会的視点から観察・分析できるようになることを目標とする							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		定期試験	40 %	授業の内容全般についての理解度を評価する		
		2. 主体的行動力		授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	授業で得た知識、疑問などの記載内容		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		事前/事後学習の課題、レポート	0 %			
		4. 課題発見能力と課題解決力		受講時の積極性、態度等	30 %	授業中の発言や質問の頻度		
		5. 看護の知識と看護実践力		その他	0 %			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %					
フィードバック	毎回の授業後に提出する出席票に書かれた質問事項等については、次回の授業の冒頭に解説する。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	社会学とは何か	事前学習	シラバスの内容を確認しておく。			1.5 時間	三村
			講義	授業のオリエンテーション・社会学は何を対象とし、何を指す学問なのかを考える。			2 時間	
			事後学習	資料を再読する			1.5 時間	
	2	社会学の歴史	事前学習	社会学の対象の対象について調べる			1.5 時間	三村
			講義	社会の変遷と社会学の対象及び論理を概観する。			2 時間	
			事後学習	資料を再読する			1.5 時間	
	3	権利・人権とは	事前学習	人権について調べる			1.5 時間	三村
			講義	人権とは何かを考察し、看護職との関係を考える。			2 時間	
			事後学習	資料を再読する			1.5 時間	
	4	家族をめぐる社会学	事前学習	家族社会学の対象を調べる			2 時間	三村
			講義	現代の家族の置かれた環境を概観し家族をめぐる諸問題、ジェンダーの視点を知る。			2 時間	
			事後学習	資料を再読する			2 時間	
	5	看護と社会学	事前学習	・アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について調べる			2 時間	三村
			講義	・看護職と社会とのつながりを知る。・ターミナルケアについて考える・アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について考える。			2 時間	
			事後学習	資料を再読する			2 時間	
	6	看護と社会福祉	事前学習	社会福祉の対象について調べる			2 時間	三村
			講義	・近接領域である社会福祉と看護職との関係、福祉理念を知る。			2 時間	
			事後学習	資料を再読する			2 時間	
	7	障害学	事前学習	障がいとは何かについて調べる			2 時間	三村
			講義	・社会学視点で障害とはなにかを考える。社会学の視点で差別的構造を考える			2 時間	
			事後学習	資料を再読する			2 時間	
	8	地域共生社会	事前学習	地域共生社会について調べる			2 時間	三村
			講義	なぜ地域共生社会が必要とされているのかを概観し、多職種連携について考える			2 時間	
事後学習			資料を再読する			2 時間		

9	定期試験	レポート提出	三村
		総学習時間	45 時間
テキスト		参考書	
特定のテキストは使用しない。資料は適宜配布する。		よくわかる社会学[第3版]、宇都宮京子(編):(ミネルヴァ書房) 増補改訂版 看護と介護のための社会学 濱野 健(著, 編集), 須藤 廣(著, 編集):(明石書店)	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
社会福祉現場で障害者支援を行ってきた経験、医療的ケアについて福祉の立場で関わってきた経験を元に、看護を取り巻く社会的諸問題について学生と共に分析考察する。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
なし		時間: 講義終了後 場所: 講師控室	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
11	生物学	2	30	選択	講義	1年前期	三輪 憲永
科目概要	本授業では、生物の活動を支えている「生命現象」について理解することを目的とする。生物の体内では、非常に多くの複雑な「生命現象」が起きており、全ての「生命現象」が、精緻なメカニズムにより調節されることにより生命を維持している。生物の活動の基本である「生命現象」を理解することで、生命の大切さについて学ぶ。また、生物と環境とのかかわりについて学び、地球環境とヒトとの共存について考える。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命体の基本的な構造と機能、エネルギー活動について説明することができる。</li> <li>2. 遺伝子について理解し、遺伝性疾患、遺伝子診断などについて説明することができる。</li> <li>3. ホメオスタシスについて理解し、ヒトの恒常性維持の重要性について説明することができる。</li> <li>4. 生殖と発生、生命の進化と多様性について理解し、多様な人々との関係について説明することができる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	100 %	授業全般についての理解度を評価する。	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了後、希望する学生に対して三輪研究室にて採点後の答案用紙の閲覧により行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。						

回	項目	内容	時間	担当教員
教育 内容	1 生物学を学ぶにあたって	事前学習 教科書の序章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義 生物、生命の特徴、生命現象について学び、看護の対象となるヒトを含めた生物について考える。	2 時間	
		事後学習 授業時に配布したプリントおよび教科書の序章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	2 生命体のつくりとはたらき	事前学習 教科書の第1章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義 細胞の構造、細胞小器官、細胞の化学的組成、細胞膜の働きなどについて学ぶ。	2 時間	
		事後学習 授業時に配布したプリントおよび教科書の第1章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	3 生体維持のエネルギー	事前学習 教科書の第2章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義 ATP、酵素、解糖系、TCAサイクル、酸化リン酸化などについて学び、生命活動を支えるエネルギー代謝について理解する。	2 時間	
		事後学習 授業時に配布したプリントおよび教科書の第2章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	4 細胞の増殖とからだのなりたち	事前学習 教科書の第3章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義 細胞分裂、細胞の分化、組織と器官などについて学び、多細胞生物であるヒトの体のなりたちについて理解する。	2 時間	
		事後学習 授業時に配布したプリントおよび教科書の第3章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	5 遺伝情報の伝達①	事前学習 教科書の第4章のA、第4章のB、第4章のCを熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義 遺伝の法則、染色体、遺伝子、DNAなどについて学び、親から子への遺伝情報の伝達について理解する。	2 時間	
		事後学習 授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章のA、第4章のB、第4章のCを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	6 遺伝情報の伝達②	事前学習 教科書の第4章のD、第4章のEを熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義 RNA、タンパク質の合成、遺伝子の発現などについて学び、遺伝情報を基にどのようにタンパク質が合成されるか理解する。	2 時間	
		事後学習 授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章のD、第4章のEを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	7 遺伝情報の伝達③	事前学習 教科書の第4章のF、第4章のG、第4章のH、第4章のIを熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義 遺伝子の変異、先天性代謝異常、遺伝子組み換え技術などについて学び、遺伝子の変異による生物の影響について理解する。	2 時間	
		事後学習 授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章のF、第4章のG、第4章のH、第4章のIを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	8 生殖と発生	事前学習 教科書の第5章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義 無性生殖と有性生殖、受精と発生、ヒトを含めた哺乳類の発生、人工授精などについて学ぶ。	2 時間	
		事後学習 授業時に配布したプリントおよび教科書の第5章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	

教育内容	9 個体の調節①	事前学習	教科書の第6章のA、第6章のB(①～③)を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	ホメオスタシス、呼吸系、消化系、循環系の調節について学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第6章のA、第6章のB(①～③)を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	10 個体の調節②	事前学習	教科書の第6章のB(④～⑤)、第4章のC、第4章のDを熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	免疫系、排出系、自律神経系、内分泌系の調節について学び、恒常性維持の重要性について理解する。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第6章のB(④～⑤)、第4章のC、第4章のDを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	11 刺激の受容と行動①	事前学習	教科書の第7章のA、第7章のBを熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	細胞間の情報伝達、受容器と感覚情報の伝達について学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第7章のA、第7章のBを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	12 刺激の受容と行動②	事前学習	教科書の第7章のC、第7章のD、第7章のE、第7章のFを熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	神経系の発達、筋肉の構造と運動について学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第7章のC、第7章のD、第7章のE、第7章のFを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	13 生命の進化と多様性	事前学習	教科書の第8章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	生命の起源、生物の多様化と絶滅、ヒトの起源と進化などについて学び、多様な人々との共存について考える。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第8章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	14 生物と環境	事前学習	教科書の第9章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
講義		生態系、生物多様性の保全、人間活動の環境への影響などについて学び、持続可能な社会について考える。	2 時間		
事後学習		授業時に配布したプリントおよび教科書の第9章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間		
15 まとめ	事前学習	1回目から14回目までの授業で配布したプリントの内容を確認しておくこと。	2 時間	三輪	
	講義	生物学で学んだ内容について、総合的に理解する。	2 時間		
	事後学習	教科書の第1章～第9章および1回目から14回目までの授業で配布したプリントの内容を総合的に理解しておくこと。	2 時間		
16 定期試験		筆記試験		三輪	
				総学習時間	90 時間

テキスト		参考書	
・高畑雅一、増田隆一、北田一博著『系統看護学講座 基礎分野 生物学』(医学書院)		なし	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
該当せず		なし	
留意事項		オフィスアワー	
配布資料は、授業開始前に教室外の廊下または教室内の最前列の机の上に置きます。各自で取ってください。		時間：毎週水曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所：三輪研究室	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
12	日本国憲法	2	30	選択 (保健師必修)	講義	1年前期	宗村 和広
科目概要	日本国憲法と基本原則、日本国憲法の生い立ち、憲法の仕組み等を概説した上で、国民主権と選挙、基本的人権(自由権と社会権)について説明し、そして、統治機構としての国会・内閣・裁判所、最後に地方自治について説明する。社会人として直面する諸問題につき、憲法のみで自ら考えうる能力を養うことが大きな目標である。						
到達目標	1. 憲法の基礎的知識を身に着け憲法の全体像をしっかりと理解すること。 2. 現代社会の中で生起する様々な問題を憲法の視点で考察できる能力を養うこと。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	50 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	40 %	授業内容の復習する短答式小テスト4回	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	10 %	復習的内容の課題レポート	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %				
フィードバック	小テストは、授業内に計4回各々冒頭10分程度で行い、次回以降の授業時にコメントを入れて返却する。 課題レポートは、授業内で履修した内容の中から履修者が任意にテーマを設定して論述し、次回以降の授業時にコメントを入れて返却する。 定期試験のフィードバックは、試験終了後に解答または採点基準を配布する。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	ガイダンス	事前 学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる		2 時間	宗村
			講義	法律学とはどのような学問か 憲法の学び方、講義の進め方		2 時間	
			事後 学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する		2 時間	
	2	憲法とは何か	事前 学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる		2 時間	宗村
			講義	日本国憲法の基本原則、日本国憲法の生い立ち、天皇は日本国の象徴、戦争放棄ほか		2 時間	
			事後 学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する		2 時間	
	3	国民主権と選挙	事前 学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる		2 時間	宗村
			講義	民主政治と国民主権、参政権、選挙の公理及び選挙に関する諸問題		2 時間	
			事後 学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する		2 時間	
	4	基本的人権Ⅰ(総論)	事前 学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる		2 時間	宗村
			講義	人権とは何か、人権の生い立ち、「法の下での平等」との関係		2 時間	
			事後 学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する		2 時間	
	5	基本的人権Ⅱ(自由権Ⅰ)	事前 学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる		2 時間	宗村
			講義	精神的自由権: 思想・良心の自由、信教の自由		2 時間	
			事後 学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する		2 時間	
	6	基本的人権Ⅲ(自由権Ⅱ)	事前 学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる		2 時間	宗村
			講義	精神的自由権: 集会・結社の自由、表現の自由、学問の自由		2 時間	
			事後 学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する		2 時間	
	7	基本的人権Ⅳ(自由権Ⅲ)	事前 学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる		2 時間	宗村
			講義	身体的自由権: 奴隷的拘束・苦役からの自由、法定手続の保証、住居の不可侵、被疑者・被告人の権利保障		2 時間	
			事後 学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する		2 時間	
	8	基本的人権Ⅴ(自由権Ⅳ)	事前 学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる		2 時間	宗村
			講義	経済的自由権: 居住・移転・職業選択の自由、財産権の不可侵		2 時間	
事後 学習			学習内容をまとめ、ノート等に整理する		2 時間		

教育内容	9 基本的人権Ⅵ(社会権)	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる	2 時間	宗村
		講義	社会権について、生存権とは何か、生存権の法的性質、生存権訴訟	2 時間	
		事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する	2 時間	
	10 国会Ⅰ	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる	2 時間	宗村
		講義	議会政治と国会、民主権と間接民主制、唯一の立法機関・国権の最高機関としての国会、国会の組織	2 時間	
		事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する	2 時間	
	11 国会Ⅱ	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる	2 時間	宗村
		講義	国会の権能、法律の制定、予算の審議・議決、議員の特権	2 時間	
		事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する	2 時間	
	12 内閣と行政	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる	2 時間	宗村
		講義	議院内閣制とは何か、行政府の権能、行政府と官僚	2 時間	
		事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する	2 時間	
	13 裁判所	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる	2 時間	宗村
		講義	司法権と裁判所の役割、裁判官及び裁判の仕組み	2 時間	
		事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する	2 時間	
	14 地方自治	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる	2 時間	宗村
講義		地方自治とは何か、地方公共団体の組織及びその権限ほか	2 時間		
事後学習		学習内容をまとめ、ノート等に整理する	2 時間		
15 全体のまとめ	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる	2 時間	宗村	
	講義	全体の復習と補足ほか	2 時間		
	事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する	2 時間		
16 定期試験	試験			宗村	
				総学習時間	90 時間

テキスト		参考書	
特になし(プリントを配布する)。ただし、受講生は六法(最新版)を持参すること(『ポケット六法』(有斐閣)をあげておく)。		初回授業で紹介する。その他、必要に応じ適宜紹介する。	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
なし		なし	
留意事項		オフィスアワー	
公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。授業中の携帯電話等使用厳禁。		時間:講義終了後 場所:講師控室	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
13	比較文化論	1	15	選択	講義	1年前期	亀井 智泉	
科目概要	近代医療の使命は「治す」ことにあったが、超高齢社会を迎える21世紀の日本では病氣や障害とともに歩むことを「支える」医療への転換が求められている。そのヒントを、諸社会の「医療」や「病氣」をめぐる文化のなかに見出していく。「文化」とは、その社会で人々が当たり前暮らしを可能にする種々の知識や技術を含めた、人間の振る舞いや思考に関わる情報の総体である。病氣の治療やケアをめぐる広義の医療文化(現代医療・伝統医療・呪術的治療など)の比較を通して、その文化・社会的側面について学習する。自文化の「当たり前」を見つめ直すことを通して、他者に関わり続ける柔軟な実践を支えるための洞察力を養う。							
到達目標	地域だけではなく、職種や時代によって生じる文化の違いを認識し、その違いを生成する環境や背景について考察するスキルを体得する。それによって、自らの文化と他者の文化をその違いを含めて許容する力を獲得すること。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準		
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	50 %	論点の明確さと独創性を評価する		
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	40 %	用語の定義の理解の度合いを問う		
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %			
	◎	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	10 %	情報リテラシーの度合いを評価する。		
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。 定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了3日目を以降14日目以内にコメントを入れて返却することで行う。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	「文化」としての「病氣」と「医療」～呪術から科学へ	事前学習	「我が家のお雑煮」の具、だし汁、もちの形等を説明できるようにして来てください			1.5 時間	亀井
			講義	「病氣」や「医療」がどのようにとらえられてきたか、文化の変遷と価値観の違いによるとらえ方の違いを可視化しよう			2 時間	
			事後学習	「ハーメルンの笛吹き男」で子どもたちはなぜ失踪したのかを考えると			2 時間	
	2	東洋のからだ、西洋のからだ	事前学習	他人が近づいてくると不快に感じる空間や距離(パーソナルスペース)。自分のパーソナルスペースの広さを考えてみよう			2 時間	亀井
			講義	古代の風水・仏教から現代の保健医療まで、公衆衛生の在り方と、その背景にある宗教、身体観の違いを考える			2 時間	
			事後学習	生活や宗教に「水」がどのような役割を果たしているのか。世界4大宗教ではそれぞれに水とどのように関わっているかを調べてみよう			2 時間	
	3	「治さなければならないもの」: 医療は何を対象にするか	事前学習	「背が低い」「髪が薄い」「ぼっちゃり体系」は医療的にはどう評価されるかを考えてみよう			1.5 時間	亀井
			講義	基準、なるものを定め、そこに当てはまらないものを「異常」なものとして治療、矯正の対象とする「逸脱の医療化」について考える。「逸脱」しているのに治せない、障害に対して医療・看護はどのようにかわろうとしているのだろうか			2 時間	
			事後学習	髪が薄いのはなぜ治療の対象なのかを考察すること(次回講義で発表してもらいます)			2 時間	
	4	いのちを育む～周産期医療と子育ての文化	事前学習	「産婆」と「助産師」の違いは何かを調べてくること			2 時間	亀井
			講義	古今東西の出産や育児の比較をとおり、「生産性」を追求する社会における妊娠、出産、育児について考えよう			2 時間	
			事後学習	日本で無痛分娩がまだ少数派なのはなぜか、を考察すること			2 時間	
	5	女性と母性	事前学習	全国の1歳児の保育園就園率の変遷を調べてくること			1.5 時間	亀井
			講義	男性中心社会の中で、女性と母性は切り離されて考えられてきた。リプロダクティブ・ヘルス/ライフ(性と生殖に関する健康と権利)について多様な文化の比較を通して考える。			2 時間	
			事後学習	与謝野晶子と平塚らいてうの「母性保護論争」について調べて、自分なりに考えをまとめてくること			2 時間	
	6	老いる、ということ	事前学習	「姨捨山」の昔ばなしを読んで、「年寄」の尊厳について考察してくること			1.5 時間	亀井
			講義	成長を謳う近代社会の中で「老い」がどのように位置づけられてきたのかを踏まえて、その先にある「死」への向き合い方を含めて考えよう。			2 時間	
事前学習			介護保険制度はどのようにして生まれたのか、調べてみよう			2 時間		

7	自然の力、科学の力	事前学習	レメディ、アロマセラピー等の自然療法について、どのようなものがあるかを調べてみよう	1.5 時間	亀井
		講義	アロマセラピー、レメディ、マクロビオティック・・・世界各国の自然と健康をつなげる考え方を知り、自然の一部である私たちについて考察する。	2 時間	
		事後学習	ケアすることを「手当」というが、他の言語ではそのような表現があるだろうか。調べてみよう	2 時間	
8	「死」へのまなざし	事前学習	「死後の裁き」とはどのようなものか。キリスト教徒仏教の違いを調べてみよう	1.5 時間	亀井
		講義	必ず来る「死」をどう受け止め、受け容れ、あるいは否定して逃れようとするのか。世代間、民族間で違う「死」の捉え方他の違いと普遍性について考える	2 時間	
		事後学習	「生まれ変わる」「またいつか会える」と思うのはなぜだろう。身近な例から考察してみよう	2 時間	
9	定期試験	論述試験			亀井
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
特にありません。講義の中で資料を配布します。参考図書は積極的に読んでください			『日本の面影』ラファディオ・ハーン 池田雅之 訳 角川ソフィア文庫 『児童の世紀』エレン・ケイ 小野寺 信、小野寺百合子 訳 富山房百科文庫		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
在宅医療、小児・障害者の医療行政や児童養護、母子保健、グリーンワークに携わる経験を活かし、いのちの捉え方や医療の文化を見つめなおし他者に関わり続ける洞察力を教授する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
試験やレポートの作成に際しては、生成AIはもちろん、既存の資料から複写しただけの独自性なき文章は一切許しません。			講義終了後、もしくはメール chisen_k●nifty.comまで (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
14	環境学	1	15	選択	講義	1年前期	三輪 憲永
科目概要	本授業では、生命の起源と生物の進化、人間活動が生態系に与える影響、人間生活と環境のつながりについて理解することを目的とする。ヒトを含めた生物は環境と相互依存の関係にあり、時間の経過あるいは環境の変化とともに生物も変化してきたが、近年、ヒトの活動が生態系や地球環境に与える影響が問題となっている。大気汚染、水質汚濁、廃棄物、気候変動などの環境上の諸問題及び気候変動による感染症の発生動向の変化の可能性などについて学ぶ。						
到達目標	1. 人間活動が生態系に与える影響について理解し、人間生活と環境とのつながりについて説明することができる。 2. 人間の活動によって起きている環境上の問題や、今後起きる可能性の高い問題について説明することができる。 3. 気候変動を原因とする感染症の地域的な発生状況の変化について説明することができる。						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	100 %	授業全般についての理解度を評価する。	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了後、希望する学生に対して三輪研究室にて採点後の答案用紙の閲覧により行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	地球環境と人間	事前学習	日常的に環境問題に関する意識を持ち、新聞やテレビのニュースなどについて注目すること。	1.5 時間	三輪	
			講義	生命の起源、生物の進化と人類の誕生、人間活動と生態系などについて学ぶ。	2 時間		
			事後学習	授業時に配布したプリントを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間		
	2	大気汚染	事前学習	日常的に環境問題に関する意識を持ち、特に大気汚染に関する新聞の記事やニュースに注目すること。	1.5 時間	三輪	
			講義	酸性雨、PM2.5、光化学オキシダントなどの大気汚染について学ぶ。	2 時間		
			事後学習	授業時に配布したプリントを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間		
	3	水環境の汚染	事前学習	日常的に環境問題に関する意識を持ち、特に水の汚染に関する新聞の記事やニュースに注目すること。	1.5 時間	三輪	
			講義	地球の水資源と水の循環、水質汚濁や富栄養化などの水環境の汚染、水を汚染する化学物質などについて学ぶ。	2 時間		
			事後学習	授業時に配布したプリントを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間		
	4	廃棄物	事前学習	日常的に環境問題に関する意識を持ち、特に廃棄物に関する新聞の記事やニュースに注目すること。	1.5 時間	三輪	
			講義	廃棄物の種類と排出状況、廃棄物の処分、逼迫する最終処分場、不法投棄などについて学ぶ。	2 時間		
			事後学習	授業時に配布したプリントを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間		
	5	プラスチックごみ	事前学習	日常的に環境問題に関する意識を持ち、特にプラスチックごみに関する新聞の記事やニュースに注目すること。	1.5 時間	三輪	
			講義	プラスチックの種類と生産量、プラスチックごみの生物や環境に与える影響、プラスチックのリサイクルなどについて学ぶ。	2 時間		
			事後学習	授業時に配布したプリントを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間		
	6	気候変動と温暖化	事前学習	日常的に環境問題に関する意識を持ち、特に廃棄物に気候変動と温暖化に関する新聞の記事やニュースに注目すること。	1.5 時間	三輪	
			講義	地球の大気組成、温室効果ガスと気候変動、気候変動枠組条約などについて学ぶ。	2 時間		
			事後学習	授業時に配布したプリントを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間		
	7	環境の変化と感染症	事前学習	日常的に環境問題に関する意識を持ち、特に感染症に関する新聞の記事やニュースに注目すること。	2 時間	三輪	
			講義	新たに発生した感染症、感染症発生地域の拡大、国際交流と感染症の拡大、感染症予防法、病原体と媒介生物などについて学ぶ。	2 時間		
		事後学習	授業時に配布したプリントを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間			

8	まとめ	事前学習	1回目から7回目までの授業で配布したプリントの内容を確認しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	環境学で学んだ内容について、総合的に理解する。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントの内容を総合的に理解すること。	2 時間	
9	定期試験	筆記試験			三輪
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
使用しない			パワーポイントを補助教材として使用し、プリントを配布する。		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
該当せず			なし		
留意事項			オフィスアワー		
配布資料は、授業開始前に教室外の廊下または教室内の最前列の机の上に置きます。各自で取ってください。			時間: 毎週水曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所: 三輪研究室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
15	教育学	1	15	選択	講義	1年前期	黒田 和子
科目概要	「教育」というのは、人間を何かに向かって育てるところにその本質をもつ。つまり、人間というものを「可能性をもつもの」として眺めるのである。「教育」は、可能性をもつもの大きい所に向かってひろげていく営みを意図して行った意識的な行為である。授業では、「可能性に向かってひろがりゆくもの」を今日に至るまでふくらめてきた、教育学としての専門的な知識・歴史・今日の諸問題などを取りあげながら、幅広く考察し、ともに教育について科学する。						
到達目標	1.看護と教育学の関係を理解し、教育学を学ぶ必要を語るができる。 2.学校教育や教育現場における諸事象を知ることを通じて教育の本質に気付くことができる。 3.教育における指導の基本について説明することができる。 4.今日の教育諸問題について知り、それに対して自分の見解を述べることができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	70 %	教育学で示されたキーワードを理解し、自分の言葉で説明できているか評価する。	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	講義内容を理解し、自身の振り返りができているか評価する。	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・受講時の積極性、態度等	10 %	講義内容を理解し、自身のこととして課題を果たしているか評価する。	
		4. 課題発見能力と課題解決力		合計	100 %		
		5. 看護の知識と看護実践力					
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する。また、学生全体への講評等によりフィードバックする。</li> <li>・授業内に課した課題は、グループワークを行い、学習成果の発表やグループでの討議を重ねる。</li> <li>・定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了3日目を以降10日以内に、黒田研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。</li> </ul>						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	教育学概論	事前学習	教科書P12の「オオカミに育てられた子どもの物語」までを熟読し、感想まとめて伝え合えるようにしておく。	1.5 時間	黒田	
			講義	教育学の全体像を示した上で、社会のなかの教育と看護の関係、「教育」の概念について学ぶ。	2 時間		
			事後学習	「学校以外で行われている教育的なこと」をリアクションペーパーにより振り返りを行う	2 時間		
	2	子ども・社会と教育	事前学習	教科書P34-37『大衆社会の成立と変容』を熟読しておくこと。	2 時間	黒田	
			講義	教育対象である子どもに対する子ども観の形成とその背景を講じ、社会変動と教育について考える。	2 時間		
			事後学習	「時代の価値観で影響を受ける教育的なこと」をリアクションペーパーにより振り返りを行う	2 時間		
	3	教授と学習	事前学習	教科書P58-60『非対称的コミュニケーション』を熟読しておくこと。	2 時間	黒田	
			講義	教授と学習の違いを考察し、コミュニケーションとしての教えることを看護と比較し理解する。	2 時間		
			事後学習	「教える価値に根ざした教育のはたらきかけ」をリアクションペーパーにより振り返りを行う	2 時間		
	4	教育による発達の理論	事前学習	教科書P104-107を読む。とくに「発達を支える・促す」を熟読しておくこと。	2 時間	黒田	
			講義	養護を看護・ケア・教育との異同から理解し、学校における保健室の役割と、発達概念について学ぶ。	2 時間		
			事後学習	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	1.5 時間		
	5	家庭教育・社会教育	事前学習	教科書P132-135『「学校に行かない子ども」をどう考えるか』を熟読しておくこと。	2 時間	黒田	
			講義	家庭教育の重要性について理解し、学校外教育、社会教育をつなげ、生涯学習と結び付けていく。	2 時間		
			事後学習	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめて疑問点を明らかにしておくこと。	1.5 時間		
	6	教育の目標と評価	事前学習	教科書P138-142『評価と目標の関係』を熟読しておくこと。	2 時間	黒田	
			講義	教育の組織化としての学校について、その目標と評価、教職員の専門性、場の変動などから把握する。	2 時間		
			事後学習	「学習・治療としての評価」をリアクションペーパーにより振り返りを行う	1.5 時間		
	7	現代的教育課題	事前学習	教科書P210『ジェンダーとはなにか』、P222-223『障害・看護・教育』を熟読しておくこと。	2 時間	黒田	
			講義	ジェンダーとセクシュアリティ、インクルーシブ教育等現代的教育課題の方向性を自身に照らしながら探る。	2 時間		
		事後学習	取り扱った教育には、どんな期待が寄せられているのかについて、リアクションペーパーにより振り返りを行う	2 時間			

8	教育学総論	事前学習	教科書P196-200を熟読してくること。	1.5 時間	黒田
		講義	教育学のまとめとして、生涯学習、シティズンシップ教育を素材に考える。	2 時間	
		事後学習	これまでの講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	1.5 時間	
9	定期試験	筆記試験			黒田
				総学習時間	45 時間

テキスト	参考書
木村元・編『系統看護学講座 基礎分野 教育学』(医学書院)	野村知沙著『看護助手のナナちゃん』小学館他、授業時に適宜紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
教育現場での実践経験と研究で積みあげた知見を活かし、教育の本質を学生たちの生活経験に引き寄せ教授する。	なし
留意事項	オフィスアワー
【予習・復習に必要な時間数:30時間】 予習: 次回の講義項目に関係する事項の予習やグループワークの準備をして授業に臨む。 復習: 配付資料と講義内容をもとに復習し、疑問点を明らかにする。	時間: 授業後、昼休み、木曜日5限 場所: 教室・研究室 メール, Teamsチャット等:k.kuroda@matsutan.ac.jp

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
16	生命倫理	1	15	必修	講義	1年前期	亀井 智泉
科目概要	医療の高度な発達とともに、安楽死や選択的妊娠中絶、デザイナーベビーなどの倫理的に解答困難な問題が数多く登場した。また、民主化が進む中で、個人の多様な価値観を尊重しなければならない時代になってきた。そのような状況において、医療問題について、他者と合意形成を行いつつ、どのように判断し、どのように解決策を発見するべきだろうか。具体的な事例を踏まえながら考察する。						
到達目標	看護職として答えの出ない課題に向き合わねばならなくなるであろう将来に備えて、自分の中に命への思い、いのちの尊厳を守るための確固たる意志を醸成すること。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	50 %	キーワードの理解度と考察の独自性を評価する	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	講義内容の理解と考察の独自性を評価する	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	20 %	積極的な質問や意見の発言を歓迎、評価する	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %				
フィードバック	授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。 定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了3日目を以降14日目以内にコメントを入れて返却することで行う。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	いのちとは何か	事前学習	「ヒポクラテスの誓い」は何か。事前に検索して目をとおしてきてください		1 時間	亀井
			講義	胎児の成長を、出生まで週を追ってみながら、自分のいのちの始まりを考えます。自分の生まれた時の身長と体重を(可能なら)知って、講義に臨んでください。		2 時間	
			事後学習	ヒポクラテスの誓いとジュネーブ宣言の違いを考察すること		1.5 時間	
	2	いのちを「なかったこと」にできるか	事前学習	「水子供養」とは何か、その意義は何かを調べて考察してくること		1.5 時間	亀井
			講義	流産した子は「早く忘れなさい」、障害児が生まれたら「なかったこと」にして次に元気な子を。生と死を他人事としてとらえた場合とそうでない場合の認識の違いから、「寄りそう」看護とは何かを考えます。		2 時間	
			事後学習	生命予後の良くない障がい児に高度医療を提供することは医療経済的に問題ではないか? という問いにどう応えるか。		1.5 時間	
	3	障害を持つ子どもを産むということ～「障害」とは何か	事前学習	障害者に行われた強制不妊手術について調べて、裁判例を読んでくこと		2 時間	亀井
			講義	外表面奇形の児、先天性の疾患のある児、周産期のトラブルで障害を持つに至った児。多様なケースから、障害を持つ子をその特性ごと受け入れるために看護師として求められる姿勢を考える。		2 時間	
			事後学習	障害とは何か、国際生活機能分類(ICF)の図を自分で書けるようになってください		2 時間	
	4	QOL(生命の質)とQOD(死の質)	事前学習	在宅医療の死と病院での死の違い、それぞれの場での看護の違いを考察すること		2 時間	亀井
			講義	「死」とは何か。「治す」医療と「癒す」医療の違いを、ホスピスや在宅医療の実際の事例から考えます。		2 時間	
			事後学習	安楽死と尊厳死の違いを調べて、「よりよい死」とは何かを考察すること		2 時間	
	5	出生前診断と優生思想	事前学習	「不良な子孫の出生防止」を目的とした旧優生保護法の目的と、それが今なぜ否定されるに至ったかを考察してください		2 時間	亀井
			講義	新型出生前診断について学び、お腹の中で染色体異常や先天性の疾患が分かった場合の家族への支援を考える。家族が答えを出すことを支援するために必要な正しい知識と命への自分なりの信念をかたちづくることを目指す。		2 時間	
			事後学習	いのちについて子どもたちに語り、ともに考える絵本を探してきてください		2 時間	
	6	子どもの死と脳死臓器移植	事前学習	前の講義の最後に配布する事例を読み、自分なりに考えてくこと		1.5 時間	亀井
			講義	生命予後の悪い子ども、心臓移植で生きられる可能性を求めるとも、それぞれの保護者の思いから、脳死臓器移植についてきちんと知り、考えます		2 時間	
			事前学習	いのちについて子どもたちに語る、ともに考える絵本を探してきてください子どもたちに語るための絵本を紹介するPOPを作成してください		2 時間	
	7	不妊治療	事前学習	いのちについて子どもたちに語る、ともに考える絵本を探してきてください子どもたちに語るための絵本を紹介するPOPを作成してください		2 時間	亀井
			講義	子どもを人為的に「つくる」ことはだれのための医療なのか。不妊治療で生まれてきた「子ども」の声から考えます。		2 時間	
事後学習			いわゆる「仁志田のガイドライン」を配布します。これをもとにバーナリズムについて考察してください。		2 時間		

8	死に際して看護ができること	事前学習	いのちについて子どもに語るPOPを完成させて、提出すること	2 時間	亀井
		講義	亡くなったことものの複数の事例から、旅立ついのちに看護ができることを考えます	2 時間	
		事後学習	自分自身のいのちを大切にするために、今からできることは何かを考えること	2 時間	
9	定期試験	論述試験			亀井
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
特にありません。資料を配布します。参考図書を適宜紹介するので積極的に読んでください。			『不妊治療と出生前診断～温かな手で』信濃毎日新聞取材班 講談社文庫 2015年 『神谷美恵子 聖なる声』宮原安春 文春文庫 2001年 『重い障害を持つ赤ちゃんの子育て』亀井智泉 メディカ出版 2008年		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
講師の第1子は出生時の医療事故により超重症心身障害児になり、4歳で亡くなりました。いのちの誕生と死に向き合う医療者の姿勢と、生きよう、生きたいと願ういのちに真摯に向き合い、生の果てにある死を否定しない医療について、当事者として考察し続けたことを提示し、それをもとに各自の学びを深めていただきます。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
試験やレポートの作成に際しては、生成AIはもちろん、既存の資料から複写しただけの独自性なき文章は一切許しません。			講義終了後、もしくはメール chisen_k●nifty.comまで (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
17	法と人権	1	15	必修	講義	1年後期	宗村 和広	
科目概要	自由民主主義社会における法は、個人として基本的な権利を尊重された人々が共存していくための道具である。そのための大きな枠組が憲法であり、憲法に従った手続で制定される法律が、直接的に人々の生活を規律する。法律は、憲法の人権規定に反してはならず、人権規定を実現するべく制定される。この講義では、日本国憲法の原理とその下での法の態様について学ぶ。							
到達目標	法の描く人間像・人間関係は、「人間の尊厳」という考えと密接に結びついている。「人権」の根拠もまた人間の尊厳にある。では、人権とは何か？ 個別的な人権を正しく理解することの重要性は高い。日本国憲法の下に多くの法(法律)が定められているが、身近な事例を通して、①法に共通する基礎概念を理解し、②具体的な法的紛争を通して「人権」という考え方をしっかり理解すること、がこの授業の到達目標である。このことを通して、「人間の尊厳」という考えを実感して欲しい。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準		
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	50 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。		
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %			
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	50 %	復習的内容の課題レポート		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %			
フィードバック	課題レポートは、授業内で履修した内容の中から履修者が任意にテーマを設定して論述し、次回以降の授業時にコメントを入れて返却する。定期試験のフィードバックは、試験終了後に解答または採点基準を配布する。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	法学概論(1)	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる			1 時間	宗村
			講義	法学とはどのような学問か、規範と法則、技術規範と社会規範			2 時間	
			事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する			2 時間	
	2	法学概論(2)	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる			1 時間	宗村
			講義	法と社会規範、法と道徳、法と存在形式(法源)			2 時間	
			事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する			2 時間	
	3	法学概論(3)	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる			1 時間	宗村
			講義	法の目的、法と権利・義務			2 時間	
			事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する			2 時間	
	4	法の適用と解釈	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる			2 時間	宗村
			講義	「法の適用」とは、法の解釈:文理解釈と目的解釈、解釈技術			2 時間	
			事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する			2 時間	
	1	法と人権(総論)	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる			2 時間	宗村
			講義	「人権」とは、新しい人権と憲法			2 時間	
			事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する			2 時間	
	6	法と人権(各論1)	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる			2 時間	宗村
			講義	社会の成員の多様性を最大限認める現代社会においては、常に新たな少数者保護にかかわる人権が登場する:例えば、外国人労働者あるいは難民の受け入れ、夫婦別姓制度、同性者の婚姻、LGBT法など。このうちの1点に焦点を当て、是非を検討する(その1)			2 時間	
			事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する			2 時間	
	7	法と人権(各論2)	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる			2 時間	宗村
			講義	社会の成員の多様性を最大限認める現代社会においては、常に新たな少数者保護にかかわる人権が登場する:例えば、外国人労働者あるいは難民の受け入れ、夫婦別姓制度、同性者の婚姻、LGBT法など。このうちの1点に焦点を当て、是非を検討する(その2)			2 時間	
			事後学習	学習内容をまとめ、ノート等に整理する			2 時間	
	8	法と人権(各論3)	事前学習	事前資料を通読し、不明な用語につき、図書館、Web等で調べる			2 時間	宗村
			講義	社会の成員の多様性を最大限認める現代社会においては、常に新たな少数者保護にかかわる人権が登場する:例えば、外国人労働者あるいは難民の受け入れ、夫婦別姓制度、同性者の婚姻、LGBT法など。このうちの1点に焦点を当て、是非を検討する(その3)			2 時間	
事後学習			学習内容をまとめ、ノート等に整理する			2 時間		

9	定期試験	試験			宗村
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
特になし(プリントを配布する)。ただし、受講生は六法(最新版)を持参すること(『ポケット六法』(有斐閣)をあげておく)。			初回授業で紹介する。その他、必要に応じ適宜紹介する。		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
なし			なし		
留意事項			オフィスアワー		
履修条件ではないが、上で触れたように(事前学習)、前期開講科目の「日本国憲法」を履修しておくことが望ましい。授業中の携帯電話等使用厳禁。			時間: 講義終了後 場所: 講師控室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
18	家庭支援論	1	15	選択	講義	1年後期	高下 梓
科目概要	家族の構造・機能について概説するとともに、現代社会における地域・家族の諸課題として、家族形態の多様化・少子化・国際化や子育てにおけるニーズを取り上げ、主要な施策を教授する。また、事例を通して家族が抱える様々な課題を多面的にアセスメントし、支援策を考えるための基本的スキルを習得する。						
到達目標	1. 家族がもつ様々な機能について説明できる。 2. 個人と家族の発達過程を説明できる。 3. 家庭支援に関わる地域の資源を理解し、多職種と連携・協働する必要性を説明できる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	定期試験		60 %	授業内容の理解度を評価する。	
	○	2. 主体的行動力	授業内の小テスト、課題、レポート		20 %	小テストは第3・6・8回に実施し、授業内容の理解度を評価する。	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力	事前/事後学習の課題、レポート		20 %		
	○	4. 課題発見能力と課題解決力	受講時の積極性、態度等		0 %		
	○	5. 看護の知識と看護実践力	合計		100 %		
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
フィードバック	・小テスト(計3回実施)は、小テスト終了後(授業時間内)に正答解説および正答率に関するフィードバックを行う。 ・期末試験は、問題用紙に記点を明記するとともに、全履修者の試験終了から1週間後より、研究室で正答を閲覧・確認できるようにする。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	家族を理解するための視点	事前学習 シラバスを読み、授業内容や留意点等を理解する。	0.5 時間	高下		
	講義	社会における家族の位置づけと、家族の構造・機能を理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、看護師国家試験過去問題に取り組む。	2 時間				
	2	家庭の発達と個人の発達	事前学習 事前配布資料を読み、授業の準備を整える。	1 時間	高下		
	講義	エリクソンのライフサイクル理論と家族のライフサイクル理論を学び、家族成員と家庭の課題が時期によって変化することを理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第3回に実施する小テスト範囲を復習する。	3 時間				
	3	家族形態とその多様化	事前学習 居住地の自治体ホームページを探し、各種支援の説明ページを確認する。	1 時間	高下		
	講義	家族形態の多様化を理解する。また、ひとり親・離婚・DVなどの状況における家庭のニーズと、国・自治体などによる支援体制を学ぶ。	2 時間				
	事後学習	本時の内容・小テスト内容を復習するとともに、看護師国家試験過去問題に取り組む。	2 時間				
	4	家族関係の記録方法	事前学習 ジェノグラムの記載練習用のモデルを考え、記入していく。	1.5 時間	高下		
	講義	ジェノグラム・エコマップの記載方法を学び、事例を通して書き方を練習する。	2 時間				
	事後学習	本時の内容を復習し、配布資料に沿って、ジェノグラム・エコマップを書く。	2 時間				
	5	子育てをめぐる困難と支援	事前学習 子育てに関するニュースや情報サイトを調べる。	0.5 時間	高下		
	講義	子育て家庭が抱える現代的な課題と、国・自治体などによる支援の取り組みを理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第6回に実施する小テスト範囲を復習する。	3 時間				
	6	発達障害の子どもを育てる家庭への支援	事前学習 発達障害に関するニュースや情報サイトを調べる。	0.5 時間	高下		
	講義	発達障害の子どもを育てる家庭のニーズと、わが国における教育システムや支援機関について理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、看護師国家試験過去問題に取り組む。	1.5 時間				
	7	貧困・要保護家庭への支援	事前学習 貧困・虐待に関するニュースや情報サイトを調べる。	0.5 時間	高下		
	講義	貧困・虐待等により支援を必要とする家庭の特徴と、国・自治体などによる支援の取り組みを学ぶ。また、貧困・虐待のサインを理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第8回に実施する小テスト範囲を復習する。	3 時間				
	8	家族の国際化	事前学習 これまでのすべての授業資料を整理し、不明点がないか確認する。	2 時間	高下		
	講義	外国につながる家庭の特徴と、国・自治体などによる施策や、支援方法を理解する。	2 時間				
事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、期末試験に向けて全内容を復習する。	5 時間					

9	定期試験	記述式(マークシート方式、一部自由記述)で、授業の内容全般についての理解度を評価する。	高下	
			総学習時間	45 時間
テキスト		参考書		
授業時に適宜紹介する。		授業時に適宜紹介する。		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
臨床心理士・公認心理師として医療・教育等の現場で対象者と関わってきた教員が担当し、対象者理解や家庭支援について学びます。		なし		
留意事項		オフィスアワー		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認、小テスト、授業内に課す小課題等にMicrosoft Formsを利用します。スマートフォンを持参して送信できるようにしてください。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前・後の時間帯(講義教室)</li> <li>・金曜日(研究室)</li> <li>・担当教員の連絡先メールアドレスは、授業時に周知する。</li> </ul>		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
19	臨床心理学	1	15	必修	講義	1年前期	高下 梓
科目概要	本講義ではこころの援助学としての臨床心理学を概説する。心理検査や面接・観察による人間を理解する方法の活用の仕方、援助の方法としての様々な立場の心理療法、様々な心理的症状や心理学的諸問題について学習し、看護場面における臨床心理学の応用について考える。						
到達目標	1. 人間を理解する方法として面接・観察や心理検査について説明することができる。 2. 援助の方法として代表的な心理療法について説明することができる。 3. 今日的な心の問題を挙げ、原因・背景を説明することができる。 4. 看護場面における臨床心理学の応用について説明することができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	60 %	授業内容の理解度を評価する。	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	小テストは第4・6・8回に実施し、授業内容の理解度を評価する。	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
	◎	5. 看護の知識と看護実践力		合計	100 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
フィードバック	・小テスト(計3回実施)は、小テスト終了後(授業時間内)に正答解説および正答率に関するフィードバックを行う。 ・期末試験は、問題用紙に配点を明記するとともに、全履修者の試験終了から1週間後より、研究室で正答を閲覧・確認できるようにする。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	心理学の学問体系と臨床心理学	事前学習	シラバスを読み、授業内容や留意点等を理解する。		1 時間	高下
			講義	心理学の学問分野が多岐にわたることを確認するとともに、臨床心理学の位置づけについて理解する。また、心理的機能に関わる脳の主要な部位を確認する。		2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習し、看護師国家試験の過去問題に取り組む。		2 時間	
	2	感覚・知覚の心理学	事前学習	事前配布資料を読み、ワークに取り組む。		1 時間	高下
			講義	ヒトの感覚・知覚に関する基本的知識を学ぶとともに、これらに関わる疾病・障害の主な例を理解する。		2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習し、看護師国家試験の過去問題に取り組む。		2 時間	
	3	学習・記憶の心理学	事前学習	事前配布資料を読み、ワークに取り組む。		1 時間	高下
			講義	ヒトの学習・記憶に関する基本的知識を学ぶとともに、これらに関わる疾病・障害の主な例を理解する。		2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習し、看護師国家試験の過去問題に取り組む。第4回に実施する小テスト範囲を復習する。		3 時間	
	4	感情・動機の心理学	事前学習	事前配布資料を読み、ワークに取り組む。		1 時間	高下
			講義	ヒトの感情・動機に関する基本的知識を学ぶとともに、これらに関わる疾病・障害の主な例を理解する。		2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、小テストの結果をもとに復習する。		2 時間	
	5	発達の心理学	事前学習	事前配布資料を読み、ワークに取り組む。		1 時間	高下
			講義	ヒトの発達に関する基本的知識を学ぶとともに、人生の各時期における心の健康について学ぶ。		2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第6回に実施する小テスト範囲を復習する。		2 時間	
	6	心理アセスメント	事前学習	事前配布資料を読み、ワークに取り組む。		1 時間	高下
			講義	心理アセスメントの手法の概観を学ぶとともに、心理検査の取り扱い上の留意点、心理検査の種類・代表例を学ぶ。		2 時間	
			事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、小テストの結果をもとに復習する。		2 時間	
	7	カウンセリングと心理療法	事前学習	事前配布資料を読み、ワークに取り組む。		1 時間	高下
			講義	臨床心理学における援助法の代表例として、精神分析・クライアント中心療法・行動療法の概要を理解する。		2 時間	
事後学習			本時に学んだ内容を復習するとともに、第8回に実施する小テスト範囲を復習する。		2 時間		

8	ストレス対処とリラクゼーション技法	事前学習	これまでのすべての授業資料を整理し、不明点がないか確認する。	2 時間	高下
		講義	ストレスによる心身反応の特徴を理解するとともに、セルフチェックリストで自分の状態を確認する。呼吸法・漸進的筋弛緩法・自律訓練法を学び、体験する。	2 時間	
		事後学習	本時の内容・小テストの結果について復習するとともに、期末試験に向けて全内容を復習する。	5 時間	
9	定期試験	記述式(マークシート方式、一部自由記述)で、授業の内容全般についての理解度を評価する。			高下
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
なし			授業時に適宜紹介する。		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
臨床心理士・公認心理師としての心理臨床活動経験を活かし、臨床心理学の理論と実践・応用について講義する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認、小テスト、授業内に課す小課題等にMicrosoft Formsを利用します。スマートフォンを持参して送信できるようにしてください。</li> <li>・臨床心理学における様々な援助法をさらに詳しく知りたい人は「カウンセリング理論」を履修してください。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前・後の時間帯(講義教室)</li> <li>・金曜昼(研究室)</li> <li>・担当教員の連絡先メールアドレスは、授業時に周知する。</li> </ul>		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
20	国際理解入門	1	15	選択	講義	1年後期	中村 純子	
科目概要	現代の国際社会情勢に関心を持ち、異文化と自国の文化についての理解を深め、国際的な視野で物事を考える。							
到達目標	① 異文化コミュニケーションの理論と技法を習得し、日常生活に応用できる。 ② 異文化への理解をはかりつつ、自国文化を他者に分かりやすく説明できる。 ③ 多文化共生についての理解を深め、違いを楽しみ、共に支え合う社会への関心と意識を高める。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準		
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	40 %	レポート形式 テーマ、論理性、意見等評価		
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %			
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	40 %	複眼的な思考ができていくかどうかなど評価		
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	20 %	グループディスカッションなどにおける積極性		
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。さらに授業で、他の学生と共有し、ディスカッションなどを通してピアフィードバックを受ける。評価の基準は課題にもよるが、授業の内容を踏まえて記してあること、一方的な見方ではなく複眼的視点で書かれていること、自分の考えが明確に表れていること、論理性、説得力があること等を評価する。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	オリエンテーション 自己開示	事前学習	松本市のホームページを読んで、多文化共生についての市の取り組みをまとめておく。			3 時間	中村
			講義	講義の進め方、評価方法、異文化コミュニケーションにおける自己開示の重要性を理解する。			2 時間	
			事後学習	プリント(自己開示)を読んで、ワークの自己開示に関する自己分析を完成する。			1 時間	
	2	常識	事前学習	プリント(常識)を読んで、講義に対する予備知識を得る。			1 時間	中村
			講義	自己開示のワークをもとにグループで互いの自己開示の傾向を理解しあう。「常識」から自文化中心主義からの脱却の視点を理解する。			2 時間	
			事後学習	課題(世界のマナー)を調べて、自国と比較する。			2 時間	
	3	ステレオタイプ	事前学習	プリント(ステレオタイプ)を読んで、講義に対する予備知識を得る。			1 時間	中村
			講義	課題(世界のマナー)をグループで発表し、互いの発表より常識の多様性を理解する。ステレオタイプに陥るメカニズムの理解と脱却を学ぶ。グループワークを通して、国によるステレオタイプについて理解を深める。			2 時間	
			事後学習	ステレオタイプの問題点について課題を行う。			2 時間	
	4	文化と異文化理解の態度	事前学習	プリント(文化と異文化理解の態度)を読んで、講義に対する予備知識を得る。			1 時間	中村
			講義	課題(ステレオタイプの問題点)についてレポートについて発表し、互いの理解を深める。文化の特徴と思考に対する影響を理解する。			2 時間	
			事後学習	中間レポートを作成する。			3 時間	
	5	コミュニケーションと異文化コミュニケーション	事前学習	プリントを読んで、講義に対する予備知識を得る。			1 時間	中村
			講義	教員のフィードバック付き中間レポートを返却、授業内でも発表、ピアフィードバックを受ける。コミュニケーションのメカニズムと異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。			2 時間	
			事後学習	課題(誤った原因の帰属について)を行って、自分のコミュニケーション傾向を知る。			2 時間	
	6	コミュニケーションスタイル	事前学習	プリント(コミュニケーションスタイル)を読んで、講義に対する予備知識を得る。			1 時間	中村
			講義	教員のフィードバック付き課題返却と、授業内での発表と解説により、他の学生の考えを知る。謝罪、感謝などにおける日本人のコミュニケーションスタイルの特徴を考える。			2 時間	
			事後学習	コミュニケーションスタイルが書かれたプリントを読んで課題に答える。			2 時間	
	7	価値観 多文化共生ー地域	事前学習	プリント(価値観)を読んで、講義に対する予備知識を得る。			2 時間	中村
			講義	教員のフィードバック付き課題返却と、授業内での発表と解説により、他の学生の考えを知る。文化の価値観への影響、そして多文化共生の意義と問題点を考える。3つの民族に扮してロールプレイを行う。			2 時間	
			事後学習	価値観に関する課題を行う。			2 時間	
	8	多文化共生ー教育	事前学習	プリント(多文化共生)を読んで、講義に対する予備知識を得る。			2 時間	中村
			講義	価値観に関する課題についてグループで発表。多文化共生社会における教育の難しさと脱却についてグループに分かれてロールプレイ。その後、グループワークを通して多文化共生の教育の問題について考えを深める。			2 時間	
事後学習			期末レポートをまとめる。			3 時間		

9	定期試験	講義で扱ったテーマに対する理解と自分の経験談を交えたレポート提出	中村	総学習時間	45	時間
				テキスト	参考書	
	プリント			『異文化コミュニケーションワークブック』 矢代京子他著 三修社 2021年 『ひょうたん島問題』 藤原孝章著 明石書店 2021年		
	実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
	留学生の日本語教育、海外留学、地域の多文化共生推進委員の経験から異文化理解と異文化を持つ人々との共生に注目する。			なし		
	留意事項			オフィスアワー		
	他の学生の迷惑になるため、講義中の私語や携帯電話の使用は禁止。グループワークに主体的に参加すること。			時間：講義終了後 場所：講師控室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
21	ボランティア論	1	15	選択	講義	1年後期	亀井 智泉	
科目概要	人、社会、自然と直接かかわるボランティアを通して、他者や社会に役立つことで喜びを感じ、相成長する、人間としてごく自然な暖かい感情を育む。地域や社会の構成員としての自覚を確認し、相互に支え合うという意識を醸成する。学習意欲を高め、就職を含め将来の人生設計に役立てる。							
到達目標	1. ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。 2. 地域社会において看護の専門職としてボランティア活動の実践者として行動するための知識を持つ。 3. 他者理解と社会貢献、自己と他者を共に尊重するコミュニケーション力を身に付ける。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験		50 %	内容の独自性と、論点の明確さを評価する		
		2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート		30 %	用語の定義の理解の度合いを評価する		
	◎	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート		0 %			
		4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等		20 %	グループワークでの積極性を評価する		
	○	5. 看護の知識と看護実践力	・その他		0 %			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %					
フィードバック	授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了3日目以降14日目以内にコメントを入れて返却することで行う。							
教育 内容	1	ボランティアとはなにか	事前学習	阪神淡路大震災がどのような災害だったかを調べてくること	2 時間	亀井		
			講義	わが国で現在「ボランティア」と呼ばれているものはいつ、どのようにして生まれたのか。セツルメントや阪神淡路大震災のボランティアなどからその理念と歴史の変遷を学びます。	2 時間			
			事後学習	東日本大震災の時のボランティアは阪神淡路大震災の時とどのように違ったか、考察してみよう	2 時間			
	2	ボランティア活動の現状と課題	事前学習	自分のボランティア経験から、無駄や無意味、と感じたことはなかったか。考察してくること	1.5 時間	亀井		
			講義	小児高齢化、人口減少時代の地域課題を、ボランティアの力を借りて解決しようとするこの是非を考えます	2 時間			
			事後学習	地域課題は地域で解決する手眼に何が必要かを考えよう	1.5 時間			
	3	新しい公共を創り出すボランティア活動	事前学習	前回講義終了後に配布する資料を読んでくること	1 時間	亀井		
			講義	「協働」とは何かを明確にしながら政策としておこなわれるのではない住民サービスの創出方法とその効果的存続を考えます。	2 時間			
			事後学習	行政と協働して看護資格を活かして、まちづくりに取り組むとしたら何をしたいか、を書いてみよう	2 時間			
	4	ボランティアと地域ニーズのマネジメント	事前学習	「関連人口」としてのボランティアの関わり方について、どのような事例があるか調べてみよう	2 時間	亀井		
			講義	いつ、だれに、何のために、どのようにして、だれが行うのが良いのか。ボランティアを地域課題解決に生かすマネジメントとコーディネートの重要性和その手法を学びます。	2 時間			
			事後学習	地域づくりに「よそ者の目」を活かすには？「ネオ内発的発展論」を調べてくること	2 時間			
	5	看護とボランティア	事前学習	前回講義終了後に配布する事例について、個別避難計画案を立ててくること	2 時間	亀井		
			講義	2019年の台風被害の際やその後の避難訓練で、看護職が行ったボランティアの事例をもとに、平時から災害に強い地域を創るために看護職ができることを考えます	2 時間			
			事後学習	戸別避難計画を作成する際に看護師ができることを考えてみよう	2 時間			
	6	地域と個人のアセスメント	事前学習	前回講義終了後に配布する資料を読み込んでくること	2 時間	亀井		
			講義	地域や個人の課題と強みを見出し、強みを生かす支援を行うための手法を学びます	2 時間			
			事前学習	SWOT分析により自分の強みを言語化してくること	2 時間			
	7	防災＝平時からの災害ボランティア	事前学習	前回講義終了後に配布した資料を読み、OODAループのフレームワークを理解してきます。	2 時間	亀井		
			講義	災害が起きてからのボランティアよりも、平時から地域を観察し、アセスメントしてやるべきことを抽出して行動するための手法を学びます	2 時間			
			事後学習	民生委員と訪問看護の連携方法を考えてみよう	2 時間			

8	自分自身のボランティア	事前学習	地域の行事で急変した住民がいたらどう動けるか。シミュレーション研修の台本を読み込んでくこと	1 時間	亀井
		講義	自分にできるボランティアは何か。自分の力をチームに活かすため、実際にどう行動するべきかを学びます	2 時間	
		事後学習	シミュレーション研修を体験してみて、チームで動くことの重要性を言語化して観ましょう	2 時間	
9	定期試験	レポート試験			亀井
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
特にありません。授業でその都度資料を配布します。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・かこさとし著『未来のだるまちゃんへ』(文春文庫 2016年)</li> <li>・猪瀬浩平著『ボランティアってなんだっけ?』(岩波ブックレット)</li> <li>・『アフガニスタンの診療所から』中村 哲 ちくま文庫</li> </ul>		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
患者家族団体として行政と協働し、長野県の医療的ケア児等支援体制を構築した経験を活かし、当事者や現場から創出される地域エンパワメントの在り方を教授する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
試験やサポートの作成に際しては、生成AIはもちろん、既存の資料から複写しただけの独創性のない記述は一切許しません。			講義終了後、もしくはメール chisen_k●nifty.comまで (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
22	音楽療法	1	15	選択	講義	1年後期	山田 真治	
科目概要	音楽療法には、その名の通り「音楽」というアート(芸術)が深く関わる。しかし、芸術と言っても、普段身近にある音・音楽の存在も含み、“美”や“質の良さ”を極めるという観点だけではない形で人の感性と創造性に働きかける。音楽療法士は、音や音楽を通してクライアント/患者と関わり、彼ら(彼女ら)を理解し、関係を築くなかでサポートしていく。人と関わる目的で用いられる音楽は、緊張を解き、記憶や思い出に触れ、勇気付け、言葉を越えたコミュニケーションを可能にし、様々な感情を体験したり表現したりすることを手伝う。そのとき音楽はどのように存在し、音楽療法士が音・音楽を通して人と関わっていくのかを、オーディオや映像の臨床例を交えながら紹介する。							
到達目標	1. 年齢に合った楽曲が選択できる。 2. リズム、メロディーによる効果が理解できる。 3. 対象者の身体状況等に合った楽曲が選択できる。 4. 音楽療法を行う上で、留意しなければならないことを踏まえながら、対象者に合った療法プランを立てることができる。							
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		成績評価方法	評価項目	配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		成績 評価 方法	・定期試験	90 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。	
		2. 主体的行動力			・授業内の小テスト、課題、レポート	10 %	自己学習で得た知識、疑問などの記載内容。	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力			・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力			・受講時の積極性、態度等	0 %		
		5. 看護の知識と看護実践力			・その他	0 %		
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			合計	100 %		
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内に課したフィードバック(2回程度を予定)は、次回以降の授業時に個人的にコメントします。、課題の評価基準は、その都度授業内で説明します。</li> <li>・定期試験のフィードバックは、試験終了3日目以降10日目以内に、山田研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。</li> <li>・希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。</li> </ul>							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	音楽療法の定義と理解	事前学習	音楽療法についての概要を図書館または、インターネット等で調べ自分なりに答えられるようにしておく。			1 時間	山田
			講義	音楽療法とは何かを学び、その効果について理解する。			2 時間	
			事後学習	授業では、音楽療法の概要を具体的な例を出し講義を行うのでまとめるようにする。			1 時間	
	2	「音・リズム」による反応効果	事前学習	施設等ではどのような音楽療法を行っているか、図書館、インターネット等で調べてくる。			2 時間	山田
			講義	音の高低、様々なリズムを聴きながら身体に感じる反応の違いを理解する。			2 時間	
			事後学習	音の高低、様々なリズムを聴きながら身体に感じる反応の違いをまとめ、どのような効果があるかを自分なりに整理しレポートにまとめる。			2 時間	
	3	楽曲の選択方法	事前学習	現在の高齢者(60代、70代、80代、90代)に相応しい楽曲を事前に調べ答えられるようにしておく。			2 時間	山田
			講義	1. 楽曲選択基準について 2. 年齢について 3. 楽器の効果について 理解する。			2 時間	
			事後学習	何故、年代に応じた楽曲が必要なのか、自分なりにレポートにまとめる。			2 時間	
	4	身体反応の効果	事前学習	高齢者ができる身体反応を図書館、インターネット等で調べてくる。			2 時間	山田
			講義	楽曲に合わせた手遊び表現、身体表現の実践をする。			2 時間	
			事後学習	授業で行った手遊び表現、身体反応を何回も反復してできるようにする。			2 時間	
	5	歌唱の効果 ①	事前学習	高齢者が好む童謡唱歌を10曲選択し、歌えるようにしてくる。			2 時間	山田
			講義	唱歌、童謡の背景をから創造力を高める。			2 時間	
			事後学習	唱歌、童謡の背景が何故必要か、自分なりにレポートにまとめる。			2 時間	
	6	歌唱の効果 ②	事前学習	前時間の講義で取り上げた楽曲の背景を覚え、答えられるようにしてくる。			2 時間	山田
			講義	唱歌、童謡の背景をから記憶を取り戻す。			2 時間	
			事後学習	唱歌、童謡の背景を使い、記憶を取り戻す指導法を整理する。			2 時間	
	7	歌唱の効果 ③	事前学習	前時間の講義で取り上げた楽曲の背景を覚え、答えられるようにしてくる。			2 時間	山田
			講義	唱歌、童謡の背景から感情移入を体験する。			2 時間	
			事後学習	本時間の講義で取り上げた楽曲の背景を覚え、答えられるようにする。			2 時間	
	8	鑑賞の効果	事前学習	講義で配布した自律神経に関する冊子を読み理解してくる。			2 時間	山田
			講義	メロディーの起伏、演奏形態(オーケストラ・ピアノ等)による感情の揺らぎの違いを体験し、考察する。			2 時間	
事後学習			音楽の演奏形態による音楽療法効果をまとめ、自分なりのレポートを作成する。			1 時間		

9	定期試験	筆記試験	山田	
			総学習時間	45 時間
テキスト		参考書		
音楽療法のための唱歌童謡名曲選 解説付き・山田真治・銀河書籍・2020		<p>音楽療法を記せられている書籍は、是非参考にして下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『標準音楽療法入門』(春秋社)</li> <li>・『元気のでる音楽療法』(ドレミ楽譜出版)</li> </ul>		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
施設、病院での音楽療法の経験を持つ教員が、患者の事例を基に講義を行う。		なし		
留意事項		オフィスアワー		
音楽棟音楽室は、Wi-Fi環境がありません。ネットでの学習がありますので、ご理解していただきますようお願いいたします。事前、事後の学習は、本時の授業に大変影響がありますので学習をしてきて下さい。		<p>時間：授業後、昼休み</p> <p>場所：音楽棟 音楽教室・山田研究室</p>		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
23	松本の歴史と文化	1	15	選択	講義	1年後期	木下 守	
科目概要	日本人の伝統文化や生活様式に関する知識を知ることから、日本の伝統的な地域文化に関する知識を深める。さらに、松本の歴史から地域文化やその歴史的な成り立ちを学び、地域文化の理解を深め、さらに他の地域と比較することによって視野を広げる。また、地域社会を歴史的に理解するうえで、文化財の果たす役割にも着目する。							
到達目標	松本の身近な地域の過去の出来事を、いくつかの資料をとおして学ぶことにより、松本の歴史と文化に興味と関心をもち、現在を考え、未来を考えていくことができる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験		50 %	レポートは第8回の授業で提示する。授業内容から関心事を抽出し、キャリアにどう生かしていくかをレポートの基本と合わせ評価する。		
		2. 主体的行動力						
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			10 %		授業中の発言や質問の頻度	
		4. 課題発見能力と課題解決力						
	○	5. 看護の知識と看護実践力			40 %			記述内容で理解度を評価
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力							
		合計		100 %				
フィードバック	毎回の授業後に提出する出席票に書かれた質問事項等については、次回の授業の冒頭に解説する。 定期試験のレポートに関するフィードバックは、希望する学生にメールで行う。							
教育 内容	回	項目		内容		時間	担当教員	
	1	文化とは何か	事前学習	「文化」とは何か調べる。		1.5 時間	木下	
			講義	「文化的」「文化圏」「文化祭」「文化包丁」などという言葉から、文化とは何か考える。		2 時間		
			事後学習	事前学習を踏まえ、「文化」とは何か再確認する。		2 時間		
	2	文化財から見る松本の歴史1	事前学習	松本市公式ホームページの「まつもとの文化財」( <a href="https://www.city.matsumoto.nagano.jp/site/kyoiku/51931.html">https://www.city.matsumoto.nagano.jp/site/kyoiku/51931.html</a> )を確認する。		1.5 時間	木下	
			講義	弘法山古墳や松本城などの文化財をとおして近世までの松本の歴史を概観する。		2 時間		
			事後学習	近隣の文化財や博物館を訪ねる。		2 時間		
	3	文化財から見る松本の歴史2	事前学習	松本市公式ホームページの「まつもとの文化財」( <a href="https://www.city.matsumoto.nagano.jp/site/kyoiku/51931.html">https://www.city.matsumoto.nagano.jp/site/kyoiku/51931.html</a> )を確認する。		1.5 時間	木下	
			講義	旧開智学校校舎や裁判所庁舎などの文化財をとおして近現代の松本の歴史を概観する。		2 時間		
			事後学習	近隣の文化財や博物館を訪ねる。		2 時間		
	4	神社と寺院	事前学習	自分が住んでいる地域の神社、寺院に行ってみる。		2 時間	木下	
			講義	日本人の信仰について、隣接する神戸神社と長照寺を見学しながら考える。		2 時間		
			事後学習	講義にあったけれど経験したことがないことを家族や友人等に聞いてみる。		2 時間		
	5	祭りとは何か	事前学習	『松本歳時記』(データ: <a href="https://matsu-haku.com/wp-content/uploads/2021/04/sajiki-s.pdf">https://matsu-haku.com/wp-content/uploads/2021/04/sajiki-s.pdf</a> )を読む。		1.5 時間	木下	
			講義	祭りとは何か、御柱祭やお船祭りなど地域の特徴ある祭りの構造を通して考える。		2 時間		
			事後学習	講義にあったけれど経験したことがないことを家族や友人等に聞いてみる。		2 時間		
	6	石仏と道祖神	事前学習	道祖神とは何か調べる。		1.5 時間	木下	
			講義	多くの石造物が見られる松本で石仏や道祖神について学ぶ。		2 時間		
			事前学習	近隣の文化財や博物館を訪ねる。		2 時間		
	7	松本平の年中行事	事前学習	『松本歳時記』(データ: <a href="https://matsu-haku.com/wp-content/uploads/2021/04/sajiki-s.pdf">https://matsu-haku.com/wp-content/uploads/2021/04/sajiki-s.pdf</a> )を読む。		1.5 時間	木下	
			講義	正月やお盆をはじめとする行事に伴う植物や儀礼食から年中行事について考える。		2 時間		
			事後学習	家庭で行われる年中行事に注意するとともに、地域の伝統行事に参加する。		2.5 時間		
	8	松本平の伝説	事前学習	『松本歳時記』(データ: <a href="https://matsu-haku.com/wp-content/uploads/2021/04/sajiki-s.pdf">https://matsu-haku.com/wp-content/uploads/2021/04/sajiki-s.pdf</a> )を読む。		1.5 時間	木下	
			講義	タケミナカタ、あめ市、兎田、本地身地藏など、松本の伝説とその意義について考える。		2 時間		
事後学習			講義にあったけれど経験したことがないことを家族や友人等に聞いてみる。		2 時間			

9	定期試験	レポート試験	木下	
			総学習時間	45 時間
テキスト		参考書		
講義ごとに配布する資料		特になし		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
松本市教育委員会で文化財保護と博物館活動に従事してきました。文化財保護では文化財がどのように市民の皆さんの役に立つのかを市民の皆さんとともに考え、博物館では松本市の歴史文化を学ぶことで郷土に誇りを持てるように活動してきました。授業では、学生が、将来患者さんと接する際に、コミュニケーションツールの1つとして活用できるように努めます。		なし		
留意事項		オフィスアワー		
なし		時間: 授業後 場所: 非常勤講師控室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
24	健康とスポーツ	1	15	選択 (保健師必修)	講義	1年前期	伊藤 真之助
科目概要	基本的な身体運動の仕組みを理解できていることを前提とし、さらにその知識を深めることを目標にする。また、高齢者に多い種々の関節痛に対して、その痛みや不安を和らげるエビデンスに基づいた方法を実践する。さらに、老若男女関係なく適度な運動量を確保できるニュースポーツを実践する。これらを通じて獲得した知識によって、医療人としてオリジナリティを持った人材となることも目標にする。						
到達目標	1. 健康な生活習慣並びに予防医学の観点から必要な知識を習得し、実践する方法を理解することができる。 2. 幅広い年齢層への運動による心身への効果を理解し、広く関心を持つことができる。 3. 医療人として、運動に対する的確なアドバイスをすることができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	70 %	60点を基準に合否	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	10 %	授業内容の理解度	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	5 %	授業内の積極性や質問への発言内容	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(足関節固定術の実技試験)	15 %	時間内に実施でき、適切な固定ができること。	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %	上記を総合的に評価する。	
フィードバック	授業ごとに前回の課題を返却し、フィードバックします。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	授業ガイダンス・健康・運動について	事前学習	健康とスポーツについて事前学習する	1.5 時間	伊藤	
			講義	本講義のすすめ方の確認、運動に対する自身が持っている考えをレポートにする	2 時間		
			事後学習	講義内容を復習する	2 時間		
	2	運動することの意義	事前学習	これまでの身体活動についてを事前に振り返っておく	1.5 時間	伊藤	
			講義	これまでの身体活動についてを振り返り、自己体験を通じて、運動をすることの意義についての考察を行う	2 時間		
			事後学習	運動する意義について復習する	2 時間		
	3	高齢者の身体活動 ①	事前学習	加齢による心身の変化には何があるかを事前に考えておく	1.5 時間	伊藤	
			講義	加齢による心身の変化についての知識を深める	2 時間		
			事後学習	加齢における心身の変化に対し、運動の意義を復習する	2 時間		
	4	高齢者の身体活動 ②	事前学習	高齢者の日常生活に必要な動きには何があるかを事前に考えておく	2 時間	伊藤	
			講義	高齢者の生活基本動作についての知識を深める	2 時間		
			事後学習	高齢者の日常生活における運動機能が果たす役割について復習する	2 時間		
	5	小児の身体活動 ①	事前学習	子どもの動きにはどんな特徴があるかを事前学習する	1.5 時間	伊藤	
			講義	乳幼児から成長期までの成長過程での心身の変化についての知識を深める	2 時間		
			事後学習	子どもにとっての運動の意義を復習する	2 時間		
	6	小児の身体活動 ②	事前学習	学童期における日常生活動作について事前学習する	2 時間	伊藤	
			講義	学童期における日常生活動作についての知識を深める	2 時間		
			事後学習	学童期における日常動作に運動機能が果たす役割について復習する	2 時間		
	7	障がい者の身体活動	事前学習	後天的障がいについて事前学習する	2 時間	伊藤	
			講義	後天的障がいを持った人への運動意義について知識を深める	2 時間		
			事後学習	後天的障がい者の運動意義について復習する	2 時間		
	8	予防医学としての運動の役割	事前学習	成人期にはどんな身体的特徴があるかを事前学習する	2 時間	伊藤	
			講義	成人期における予防医学としての運動についての知識を深める	2 時間		
事後学習			予防医学としての運動の役割について復習する	1 時間			

9	定期試験	筆記試験	伊藤
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
適宜、資料を配布する		なし	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
理学療法士として病院にてリハビリテーション業務を経験した教員が講義を行う		なし	
留意事項		オフィスアワー	
公衆衛生看護学実習 I (保健師課程)を選択する人は受講してください。		時間: 講義終了後 場所: 講師控室	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
25	体育実技	1	30	必修	演習	1年前期	伊藤 真之助
科目概要	運動は Quality of life を上げる有力な方法である。運動が骨格筋や代謝に与える影響をスポーツを通じて理解して頂くことが主な目的である。						
到達目標	1. スポーツ実践を通じて心身に与える影響を理解する 2. 周囲の仲間との共同して楽しむ能力を持つことができる 3. 「できない」のではなく、「工夫して実践する」という視点を持つことができる						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験		0 %	※伊藤先生確認 授業への積極的参加を評価する。各種目の進捗度(50%)、受講態度(25%)、チームやパートナーに対する貢献度(25%)を総合して評価する。	
		2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート		0 %		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力	・受講時の積極性、態度等		100 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力					
		5. 看護の知識と看護実践力					
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
合計					100 %		
フィードバック	前回の授業で実施した内容の振り返りや反省点等を次回の授業開始時にフィードバックします。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	オリエンテーション	事前学習	体育実技についての基本を事前に調べておく	0.5 時間	伊藤真	
			講義	授業の進め方・道具やルールの説明・チーム分けなど	2 時間		
			事後学習	道具やルールについて復習しておく	0.5 時間		
	2	バスケットボール ①	事前学習	バスケットボールの基本動作を事前学習する	0.5 時間	伊藤真	
			講義	ドリブル・パス・シュートなどの基本的な動作を理解し実践する	2 時間		
			事後学習	ドリブル・パス・シュートなどの基本的な動作を復習する	0.5 時間		
	3	バスケットボール ②	事前学習	バスケットボールの試合について事前学習する	0.5 時間	伊藤真	
			講義	基本的な動作を応用し、ゲーム形式での試合を実施する	2 時間		
			事後学習	ゲーム形式での注意点を復習する	0.5 時間		
	4	バスケットボール ③	事前学習	バスケットボールのゲームにおける作戦を事前学習する	0.5 時間	伊藤真	
			講義	ゲーム形式での実践を行い、チーム内での作戦や役割分担の重要性を理解する	2 時間		
			事後学習	チーム内の役割分担について整理する	0.5 時間		
	5	バスケットボール ④	事前学習	前回までのゲームを振り返る	0.5 時間	伊藤真	
			講義	ゲーム形式での実践を行い、チーム内でディスカッションしながらチーム力向上を目指す	2 時間		
			事後学習	チーム内でディスカッションした内容を整理する	0.5 時間		
	6	バスケットボール ⑤	事前学習	障がいのある人が実施するバスケットボールについて事前学習する	0.5 時間	伊藤真	
			講義	様々な疾患を持った方の視点に立ち、バスケットボールを実践体験する	2 時間		
			事後学習	様々な疾患を持った方への工夫できる点を整理する	0.5 時間		
	7	バレーボール ①	事前学習	バレーボールの基本技術について事前学習する	0.5 時間	伊藤真	
			講義	サーブ・レシーブ・トスの基本的な動作を理解し実践する	2 時間		
			事後学習	サーブ・レシーブ・トスの基本的な動作について復習する	0.5 時間		
	8	バレーボール ②	事前学習	試合に必要な動作について事前学習する	0.5 時間	伊藤真	
			講義	スパイク・ブロックなどの試合に必要な動作を理解し実践する	2 時間		
事後学習			スパイク・ブロックの動作についての知識を復習する	0.5 時間			

教育内容	9	バレーボール ③	事前学習	バレーボールのゲームルールについて事前学習する	0.5 時間	伊藤真
			講義	基本的な動作を応用し、ゲーム形式での試合を実施する	2 時間	
			事後学習	ゲーム形式でのルールを復習する	0.5 時間	
	10	バレーボール ④	事前学習	バレーボールのゲームにおける作戦を事前学習する	0.5 時間	伊藤真
			講義	ゲーム形式での実践を行い、チーム内での作戦や役割分担の重要性を理解する	2 時間	
			事後学習	チーム内の役割分担について整理する	0.5 時間	
	11	バレーボール ⑤	事前学習	障がいのある人が実施するバレーボールについて事前学習する	0.5 時間	伊藤真
			講義	様々な疾患を持った方の視点に立ち、バレーボールを実践体験する	2 時間	
			事後学習	様々な疾患を持った方への工夫できる点を整理する	0.5 時間	
	12	フットサル ①	事前学習	フットサルの基本的な動作を事前学習する	0.5 時間	伊藤真
			講義	フットサルのルール・ドリブル・パスなどの基本的な動作を理解し実践する	2 時間	
			事後学習	フットサルのルールを復習する	0.5 時間	
	13	フットサル ②	事前学習	フットサルにおけるチーム内の役割を事前学習する	0.5 時間	伊藤真
			講義	フットサルにおける基本的な動作を応用し、チーム内の役割を理解する	2 時間	
			事後学習	チーム内の役割分担について整理する	0.5 時間	
14	インディアカ & フライングディスク	事前学習	レクリエーションスポーツについて事前学習する	0.5 時間	伊藤真	
		講義	インディアカやフライングディスクの基本的なルールを知り、レクリエーションとしてのスポーツを楽しむ	2 時間		
		事後学習	インディアカやフライングディスクの基本的なルールを復習する	0.5 時間		
15	まとめ	事前学習	これまで実施した種目内容について事前に復習しておく	0.5 時間	伊藤真	
		講義	これまでに実施した種目について得た知見の整理をする	2 時間		
		事後学習	授業全体を通して実施した種目を復習する	0.5 時間		
					総学習時間	45 時間
テキスト				参考書		
適宜、資料を配布する				なし		
実務経験と授業科目との関連性				履修要件		
個人またはチームに対し、トレーナー・理学療法士としてトレーニング指導を経験した教員が授業を行う。				なし		
留意事項				オフィスパワー		
服装は運動着、運動靴の着用を必須とします。 それ以外での受講(ex.ジーンズや靴をはかない 等)は原則認めません。				時間:講義終了後 場所:講師控室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
26	教養ゼミナール	1	30	必修	演習	1年前期	三輪憲永/小林由美/○高下梓

**科目概要**  
 大学で学ぶということ、看護の専門教育を受けるということの意味を考え、生涯にわたり主体的・積極的に学び続ける態度を養うためのスタディスキルを修得する。また、グループメンバーや教員の人生体験などに触れながら、広く本学の地域性にも目を向けて自由に探究し、学生主体で調査テーマを決めて調べ学習やグループ討議を行い、その成果を発表する。

- 到達目標**
1. 大学で学ぶことの意味について自己の考えを述べることができ、その具体的な学び方を考えることができる。
  2. 看護の専門教育を受けることの意味を考え、自己の興味・関心を表現することができる。
  3. 大学図書館の利用および文献検索の方法を理解し、主体的な学習に活用することができる。
  4. レポートの書き方、ノートの取り方、資料の保管の仕方などのスタディスキルを身につける。
  5. パソコンの操作やインターネットにおける情報収集の利点と注意点を説明できる。
  6. グループ討議の進め方とマナーを身につけ、実行できる。

DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・授業内の小テスト、課題、レポート ・事前/事後学習の課題、レポート ・その他(グループ活動および発表)	・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %
◎	2. 主体的行動力					
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート	40 %		レポート課題は初回に示す。評価の観点は、第4回に提示する。	
○	4. 課題発見能力と課題解決力					
	5. 看護の知識と看護実践力	合計	100 %		発表準備および発表内容を評価する。	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力					

**フィードバック**  
 課題(レポート):返却時にコメントを入れた個別フィードバックを行うとともに、履修者で全体共有した方がよい事項を周知する。  
 グループ発表:参加者による相互評価と感想をまとめ、発表会終了後にグループ別にフィードバック用紙を配布する。

教育内容	回	項目	内容		時間	担当教員
			事前学習	講義		
	1	大学生活と大学での学び方について考える	事前学習	シラバスを読み、授業内容や留意点を確認する。高校と大学の違いを考えてみる。	0.25 時間	担当教員全員
			講義	4年間のスケジュールを確認し、大学生活の見通しをもつ。グループごとに交流を深めるとともに、大学生活の疑問点や、高校と大学との違いを確認し、大学で学ぶことの意味を考えるとともに授業の受け方、ノートの書き方、資料の整理方法等を学ぶ。	2 時間	
			事後学習	自身の前期履修科目を確認し、学修に必要な準備を整える。	0.25 時間	
	2	パソコンとアプリケーションの操作	事前学習	大学へ持参するパソコンの設定・準備を行う。	0.25 時間	高下/小林
			講義	パソコンでのタイピングの基本を確認するとともに、大学生活で使用使用するOutlook、Teamsの操作方法を学ぶ。	2 時間	
			事後学習	本授業を通して学んだ観点から学修準備の状況を再点検して整える。	0.25 時間	
	3	資料の探し方	事前学習	事前配布資料を読み、検索テーマを考える。	0.5 時間	高下/三輪
			講義	図書館の利用方法と、文献検索の方法を学び、図書館とパソコン教室の利用について確認する。また、文献引用のマナーを確認し、レポートや発表資料への文献の記載方法を学ぶ。	2 時間	
			事後学習	レポート執筆に必要な文献を調べ、文献情報を記録する。	0.25 時間	
	4	レポートの書き方	事前学習	レポート執筆に必要な文献を調べ、文献情報を記録する。	0.5 時間	三輪
			講義	レポートの構成や書き方を学ぶ。指定テーマについて、自身の考えを文章化する。	2 時間	
			事後学習	レポート課題を確認し、提出期日までに執筆する。	2 時間	
	5	看護師の仕事、基礎看護学、小児看護学を知る	事前学習	本時のテーマのうち関心のある領域について調べ、質問したいことを考える。	0.25 時間	三輪
			講義	看護師のキャリアイメージをもつとともに、基礎看護学領域および小児看護学領域について理解する。	2 時間	
			事後学習	授業で学んだ内容を復習する。	0.25 時間	
	6	成人看護学、老年看護学、精神看護学を知る	事前学習	本時のテーマのうち関心のある領域について調べ、質問したいことを考える。	0.25 時間	高下
			講義	成人看護学領域、老年看護学領域、精神看護学領域について理解する。	2 時間	
			事後学習	授業で学んだ内容を復習する。	0.25 時間	
	7	母性看護学、地域・在宅看護学、公衆衛生看護学を知る	事前学習	本時のテーマのうち関心のある領域について調べ、質問したいことを考える。	0.25 時間	小林
			講義	母性看護学領域、地域・在宅看護学領域、公衆衛生看護学領域について理解する。	2 時間	
			事後学習	授業で学んだ内容を復習する。	0.25 時間	

教育 内容	8	グループ討議・探求テーマの決定	事前学習	グループ活動で取り組みたい探求テーマのアイデアを考える。	0.25 時間	高下/小林
			講義	グループ討議のマナーについて学ぶ。小グループに分かれて探求テーマのアイデアを出し合い、テーマを決定する。	2 時間	
			事後学習	決定した探求テーマについて、各自で調べ学習を行う。	1 時間	
	9	発表内容の構成を考える	事前学習	グループ発表を行う探求テーマについて、どのような内容を扱うとよいか検討する。	0.5 時間	小林/三輪
			講義	グループメンバーで意見交換を行い、発表内容の構成・順序を決めるとともに、各セッションの調べ学習の分担を決定する。	2 時間	
			事後学習	決定した分担にそって、調べ学習を進める。	1.5 時間	
	10	プレゼンテーション 探求テーマの文献検索	事前学習	授業で目にするPowerPointを観察し、分かりやすいプレゼンテーションについて考える。	0.5 時間	高下/三輪
			講義	プレゼンテーション資料の作成と発表資料のまとめ方について学ぶ。グループ別に取り組み探求テーマについて、文献検索を通して先行研究等を確認する。	2 時間	
			事後学習	本時の学修内容をもとに、発表PowerPointの作成(書式設定を含む)に取り組む。	1 時間	
	11	探求テーマの調べ学習と情報整理	事前学習	決定した分担にそって、調べ学習を進め、発表PowerPointの作成を進める。	0.5 時間	小林/高下
			講義	グループ別に取り組み探求テーマについて、調べ学習を通して収集した情報を整理する。	2 時間	
			事後学習	決定した分担にそって、調べ学習を進め、発表PowerPointの作成を進める。	0.5 時間	
	12	発表資料の作成	事前学習	決定した分担にそって、調べ学習を進め、発表PowerPointの作成を進める。	0.5 時間	小林/高下
			講義	グループ別に取り組み探求テーマについて、分担分の報告資料・プレゼンテーション資料をまとめる。グループメンバーで発表内容を確認し、全体調整を行う。	2 時間	
			事後学習	次回の資料統合に向けて、発表PowerPointの内容を調整する。	0.5 時間	
	13	発表資料の統合と発表リハーサル	事前学習	自分の発表部分について、発表用原稿を用意する。	0.5 時間	三輪/高下
講義			発表に関するマナーを学ぶ。グループ別に取り組み探求テーマについて、グループ発表用に報告資料・プレゼンテーション資料をまとめ、発表のリハーサルを行う。	2 時間		
事後学習			リハーサルを通して気づいた点をもとに発表資料・原稿を改良する。	0.5 時間		
14	全体発表会①	事前学習	自分の発表担当部分の最終点検を行う。	0.5 時間	担当教員全員	
		講義	グループで取り組んだ探究テーマについて、全体発表会を行う。また、他のグループの発表を聞き、多様なテーマに対する興味関心を深める。	2 時間		
		事後学習	自他の発表内容を振り返り、良かった点・改善するとよい点を考える。	0.25 時間		
15	全体発表会②	事前学習	他の発表グループの配布資料を読み、疑問点や質問を考える。	0.5 時間	担当教員全員	
		講義	グループで取り組んだ探究テーマについて、全体発表会を行う。また、他のグループの発表を聞き、多様なテーマに対する興味関心を深める。	2 時間		
		事後学習	発表に関する相互評価(グループ別のフィードバック)を読み、発表の振り返りを行う。	0.25 時間		
16	定期試験	レポートおよび発表試験			高下	
総学習時間					45 時間	

テキスト	参考書
担当教員が必要時、紹介する。	担当教員が必要時、紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
なし	なし
留意事項	オフィスアワー
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認、授業内に課す小課題等にMicrosoft Formsを利用します。スマートフォンを持参して送信できるようにしてください。</li> <li>・文献検索、レポート作成、発表準備などの諸作業には、パソコンを使用します。長時間使用しますので、充電した状態で各自持参してください。</li> <li>・グループ活動を多く含みます。欠席・遅刻等によりグループ全体へ迷惑がかけられないよう留意してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前・後の時間帯(講義教室)</li> <li>・金曜日(研究室)</li> <li>・担当教員の連絡先メールアドレスは、授業時に周知する。</li> </ul>

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
27	連携ゼミナール I (キャリアデザイン)	1	30	必修	演習	2年前期	小林由美/金子潔子/原岡智子/藤川君江/鮎川昌代/ 安田裕子/関永信子/山下恵子/桑原良子/伊藤寿満 子/近藤恵子/垣内いつみ/○加藤香織/高下梓/五十嵐 佳寿美/牛山陽介/芳賀了
科目概要	看護職が専門性を追求していくキャリア開発について理解し、自己を活かすためのキャリアデザインの醸成を目的とする。教員や地域で活躍する専門家の話を通して、自身が目指す看護師像を形作るとともに、将来の自律的なキャリア開発のために学生が立案した計画に沿って情報を収集・整理し、その成果を発表する。						
到達目標	1. 専門性の高い看護職の役割について調査し、自己のキャリアデザイン形成を考えることができる。 2. 色々な分野で活躍する看護職業人の生き方・考え方を通して、自らのキャリアを考えることができる。 3. 本県および当地域の特性を理解し、ジェネラリストとしてまたスペシャリストとして地域特性に根差した医療活動を理解し自己を活かしたキャリアデザインの方向づけができる。						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		成績評価方法	評価項目	配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成 績 評 価 方 法	・定期試験		0 %	
	◎	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート		0 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	60 %	課題の取り組みを評価する	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他(グループ活動及び発表)	40 %	グループ活動5% 課題発表35	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	毎回授業後に授業内容について考え等をの提出を求め、質問については次の授業で説明する。 授業内でのグループ活動における質問については適宜説明する。						
教育内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	授業オリエンテーション 社会人基礎力	事前学習	シラバスの内容の確認してくる。	2 時間	加藤/伊藤 近藤/高下 芳賀	
			講義	授業オリエンテーションを行う。社会人に求められる力を確認する。1年次の学習内容を振り返って自己分析し、今後伸ばしたい力・目標を考える。(ポートフォリオ作成)	2 時間		
			事後学習	授業内容を振り返り、社会人基礎力について理解しておく。	2 時間		
	2	「看護の応用科目」の選択について	事前学習	「看護の応用科目」のことにし調べてくる。	2 時間	近藤/牛山 関永/原岡	
			講義	①救急・災害看護 ②在宅看護 ③公衆衛生看護 の各分野の活動と選択について	2 時間		
			事後学習	授業内容を振り返り、「看護の応用科目」の中で選択したい科目を考える	2 時間		
	3	看護の様々なキャリアに触れる①	事前学習	様々な職業について調べてくる。	2 時間	担当教員全員	
			講義	教員の職業経験を聴講し、自分のキャリアのイメージを作る。	2 時間		
			事後学習	授業内容を振り返り、自身のキャリア形成のためにさらに知りたい事柄を調べる。	2 時間		
	4	看護の様々なキャリアに触れる②	事前学習	様々な職業について調べてくる。	2 時間	担当教員全員	
			講義	教員の職業経験を聴講し、自分のキャリアのイメージを作る。	2 時間		
			事後学習	授業内容を振り返り、自身のキャリア形成のためにさらに知りたい事柄を調べる。	2 時間		
	5	グループ活動①	事前学習	グループ討議の場で、自分の考えを積極的に発言できるよう準備をしておく。	2 時間	加藤/伊藤 近藤/芳賀 高下	
			講義	少人数グループで、看護のキャリアに関する探求テーマを決め、学習計画を立てて活動を展開する。	2 時間		
			事後学習	次回までに必要な作業(分担内容)に取り組む。	2 時間		
	6	地域の課題と対応の実際、関連職種の活動 その他質疑応答①	事前学習	認定看護師、専門看護師、特定行為終了看護師について調べてくる。	2 時間	特別講師 加藤	
			講義	看護のスペシャリストを招き、キャリア形成の歩みについて講演を聴講する。 (認定看護師、専門看護師、特定行為終了看護師として第一線で働く看護師のキャリアの実際)	2 時間		
事後学習			授業内容を振り返り、自身のキャリア形成のためにさらに知りたい事柄を調べる。	2 時間			
7	地域の課題と対応の実際、関連職種の活動 その他質疑応答②	事前学習	病院の看護師について調べてくる	2 時間	特別講師 加藤		
		講義	看護のスペシャリストを招き、キャリア形成の歩みについて講演を聴講する。 (ジェネラリスト、病院・働く場所を変えながらキャリアアップする看護師のキャリアの実際)	2 時間			
		事後学習	授業内容を振り返り、自身のキャリア形成のためにさらに知りたい事柄を調べる。	2 時間			

教育内容	8 グループ活動②	事前学習	グループ討議の場で、自分の考えを積極的に発言できるよう準備しておく。	2 時間	加藤/伊藤 近藤/芳賀 高下
		講義	グループごとの学習計画にそって活動を展開する。	2 時間	
		事後学習	次回までに必要な作業(分担内容)に取り組む。	2 時間	
	9 地域の課題と対応の実際、関連職種の活動 その他質疑応答③	事前学習	保健師について調べてくる。	2 時間	加藤
		講義	看護のスペシャリストを招き、キャリア形成の歩みについて講演を聴講する。(保健師として活動している講師のキャリアの実際)	2 時間	
		事後学習	授業内容を振り返り、自身のキャリア形成のためにさらに知りたい事柄を調べる。	2 時間	
	10 地域の課題と対応の実際、関連職種の活動 その他質疑応答④	事前学習	助産師について調べてくる。	2 時間	特別講師 加藤
		講義	看護のスペシャリストを招き、キャリア形成の歩みについて講演を聴講する(助産師としてのキャリアの実際)	2 時間	
		事後学習	授業内容を振り返り、自身のキャリア形成のためにさらに知りたい事柄を調べる。	2 時間	
	11 地域の課題と対応の実際、関連職種の活動 その他質疑応答⑤	事前学習	訪問看護師について調べてくる。	2 時間	特別講師 加藤
		講義	看護のスペシャリストを招き、キャリア形成の歩みについて講演を聴講する。(地域・在宅で活躍する訪問看護師のキャリアの実際)	2 時間	
		事後学習	授業内容を振り返り、自身のキャリア形成のためにさらに知りたい事柄を調べる。	2 時間	
	12 グループ活動③	事前学習	グループ討議の場で、自分の考えを積極的に発言できるよう準備しておく。	2 時間	加藤/伊藤 近藤/芳賀 高下
		講義	グループごとの学習計画にそって活動を展開する。	2 時間	
		事後学習	次回までに必要な作業(分担内容)に取り組む。	2 時間	
	13 グループ活動④	事前学習	グループ討議の場で、自分の考えを積極的に発言できるよう準備しておく。	2 時間	加藤/伊藤 近藤/芳賀 高下
講義		報告会の準備(パワーポイント作成、プレゼン、資料作成、報告会の進行等)	2 時間		
事後学習		次回までに必要な作業(分担内容)に取り組む。	2 時間		
14 全体報告会及びまとめ①	事前学習	全体報告会の準備に取り組む。	2 時間	担当教員全員	
	講義	グループで取り組んだ調査研究について、全体発表会を行う。また、他のグループの発表を聞き、多様なテーマに対する興味関心を深める。	2 時間		
	事後学習	グループの発表を聞き、多様なテーマに対する興味関心について調べる	2 時間		
15 全体報告会及びまとめ②	事前学習	全体報告会の準備に取り組む。	2 時間	担当教員全員	
	講義	グループで取り組んだ調査研究について、全体発表会を行う。また、他のグループの発表を聞き、多様なテーマに対する興味関心を深める。	2 時間		
	事後学習	グループの発表を聞き、多様なテーマに対する興味関心について調べる	2 時間		
16 定期試験		全体報告会の評価		加藤	
				総学習時間	90 時間
テキスト			参考書		
担当教員が必要時、紹介する。			担当教員が必要時、紹介する。		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
看護師、保健師、助産師など、専門職としての豊富な経験を持つ教員が、キャリアデザインを具体的にイメージできるように教授する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
なし			時間:授業内で伝達 場所:研究室 メールで連絡する場合、各教員のメールアドレスは巻末ページに記載されています。		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
28	連携ゼミナールⅡ (卒業研究の基礎)	1	30	必修	演習	3年前期	小林由美/金子潔子/原岡智子/藤川君江/鮎川昌代 安田裕子/関永信子/山下恵子/桑原良子/伊藤寿満子 近藤恵子/○垣内いづみ/加藤香織/高下梓/芳賀了 五十嵐佳寿美/牛山陽介/萩野貴美子/大谷健史
科目概要	教養ゼミナール、連携ゼミナールⅠで学んだことを基盤に、またこれまで学んできた看護とは何かを追求してきた中から、身近な興味・関心の課題を明確にする。研究方法論での学びを活かし、研究テーマの絞り込み、研究目的、研究方法、結果、考察、結論のプロセスを文献研究等を通し、グループメンバーと協力しながら卒業研究につながる能力を修得する。						
到達目標	1. 自己の関心のあるテーマとその理由を述べることができる。 2. グループメンバーと協力して、調査を結果にまとめ、結果に基づいて考察をまとめることができる。 3. 卒業研究を行うための準備性が述べられる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績評価方法	評価項目	配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	ゼミ活動(レポート含む)				
	○	2. 主体的行動力					
	◎	3. 地域貢献力と多職種連携能力			報告会及び最終レポート	20 %	報告会での発言・質問の頻度、他者との協力姿勢を評価する。
	◎	4. 課題発見能力と課題解決力					
	○	5. 看護の知識と看護実践力			合計	100 %	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
フィードバック	・ゼミ活動・報告会に対するフィードバックはゼミ中に口頭で行う。 ・報告書に対するフィードバックは提出物にコメントを記載して返却及び口頭で行う。						
教育内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	授業オリエンテーション	事前学習		0 時間	垣内	
			講義	①授業オリエンテーション ②各自が学修の中で、疑問や興味・関心などの課題について発表する ③発表内容を基に、各自どこにどのように興味関心をもったかを考えて次回持ち寄る	2 時間		
			事後学習	リサーチクエスチョンを考え、その背景について調べてくる。	1 時間		
	2	ゼミ活動(テーマの絞り込み①)	事前学習		時間	各担当教員	
			講義	・前回の宿題から各々が発表し、相互に疑問や質問などを出し合い、興味・関心のあった点を話し合い、取り組み課題を決定する ・テーマの絞り込みをする(話し合いや文献検索が必要となる)	2 時間		
			事後学習	リサーチクエスチョンに関わる文献検索を行う。	1 時間		
	3	ゼミ活動(テーマの絞り込み②)	事前学習		0 時間	各担当教員	
			講義	・前回の宿題から各々が発表し、相互に疑問や質問などを出し合い、興味・関心のあった点を話し合い、取り組み課題を決定する ・テーマの絞り込みをする(話し合いや文献検索が必要となる)	2 時間		
			事後学習	研究計画書の研究動機・背景、研究の意義、研究方法、分析方法を記述する。	1 時間		
	4	ゼミ活動 (活動計画の立案、研究方法の決定①)	事前学習		0 時間	各担当教員	
			講義	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	2 時間		
			事後学習	研究内容、研究方法、研究説明書・同意書を記述する。	1 時間		
	5	ゼミ活動 (活動計画の立案、研究方法の決定②)	事前学習		0 時間	各担当教員	
			講義	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	2 時間		
			事後学習	倫理審査申請書を記述する。	1 時間		
	6	ゼミ活動(研究データの収集)	事前学習		0 時間	各担当教員	
			講義	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	2 時間		
			事後学習	研究データの収集を行う。	1 時間		
	7	ゼミ活動 (研究データを分析し結果としてまとめる①)	事前学習		0 時間	各担当教員	
			講義	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	2 時間		
			事後学習	研究データを分析し結果としてまとめる。	1 時間		
	8	ゼミ活動 (研究データを分析し結果としてまとめる②)	事前学習		0 時間	各担当教員	
			講義	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	2 時間		
事後学習			研究データを分析し結果としてまとめる。	1 時間			

9	ゼミ活動 (研究データを分析し結果としてまとめる ③)	事前 学習		0 時間	各担当教員
		講義	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	2 時間	
		事後 学習	研究データを分析し結果としてまとめる。	1 時間	
10	ゼミ活動(考察をまとめる①)	事前 学習		0 時間	各担当教員
		講義	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	2 時間	
		事後 学習	考察をまとめる。	1 時間	
11	ゼミ活動(考察をまとめる②)	事前 学習		0 時間	各担当教員
		講義	ゼミ単位で活動を展開する (活動計画は学生が立案し、教員と相談し助言を得つつ、学生主導で進める)	2 時間	
		事後 学習	考察をまとめる。	1 時間	
12	ゼミ活動 (研究成果を研究論文の形式でまとめる ①)	事前 学習		0 時間	各担当教員
		講義	報告会の準備(パワーポイント作成、プレゼン、報告書作成、報告会の進行等)	2 時間	
		事後 学習	研究成果を研究論文の形式でまとめる。	1 時間	
13	ゼミ活動 (研究成果を研究論文の形式でまとめる ①)	事前 学習		0 時間	各担当教員
		講義	報告会の準備(パワーポイント作成、プレゼン、報告書作成、報告会の進行等)	2 時間	
		事後 学習	発表会用原稿・パワーポイントを作成する。	1 時間	
14	ゼミ活動①	事前 学習	ゼミメンバーで発表会の打ち合わせ、準備を行う。	2 時間	各担当教員
		講義	研究成果を報告書としてまとめ、報告会を行う	2 時間	
		事前 学習		0 時間	
15	ゼミ活動②	事前 学習		0 時間	各担当教員
		講義	研究成果を報告書としてまとめ、報告会を行う	2 時間	
		事後 学習		0 時間	
16	定期試験	レポート試験(報告書)			各担当教員
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
ゼミ担当教員が必要時、紹介する。			ゼミ担当教員が必要時、紹介する。		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
病院等での看護師(助産師、保健師)実務経験がある教員が、看護を多角的視野から考察し指導する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
なし			時間: 授業内で伝達 場所: 研究室 teamsチャットでは適宜連絡可能です。 アドレスはシラバス巻末参照		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
29	研究入門	1	15	必修	講義	1年後期	今井 栄子
科目概要	学問を追求していく学修姿勢の基本として、疑問や問をもつことから始まる事象を研究テーマとし絞り込み、研究としてのプロセスと取り組み方を理解する。文献検索、文献の整理、研究ノート、研究目的、デザイン、研究計画、研究倫理中等の基本的な要点を理解し、研究への興味関心を醸成する。						
到達目標	1. 自分の身近な疑問から、小さな研究テーマを考えることができる。 2. 図書館で必要な文献検索ができる。 3. 身近な疑問のテーマから明らかにしたいことの1点について研究計画書を作成できる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験		60 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。		
	○ 2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート		0 %			
	○ 3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート		40 %		研究計画書の内容を評価する。	
	◎ 4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等		0 %			
	5. 看護の知識と看護実践力	・その他		0 %			
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %					
フィードバック	・研究計画書については、8コマ目発表会終了後にフィードバックを行う。 ・定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了後3日目以降10日目までの間、今井研究室にて採点基準の解説を通じて行う。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	科目ガイダンス 研究とは何か	事前 学習	序章、第1章を熟読する。	2 時間	今井	
			講義	研究とは何か。 看護における研究の意義 ナイチンゲールの鶏頭図の研究から	2 時間		
			事後 学習	配布資料と照らし合わせ序章、第1章を熟読する。	2 時間		
	2	研究テーマの絞り込み	事前 学習	第2章を熟読する。	2 時間	今井	
			講義	研究テーマを書き出してみる。研究課題が絞れているか。 何を明らかにしたいかが明確になっているかを考える。	2 時間		
			事後 学習	研究テーマを明らかにする。	2 時間		
	3	関連文献検索	事前 学習	第3章を熟読する。	2 時間	今井	
			講義	関連する文献を見つける。 文献検索の仕方(特に医中誌を中心に) 文献を読んで文献カードを作ってみる。	2 時間		
			事後 学習	文献検索を行う。	2 時間		
	4	研究計画書作成(1)	事前 学習	第4章、第5章を熟読する。	2 時間	今井	
			講義	論文の文献を基に、質的研究、量的研究とはと、その特徴について学ぶ。 研究のデザイン、研究方法を考える。 研究計画を立ててみる。	2 時間		
			事後 学習	講義資料をもとに、研究の概要を考える。	2 時間		
	5	研究計画書作成(2)	事前 学習	第8章を熟読し、前時の講義をもとに研究内容を明らかにする。	2 時間	今井	
			講義	研究のデザイン、研究方法を考える。 研究計画を立ててみる。	2 時間		
			事後 学習	研究計画書を記載する。	2 時間		
	6	研究計画書作成(3)	事前 学習	前時まで講義をもとに研究計画書を記載する。	2 時間	今井	
			講義	研究のデザイン、研究方法を考える。 研究計画を立ててみる。	2 時間		
			事前 学習	研究計画書を記載する。	2 時間		
	7	結果・考察	事前 学習	第9章を熟読する。	2 時間	今井	
			講義	文献論文より結果の読み方、まとめ方を学ぶ。 文献論文より考察の意義と書き方を学ぶ。 文献より結論の出し方表現について学ぶ。	2 時間		
			事後 学習	まとめの準備を行う。	1 時間		
	8	まとめ・発表会	事前 学習	まとめの準備を行う	2 時間	今井	
			講義	まとめ 発表会を行う	2 時間		
事後 学習				0 時間			

9	定期試験	筆記試験		今井
			総学習時間 45 時間	
テキスト		参考書		
坂下玲子著『系統看護学講座 別館 看護研究』医学書院		南裕子『看護における研究(第2版)』日本看護協会出版会		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
病院での看護師経験を持つ教員が、看護研究の必要性和研究疑問を解くための基礎知識とプロセスについて指導する。		なし		
留意事項		オフィスアワー		
1. 最初から完璧にはできないが、頑張ることが重要であるので、最後まで粘り強く取り組むこと。 2. 3年次の授業の研究方法論で、本授業で使用した資料等を用いるため保管しておくこと。		時間: 授業内で伝達 場所: 研究室 メール、teamsで連絡可能 (メールアドレスはシラバス巻末参照)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
30	研究方法論	1	15	必修	講義	2年後期	今井 栄子
科目概要	看護研究の意義と目的について理解し、看護研究を行うための基礎的知識を身に付ける。また、具体的な研究論文に触れつつ、各種の研究方法を学び、研究の活用と可能性について考察する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践にとって研究の重要性が理解できる。</li> <li>2. 研究のプロセスとそれぞれの作法が分かる。</li> <li>3. 自己の疑問から研究テーマが絞り込める</li> <li>4. 研究計画書が書ける。</li> <li>5. 卒業研究に移行できる糸口ができる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験		60 %	理解度を評価	
	○	2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート		15 %	講義内容の視点を考察できているか	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート		15 %	Active Noteの完成度	
	◎	4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等		10 %	授業中に発言や質問の頻度と協力体制	
	○	5. 看護の知識と看護実践力	・その他		0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %				
フィードバック	看護研究計画作成に関してサジェスション						
教育 内容	1	オリエンテーション 看護における研究の役割	事前学習	教科書p1～p30まで熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	研究とは何か 看護における研究と課題 研究における倫理の考え方 研究対象者の権利と倫理審査体制	2 時間		
			事後学習	講義内容に関してActive note 作成(A4)推奨	3 時間		
	2	研究課程の概観	事前学習	教科書p32～p41まで熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	研究課題の選択 研究課題と概念枠組みの明確化	2 時間		
			事後学習	講義内容に関してActive note 作成(A4)推奨	2 時間		
	3	文献検討 (検索)	事前学習	教科書p44～p63まで熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	分家検討/検索の意義 資料と活用の仕方 文献の読み方 整理方法 文献検討の構成と記述	2 時間		
			事後学習	講義内容に関してActive note 作成(A4)推奨	3 時間		
	4	概念枠組みと仮説 研究デザイン	事前学習	教科書p66～p117まで熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	概念枠組みと仮説設定の必要性 概念枠組みの構築 変数の明確化 仮説の設定 研究過程における研究デザインの位置づけ 研究デザインの種類	2 時間		
			事後学習	講義内容に関してActive note 作成(A4)推奨	3 時間		
	5	研究計画書	事前学習	教科書p120～p134まで熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	研究計画書作成までのプロセス 研究計画書の作成の意義と作成上の注意点 研究計画書の形式	2 時間		
			事後学習	講義内容に関してActive note 作成(A4)推奨	2 時間		
	6	データの収集 データの分析	事前学習	教科書p136～p203まで熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	データの収集 母集団とは 標本抽出 データの収集 データの分析とは	2 時間		
			事後学習	講義内容に関してActive note 作成(A4)推奨	3 時間		
	7	研究結果の活用 質的・機能的研究	事前学習	教科書p206～p240まで熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	研究結果の表現方法 研究発表の形式 評価	2 時間		
			事後学習	講義内容に関してActive note 作成(A4)推奨	2 時間		
	8	研究計画書作成 シミュレーション	事前学習	教科書p66～p117まで熟読して出席	2 時間	今井	
			講義	研究計画書作成 研究計画書作成上の注意点 研究計画書の形式	2 時間		
			事後学習	講義内容に関してActive note 作成(A4)推奨	2 時間		

9	定期試験	試験	今井
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
南 裕子・野嶋佐由美:「看護における研究」第2版 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2066-5C3047		・小玉玉子・輪湖文子訳:看護研究計画書 ・ケーススタディの進め方 随時プリントで配布	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
病院等での研究経験がある教員が、看護研究を行うための研究方法と、論文としてまとめるための基礎知識を指導する。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
1.周囲に疑問を持ちましょう、日頃から疑問を探しておきましょう。 2.研究に関する知識・覚書をActive Noteに記載して今後の研究活動に向かいましょう		時間:授業内で伝達 場所:研究室 メール:mjc-e.imai●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
31	言語と表現	1	15	選択	講義	1年前期	行田 輝廣	
科目概要	<p>地域社会の暮らしのことばである「方言」と、メールや手紙を含めた「敬語」を中心に日本語について学習し、社会人として適切な言語表現を身につけることを目的とする。講義では、①病院で聞かれる「方言」には、地域に暮らす患者(特に高齢者)の率直で端的な思いが込められていることを説明する。②敬語の種類やルールについて説明し、ケーススタディによって、話し言葉・書き言葉の敬語を学習する。最終的には人と人がお互いの意思を伝え合い、理解し合うために有効な手段である『ことば』について理解を深め、『ことば』を用いて過不足のない表現ができるようになることを目指す。</p>							
到達目標	<p>1. 日本語の基礎を学び、相手に分かり易く、正確に伝わる文章を書くことができる。 2. 方言や敬語の基礎を学び、相手と場に応じた効果的なコミュニケーションができる。 3. 相手に説明したり説得したりするための言語表現や方法を身につけることができる。</p>							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準		
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	50 %	授業内容全般の理解度を評価する。			
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	7回の課題シートで定着度を評価する。			
	◎ 3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	7回の課題シートで学ぶ意欲を評価する。			
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	10 %	自ら授業を創り上げているか評価する。			
	○ 5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %				
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %					
フィードバック	<p>・定期試験 課題シートの復習80%、発展的な問題20%で構成。成績開示後、希望者には記述試験の答案用紙の閲覧と採点基準の開示を行う。 ・課題シート(学習問題)は8回実施する。授業や課外学習で課した課題シートは、本時で課題シートのドリルを実施し回収する。次時に採点した課題シートを返却後 全体解説を一齐に行う。剥落した学習内容や基礎基本の評価を行い、定着状況に応じて指導の見返しを行い、授業改善に視する。 ・受講態度 姿勢は心の勢いである。座席は名簿順で固定する。自ら学ぶ意欲を持って授業に臨んでいるか。関心、意欲、態度面から自己評価する。</p>							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	授業ガイダンス 言語環境を考える	事前 学習	・テキストP2－P5通読 ・テキストWork1－Work3通読 ・テキストWork10精読			1.5 時間	行田
	講義	1 講座の目的・内容 2 日本語表現の特徴 ○Work1～3 3 心を伝える方法 「自己PR課題シート②」 ○Work10(Follow up) ・課題シート①			2 時間			
	事後 学習	・講義内容復習 ・課題シート②を完成 ・課題シート①復習			2 時間			
	2	「伝え合い」を考える	事前 学習	・課題シート②確認 ・Work10 P49 Exercise Workshop 予習			1.5 時間	行田
	講義	1 自己PR発表会 2 分かり易いスピーチの仕方と評価 ○課題シート②			2 時間			
	事後 学習	・課題シート①復習 ・Work10 P49 Exercise Workshop復習			2 時間			
	3	挨拶と人間関係を表す言葉を考える	事前 学習	・Work10 P46－48 Activity, Exercise 予習 ・Work11, P50－53 ActivityExercise 予習			1.5 時間	行田
	講義	1 社会におけるあいさつのはたらき 2 くだけた話し方、改まった話し方 ○Work10、11(Follow up)・課題シート③			2 時間			
	事後 学習	・Work10 P46－48 Activity, Exercise復習 ・Work11, P50－53 ActivityExercise復習			2 時間			
	4	方言・敬語の役割を考える	事前 学習	・Work12 P54－57 Activity, Exercise, Workshop 予習			1.5 時間	行田
	講義	1 敬語・方言の役割と種類 ○Work12(Follow up) ・課題シート④及び見返し課題シート③			2 時間			
	事後 学習	Work12 P55 Point2 暗記			2 時間			
	5	場に応じた方言・敬語を考える	事前 学習	Work12 P56 Poin32 暗記 Work13 P58－P60 Activity, Exercise, Workshop 予習			1.5 時間	行田
	講義	1 敬語・方言を使って話す ○Work13(Follow up) ・課題シート⑤及び見返し課題シート④			2 時間			
	事後 学習	Work13 P58－P60 Activity, Exercise, Workshop 復習			2 時間			
	6	場に応じた方言・敬語を考える	事前 学習	Work13 P60－P61 Exercise, Workshop 予習			2.5 時間	行田
	講義	1 方言の効用 2 敬語を使って書く ○Work12、13(Follow up) ・課題シート⑥及び見返し課題シート⑤			2 時間			
	事後 学習	・Work12－Work13 復習			2 時間			
	7	実用的文章の特徴を考える	事前 学習	・Work8－9 Activity, Follow up 予習			1.5 時間	行田
	講義	1 伝統的な手紙の形式、E-mailの特徴と書き方 ○Work8、9(Follow up) ・課題シート⑦及び見返し課題シート⑥			2 時間			
事後 学習	・Work8－9 Activity, Follow up 復習			2 時間				

8	伝えるための論理や方法を考える	事前学習	・Work16 Work18 Activity, Follow up 予習	1.5 時間	行田
		講義	1 アサーションスキルを学ぼう ○16(Follow up) 2 相手に説明したり、説得したりする効果的な方法 ○Work18(Follow up) ・課題シート⑧及び見返し⑦	2 時間	
		事後学習	・課題シート⑧確認	2 時間	
9	定期試験	・筆記試験			行田
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
・石塚修、今田水穂、大倉浩、小針誠、島田康行、田川拓海、那須昭夫著『日本語表現&コミュニケーション 改訂版』(実教出版 2022年)			・池上 彰著『わかりやすく伝える技術』(講談社現代新書 2009年) ・外山滋比古著『思考の整理学』(ちくま文庫 1986年)		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
中学校・高等学校での国語教育の経験を活かして、学生が日本語の基礎を学び、豊かな表現ができるための教育を行う。習得すべき学力は多岐に亘るが、看護師等医療従事者を旨とする学生の将来的な視点から相手と場にふさわしい待遇表現について習得できるようにする。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
・座席は名簿順とする。 ・欠席した場合、次週の授業直前に申し出て教員から資料等を受け取る。 ・授業で扱う資料は廊下の机上から授業前に受け取る。 ※詳細は授業で確認する。			時間: 講義終了後 場所: 講師控室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
32	キャリア形成論	1	15	選択	講義	4年後期	宮坂 佐和子

科目概要 専門職として成長するプロセスにおける考え方やキャリア形成に必要な条件について知識を深める。  
また、特定看護師や診療看護師、専門看護師、認定看護師といったより専門性の高い看護職の役割についての理解を深める。

到達目標 1. 看護職が専門職に至る歴史的・社会的プロセスについて説明できる。  
2. 看護職者のキャリア形成について、概念・理論、具体的方法について説明できる。  
3. より専門性の高い看護職の養成および認定制度について説明できる。  
4. 自己のキャリア形成について、考察できる。

DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	各授業内容の復習(選択問題)、記述式問題
◎	2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %			
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	各授業内容の復習テスト(選択問題)		
○	4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等	10 %	授業中の発言や質問の頻度		
	5. 看護の知識と看護実践力	・その他	0 %			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %			

フィードバック 事後学習における疑問点などは、授業内において解説する。

回	項目	内容	時間	担当教員	
教育 内容	1 授業ガイダンス	事前学習	授業内容に関連したことを事前に調べておく	1.5 時間	宮坂
		講義	「看護職を志したきっかけ」についてレポートし、グループで共有する。	2 時間	
		事後学習	配布した資料を資料を読み返して、不明な点があれば自分で調べておく	2 時間	
	2 看護職のキャリア形成①	事前学習	授業内容に関連したことを事前に調べておく	2 時間	宮坂
		講義	キャリアとキャリア形成 新人看護職員研修制度について	2 時間	
		事後学習	配布した資料を資料を読み返して、不明な点があれば自分で調べておく	2 時間	
	3 看護職のキャリア形成②	事前学習	授業内容に関連したことを事前に調べておく	2 時間	宮坂
		講義	キャリアラダー 看護職の段階別習熟度 看護職の生涯学習ガイドライン	2 時間	
		事後学習	配布した資料を資料を読み返して、不明な点があれば自分で調べておく	2 時間	
	4 看護職のキャリア形成③	事前学習	授業内容に関連したことを事前に調べておく	2 時間	宮坂
		講義	キャリア開発の多様性 看護職のキャリアデザインとワークライフバランス	2 時間	
		事後学習	配布した資料を資料を読み返して、不明な点があれば自分で調べておく	1.5 時間	
	5 より専門性の高い看護職の養成と活用	事前学習	授業内容に関連したことを事前に調べておく	2 時間	宮坂
		講義	専門看護師、認定看護師、特定行為研修修了者などの養成と活用について チーム医療の推進	2 時間	
		事後学習	配布した資料を資料を読み返して、不明な点があれば自分で調べておく	1.5 時間	
	6 より専門性の高い看護職の養成と活用	事前学習	授業内容に関連したことを事前に調べておく	2 時間	宮坂
		講義	看護管理者の育成	2 時間	
		事後学習	配布した資料を資料を読み返して、不明な点があれば自分で調べておく	1.5 時間	
	7 職業としての看護の確立と発展	事前学習	授業内容に関連したことを事前に調べておく	2 時間	宮坂
		講義	職業としての看護の確立 職業としての看護の発展 社会における看護職の役割と責任	2 時間	
		事後学習	配布した資料を資料を読み返して、不明な点があれば自分で調べておく	2 時間	

8	自分のキャリアプラン	事前学習	授業内容に関連したことを事前に調べておく	1.5 時間	宮坂
		講義	自分のキャリアプランを考えて、レポートにまとめる。	2 時間	
		事後学習	配布した資料を資料を読み返して、不明な点があれば自分で調べておく	1.5 時間	
9	定期試験	筆記試験			宮坂
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
なし。印刷教材を配布する。			<ul style="list-style-type: none"> <li>『新人看護職員研修ガイドライン』(厚生労働省)</li> <li>『ベナー看護論: 達人ナースの卓越性とパワー』(医学書院)</li> </ul>		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
専門分野での看護総責任者として実務経験がある教員が、専門職として成長するプロセスとキャリア形成に必要な条件について知識と考え方を指導する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
なし			時間: 講義終了後 場所: 講師控室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
33	形態機能学Ⅰ (細胞組織・骨筋系・神経系)	2	30	必修	講義	1年前期	岳 鳳鳴
科目概要	看護の構成要素である人間の構造と機能の基礎を学ぶために、人体の構造と機能について学ぶ。生命維持のために分子・組織・器官・個体のそれぞれのレベルにおいてどのようなことが営まれているかを学ぶ。具体的には、組織構造の基本、ゲノム、遺伝子と細胞と組織、血液、造血器機能について学ぶ。続いて、看護の基礎となる人体の構造とその体系を学ぶ。具体的には、骨格系、筋系、消化器系、の構造と機能について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体を構成する細胞の構造・それらの集合体である組織や器官の特徴とその構造と機能を説明できる。さらに、それぞれの器官系が運動しながら人体の構成を理解して説明できる。</li> <li>2. 血液・造血系の構造と機能を説明できる。</li> <li>3. 骨格系の構造と機能を説明できる。</li> <li>4. 消化器系の構造と機能を説明できる。</li> </ol>						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー			評価項目	配分 %	評価基準
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	70 %	70 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。選択問題70%、空欄埋め30%
		2. 主体的行動力					
		3. 地域貢献力と多職種連携能力			・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	授業内の小テスト(3回)を実施し、毎回の授業の理解度の確認のために、前回授業の復習テストを実施する。選択問題80%、空欄埋め19%
		4. 課題発見能力と課題解決力					
		◎ 5. 看護の知識と看護実践力					
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計					
フィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小テスト:本講義では3回の小テストを実施する。各小テスト終了後、全学生の受験が完了した時点で、正解および採点基準を電子メールで全員に送付する。</li> <li>2. 期末試験:試験終了後1週間以内に成績を公開する。学生が詳細な解答分析を希望する場合は、具体的な要望に応じて、個別の解答や分析を提供する。採点に関する質問がある場合は、成績公開後1週間以内に提出すること。</li> </ol>						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	総論 (人体とは)	事前学習 教科書P8～P44までを熟読してくる。	講義 人体各部の区分、人体の構成(細胞小器官・細胞・組織・器官・系統)を学ぶ。	事後学習 教科書P8～P44までを復習する。	1.5 時間 2 時間 2.5 時間	岳
	2	人体を造る4つの組織	事前学習 教科書P45～P55、P339～P351までを熟読してくる。	講義 4大基本組織、上皮組織の種類、軟骨組織の種類、筋組織の構造と種類を学ぶ。	事後学習 教科書P45～P55、P339～P351までを復習する。	1.5 時間 2 時間 2.5 時間	岳
	3	体液	事前学習 教科書P36～P42までを熟読してくる。	講義 体液の量、割合と組成、体液の電解質組成と細胞内外の成分差、体液のバランスと生命維持を学ぶ。	事後学習 教科書P36～P42までを復習する。	1.5 時間 2 時間 2.5 時間	岳
	4	血液・造血Ⅰ	事前学習 教科書P126～P136までを熟読してくる。	講義 血液の組成、赤血球の新生と必要とする物質、ヘモグロビンの構造と機能、ビリルビンの腸肝循環と黄疸、貧血の種類を学ぶ。	事後学習 教科書P126～P136までを復習する。	1.5 時間 2 時間 2.5 時間	岳
	5	血液・造血Ⅱ	事前学習 教科書P136～P147までを熟読してくる。	講義 白血球の分類と機能、止血、凝固と線溶の機序、血漿タンパク質、赤沈、血液型を学ぶ。	事後学習 教科書P136～P147までを復習する。	1.5 時間 2 時間 2.5 時間	岳
	6	運動系 骨格Ⅰ	事前学習 教科書P283～P289までを熟読してくる。	講義 骨の働きと構造、骨の発生様式、骨の成長と更新、骨膜と骨端線の働き、椎骨の組成と特徴を学ぶ。	事後学習 教科書P283～P289までを復習する。	1.5 時間 2 時間 2.5 時間	岳
	7	運動系 骨格Ⅱ	事前学習 教科書P297～P299、P317～P355までを熟読してくる。	講義 頭蓋骨、上肢と下肢の骨、骨盤の形の性差を学ぶ。	事後学習 教科書P297～P299、P317～P355までを復習する。	1.5 時間 2 時間 2.5 時間	岳
	8	運動系 骨格筋Ⅰ	事前学習 教科書P289～P292、P319～P332までを熟読してくる。	講義 関節の構成と分類、頭部の筋、胸部の筋を学ぶ。	事後学習 教科書P289～P292、P319～P332までを復習する。	1.5 時間 2 時間 2.5 時間	岳

教育内容	9 運動系 骨格筋Ⅱ	事前学習	教科書P304～P332までを熟読してくる。	1.5 時間	岳
		講義	腹部の筋、上肢と下肢の筋を学ぶ。	2 時間	
		事後学習	教科書P304～P332までを復習する。	2.5 時間	
	10 運動系 骨格筋と運動	事前学習	教科書P339～P355までを熟読してくる。	1.5 時間	岳
		講義	筋原線維を構成するフィラメントの特徴、骨格筋収縮のメカニズム、単収縮と強縮、等尺性収縮と等張性収縮を学ぶ。	2 時間	
		事後学習	教科書P339～P355までを復習する。	2.5 時間	
	11 消化器Ⅰ：消化器系総論 歯・口腔	事前学習	教科書P58～P63、P90～93までを熟読してくる。	1.5 時間	岳
		講義	消化器系の概要、消化の過程、腹膜と臓器の関係を学ぶ。	2 時間	
		事後学習	教科書P58～P63、P90～93までを復習する。	2.5 時間	
	12 消化器Ⅱ：咽頭・食道・胃	事前学習	教科書P64～P71までを熟読してくる。	1.5 時間	岳
		講義	咽頭・食道・胃の構造と機能、食欲中枢、咀嚼を学ぶ。	2 時間	
		事後学習	教科書P64～P71までを復習する。	2.5 時間	
	13 消化器Ⅲ：小腸・大腸	事前学習	教科書P72～P83までを熟読してくる。	1.5 時間	岳
		講義	小腸・大腸の構造と機能、排便の機序を学ぶ。	2 時間	
		事後学習	教科書P72～P83までを復習する。	2.5 時間	
	14 消化器Ⅳ：肝臓・胆嚢	事前学習	教科書P85～P90までを熟読してくる。	1.5 時間	岳
講義		肝臓・胆嚢の構造と機能を学ぶ。	2 時間		
事後学習		教科書P85～P90までを復習する。	2.5 時間		
15 消化器Ⅴ：膵臓、消化と吸収	事前学習	教科書P84～P85までを熟読してくる。	1.5 時間	岳	
	講義	膵臓の構造と機能、タンパク質・脂質・糖質の消化と吸収を学ぶ。	2 時間		
	事後学習	教科書P84～P85までを復習する。	2.5 時間		
16 定期試験				岳	
				総学習時間 90 時間	

テキスト		参考書	
『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』(医学書院)		人体の正常構造と機能(日本医事新報社) カラー人体解剖学(西村書店)	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
医学生教育や臨床実習の経験をもとに、人体解剖学、生理機能学と疾患の関連性を結びつけた深い講義を行う。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
遅刻や途中退席は原則として認めない。 授業資料は授業前に配布する。 スマートフォンやタブレットの使用は授業内容に関係する場合に限り許可する、それ以外 の使用は禁止。 私語は厳禁。		時間：講義終了後 メール：yueratjp@shinshu-u.ac.jp (●は@に入れ替える)	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
34	形態機能学Ⅱ (呼吸・循環・消化器・泌尿器系)	2	30	必修	講義	1年後期	奥村 雅代
科目概要	「形態機能学Ⅰ」に引き続き、看護学の構成要素である人体の構造と機能の基礎について学ぶ。具体的には、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系の構造について学び、さらにそれらの器官が果たす機能について、呼吸と血液の働き、血液の循環、および体液の調節などに焦点を当てて理解を深め、健康維持のために果たす機能の基礎知識を学ぶ。						
到達目標	1. 循環器系の構造と機能を説明できる。 2. 呼吸器系の構造と機能を説明できる。 3. 泌尿器系の構造と機能を説明できる。 4. 生殖器系の構造と機能を説明できる。						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		評価項目	配分 %	評価基準	
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	100 %	授業内容全般について理解度を評価する。	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
	◎	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	授業各回の最後には内容に即した課題を提示する。また、関連する国家試験の過去問を紹介、解説を行う。 フィードバックとして、質疑等はオフィスアワーもしくはメールで行う。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	循環器系1	事前学習	テキストのp150-p157を熟読する。	2 時間	奥村	
			講義	循環器系の構成を理解する。	2 時間		
			事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間		
	2	循環器系2	事前学習	テキストのp157-p175を熟読する。	2 時間	奥村	
			講義	心周期を理解する。	2 時間		
			事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間		
	3	循環器系3	事前学習	テキストのp175-p187を熟読する。	2 時間	奥村	
			講義	末梢血管の構造、胎児の血液循環を理解する。	2 時間		
			事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間		
	4	循環器系4	事前学習	テキストのp187-p208を熟読する。	2 時間	奥村	
			講義	循環の調節機構を理解する。	2 時間		
			事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間		
	5	呼吸器系1	事前学習	テキストのp96-p107を熟読する。	2 時間	奥村	
			講義	呼吸器系の構成を理解する。	2 時間		
			事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間		
	6	呼吸器系2	事前学習	テキストのp108-p120を熟読する。	2 時間	奥村	
			講義	肺呼吸と内呼吸を理解する。	2 時間		
			事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間		
	7	呼吸器系3	事前学習	テキストのp120-p127, p140-p147を熟読する。	2 時間	奥村	
			講義	呼吸気量、ガス交換とガスの運搬を理解する。	2 時間		
			事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間		
	8	呼吸器系4	事前学習	テキストのp127-p140を熟読する。	2 時間	奥村	
			講義	呼吸運動の調節機構を理解する。	2 時間		
事後学習			テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間			

教育内容	9 泌尿器系1	事前学習	テキストのp210-p216を熟読する。	2 時間	奥村
		講義	泌尿器系の構成を理解する。	2 時間	
		事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間	
	10 泌尿器系2	事前学習	テキストのp216-p223を熟読する。	2 時間	奥村
		講義	尿管と糸球体傍装置の構造と機能を理解する。	2 時間	
		事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間	
	11 泌尿器系3	事前学習	テキストのp223-p230を熟読する。	2 時間	奥村
		講義	排尿路の構造と機能を理解する。	2 時間	
		事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間	
	12 泌尿器系4	事前学習	テキストのp230-p237を熟読する。	2 時間	奥村
		講義	蓄尿と排尿を理解する。	2 時間	
		事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間	
	13 生殖器系1	事前学習	テキストのp460-p466を熟読する。	2 時間	奥村
		講義	男性生殖器を理解する。	2 時間	
		事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間	
	14 生殖器系2	事前学習	テキストのp466-p475を熟読する。	2 時間	奥村
講義		女性生殖器を理解する。	2 時間		
事後学習		テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間		
15 生殖器系3	事前学習	テキストのp475-p499を熟読する。	2 時間	奥村	
	講義	受精と胎児の発生、誕生を理解する。	2 時間		
	事後学習	テキスト、講義内容等を参考に講義で提示された課題と国家試験過去問に取り組む。	2 時間		
16 定期試験		筆記試験(選択問題及び記述問題)		奥村	
				総学習時間	90 時間
テキスト			参考書		
『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』(医学書院)			なし		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
松本歯科大学解剖学講座教員としての経験を基に教授する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
各講義前にプリントを配布する。			時間: 講義終了後 場所: 講師控室 またはメール: masayo.okumura@mdu.ac.jp (●は@に置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
35	形態機能学Ⅲ (内分泌・免疫・生殖・感覚器系)	1	30	必修	演習	1年後期	堀部 寛治	
科目概要	内分泌系、神経系、感覚系、皮膚の構造と機能を学ぶ。組織標本等の見学実習等を行い、実習後、形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ内容との統合を図る。この講義を通して、知識の修得統合とともに、人間の尊厳について考える。							
到達目標	1. 内分泌系の構造と機能を説明できる。 2. 神経系の構造と機能を説明できる。 3. 感覚器系の構造と機能を説明できる。 4. 皮膚の構造と機能を説明できる。 5. 生体の防御機構を説明できる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	◎	成績 評価 方法	定期試験	70 %	授業の内容についての理解度を評価する		
	2. 主体的行動力			授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	毎回の授業の理解度の確認のために、前回授業の復習テストを実施する。		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力			受講時の積極性、態度等	0 %			
	4. 課題発見能力と課題解決力			その他	0 %			
	5. 看護の知識と看護実践力			合計	100 %			
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力								
フィードバック	定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了3日目以降10日目以内に、松本歯科大学口腔解剖学講座第2医局にて採点后の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。(メールでのフィードバックも可能)(模範解答の配布、掲示も可能)							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	内分泌系	事前学習	教科書P273～P275までを熟読してくること。			0.5 時間	堀部
			講義	内分泌 概論			2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。			0.5 時間	
	2	内分泌系	事前学習	教科書P254～P259までを熟読してくること。			0.5 時間	堀部
			講義	視床下部、下垂体の構造とホルモン			2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。			0.5 時間	
	3	内分泌系	事前学習	教科書P259～P263までを熟読してくること。			0.5 時間	堀部
			講義	甲状腺、副甲状腺 の構造とホルモン			2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。			0.5 時間	
	4	内分泌系	事前学習	教科書P263～P270までを熟読してくること。			0.5 時間	堀部
			講義	膵臓、副腎 の構造と内分泌・ホルモン			2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。			0.5 時間	
	5	内分泌系	事前学習	教科書P270～P272、P275～279までを熟読してくること。			0.5 時間	堀部
			講義	性腺のホルモン、その他の内分泌腺、ホルモンによる調節の実際			2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。			0.5 時間	
	6	神経系	事前学習	教科書P359～P368までを熟読してくること。			0.5 時間	堀部
			講義	神経系の全体像と分類			2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。			0.5 時間	
	7	神経系	事前学習	教科書P368～P382までを熟読してくること。			0.5 時間	堀部
			講義	中枢神経系の構造と機能			2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。			0.5 時間	
	8	神経系	事前学習	教科書P383～P397、P241～247までを熟読してくること。			0.5 時間	堀部
			講義	末梢神経系の構造と機能、自律神経の機能			2 時間	
事後学習			講義資料・ノートの復習を行う。			0.5 時間		

教育内容	9	感覚器系	事前学習	教科書P397～P413までを熟読してくる。	0.5 時間	堀部
			講義	眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚・平衡覚	2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。	0.5 時間	
	10	感覚器系	事前学習	教科書P413～P415までを熟読してくる。	0.5 時間	堀部
			講義	味覚器と味覚、嗅覚器の構造と嗅覚	2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。	0.5 時間	
	11	皮膚	事前学習	教科書P435～P439までを熟読してくる。	0.5 時間	堀部
			講義	皮膚の構造と機能	2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。	0.5 時間	
	12	生体防御	事前学習	教科書P439～P450までを熟読してくる。	0.5 時間	堀部
			講義	非特異的生体防御機構と特異的生体防御機構(免疫) 概論	2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。	0.5 時間	
	13	生体防御	事前学習	教科書P439～P450までを熟読してくる。	0.5 時間	堀部
			講義	免疫細胞の種類と機能 各論	2 時間	
			事後学習	講義資料・ノートの復習を行う。	0.5 時間	
	14	解剖学実習見学	事前学習	見学する器官・臓器について教科書該当部位を熟読してくる。	0.5 時間	堀部
			講義	人体の各器官の形態と位置 見学	2 時間	
			事後学習	見学した器官・臓器についての教科書該当部位を熟読・復習する。	0.5 時間	
15	形態機能学Ⅲまとめ	事前学習	形態機能学Ⅲ全講義内容の教科書該当部位・講義資料・ノートを熟読すること	0.5 時間	堀部	
		講義	形態機能学Ⅲのまとめ	2 時間		
		事後学習	形態機能学Ⅲ全講義内容の教科書該当部位・講義資料・ノートを熟読すること	0.5 時間		
16	定期試験	筆記試験			堀部	
					総学習時間	45 時間
テキスト			参考書			
・『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』(医学書院)			なし			
実務経験と授業科目との関連性			履修要件			
なし			なし			
留意事項			オフィスアワー			
なし			時間: 講義終了後 場所: 講師控室			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
36	生化学	2	30	必修	講義	1年後期	川上 由行
科目概要	近年の生化学の進歩により、生体での各現象を生体分子の構造やその変化の過程として具体的に把握できつつある。これらの詳細な理解には生命現象の本質的な部分について、生化学を体系的に理解しておくことが重要となる。更に、これらを踏まえた上で看護において特に必要な生化学的知識を身につける。						
到達目標	生命体の正常な仕組みや機能が破綻した状態である病気を、正しい理解へと繋ぐために必須である生化学の基本的事項について、自らの言葉で説明することができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験			100 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。	
	2. 主体的行動力	・授業内的小テスト、課題、レポート			0 %		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート			0 %		
	4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等			0 %		
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力	・その他			0 %		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	出席票の質問欄への記入を促し、学生が記載した質問事項について、文書での回答を次回講義までに準備し、全員に配布しての解説を毎回の講義の前段階で実施する。前回までの復習と必須事項の確認に充てる。回答には、身近で理解しやすい事例を取り上げて解説するなど、何よりも、「生化学」が身近な学問領域であることを肌で感じてもらえることに主眼を置いている。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	看護・医学の基礎専門科目としての生化学	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	医学・看護学における生化学の役割、生体分子と細胞の構造と機能	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	2	代謝の基礎と酵素・補酵素	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	代謝と生体のエネルギー、酵素の構成とアイソザイム、水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	3	糖質の構造と機能	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	三大栄養素における糖質、単糖・二糖・多糖・ホモ多糖・ヘテロ多糖・複合多糖の構造と機能	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	4	糖質代謝	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	解糖系、TGAサイクル、電子伝達系、ATP、糖新生、ペントースリン酸回路	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	5	脂質の構造と機能	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	三大栄養素における脂質、単純脂質と複合脂質、飽和・不飽和脂肪酸、必須脂肪酸、コレステロール・リポタンパクとメタボリックシンドローム	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	6	脂質代謝	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	脂質の消化と吸収、中性脂肪の分解、β酸化、ケトン体、エイコサノイド、脂肪酸の合成	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	7	タンパク質の構造と機能	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	三大栄養素におけるタンパク質、必須アミノ酸、分枝アミノ酸、ペプチド結合、一次構造と二次構造、αヘリックスとβシート構造	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	8	タンパク質代謝	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	タンパク質の消化と吸収、糖原性アミノ酸とケトン性アミノ酸、グルコースアラニン回路、尿素の生成αケト酸の生成と代謝、尿素の生成、アミノ酸からの含窒素化合物合成	2 時間		
事後学習			その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間			

教育内容	9	アミノ酸の置換と新型コロナウイルスの進化	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
			講義	ヒトのみならずウイルス粒子に於いても同様なアミノ酸同士のペプチド結合を基盤とするタンパク質、タンパク質・アミノ酸のまとめとして、ウイルス粒子の構成タンパク質に注目し、オミクロン株などの新型コロナウイルスの変異(進化)の要点のみを解説する	2 時間	
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間	
	10	ポルフィリン代謝と異物代謝	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
			講義	ポルフィリンの構造、ヘムを含む生体分子、ヘムの分解とビリルビン代謝、生体異物としてのアルコールの分解	2 時間	
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間	
	11	遺伝子と核酸	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
			講義	セントラルドグマ、メンデル遺伝学、遺伝子の本体としてのDNA、ヌクレオシド・ヌクレオチドの合成と分解、コドンとアミノ酸	2 時間	
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間	
	12	遺伝子の複製	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
			講義	DNAの複製の開始、寿命とテロメア、DNA損傷、修復、組換え、遺伝子の変異(サイレント変異・ミスセンス変異・ナンセンス変異・フレームシフト変異)	2 時間	
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間	
	13	転写とRNAプロセッシングと翻訳後の修飾	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
			講義	転写の開始とRNA鎖の伸長、RNAのプロセッシング(キャップ構造の付加、RNAスプライシング、ポリ鎖の付加)、オペロン調節、エピジェネティック修飾、翻訳、シャペロン	2 時間	
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間	
	14	細胞のシグナル伝達としてのホルモン	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
講義			ホルモンの受容体とフィードバック調節、視床下部ホルモン、下垂体ホルモン、抹消ホルモン	2 時間		
事後学習			その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
15	国家試験の動向からみる基礎専門科目としての生化学	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
		講義	看護師国家試験における実際の出題例を提示し、専門基礎分野としての「生化学」での学びを復習する	2 時間		
		事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
16	定期試験		講義内容についての理解度を評価する。講義全般にわたる事項について満遍なく出題する。なお、記述式設問を含むものとする。		川上	
総学習時間					90 時間	

テキスト	参考書
『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学』(医学書院)	毎回の配付プリント資料
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
臨床現場からの症例相談を受け、各症例について生化学的側面からの解析を行い、年に数編の論文を発信してきている。また、原因病原体の生化学的性状・遺伝学的性状を解析し、年に数編の論文を発信するなど、これまでの経験と研究活動を活かして講義する。	なし
留意事項	オフィスアワー
なし	時間: 講義終了後 場所: 講師控室

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
37	臨床栄養学	1	15	必修	講義	2年前期	水野 尚子
科目概要	栄養素とその働き、食物の摂取と消化吸収を学び、生命現象の意義について生化学的側面からとらえ、生体内のエネルギー獲得の仕組みと生体の恒常性の維持に関連して、糖質・たんぱく質・脂質などの代謝を学ぶ。また、栄養評価や、栄養指導、保健指導などの方法を学ぶ。さらに、ライフステージ別の栄養摂取課題、健康づくりについて学ぶ。看護職として臨床や地域の現場で栄養管理や栄養指導ができるための基礎的知識を身につける。						
到達目標	栄養素の種類や機能、代謝、消化・吸収の知識を習得する。また、ライフステージ別・疾患別の食事療法、適切な栄養管理について理解する。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験			70 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。	
	2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート			0 %		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート			30 %	2回・課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。	
	4. 課題発見能力と課題解決力	・その他			0 %		
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力	合計			100 %		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力							
フィードバック	課題について適正にまとめられているかを評価し、動機づけを促す具体的な成果や改善点についてつなげるように授業内でコメントを行う。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	人間栄養学と看護 栄養素の種類と働き	事前 学習	テキストを読み「食物栄養学から人間栄養学へ」の背景の理解を深めるために準備する	1.5 時間	水野	
	講義	栄養と栄養素の定義を理解し、人間における「食物・栄養学」についてを考える 五大栄養素の種類と生体内での主な働きを理解する	2 時間				
	事後 学習	授業での復習と課題をまとめる	1.5 時間				
	2	食物の消化と栄養素の吸収・代謝 エネルギー代謝	事前 学習	テキストを読み栄養素の生理的・機能的役割、生体内での化学変化(代謝)について理解を深める準備をする	2 時間	水野	
	講義	各種栄養素の消化・吸収・代謝について、また食物のエネルギー代謝、基礎代謝量、推定エネルギー必要量について理解する	2 時間				
	事後 学習	授業での復習と課題をまとめる	2 時間				
	3	食事と食品 栄養ケア・マネジメント	事前 学習	テキストを読みエネルギー代謝(摂取量・消費量)についての理解を深める準備をする	2 時間	水野	
	講義	食事摂取基準・食品と栄養素の関連と栄養ケア・マネジメントについて理解する	2 時間				
	事後 学習	授業での復習と課題をまとめる	2 時間				
	4	栄養状態の評価と判定	事前 学習	テキストを読み理解を深めるために準備する。	2 時間	水野	
	講義	栄養ケア・マネジメントから栄養状態の評価・判定の定義と目的・判定方法の種類とその指標を理解する	2 時間				
	事後 学習	授業での復習と課題をまとめる	2 時間				
	5	ライフステージと栄養	事前 学習	テキストを読み、乳幼児期から高齢期におけるライフステージ別・背景から理解を深める	1.5 時間	水野	
	講義	乳幼児期、幼児期、学童期、思春期・青年期、成人期、妊娠期、授乳期、更年期、高齢期におけるライフステージ別の食事・栄養管理、栄養ケア・マネジメントについて理解する	2 時間				
	事後 学習	授業での復習と課題をまとめる	1.5 時間				
	6	臨床栄養 病院食 栄養補給法 静脈栄養法	事前 学習	テキストを読み、傷病者のさまざまな病態や栄養状態などの栄養管理について理解を深める	2 時間	水野	
	講義	病院食の分類とその特徴、栄養補給法・静脈栄養法について理解する	2 時間				
	事後 学習	授業での復習と課題をまとめる	2 時間				
	7	臨床栄養 疾患・症状別食事療法 その他	事前 学習	テキストを読み、疾患・症状別の食事療法について理解を深める	2 時間	水野	
	講義	循環器疾患・消化器疾患栄養代謝疾患・腎臓疾患・血液疾患・食物アレルギー・骨粗鬆症・手術前後・その他の食事療法の意義と内容について理解する	2 時間				
	事後 学習	授業での復習と課題をまとめる	2 時間				
	8	健康づくりと食生活	事前 学習	テキストを読み過剰栄養と低栄養についての問題点の理解を深めるために準備する	1.5 時間	水野	
	講義	健康づくりを目指す食習慣について理解する	2 時間				
事後 学習	授業での復習と課題をまとめる	1.5 時間					

9	定期試験	試験			水野
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能3 栄養学』(医学書院)			『栄養科学ファウンデーションシリーズ2 応用栄養学版第4版』(朝倉書店)		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
クリニック、保健センター、健康管理、生活習慣病の重症化予防における栄養管理、栄養指導、特定保健指導での経験を活かし、臨床栄養学について展開しつつ授業を行う。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
栄養管理について、チーム医療における看護師の役割を理解し、積極的に学習する意欲を持って臨むこと。			時間: 講義終了後 場所: 講師控室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
38	臨床薬理学	2	30	必修	講義	2年後期	荒 敏昭
科目概要	薬物に関する基礎的な知識を習得するとともに、基本的な薬物について臨床での活用と関連させて学ぶ。総論では薬物療法の目的、薬理作用、薬物動態、中毒、医薬品の分類・保管方法などを学ぶ。各論では医薬品を系統別に分け、疾病の病態と合わせて治療薬の作用機序、使用方法、副作用、薬物相互作用、看護上の留意点などについて学ぶ。						
到達目標	1. 薬物が生体のメカニズムに及ぼす変化(作用、副作用)を説明できる。 2. 疾患の病態生理および治療方針を理解し、その上で使用される薬物選択を説明できる。 3. 疾患による薬物動態の変化とそれに対する薬物の投与方法を説明できる。 4. 医薬品の分類、表示・保管方法について説明できる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験		100 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。	
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート		0 %		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート		0 %		
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等		0 %		
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他		0 %		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	定期試験のフィードバックは、定期試験の結果を掲示した後にメールにて質問があった学生に対して行う。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	薬理学とは 薬による病気の治療	事前 学習	教科書P16～P20およびP59～P62、配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間	荒	
			講義	薬物の定義、薬物の使用目的を理解する 医薬品の分類(医薬品、医薬部外品、化粧品)を理解する	2 時間		
			事後 学習	教科書P16～P20およびP59～P62、配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間		
	2	薬物の作用機序 用量と反応	事前 学習	教科書P20～P26およびP44～P46、配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間	荒	
			講義	薬物の作用機序の概略を理解する 用量と反応の関係を理解する	2 時間		
			事後 学習	教科書P20～P26およびP44～P46、配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間		
	3	薬物動態①:吸収～排泄	事前 学習	教科書P30～P35および配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間	荒	
			講義	薬物の吸収、代謝、分布、排泄の基本的事項を理解する	2 時間		
			事後 学習	教科書P30～P35および配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間		
	4	薬物動態②:薬物の投与経路	事前 学習	教科書P27～P30および配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間	荒	
			講義	薬物の投与経路およびその特徴を理解する	2 時間		
			事後 学習	教科書P27～P30および配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間		
	5	薬物動態③:薬物の投与計画 薬効に影響する要因	事前 学習	教科書P41～P44および配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間	荒	
			講義	薬物動態を変化させる要因(年齢、臓器障害)を理解する 薬物血中濃度モニタリングを理解する	2 時間		
			事後 学習	教科書P41～P44および配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間		
	6	薬物相互作用	事前 学習	教科書P37～P41および配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間	荒	
			講義	薬力学的薬物相互作用を理解する 薬物動態学的薬物相互作用を理解する	2 時間		
			事後 学習	教科書P37～P41および配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間		
	7	薬物の副作用 薬と法律 医薬品開発	事前 学習	教科書P47～P54およびP66～P69、配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間	荒	
			講義	薬物の副作用の概略について理解する 医薬品の分類、表示と保管、新薬の開発について理解する	2 時間		
			事後 学習	教科書P47～P54およびP66～P69、配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間		
	8	末梢神経作用薬	事前 学習	教科書P145～P163および配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間	荒	
			講義	末梢神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬の作用、使用目的、副作用を理解する	2 時間		
事後 学習			教科書P145～P163および配布資料の該当ページを熟読して頂くこと。	2 時間			

教育内容	9	中枢神経作用薬	事前学習	教科書P166～P210および配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	荒
			講義	全身麻酔薬、鎮静薬、抗うつ薬、統合失調症治療薬などの作用、副作用、薬物相互作用を理解する	2 時間	
			事後学習	教科書P166～P210および配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	
	10	抗感染症薬、消毒薬	事前学習	教科書P74～P100および配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	荒
			講義	抗感染症薬の作用機序、使用方法、副作用を理解する 消毒薬の種類を理解する	2 時間	
			事後学習	教科書P74～P100および配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	
	11	抗炎症薬	事前学習	教科書P130～P143および配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	荒
			講義	炎症反応および抗炎症薬の作用機序、薬理作用、副作用を理解する	2 時間	
			事後学習	教科書P130～P143および配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	
	12	血液作用薬	事前学習	教科書P241～P255および配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	荒
			講義	抗凝固薬の種類、作用機序、薬物相互作用を理解する 貧血治療薬、脂質異常症治療薬を理解する	2 時間	
			事後学習	教科書P241～P255および配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	
	13	循環器作用薬①: 高血圧、狭心症、心不全	事前学習	教科書P213～P229およびP238～P241、配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	荒
			講義	高血圧、狭心症、心不全の治療方針、治療薬の作用、副作用、薬物相互作用を理解する	2 時間	
			事前学習	教科書P213～P229およびP238～P241、配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	
	14	循環器作用薬②: 不整脈 呼吸器・消化器作用薬	事前学習	教科書P229～P233およびP289～P297、配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	荒
講義			抗不整脈薬の作用、副作用を理解する 気管支喘息、消化性潰瘍治療薬の作用を理解する	2 時間		
事後学習			教科書P229～P233およびP289～P297、配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間		
15	抗がん薬・免疫治療薬 糖尿病治療薬	事前学習	教科書P102～P128およびP258～P271、配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間	荒	
		講義	抗がん薬・免疫抑制薬、抗アレルギー薬を理解する 糖尿病の症状および治療薬を理解する	2 時間		
		事後学習	教科書P102～P128およびP258～P271、配布資料の該当ページを熟読していただくこと。	2 時間		
16	定期試験	筆記試験			荒	
総学習時間					90 時間	
テキスト			参考書			
・柳田俊彦編『薬の基本とはたらきがわかる 薬理学』(羊土社)			配付資料			
実務経験と授業科目との関連性			履修要件			
なし			なし			
留意事項			オフィスアワー			
定期試験は、履修規定に準ずる。再試験は1回までとする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間: 講義終了後</li> <li>・場所: 講師控室</li> </ul>			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
39	病態治療学 I (内分泌・免疫・生殖・感覚器系)	2	30	必修	講義	1年後期	澤野 紳二
科目概要	循環系、消化器系、脳神経系、血液造血系などにおける症状・徴候および疾病の病因、病態、治療、予後などにつき学習し、それぞれの疾病の成り立ちと回復の促進について理解する。						
到達目標	1. 循環器系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法を説明できる。 2. 血液造血系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法を説明できる。 3. 消化器系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法を説明できる。 4. 脳神経系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法を説明できる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		①		・定期試験	100 %	授業の内容全般に対する理解度を評価する。
	2. 主体的行動力		②		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		③		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	
	4. 課題発見能力と課題解決力		④		・受講時の積極性、態度等	0 %	
	⑤ 看護の知識と看護実践力		⑤		・その他	0 %	
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		⑥		合計	100 %		
フィードバック	定期試験のフィードバックを希望する場合は、申し出ること。後日、指定した日時・場所にて模範解答の閲覧にて行う。						
教育内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	病態治療学総論	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。		2 時間	澤野
			講義	看護と病態学 病気の原因、代謝障害:細胞死、脂質代謝、糖代謝など		2 時間	
			事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。		2 時間	
	2	代謝障害	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。		2 時間	澤野
			講義	個体の老化と諸臓器の変化、高齢者特有の病態、物質代謝異常、小胞体ストレス		2 時間	
			事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。		2 時間	
	3	循環障害	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。		2 時間	澤野
			講義	虚血、充血、うっ血の原因と病体、出血の原因と止血機構、局所性の循環障害、全身性の循環障害、リンパの循環障害、ショックの定義と病体		2 時間	
			事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。		2 時間	
	4	炎症と免疫	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。		2 時間	澤野
			講義	炎症の定義・分類・経時的变化、アレルギー、免疫機構		2 時間	
			事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。		2 時間	
	5	腫瘍	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。		2 時間	澤野
			講義	腫瘍とは、腫瘍の種類と分類、癌の発生、癌の広がりと進行度、病理診断		2 時間	
			事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。		2 時間	
	6	循環器系疾患	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。		2 時間	澤野
			講義	心電図等の循環器の検査法、先天性心疾患(ファロー四徴症、心房中隔欠損症など)		2 時間	
			事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。		2 時間	
	7	循環器系疾患	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。		2 時間	澤野
			講義	動脈硬化、高血圧、心臓弁膜症、大動脈瘤、大動脈解離		2 時間	
			事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。		2 時間	
	8	循環器系疾患	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。		2 時間	澤野
			講義	狭心症、心筋梗塞、心不全		2 時間	
事後学習			各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。		2 時間		

教育内容	9 血液・造血系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
		講義	貧血、血友病、白血病、悪性リンパ腫、播種性血管性凝固症候群(DIC)	2 時間	
		事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間	
	10 消化器系疾患	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
		講義	胃食道逆流症、胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、虚血性大腸炎、潰瘍性大腸炎	2 時間	
		事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間	
	11 消化器系疾患	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
		講義	胃癌、十二指腸癌、大腸癌、舌癌、食道癌	2 時間	
		事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間	
	12 消化器系疾患	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
		講義	肝炎、胆のう炎、胆石、胆道癌、膵炎、膵臓癌	2 時間	
		事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間	
	13 消化器系疾患	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
		講義	肝硬変、肝臓癌、イレウス、肛門疾患	2 時間	
		事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間	
	14 脳神経系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
講義		くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍・脊髄疾患、末梢神経障害(手根管症候群、肘部管症候群など)	2 時間		
事後学習		各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間		
15 脳神経系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野	
	講義	パーキンソン病、ALS、多発性硬化症、ギランバレー症候群	2 時間		
	事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間		
16 定期試験	試験			澤野	
				総学習時間	90 時間

テキスト	参考書
<ul style="list-style-type: none"> <li>『系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』(医学書院)</li> <li>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器』(医学書院)</li> <li>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器』(医学書院)</li> <li>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器』(医学書院)</li> <li>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経』(医学書院)</li> </ul>	なし
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
外科医及び市中病院での救急医療経験を十分に活かして、疾病・治療論について講義する	なし
留意事項	オフィスアワー
なし	時間: 講義終了後 場所: 講師控室

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
40	病態治療学Ⅱ (呼吸器、骨筋、腎泌尿器、内分泌、生殖系)	2	30	必修	講義	2年前期	澤野 紳二	
科目概要	呼吸器疾患、骨・筋系疾患、腎泌尿器疾患、内分泌系疾患、女性生殖系疾患などにおける症状・徴候および疾病の病因、病態、治療、予後などにつき学習し、それぞれの疾病の成り立ちと回復の促進について理解する。							
到達目標	1. 呼吸器系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法および予後を説明できる。 2. 骨・筋系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法および予後を説明できる。 3. 腎泌尿器系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法および予後を説明できる。 4. 内分泌系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法および予後を説明できる。 5. 女性生殖系疾患の病態生理、病因、症状、検査所見、治療法および予後を説明できる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー				評価項目		配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成	・定期試験	100 %	授業の内容全般に対する理解度を評価する。			
	2. 主体的行動力	績	・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %				
	3. 地域貢献力と多職種連携能力	評	・事前/事後学習の課題、レポート	0 %				
	4. 課題発見能力と課題解決力	価	・受講時の積極性、態度等	0 %				
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力	方	・その他	0 %				
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	法	合計	100 %				
フィードバック	定期試験のフィードバックを希望する場合は、申し出ること。 後日、指定した日時・場所にて模範解答の閲覧にて行う。							
教育内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	先天異常・遺伝子異常	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野		
	講義	多因子遺伝が原因となる疾患、染色体異常による疾患、疾患の原因となる遺伝子異常	2 時間					
	事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間					
	2	アレルギー、免疫、膠原病	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野		
	講義	生体防御機構、アレルギー反応の型、関節リウマチ、SLE	2 時間					
	事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間					
	3	呼吸器系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野		
	講義	かぜ、インフルエンザ、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患	2 時間					
	事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間					
	4	呼吸器系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野		
	講義	肺結核、肺血栓塞栓症	2 時間					
	事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間					
	5	呼吸器系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野		
	講義	気胸、肺性心、肺腫瘍	2 時間					
	事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間					
	6	骨・筋系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野		
	講義	捻挫、脱臼、側弯症、骨折、変形性関節症、関節リウマチ、人工関節置換術後合併症	2 時間					
	事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間					
	7	骨・筋系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野		
	講義	骨折：骨折治癒の過程、ギプス・手術後の合併症、小児骨折の特徴	2 時間					
	事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間					
	8	骨・筋系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野		
	講義	腰椎椎間板ヘルニア、腰椎圧迫骨折、脊柱管狭窄症、骨粗しょう症、高齢者の骨折、フォルクマン拘縮、廃用症候群	2 時間					
事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間						

教育内容	9 腎・泌尿器系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
		講義	慢性腎不全、慢性腎臓病、ネフローゼ症候群 透析とその合併症	2 時間	
		事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間	
	10 腎・泌尿器系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
		講義	腎炎、膀胱炎、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大、結石、陰茎・陰囊・精巣の疾患、性分化異常、性機能障害	2 時間	
		事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間	
	11 内分泌系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
		講義	バセドウ病、橋本病、栄養・代謝異常:糖尿病、肥満症、痛風、高脂質血症	2 時間	
		事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間	
	12 内分泌系	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
		講義	アジソン病、クッシング症候群、性腺疾患、乳腺疾患	2 時間	
		事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間	
	13 女性生殖器	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
		講義	乳癌、月経異常、子宮内膜症	2 時間	
		事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間	
	14 女性生殖器	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野
講義		子宮筋腫、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣腫瘍	2 時間		
事後学習		各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間		
15 皮膚、耳鼻・咽喉、歯・口腔、眼疾患	事前学習	事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	澤野	
	講義	皮膚疾患、難聴、めまい嚥下障害、う蝕(虫歯)、歯肉炎、歯周炎、口内炎、腫瘍、屈折・調節の異常、結膜の疾患、水晶体の疾患(白内障)、緑内障、全身疾患と眼病変	2 時間		
	事後学習	各章の終わりにあるwork(復習と課題)を各自やっておくこと。その日のうちに復習をして理解を深めておくこと。	2 時間		
16 定期試験	試験			澤野	
				総学習時間 90 時間	

テキスト	参考書
<ul style="list-style-type: none"> <li>『系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』(医学書院)</li> <li>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症』(医学書院)</li> <li>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器』(医学書院)</li> <li>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器』(医学書院)</li> <li>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器』(医学書院)</li> <li>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝』(医学書院)</li> <li>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器』(医学書院)</li> </ul>	なし
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
外科医及び市中病院での救急医療経験を十分に活かして、疾病・治療論について講義する。	なし
留意事項	オフィスアワー
なし	時間: 講義終了後 場所: 講師控室

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
41	感染症学	2	30	必修	講義	2年前期	川上 由行
科目概要	健康と生命を脅かす病原微生物の各種性状や、惹起される種々の感染症に対峙するための各種消毒・滅菌法、化学療法、そして病原体による其々の感染対策法について適切に理解し、感染制御への意識を培う。						
到達目標	感染症の起病因原微生物の基本的性状を、自身の言葉で説明できる。また、其々の病原体の感染様式を理解した上で、専門医療職種として提供する看護および感染対策の実際について、正しい感染制御の理論に結び付けて、自らの言葉で説明することができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成			定期試験	100 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。
	2. 主体的行動力	績	授業内の小テスト、課題、レポート		0 %		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力	評	事前/事後学習の課題、レポート		0 %		
	4. 課題発見能力と課題解決力	価	受講時の積極性、態度等		0 %		
	5. 看護の知識と看護実践力	方	その他		0 %		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	法	合計		100 %			
フィードバック	出席票の質問欄への記入を促し、学生が記載した質問事項について、文書での回答を次回講義までに準備し、全員に配布しての解説を毎回の講義の前段階で実施する。前回までの復習と必須事項の確認に充てる。回答には、身近に理解し易い事例を取り上げて解説するなど、何よりも、「感染症学」が身近な学問領域であることを肌で感じてもらえることに主眼を置いている。						
教育 内容	1	看護・医学の基礎専門科目としての病原微生物学	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	微生物と病原微生物学、微生物の生物学的位置、ワクチンの種類と予防接種	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	2	細菌・真菌・ウイルスの分類と性状	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	細菌・真菌・ウイルスの形態学、グラム染色、細菌細胞の構造と機能・分裂と増殖、細菌の遺伝、ウイルスの臨床的分類	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	3	常在菌と正常細菌叢	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	常在細菌叢の分布と内因性・外因性感染症と菌交代現象	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	4	微生物感染の機構(1)	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	生体と病原体、感染の成立から発症、感染経路と感染様式、顕性・不顕性感染	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	5	微生物感染の機構(2)	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	定着因子、増殖因子、生体防御機構からの回避、細胞内寄生性、内毒素と外毒素	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	6	感染に対する生体の防御機構	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	自然免疫と獲得免疫、抗原と抗体、免疫反応、免疫グロブリンの特徴、ワクチン	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	7	感染の徴候と症状	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	生体防御発現による症状、炎症発現としての局所症状、病原体ビルルスによる症状	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
	8	感染源・感染経路からみた感染症	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
			講義	経口感染、経気道(空気・飛沫)感染、接触感染、桂皮感染、垂直(母児)感染	2 時間		
			事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		

教育内容	9 滅菌と消毒	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
		講義	滅菌と消毒の定義と滅菌法の実際、消毒薬、消毒の三要素	2 時間	
		事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間	
	10 化学療法	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
		講義	選択毒性、化学療法指数、静菌と殺菌、抗菌スペクトル、薬剤耐性、抗生物質の分類	2 時間	
		事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間	
	11 感染症の現状と対策	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
		講義	文明病としての感染症、振興・再興感染症、医療関連感染、日和見感染、感染症法	2 時間	
		事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間	
	12 病原微生物と感染症(1)	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
		講義	グラム陽性菌感染症、ブドウ球菌(MRSAを含む)、連鎖球菌(肺炎球菌を含む)と腸球菌(VREを含む)	2 時間	
		事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間	
	13 病原微生物と感染症(2)	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
		講義	グラム陰性菌感染症、リン菌、髄膜炎菌、緑膿菌、セパシア、レジオネラ、腸内細菌(大腸菌、赤痢、サルモネラ、ビブリオを含む)	2 時間	
		事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間	
	14 病原微生物と感染症(3)	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上
講義		キャンピロバクター、ヘリコバクター(ピロリ菌を含む)、結核菌、放線菌ほか	2 時間		
事後学習		その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
15 病原微生物と感染症(4)	事前学習	教科書を中心に、必要に応じて配付するプリント教材を基に講義する。事前に、教科書の該当ページを熟読しておくこと。	2 時間	川上	
	講義	マイコプラズマ、カンジダ、アスペルギルス、インフルエンザ、ノロウイルスほか	2 時間		
	事後学習	その日の講義内容は、その日のうちに復習すること。また、疑問点は、質問して下さい。そして、その日のうちに理解するように努めてください。	2 時間		
16 定期試験		講義内容についての理解度を評価する。講義全般にわたる事項について満遍なく出題する。なお、記述式設問を含むものとする。		川上	
				総学習時間	90 時間
テキスト			参考書		
『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学』(医学書院)			毎回の配付プリント資料		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
臨床微生物学者として、また感染制御ドクター(I.C.D.; 2020年更新済み)として研究活動を展開し論文を発信してきている。これまでに、長野県新型インフルエンザ対策委員のメンバーとして最前線に立ち、また新型コロナ禍に於いては、新型コロナ講座を開講し正しい知識の普及などに努めてきたが、これらの経験と研究活動を活かして講義する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
なし			時間: 講義終了後 場所: 講師控室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
42	感染看護学	1	15	選択 (救急・災害必修)	講義	2年後期	今井 栄子
科目概要	<p>「感染看護学」は、小児・母性・成人・老年すべての人々、また病院・家庭・地域などの場の特定なく、領域・臨地を横断的に感染予防・防止、感染管理と感染症の看護について学ぶ。臨床では高度先進医療の発展により、易感染患者増大、さらに次々と新興感染症が発見される現代においていかに患者・家族・地域をこれらから守っていくかを考えていくことを学びます。また 医療従事者にとって、感染問題は対患者のみでなく医療従事者本人の問題でもある。「真の看護が感染を問題とするならば、それはただ感染を防止するという点にだけである」感染予防・防止は看護の重要な役割というナイチンゲールの教えを基に、標準予防策・経路別予防策など患者に対してと医療者の感染対策などCDCの感染管理を中心に24時間患者の一番そばにいる看護がどのようにかわることが感染予防・防止につながるかシミュレーションを交えて学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染の予防・防止の重要性が理解できる。</li> <li>2. 感染看護のプロセスとそれぞれの方法がわかる。</li> <li>3. 患者を守ることが、医療従事者をも守ることであるということ理解できる。</li> <li>4. 感染予防・防止の知識と実践へのシミュレーションを理解でき、実施できる。</li> <li>5. 臨地実習で知識を活用できる。</li> </ol>						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		評価項目	配分 %	評価基準	
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	60 %	理解度を評価	
	◎	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	15 %	講義内容の視点を考察できているか	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	15 %	Active Noteの完成度	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	10 %	授業中に発言や質問の頻度と協力体制	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	課題レポート・ゼミナール 復習と課題でフィードバック						
教育内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	オリエンテーション 感染症の看護を学ぶにあたって 感染症とは	事前 学習	教科書p218～p250熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	感染症を持つ患者の姿 あなたを取り巻く感染症 患者の特徴と看護の役割 感染症とは何か他	2 時間		
			事後 学習	p250 ゼミナール 復習と課題	3 時間		
	2	検査・診断・治療	事前 学習	教科書p252～p284熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	感染症診断の原則 検査・診断・治療の流れ	2 時間		
			事後 学習	p268 p284 ゼミナール 復習と課題	2 時間		
	3	疾患の理解 臨床推論	事前 学習	教科書p286～p340熟読して出席	2 時間	今井	
			講義	発熱・不明熱～HIV感染症・日和見感染症/多剤耐性菌感染症 他	2 時間		
			事後 学習	p340 ゼミナール 復習と課題 臨床推論レポート	3 時間		
	4	患者の看護	事前 学習	教科書p342～386熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	感染予防	2 時間		
			事後 学習	F.N レポート提出準備	2 時間		
	5	患者の看護	事前 学習	教科書p342～386熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	症状に対する看護	2 時間		
			事後 学習	講義のまとめ	2 時間		
	6	患者の看護	事前 学習	教科書p342～386熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	検査・治療に対する看護	2 時間		
			事後 学習	講義のまとめ	3 時間		
	7	患者の看護	事前 学習	教科書p342～386熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	疾患を持つ患者の看護: HIV感染症・エイズ患者 敗血症患者・日和見感染症・造血肝細胞移植を受ける患者	2 時間		
			事後 学習	p386 ゼミナール 復習と課題	2 時間		
	8	事例による看護過程の展開	事前 学習	教科書p388～397熟読して出席	1 時間	今井	
			講義	状況のアセスメントをふまえた感染予防策と看護ケア	2 時間		
		事後 学習	看護過程 提出	3 時間			

9	定期試験	試験	総学習時間 45 時間		今井
			テキスト	参考書	
成人看護学11 専門分野 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 ISBN978-4-260-0358-4C3347		なし			
実務経験と授業科目との関連性		履修要件			
大学病院で感染管理経験のある実務経験者が、これから臨床に出る学生に感染管理・感染看護学を通して感染予防・防止の講義を教授する。		なし			
留意事項		オフィスアワー			
救急看護学実習・災害看護学実習 履修希望者は必修 提出物：日時厳守で提出のこと		時間：授業内で伝達 場所：研究室 メール：mjc-e.imai●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
43	看護とリハビリテーション	1	15	必須	講義	1年後期	○野田恭宏/中村良/大久保公貴	
科目概要	リハビリテーションのガロン、及び機能障害の悪化を防ぎ、残存機能の維持や二次的合併症の予防などリハビリテーション看護の概念、対象、方法論を学ぶ。運動器疾患、脳血管疾患、心臓疾患などの具体的な援助事例を通じて、看護過程の展開の要点を学ぶ。							
到達目標	1.リハビリテーション看護を理解出来る。 2.リハビリテーション看護の基本概念である全人的復権の意味が理解できる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	◎	2. 主体的行動力		・定期試験	100 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・授業内の小テスト、課題、レポート		0 %			
	4. 課題発見能力と課題解決力		・事前/事後学習の課題、レポート		0 %			
	5. 看護の知識と看護実践力		・受講時の積極性、態度等		0 %			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		・その他		0 %			
			合計	100 %				
フィードバック	試験終了後1週間以内に定期試験の担当教員にアポイントをとり、口頭またはメールにて模範解答の内容、採点基準の解説を求めることとする							
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員		
	1	リハビリテーションの概念	事前学習 教科書を一読しておくこと。	1 時間	野田			
	講義	定義・歴史・範囲・関連職種役割・障害の捉え方について(ICF)・倫理と法的問題を学ぶ。	2 時間					
	事後学習	講義にて配られた資料を確認する。	2 時間					
	2	医学的リハビリテーションについて	事前学習 教科書を一読しておくこと。	2 時間	野田			
	講義	疾患・病気・年齢によるリハビリテーションの特徴を理解する。	2 時間					
	事後学習	講義にて配られた資料を確認する。	2 時間					
	3	リハビリテーション看護の概念と目的	事前学習 教科書を一読しておくこと。	1 時間	中村			
	講義	リハビリテーション看護について学び、一般の急性期看護との違いを述べることができる。経過別リハビリテーションについて理解出来る。	2 時間					
	事後学習	講義にて配られた資料を確認する。	2 時間					
	4	整形外科・感覚障害疾患のリハビリテーション看護	事前学習 教科書を一読しておくこと。	2 時間	中村			
	講義	整形外科・神経難病患者について、リハビリテーション看護の視点からの対応を理解する。	2 時間					
	事後学習	講義にて配られた資料を確認する。	2 時間					
	5	障害者の心理	事前学習 教科書を一読しておくこと。	2 時間	中村			
	講義	障害者の気持ちや助方法や学び、障がい受容過程に合わせた対応が理解できる。	2 時間					
	事後学習	講義にて配られた資料を確認する。	2 時間					
	6	脳血管疾患患者のリハビリテーション看護	事前学習 教科書を一読しておくこと。	1 時間	大久保			
	講義	高次脳機能障害・失語症を理解することができる。失語症を含む高次脳機能障害患者への援助について理解できる。	2 時間					
	事後学習	講義にて配られた資料を確認する。	2 時間					
	7	日常生活におけるリハビリテーション看護	事前学習 教科書を一読しておくこと。	2 時間	大久保			
	講義	摂食・嚥下障害患者への援助 摂食嚥下機能療法・評価について実習を通じて理解できる。	2 時間					
	事後学習	講義にて配られた資料を確認する。	2 時間					
	8	日常生活におけるリハビリテーション看護と自立支援	事前学習 教科書を一読しておくこと。	2 時間	大久保			
	講義	排泄・更衣・生活の援助について実践を想定した方法を理解する。自立支援について理解を深める。	2 時間					
事後学習	講義にて配られた資料を確認する。	2 時間						

9	定期試験	・筆記試験			中村
			総学習時間	45 時間	
テキスト			参考書		
『成人看護学 リハビリテーション看護論』(ヌーヴェルヒロカワ)			なし		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
リハビリテーション病院における看護師・理学療法士の経験を、日常生活過程を整える看護支援に引き寄せて看護実践に生かせるリハビリテーションを教授する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
なし			時間: 講義終了後 場所: 講師控室 メール: noda.y●km-rehacenter.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
44	疫学	2	30	必修	講義	2年後期	三輪 憲永	
科目概要	本授業では、疫学概念、疫学で用いられる指標、スクリーニング及び疫学研究の方法などについて理解することを目的とする。「科学的根拠に基づく保健・医療(EBM: Evidence-Based Medicine)」を実践するために必要な科学的根拠の多くは、疫学研究の結果から得られる。それぞれの疫学研究方法の特徴と研究から得られるエビデンスの質の違いについて学ぶ。また、個人情報の保護、情報提供者の自由意思に基づく同意(インフォームド・コンセント)などの倫理的な考え方についても学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学指標について理解し、それぞれの指標の特徴について説明することができる。</li> <li>2. 疫学研究手法の全体像を理解し、それぞれの方法の特徴を説明することができる。</li> <li>3. スクリーニングについて理解し、スクリーニング結果について説明することができる。</li> <li>4. 疫学研究の研究者が守るべき倫理について説明することができる。</li> </ol>							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験	100 %		授業全般についての理解度を評価する。			
	2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %					
	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート	0 %					
	4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等	0 %					
	5. 看護の知識と看護実践力	・その他	0 %					
◎ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %						
フィードバック	定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了後、希望する学生に対して三輪研究室にて採点後の答案用紙の閲覧により行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	疫学とは何か	事前学習	教科書の第1章を熟読しておくこと。			2 時間	三輪
			講義	疫学の定義、歴史的な疫学事例、健康の決定要因と社会の健康などについて学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第1章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	2	疫学を理解するための基本	事前学習	教科書の第2章を熟読しておくこと。			2 時間	三輪
			講義	疫学研究の手順、研究課題と仮説の設定、研究対象者の選定、情報収集方法の検討、疫学研究デザイン、因果関係などについて学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第2章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	3	疫学で用いられる指標	事前学習	教科書の第3章を熟読しておくこと。			2 時間	三輪
			講義	頻度を表す指標、関連を表す指標、指標の比較などについて学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第3章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	4	疫学研究デザイン①	事前学習	教科書の第4章-1、第4章-2、第4章-3を熟読しておくこと。			2 時間	三輪
			講義	記述疫学、生態学的研究、横断研究について学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章-1、第4章-2、第4章-3を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	5	疫学研究デザイン②	事前学習	教科書の第4章-4、第4章-5を熟読しておくこと。			2 時間	三輪
			講義	症例対照研究、コホート研究について学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章-4、第4章-5を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	6	疫学研究デザイン③	事前学習	教科書の第4章-6を熟読しておくこと。			2 時間	三輪
			講義	介入研究(ランダム化比較試験)について学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章-6を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	7	疫学研究デザイン④	事前学習	教科書の第4章-7、第5章を熟読しておくこと。			2 時間	三輪
			講義	介入研究(非ランダム化比較試験)、システマティックレビューについて学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章-7、第5章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	8	バイアスと交絡 スクリーニング	事前学習	教科書の第6章、第7章を熟読しておくこと。			2 時間	三輪
			講義	バイアスと交絡、スクリーニング検査の定義、目的、有効性および情報収集方法などについて学ぶ。			2 時間	
事後学習			授業時に配布したプリントおよび教科書の第6章、第7章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間		

教育内容	9 情報収集方法	事前学習	教科書の第8章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	情報の種類(一次情報と二次情報)、調査票などによる調査方法などについて学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第8章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	10 情報処理	事前学習	教科書の第9章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	情報処理の基礎、情報セキュリティ、文献検索の方法などについて学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第9章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	11 疫学で用いられる統計学的方法とその解釈①	事前学習	教科書の第10章のA、第10章のBを熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	母集団と標本、疫学データの性質と要約、推定と検定などについて学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第10章のA、第10章のBを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	12 疫学で用いられる統計学的方法とその解釈②	事前学習	教科書の第10章のC、第10章のD、第10章のE、第10章のFを熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	2種類のデータの関連、欠損値の処理方法、図の種類と使い分け、重回帰分析、多重ロジスティック解析などについて学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第10章のC、第10章のD、第10章のE、第10章のFを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	13 生命表 保健統計調査 診療関連データベース	事前学習	教科書の第11章、第12章、第13章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	生命関数表、人口・保健統計調査、二次利用可能な診療関連データベース、レセプトデータなどについて学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第11章、第12章、第13章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	14 疫学研究と倫理	事前学習	教科書の第14章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪
講義		研究者が守るべき基本原則、「人を対象とする生命科学・医学研究に関する倫理指針」、個人情報の保護、インフォームド・コンセント、研究不正、利益相反などについて学ぶ。	2 時間		
事後学習		授業時に配布したプリントおよび教科書の第14章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間		
15 まとめ	事前学習	1回目から14回目までの授業で配布したプリントの内容を確認しておくこと。	2 時間	三輪	
	講義	疫学で学んだ内容について、総合的に理解する。	2 時間		
	事後学習	教科書第1章～第14章および1回目から14回目までの授業で配布したプリントの内容を総合的に理解しておくこと。	2 時間		
16 定期試験	筆記試験			三輪	
				総学習時間	90 時間
テキスト			参考書		
・一般社団法人日本疫学会監修『はじめて学ぶやさしい疫学』(南江堂)			なし		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
公衆衛生行政の中での経験や活動、また感染症流行予測調査やスクリーニング検査の経験と活動を活かし、疫学的手法などについて講義する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
配布資料は、授業開始前に教室外の廊下または教室内の最前列の机の上に置きます。各自で取ってください。			時間:毎週水曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所:三輪研究室 メール:n.miwa●matsutan.ac.jp		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
45	公衆衛生学	1	15	必修	講義	1年後期	三輪 憲永	
科目概要	本授業では、公衆衛生活動の歴史と変遷及び現状について学び、実際に社会的組織活動を通してどのように公衆衛生活動が行われているか理解することを目的とする。「衛生」の「生」は生命であり、「衛」はそれを守るという意味である。「公衆」即ち、社会集団として生活する人々の寿命を延ばし、肉体的及び精神的に健康状態保持の方策を考えるための基礎的知識を習得する。予防医学と健康増進、感染症や生活習慣病などの予防対策、環境衛生、労働衛生、各種の保健活動などについて学び、公衆衛生活動について総合的に理解する。							
到達目標	1.公衆衛生活動の歴史と変遷及び現在の公衆衛生活動について説明することができる。 2.予防医学や健康増進について説明することができる。 3.最近問題となっている主な疾病の予防対策について説明することができる。 4.種々の保健活動について、それぞれ具体的に説明することができる。							
DP との対応		ディプロマ・ポリシー			評価項目		配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成	・定期試験	100 %	授業全般についての理解度を評価する。		
	○	2. 主体的行動力	績	・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %			
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力	評	・事前/事後学習の課題、レポート	0 %			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力	価	・受講時の積極性、態度等	0 %			
	◎	5. 看護の知識と看護実践力	方	・その他	0 %			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	法	合計	100 %			
フィードバック	定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了後、希望する学生に対して三輪研究室にて採点后の答案用紙の閲覧により行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	公衆衛生学序論、保健統計と疫学	事前学習	教科書のChapter 1を熟読しておくこと。	1.5 時間	三輪		
			講義	健康の定義、公衆衛生の歴史、公衆衛生活動、健康指標、人口統計などについて学ぶ。	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書のChapter 1を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間			
	2	疾病予防と健康管理	事前学習	教科書のChapter 2およびChapter 4を熟読しておくこと。	1.5 時間	三輪		
			講義	疾病と予防医学、健康管理と健康増進などについて学ぶ。	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書のChapter 2およびChapter 4を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間			
	3	主な疾病の予防①	事前学習	教科書のChapter 5のうち、5-1および5-2を熟読しておくこと。	1.5 時間	三輪		
			講義	感染症及び循環器系疾患について学ぶ。	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書のChapter 5(5-1および5-2)を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間			
	4	主な疾病の予防②	事前学習	教科書のChapter 5のうち、5-3から5-5を熟読しておくこと。	1.5 時間	三輪		
			講義	糖尿病、脂質異常症、がん、腎疾患について学ぶ。	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書のChapter 5(5-3から5-5)を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間			
	5	環境保健	事前学習	教科書のChapter 6を熟読しておくこと。	1.5 時間	三輪		
			講義	環境と生態系、ヒトに影響を与える環境要因、大気と水の衛生、環境保全などについて学ぶ。	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書のChapter 6を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間			
	6	保健行政①	事前学習	教科書のChapter 7、Chapter 8およびChapter 9を熟読しておくこと。	1.5 時間	三輪		
			講義	地域保健、母子保健、学校保健について学ぶ。	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書のChapter 7、Chapter 8およびChapter 9を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間			
	7	保健行政②	事前学習	教科書のChapter 10、Chapter 11、Chapter 12およびChapter 13を熟読しておくこと。	2 時間	三輪		
			講義	産業保健、高齢者保健、精神保健、国際保健について学ぶ。	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書のChapter 10、Chapter 11、Chapter 12およびChapter 13を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間			
	8	まとめ	事前学習	1回目から7回目までの授業で配布したプリントの内容を確認しておくこと。	2 時間	三輪		
			講義	公衆衛生学で学んだ内容について、総合的に理解する。	2 時間			
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の内容を総合的に理解すること。	2 時間				

9	定期試験	筆記試験	三輪
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
監修 小山洋『シンプル衛生公衆衛生学』(南江堂)		なし	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
保健所、地方衛生研究所などに勤務し、公衆衛生行政に従事した経験を活かし、公衆衛生活動の概要などについて講義する。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
配布資料は、授業開始前に教室外の廊下または教室内の最前列の机の上に置きます。各自で取ってください。		時間: 毎週水曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所: 三輪研究室 メール: n.miwa●matsutan.ac.jp	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
46	保健・医療・福祉行政論	2	30	選択 (保健師必修)	講義	3年後期	○三輪憲永/原岡智子 五十嵐佳寿美
科目概要	本授業では、日本の保健医療福祉に関連する行政の仕組みと役割及び財政的な裏付け、行政における保健師の役割、諸外国における保健医療福祉の課題と日本の国際協力などについて学ぶ。また、地域の健康課題の背景を分析し、課題を明確にして問題を解決するための方法、さらには事業化と施策化へのプロセスについて学ぶ。						
到達目標	1.保健・医療・福祉行政の仕組みと役割について説明することができる。 2.保健・医療・福祉行政の財政的な裏付けについて説明することができる。 3.地域保健の体系と保健師の役割について説明することができる。 4.地域の健康課題の背景を分析し、課題を解決するための事業を立案することができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	90 %	授業全般についての理解度を評価する。		
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %			
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %			
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	10 %	課題発表で内容と態度を評価する		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了後、希望する学生に対して三輪研究室にて採点後の答案用紙の閲覧により行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	保健医療福祉行政の基本	事前学習 教科書の第1章を熟読しておくこと。	2 時間	三輪		
	講義	保健医療福祉行政の根拠及び基本となる考え方について学ぶ。	2 時間				
	事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第1章を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間				
	2	公衆衛生の基盤形成	事前学習 教科書の第2章のAを熟読しておくこと。	2 時間	三輪		
	講義	公衆衛生の基盤形成と近年の公衆衛生施策の発展について学ぶ。	2 時間				
	事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第2章のAを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間				
	3	保健医療福祉行政の動向①	事前学習 教科書の第2章のB(p.35-44)を熟読しておくこと。	2 時間	三輪		
	講義	地域保健法・少子化対策・生活習慣病対策・母子保健対策・児童虐待防止対策・障害者(児)支援対策について学ぶ。	2 時間				
	事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第2章のB(p.35-44)を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間				
	4	保健医療福祉行政の動向②	事前学習 教科書の第2章のB(p.45-59)を熟読しておくこと。	2 時間	三輪		
	講義	高齢者保健対策・認知症対策・精神保健対策・自殺対策・依存症対策・歯科口腔保健対策・感染症対策・がん対策・難病対策・災害対策について学ぶ。	2 時間				
	事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第2章のB(p.45-59)を確認し、理解を深めておくこと。	2 時間				
	5	行政のしくみと役割	事前学習 教科書の第3章のAを熟読しておくこと。	2 時間	三輪		
	講義	国・都道府県・市町村のしくみと役割および公衆衛生行政について学ぶ。	2 時間				
	事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第3章のAを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間				
	6	行政における保健師の役割と活動	事前学習 教科書の第3章のBを熟読しておくこと。	2 時間	三輪		
	講義	行政における保健師の配置、活動体制、保健師活動指針について学ぶ。	2 時間				
	事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第3章のBを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間				
	7	保健医療福祉の財政	事前学習 教科書の第3章のCを熟読しておくこと。	2 時間	三輪		
	講義	国と地方公共団体の財政のしくみ、予算の機能と原則等について学ぶ。	2 時間				
	事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第3章のCを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間				
	8	公衆衛生に関する国際的な活動	事前学習 教科書の第3章のDを熟読しておくこと。	2 時間	三輪		
	講義	国際保健、保健医療分野の国際協力、国際保健に関する主な国際機関等について学ぶ。	2 時間				
事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第3章のDを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間					

教育内容	9 地域保健における公的機関①	事前学習	教科書の第4章のAを熟読してくる。	2 時間	三輪
		講義	地域保健体系における都道府県と市町村の役割、保健所について学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章のAを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	10 地域保健における公的機関②	事前学習	教科書の第4章のBを熟読してくる。	2 時間	三輪
		講義	市町村保健センター、関係する他機関との連携について学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章のBを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	11 保健計画策定のプロセス	事前学習	教科書の第6章のBを熟読してくる。	2 時間	三輪
		講義	保健計画を策定する場合に必要な要件およびプロセス等について学ぶ。	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第6章のBを確認し、理解を深めておくこと。	2 時間	
	12 まとめ	事前学習	1回目から11回目までの授業で配布したプリントの内容を確認しておくこと。	2 時間	三輪
		講義	第1回から第11回までのまとめ	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の内容を総合的に理解すること。	2 時間	
	13 事業化の実際①	事前学習	教科書2のP110～P129、P174～P184を熟読してくる。	2 時間	原岡/五十嵐
		講義	地域診断からの課題の抽出と対策の検討・決定	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間	
	14 事業化の実際②	事前学習	教科書2のP164～P173を熟読してくる。	2 時間	原岡/五十嵐
		講義	対策から事業化に向けての計画立案、実施、評価	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間	
15 施策化の実際	事前学習	提出された課題に取り組んでくること	2 時間	原岡/五十嵐	
	講義	事業化から施策化のプロセス	2 時間		
	事後学習	全グループの発表・評価からと、これまでのプリントや教科書を読み返し理解を深める。	2 時間		
16 定期試験		筆記試験		三輪	

総学習時間 90 時間

テキスト	参考書
藤内修二ほか著「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」医学書院 2. 標美奈子他「標準保健師講座(1)公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院	なし
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
地方自治体の公衆衛生行政に従事した経験と活動を活かし、保健衛生行政などについて講義する。	なし
留意事項	オフィスアワー
公衆衛生看護学実習 I (保健師課程)を選択する人は受講してください。	時間:毎週水曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所:三輪研究室、原岡研究室 三輪メール:n.miwa●matsutan.ac.jp 原岡メール:t.haraoka●matsutan.ac.jp 五十嵐メール:mjc-k.igarashi●matsutan.ac.jp

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
47	社会保障制度	1	15	必修	講義	1年後期	三輪 憲永	
科目概要	本授業では、社会保障制度の体系と内容について学び、これらの制度を維持するための法律や規則、行政のしくみと取り組みについて理解することを目的とする。日本国憲法第25条では、国民には生存権があり、国には国民の生活保障に対する義務があることが示されている。社会保障は、国民が生活していくうえで、個人や家族の努力だけでは対応が困難な状況に対し、憲法第25条に規定された最低水準の生活を保障する公的な制度である。社会保障制度の歴史と展開、社会保障制度の現状について学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障の体系と内容について説明することができる。</li> <li>2. 医療保障について学び、健康保険、高齢者医療制度、財政などについて説明することができる。</li> <li>3. 介護保障について学び、介護保険、財政などについて説明することができる。</li> <li>4. 所得保障について学び、年金保険制度、労働保険制度、財政などについて説明することができる。</li> <li>5. 公的扶助及び社会福祉サービスについて説明することができる。</li> </ol>							
DP との対応		ディプロマ・ポリシー			評価項目	配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価方法	・定期試験	100 %	授業全般についての理解度を評価する。		
	◎	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %			
	◎	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %			
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %			
フィードバック	定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了後、希望する学生に対して三輪研究室にて採点後の答案用紙の閲覧により行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	社会保障と社会福祉	事前学習	教科書の第1章を熟読しておくこと。			1.5 時間	三輪
			講義	社会保障の体系と内容、社会福祉の内容と法制度について学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第1章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	2	社会保障・社会福祉の動向	事前学習	教科書の第2章を熟読しておくこと。			1.5 時間	三輪
			講義	社会保障・社会福祉の現状について学び、社会の変化に対応可能な社会保障・社会福祉について考える。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第2章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	3	医療保障	事前学習	教科書の第3章を熟読しておくこと。			2 時間	三輪
			講義	健康保険、保険診療、高齢者医療制度、国民医療費などについて学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第3章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	4	介護保障	事前学習	教科書の第4章を熟読しておくこと。			2 時間	三輪
			講義	介護保険制度、保険給付、介護保険の財政などについて学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	5	所得保障	事前学習	教科書の第5章を熟読しておくこと。			1.5 時間	三輪
			講義	所得保障制度のしくみ、年金保険制度、労働保険制度、社会手当などについて学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第5章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	6	公的扶助	事前学習	教科書の第6章を熟読しておくこと。			1.5 時間	三輪
			講義	生活保護制度、低所得者対策などについて学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第6章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	7	社会福祉サービス	事前学習	教科書の第7章を熟読しておくこと。			1.5 時間	三輪
			講義	高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、少子化対策などについて学ぶ。			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第7章を確認し、理解を深めておくこと。			2 時間	
	8	まとめ	事前学習	1回目から7回目までの授業で配布したプリントの内容を確認しておくこと。			1.5 時間	三輪
			講義	社会保障制度で学んだ内容について、総合的に理解する。			2 時間	
事後学習			授業時に配布したプリントおよび教科書の内容を総合的に理解すること。			2 時間		

9	定期試験	筆記試験	総学習時間	45 時間	三輪
テキスト			参考書		
・福田素生ほか著『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉』(医学書院)			なし		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
該当せず			なし		
留意事項			オフィスアワー		
配布資料は、授業開始前に教室外の廊下または教室内の最前列の机の上に置きます。各自で取ってください。			時間:毎週水曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所:三輪研究室		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
48	衛生関係法規	1	15	必修	講義	2年後期	三輪 憲永
科目概要	本授業では、法とは何かを知るために、法の概念及び一般的・基本的事項について学んだ上で、衛生関係法規の全体像について理解することを目的とする。衛生関係法規は、国民の生命や生活を守り、健康を増進することを目的とした、日本の保健・医療・福祉行政に関する諸制度を規定している関連法規であり、看護に携わる者が、国民の生命や生活を守り、健康を増進するためには、衛生関係法規の理解が必要不可欠である。衛生関係法規の全体像を理解し、他の職種と連携して保健・医療・福祉活動を実施するための基礎的な知識を修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法の種類、概念及び一般的・基本的事項について説明することができる。</li> <li>2. 衛生関係法規、厚生行政のしくみについて説明することができる。</li> <li>3. 看護師あるいは保健師として働くために必要な法の内容について説明することができる。</li> <li>4. 衛生関係法規の全体像を理解し、他の職種と連携して保健・医療・福祉活動を実施することができる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験		100 %	授業全般についての理解度を評価する。	
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート		0 %		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート		0 %		
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等		0 %		
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他		0 %		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了後、希望する学生に対して三輪研究室にて採点後の答案用紙の閲覧により行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	法 の 概念	事前 学習	教科書の第1章を熟読しておくこと。		1.5 時間	三輪
			講義	法の種類、衛生法規の分類、厚生行政の仕組みについて学ぶ。		2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第1章を確認し、理解を深めておくこと。		2 時間	
	2	看護 関連法①	事前 学習	教科書の第2章のA(1~4)を熟読しておくこと。		2 時間	三輪
			講義	保健師助産師看護師法の構造と付随法令、目的、言葉の定義、保健師助産師看護師法に規定された免許などについて学ぶ。		2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第2章のA(1~4)を確認し、理解を深めておくこと。		2 時間	
	3	看護 関連法②	事前 学習	教科書の第2章のA(5~12)、第2章のBを熟読しておくこと。		2 時間	三輪
			講義	保健師助産師看護師法に規定された免許、試験、業務、研修、義務、罰則、医療過誤などについて学ぶ。		2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第2章のA(5~12)、第2章のBを確認し、理解を深めておくこと。		2 時間	
	4	医 事 法	事前 学習	教科書の第3章を熟読しておくこと。		1.5 時間	三輪
			講義	医療法、医療関係資格法、保健医療福祉資格法、医療を支える法について学ぶ。		2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第3章を確認し、理解を深めておくこと。		2 時間	
	5	保 健 衛 生 法①	事前 学習	教科書の第4章のA、第4章のB(1~2)を熟読しておくこと。		1.5 時間	三輪
			講義	地域保健、健康増進、精神保健、母子保健、学校保健に関する法について学ぶ。		2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章のA、第4章のB(1~2)を確認し、理解を深めておくこと。		2 時間	
	6	保 健 衛 生 法②	事前 学習	教科書の第4章のB(3~4)、第4章のC、第4章のD、第4章のEを熟読しておくこと。		1.5 時間	三輪
			講義	母体の保護、個別の疾病対策、感染症、食品、環境衛生に関する法について学ぶ。		2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第4章のB(3~4)、第4章のC、第4章のD、第4章のEを確認し、理解を深めておくこと。		2 時間	
	7	薬 務 法	事前 学習	教科書の第5章を熟読しておくこと。		1.5 時間	三輪
			講義	薬事一般、麻薬・毒物などに関する法について学ぶ。		2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の第5章を確認し、理解を深めておくこと。		2 時間	
	8	ま と め	事前 学習	1回目から7回目までの授業で配布したプリントの内容を確認しておくこと。		1.5 時間	三輪
			講義	衛生関係法規で学んだ内容について、総合的に理解する。		2 時間	
事後 学習			授業時に配布したプリントおよび教科書の内容を総合的に理解すること。		2 時間		

9	定期試験	筆記試験	三輪
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
・森山幹夫著『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令』(医学書院)		なし	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
地方自治体の職員として、法令に従って衛生関係行政を行った経験を基に、衛生関係法規の全体像について講義する。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
配布資料は、授業開始前に教室外の廊下または教室内の最前列の机の上に置きます。各自で取ってください。		時間: 毎週水曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所: 三輪研究室 メール: n.miwa●matsutan.ac.jp	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
49	保健統計学 I (基礎)	1	15	必修	講義	2年前期	高下 梓
科目概要	集団の健康に関する特徴を把握するために用いられる人口統計や、代表的な保健・医療に関わる指標を解説するとともに、基幹的な保健統計調査の基本と動向を理解する。また、根拠に基づく看護研究の理解と実施に必要な文献検索の方法と、基本的な統計手法を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人口統計の基本と測定尺度、主要健康指標の意味、算出方法、その動向を説明できる。</li> <li>2. 保健・医療・福祉に関する基本的統計や指標について説明できる。</li> <li>3. 研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言等の文献の検索方法を理解し、実践できる。</li> <li>4. 基礎的な統計的方法を用いた適切な図表の選択・作成、研究報告の統計分析結果の解釈ができる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	◎ ○ ○	◎ ○ ○	◎ ○ ○	・定期試験	60 %	授業内容の理解度を評価する。
	2. 主体的行動力				・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	小テストは第4・8回に実施し、授業内容の理解度を評価する。
	3. 地域貢献力と多職種連携能力				・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	事後学修課題の提出状況を評価する。
	4. 課題発見能力と課題解決力				・受講時の積極性、態度等	0 %	
	5. 看護の知識と看護実践力				合計	100 %	
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力							
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト(計2回実施)は、小テスト終了後(授業時間内)に正答解説および正答率に関するフィードバックを行う。</li> <li>・期末試験は、問題用紙に記点を明記するとともに、全履修者の試験終了から1週間後より、研究室で正答を閲覧・確認できるようにする。</li> </ul>						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	人口統計	事前学習	シラバスを読む。テキストp.111～149を読む。	2 時間	高下	
	講義	人口動態統計、人口動態統計、主な健康指標の概要と動向を理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習する。看護師国家試験の過去問題に取り組む。	1.5 時間				
	2	保健統計調査	事前学習	テキストp.150～162を読む。	1.5 時間	高下	
	講義	保健統計調査のうち、基幹統計の概要と動向を理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習する。看護師国家試験の過去問題に取り組む。	2.5 時間				
	3	障害・疾病の定義と分類 情報処理	事前学習	テキストp.180～191を読む。	1 時間	高下	
	講義	疾病・障害の定義と分類や、情報処理の基礎(データの電子化、レコードリンク等)について理解する。文献検索の方法を学び、実践する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第4回実施の小テストに向けて復習する。	1.5 時間				
	4	データの種類と代表値 表と図の利用	事前学習	テキストp.12～40を読む。	2 時間	高下	
	講義	データの性質、代表値・散布度、主な図表の特徴について理解する。サンプルデータを用いた簡単な計算や作図・作表を実践する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、第5回実施の小テストに向けて復習する。	1.5 時間				
	5	代表的な確率分布 推測統計学の枠組み	事前学習	テキストp.42～52、p.69～80を読む。	1.5 時間	高下	
	講義	二項分布、正規分布をはじめとする代表的な確率分布について理解する。点推定と区間推定、帰無仮説と統計学的有意性の概念を理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習し、疑問点等がある場合は補修(別日程)に参加する。	1.5 時間				
	6	関係の分析	事前学習	テキストp.53～68、103～110を読む。	1.5 時間	高下	
	講義	カイ二乗検定、相関、回帰の特徴と結果の読み取り方を理解する。	2 時間				
	事後学習	本時に学んだ内容を復習し、疑問点等がある場合は補修(別日程)に参加する。	1.5 時間				
	7	差の分析	事前学習	テキストp.81～94を読む。	1.5 時間	高下	
	講義	t検定と分散分析の特徴と結果の読み取り方を理解する。	2 時間				
	事後学習	本時の内容と第8回小テストに向けた復習をし、疑問点等がある場合は補修(別日程)に参加する。	2 時間				
	8	様々な統計分析	事前学習	テキストp.95～102を読む。これまでの授業資料を整理し、不明点がないか確認する。	2 時間	高下	
	講義	データの種類や分析目的に応じた様々な検定方法について理解する。	2 時間				
事後学習	本時の内容を復習し、疑問点等がある場合は補修(別日程)に参加する。期末試験に向けて全内容を復習する。	4 時間					

9	定期試験	記述式(マークシート方式、一部自由記述)で、授業の内容全般についての理解度を評価する。	高下	総学習時間	45	時間
テキスト			参考書			
『ていねいな保健統計学 第2版』(羊土社)			『標準保健師講座 疫学・保健統計学』(医学書院)			
実務経験と授業科目との関連性			履修要件			
心理検査の作成や自治体による大規模調査の集計に携わった経験と活動を活かし、保健統計の基礎について指導する。			なし			
留意事項			オフィスアワー			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認、小テスト、授業内に課す小課題等にMicrosoft Formsを利用します。スマートフォンを持参して送信できるようにしてください。</li> <li>・授業内容によっては、パソコンを使用します。</li> <li>・Excelを用いた分析を習得したい人は保健統計学Ⅱ(応用)も履修してください。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前・後の時間帯(講義教室)</li> <li>・金曜日(研究室)</li> <li>・担当教員の連絡先メールアドレスは、授業時に周知する。</li> </ul>			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
50	保健統計学Ⅱ(応用)	1	15	選択 (保健師必修)	講義	2年後期	高下 梓	
科目概要	地域の健康課題を把握するために用いられる基礎的な保健統計調査と医療経済統計情報の基本と動向を理解する。また、公衆衛生看護活動に必要な情報の収集方法と、データの分析・解釈および結果のまとめ方を習得する。							
到達目標	1. 地域の保健・医療・福祉・健康に関する情報、指標について説明できる。 2. 公衆衛生上の特性の記述や評価の際に、情報を取り扱う基礎技術、主要統計、既存資料を活用できる。 3. 基礎的な統計的方法を用いた適切な図表の選択・作成、分析の実施、分析結果の解釈ができる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	定期試験			60 %	授業内容の理解度を評価する。		
	2. 主体的行動力	授業内の小テスト、課題、レポート			20 %	課題の提出状況およびExcelによる集計・分析の達成度を評価する。		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力	事前/事後学習の課題、レポート			20 %			
	◎ 4. 課題発見能力と課題解決力	受講時の積極性、態度等			0 %			
	○ 5. 看護の知識と看護実践力	合計			100 %			
○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力								
フィードバック	・事後学修課題は、看護師国家試験過去問題の正答および正答率や、Excelによる集計・分析の正答例を提出期限終了後の授業時に周知する。 ・期末試験は、問題用紙に記点を明記するとともに、全履修者の試験終了から1週間後より、研究室で正答を閲覧・確認できるようにする。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	保健統計調査 医療経済統計	事前 学習	シラバスを読み、授業内容や留意点等を理解する。参考書(前期「保健統計学Ⅰ」テキスト)のp.163~179を読む。		1 時間	高下	
	講義	基幹統計以外の基礎的な統計調査に関する概要と動向を理解する。医療経済統計の基本と動向を理解する。			2 時間			
	事後 学習	本時に学んだ内容を復習するとともに、看護師・保健師国家試験の過去問題に取り組む。		2 時間				
	2	測定と尺度 適切な図表の作成と活用	事前 学習	保健統計学Ⅰの第4回「表と図の利用」の内容を復習する。		1 時間	高下	
	講義	健康評価尺度、心理発達尺度等の概要と性質について理解する。目的に合わせた情報の収集方法や図表の作成方法を確認し、サンプルデータをもとに実践する。			2 時間			
	事後 学習	本時に学んだ内容を復習し、看護師・保健師国家試験の過去問題に取り組む。		2 時間				
	3	保健統計調査結果の活用	事前 学習	前回の内容および保健統計学Ⅰの第4回「表と図の利用」の内容を復習する。		1 時間	高下	
	講義	保健統計調査結果の活用と、適切な図表の作成を学ぶ。また、その図表をどのような場面で使うかを考える。			2 時間			
	事後 学習	本時の内容を復習をする。図表の作成課題に取り組む。		2 時間				
	4	カイニ乗検定(1)	事前 学習	保健統計学Ⅰの第6回「カイニ乗検定」の内容を復習する。		1 時間	高下	
	講義	サンプルデータを用いてカイニ乗検定の前段階としてクロス集計を行うとともに、カイニ乗検定の行い方を学ぶ。			2 時間			
	事後 学習	本時に学んだ内容を復習する。クロス集計表の作成課題に取り組む。		2 時間				
	5	カイニ乗検定(2)	事前 学習	保健統計学Ⅰの第6回「カイニ乗検定」、第5回「推測統計学の枠組み」を復習する。		1 時間	高下	
	講義	サンプルデータを用いてカイニ乗検定を行い、分析結果の解釈と記述方法を理解する。			2 時間			
	事後 学習	本時の内容を復習し、カイニ乗検定の分析課題に取り組む。疑問点等がある場合は補修(別日程)に参加する。		2 時間				
	6	相関	事前 学習	保健統計学Ⅰの第6回「相関」の内容を復習する。		1 時間	高下	
	講義	サンプルデータを用いて相関分析および無相関検定を行い、分析結果の解釈と記述方法を理解する。			2 時間			
	事後 学習	本時の内容を復習し、相関の分析課題に取り組む。疑問点等がある場合は補修(別日程)に参加する。		2 時間				
	7	t検定(1)	事前 学習	保健統計学Ⅰの第7回「t検定」の内容を復習する。		2 時間	高下	
	講義	サンプルデータを用いてF検定・t検定(対応のないt検定)を行い、分析結果の解釈と記述方法を理解する。			2 時間			
	事後 学習	本時の内容を復習し、t検定の分析課題に取り組む。疑問点等がある場合は補修(別日程)に参加する。		2 時間				
	8	t検定(2)、分散分析	事前 学習	これまでのすべての授業資料を整理し、不明点がないか確認する。		2 時間	高下	
	講義	対応のあるt検定と分散分析の分析方法を確認する。			2 時間			
事後 学習	本時の内容を復習するとともに、期末試験に向けた総復習を行う。疑問点等がある場合は補修(別日程)に参加する。		5 時間					

9	定期試験	記述式(マークシート方式、一部自由記述)で、授業の内容全般についての理解度を評価する。	高下	総学習時間	45	時間
				テキスト		参考書
		『ツールとしての統計分析-Excelの基本のデータ入力・集計分析まで』(オーム社)	『ていねいな保健統計学 第2版』(羊土社)			
		実務経験と授業科目との関連性	履修要件			
		心理検査の作成や自治体による大規模調査の集計に携わった経験と活動を活かし、保健統計の応用について指導する。	なし			
		留意事項	オフィスアワー			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認、小テスト、授業内に課す小課題等にMicrosoft Formsを利用します。スマートフォンを持参して送信できるようにしてください。</li> <li>・授業内容によっては、パソコンを使用します。</li> <li>・公衆衛生看護学実習 I (保健師課程)を選択する人は受講してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前・後の時間帯(講義教室)</li> <li>・金曜昼(研究室)</li> <li>・担当教員の連絡先メールアドレスは、授業時に周知する。</li> </ul>			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
51	看護援助的関係論	1	15	選択	講義	1年後期	○金子潔子/藤川君江
科目概要	看護の基本をなす対象との援助的人間関係の形成についての理解を深めるとともに、自分自身について振り返り、自己理解と他者理解を通し、援助的人間関係のあり方について学ぶ。プロセスレコードを読み返すことによって、看護師は、患者と向き合った場面で自分のなかに生じた思いと、表現された言葉との不一致を自覚することができる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人関係形成における自己の傾向について述べるができる</li> <li>2. 援助関係の形成に必要なコミュニケーションについて説明ができる。</li> <li>3. 自己理解、自己分析の意義・方法について説明ができる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	◎	◎	◎	・事前/事後学習の課題、レポート	80 %	目指す看護師像について、を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。
	2. 主体的行動力				・授業内的小テスト、課題、レポート	15 %	与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。
	3. 地域貢献力と多職種連携能力				・受講時の積極性、態度等	5 %	授業中の発言や質問の頻度を評価する。
	4. 課題発見能力と課題解決力				合計	100 %	
	5. 看護の知識と看護実践力						
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力							
フィードバック	授業内に課したレポートのフィードバックは、次回の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。						
教育 内容	1	授業ガイダンス	事前学習	最近の医療・福祉に関するニュースで関心のある事柄について自分の考えをまとめる。	1 時間	金子	
			講義	看護ケアの提供者は人間観をどのようにすればよいのか。自己紹介	2 時間		
	事後学習		本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間			
	2	看護における人間関係	事前学習	保健医療チームのメンバーについて調べる	2 時間	藤川	
			講義	保健医療チームとはどのような性格をもつものかを考察し、保健医療チームにおけるチームワークを促進を考える。	2 時間		
			事後学習	本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間		
	3	家族の人間関係と看護師の関わり	事前学習	現代社会の家族関係について調べる。	2 時間	金子	
			講義	家族関係論と看護ケアの視点	2 時間		
			事後学習	本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間		
	4	地域社会での人間関係	事前学習	自分の住み地域のサービスについて調べる。	2 時間	藤川	
			講義	地域の中で人間関係の力を理解する。地域(コミュニティ)や社会の力について理解する。	2 時間		
			事後学習	本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間		
	5	自己分析人間関係論	事前学習	自己概念について調べる。	2 時間	藤川	
			講義	自己をどのように認識し、どのように発達しているのか、その過程で人間関係はどのような影響を持つのか理解する。	2 時間		
			事後学習	本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間		
	6	人間について考える(1)	事前学習	エリクソンの発達課題について調べる。	2 時間	金子	
			講義	人は終末期にどのような看護的援助を望むのか	2 時間		
			事後学習	本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間		
	7	人間について考える(2)	事前学習	看護倫理の資料を事前に配布するので熟読し感想を書く。	2 時間	金子	
			講義	看護と看護倫理について	2 時間		
			事後学習	本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間		
	8	援助的関係論のまとめ	事前学習	今までの授業資料を熟読する。	1 時間	金子/藤川	
			講義	授業を聞いて、自分はどんな看護師になりたいか発表する。	2 時間		
			事後学習	自分の考える理想の看護師についてまとめる。	1 時間		

9	定期試験	レポート試験	金子
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
指定なし		精神看護学1 ころの健康と地域包括ケア・萱間真美、稲垣中他・南江堂・2022年	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
看護師として、総合病院と単科の精神科病院で20年以上の経験があり、その経験を活かして、看護援助的関係論を教授する。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
受講上の注意点、30分以上の遅刻は欠席となります。単位認定試験を受けられるのは授業3分の2以上の出席が必要です。授業中はスマートフォンの電源を切るかマナーモードにして鞆の中に仕舞うこと。積極的に授業に参加し、私語は厳禁とする。		時間：水曜日の12時～15時 場所：藤川研究室 藤川メール：k.fujikawa●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
52	看護学概論	2	30	必修	講義	1年前期	○金子潔子/伊藤寿満子	
科目概要	WHOをはじめとするさまざまな健康の概念の変容をふまえ、看護とは何かを理解する。看護活動の場の拡大と多職種との連携の中で看護職の役割の明確化、生活の場の多様性と生活者としての捉え方、地域包括システムと看護の役割、主な理論と事例に触れながら「看護とは」を明確にし、看護職を目指すことへの誇りと看護に対する興味関心の深化を図る。							
到達目標	1. 看護学のイントロダクションの科目として、看護学を学ぶ目的や看護の概要を理解する。 2. 看護学における目的論・対象論・方法論について学び、「看護とは何か」を追究するための、基本的概念や理論、看護の変遷等の理解を深める。 3. 社会における看護の重要性と専門職者としての自己の成長を希求できる。							
DP との対応		ディプロマ・ポリシー			評価項目	配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	80 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。		
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %			
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	「看護覚え書き」についての課題、レポートを評価する。		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(グループワークの成果)	0 %			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	・事前/事後学習で課した課題、レポートについては、コメントを入れて返却する事でフィードバックを行う。 ・グループワークの成果物に対してはコメントを入れて返却することでフィードバックを行う。 ・定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了後3日目を以降10日目までの間、金子研究室にて採点基準の解説を通じて行う。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	看護学とは何か	事前学習				0 時間	金子
			講義	授業ガイダンス 看護学における基礎看護学の意義と位置づけ			2 時間	
			事後学習	配布資料を見直す。			2 時間	
	2	看護の歴史	事前学習	教科書p10-20 『看護覚え書』p13-20を熟読する			3 時間	金子
			講義	看護が専門職として発展した経緯 ナイチンゲールの功績と看護			2 時間	
			事後学習	配布された資料、教科書p10-20 を復習し看護の歴史について考える。			2 時間	
	3	看護の概念1	事前学習	教科書p20-36 『看護覚え書』を熟読する			3 時間	金子
			講義	看護の定義(主な看護の理論家+ナイチンゲールの看護の考えから「看護とは何か」を考える。			2 時間	
			事後学習	配布された資料と照らし合わせながら、教科書p20-36 『看護覚え書』を読み直す。			2 時間	
	4	看護の概念2	事前学習	『看護の基本となるもの』を熟読する			3 時間	金子
			講義	教科書p20-36 看護の定義(主な看護の理論家:ハンダーソンの看護の考えから「看護とは何か」を考える。			2 時間	
			事後学習	配布された資料と照らし合わせながら、教科書p10-16 『看護の基本となるもの』を熟読し、看護とは何かを考える。			2 時間	
	5	看護の役割と機能	事前学習	教科書p39-56を熟読する			3 時間	金子
			講義	ケアについて、看護実践と質の保証、看護過程			2 時間	
			事後学習	配布された資料と照らし合わせながら、教科書p39-56を熟読し、看護とは何かを考える。			2 時間	
	6	看護の対象の理解1	事前学習	教科書p78-92を熟読する。			2 時間	金子
			講義	看護の対象である人間について、様々な視点から考える。			2 時間	
			事後学習	配布された資料と照らし合わせながら、教科書第3章p94-135を熟読し、健康とは何かを考える。			2 時間	
	7	看護の対象の理解2	事前学習	教科書p94-105を熟読する。			2 時間	金子
			講義	看護の対象の理解(成長と発達、統合体としての人間、ライフサイクル)① 看護の対象としての人間について考える。			2 時間	
			事後学習	配布された資料と照らし合わせながら、教科書第2章 p94-105を熟読する。			2 時間	
	8	看護と健康・環境	事前学習	教科書p108-136を熟読する。 看護覚え書の環境に関する部分を熟読する			2 時間	金子
			講義	健康の持つ意味、健康のとらえ方、生活と健康、環境が人間の生活に及ぼす影響について学習する。			2 時間	
事後学習			配布された資料と照らし合わせながら、教科書p108-136を熟読する。			2 時間		

教育内容	9 看護理論	事前学習	教科書p23～を熟読する。	2 時間	金子
		講義	看護実践の基盤となる理論を学ぶ	2 時間	
		事後学習	配布された資料と照らし合わせながら、教科書第p23～を熟読する。	2 時間	
	10 看護における倫理	事前学習	教科書p286-213、倫理綱領を熟読する。	2 時間	金子
		講義	患者の権利とインフォームドコンセント、現代医療におけるさまざまな倫理問題 倫理原則とケアの倫理、看護者の倫理綱領保健師助産師看護師法 法と職業倫理 CNS、N、CANなどのキャリア開発	2 時間	
		事後学習	配布された資料と照らし合わせながら、教科書 p 286-213を熟読する。	2 時間	
	11 看護と法・看護管理	事前学習	教科書p247-290を熟読する。	2 時間	伊藤
		講義	看護職養成制度、看護職者の就業状況 継続教育とキャリア開発、看護政策等	2 時間	
		事後学習	配布された資料と照らし合わせながら、教科書p247-290を復習する。	2 時間	
	12 看護活動の場	事前学習	教科書p2～を熟読する。	2 時間	伊藤
		講義	看護サービスとしての看護、サービス提供の場など	2 時間	
		事後学習	配布された資料と照らし合わせながら、教科書220-240を復習する。	2 時間	
	13 看護実践の基盤における技術	事前学習	基礎看護技術 I p2～を熟読する	2 時間	伊藤
		講義	看護技術とは	2 時間	
		事後学習	基礎看護技術 I p2～を復習する	2 時間	
	14 看護の提供のしくみ	事前学習	教科書p290～を熟読する	0 時間	伊藤
講義		看護サービス、医療安全、他職種連携等について	2 時間		
事後学習		課題を行う	2 時間		
15 これからの看護 まとめ	事前学習	教科書p306～を熟読する	2 時間	伊藤	
	講義	看護の国際化、災害看護等、	2 時間		
	事後学習		2 時間		
16 定期試験		筆記試験		金子	
				総学習時間 90 時間	

テキスト	参考書
1. 茂野香おる編『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【1】看護学概論』医学書院 2. ナイチンゲール著『看護覚え書』湯根ます他訳『看護覚え書』現代社 3. V/ハンダーソン著『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会 4. 茂野香おる編『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学【2】基礎看護技術 I』医学書院	・『看護倫理綱領』日本看護協会出版会 ・都留春夫他訳『看護における健康の概念』医学書院 ・時実俊彦『人間であること』岩波新書
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での指導経験を持つ教員が、看護とは何か、看護の役割・機能、看護の歴史や看護理論について指導する。	なし
留意事項	オフィスアワー
なし	・日時:木・金 12:15～13:00 ・場所:2号館3階 金子研究室 ・teamsでの問い合わせには随時応じる

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)		
53	基礎看護技術Ⅰ (日常生活援助技術)	2	60	必修	演習	1年前期	○伊藤寿満子/大谷健史 笠原潮美/中川布沙子		
科目概要	人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、科学的根拠に基づいた基本的日常生活援助技術をICTを用いて振り返るなど能動的に学び修得する。また、対象者の自立度に応じた安全性、安楽性、快適性、自立性を考慮し、自宅で暮らす時の援助技術の工夫についても共同学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活を支える看護師の役割を理解し、その役割達成のための倫理的配慮ができる。</li> <li>2. 日常生活を支える看護技術の原理・原則をふまえた基本的な方法が説明できる。</li> <li>3. 対象の状況に合わせた具体的方法について、科学的根拠に基づいた説明ができる。</li> <li>4. ケアの過程において安全性・安楽性・快適性、自立性を配慮した基礎看護技術が実施できる。</li> <li>5. すべての看護技術に標準予防策が実施できる。</li> </ol>								
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準			
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験 ・事前/事後学習の課題、レポート ・その他(技術試験)	80 %	講義、演習について、基礎看護技術の理解度を評価する。				
	2. 主体的行動力				10 %	演習後に看護技術、倫理的配慮等に関する課題を課し、成績評価の対象とする。			
	3. 地域貢献力と多職種連携能力					10 %	事前に評価表を配布し評価基準を解説する。		
	4. 課題発見能力と課題解決力						100 %	合計	
	5. 看護の知識と看護実践力								
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力									
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了3日目以降10日以内に、○○研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。</li> <li>・授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。</li> <li>・技術試験のフィードバックは、試験終了後、試験担当教員より評価表を確認しながら評価面談で行う。</li> </ul>								
教育 内容	回	項目	内容					時間	担当教員
	1	ガイダンス 看護技術とは	事前学習	『基礎看護技術Ⅰ』 p2-15まで熟読する。	0.5 時間	伊藤			
			講義	看護技術とは 看護技術の特徴、技術と倫理 看護技術を適切に実践するための要素 看護技術の修得について	2 時間				
			事後学習	『基礎看護技術Ⅰ』 p2-15まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間				
	2	感染防止の技術1	事前学習	『基礎看護技術Ⅰ』 p64-78まで熟読する。	0.5 時間	伊藤			
			講義	感染予防の基礎知識 スタンダードプリコーション	2 時間				
			事後学習	『基礎看護技術Ⅰ』 p64-78まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間				
	3	感染防止の技術2	事前学習	衛生的手洗い、PPEの着脱方法について手順の確認と、動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川			
			演習	衛生的手洗い スタンダードプリコーション(PPEの着脱)	2 時間				
			事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間				
	4	感染防止の技術3	事前学習	衛生的手洗い、PPEの着脱方法について手順の確認と、動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川			
			演習	衛生的手洗い スタンダードプリコーション(PPEの着脱)	2 時間				
			事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	1 時間				
	5	環境を整える技術1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 環境調整技術 p10-18まで熟読する。	0.5 時間	大谷			
			講義	環境とは ナイチンゲールの環境 療養環境のアセスメント	2 時間				
			事後学習	『基礎看護技術Ⅰ』 p10-18まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間				
	6	環境を整える技術2	事前学習	『基礎看護技術Ⅰ』 p19-26まで熟読する。	0.5 時間	大谷			
			講義	ベッド周囲の環境整備 病床を整える	2 時間				
			事後学習	『基礎看護技術Ⅰ』 p19-26まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間				
	7	環境を整える技術3	事前学習	リネン類のたたみ方、開き方、クローズドベッドの作成方法の手順の確認と、動画の視聴	1 時間	伊藤/大谷 笠原/中川			
			演習	リネン類のたたみ方 開き方 クローズドベッドの作成	2 時間				
			事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間				
	8	環境を整える技術4	事前学習	ベッド周囲の環境整備の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川			
			演習	ベッド周囲の環境整備	2 時間				
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	1 時間					

教育内容	9	活動と休息の技術1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p104-139まで熟読する。	0.5 時間	大谷
			講義	活動の援助:ボディメカニクス 体位変換 歩行の介助 車いす・ストレッチャーの移送・移乗	2 時間	
			事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p104-139まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
	10	活動と休息の技術2	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p140-150まで熟読する。	0.5 時間	大谷
			講義	休息と睡眠の援助:睡眠の種類とメカニズム 睡眠障害のアセスメント 睡眠と休息の援助	2 時間	
			事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p140-150まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
	11	活動と休息の技術3	事前学習	ボディメカニクス、体位変換、安楽な体位の手順との確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川
			演習	ボディメカニクス 体位変換 安楽な体位	2 時間	
			事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
	12	活動と休息の技術4	事前学習	車いす移乗・移送 ストレッチャー移乗・移送の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川
			演習	車いす移乗・移送 ストレッチャー移乗・移送	2 時間	
			事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	1 時間	
	13	清潔・衣生活の援助1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p170-214まで熟読する。	0.5 時間	伊藤
			講義	清潔の援助の基礎知識 清潔の援助(清拭・洗髪・足浴・シャワー浴・入浴・整容)	2 時間	
			事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p170-214まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
	14	清潔・衣生活の援助2	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p224-232まで熟読する。	0.5 時間	伊藤
			講義	衣生活の援助の基礎知識 寝衣交換	2 時間	
			事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p224-232まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
	15	清潔・衣生活の援助3	事前学習	臥症患者の寝衣交換・シーツ交換の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川
			演習	臥症患者の寝衣交換・シーツ交換	2 時間	
事後学習			演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間		
16	清潔・衣生活の援助4	事前学習	臥症患者の寝衣交換・シーツ交換の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川	
		演習	臥症患者の寝衣交換・シーツ交換	2 時間		
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間		
17	清潔・衣生活の援助5	事前学習	臥症患者の全身清拭・寝衣交換の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川	
		演習	臥症患者の全身清拭・寝衣交換	2 時間		
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間		
18	清潔・衣生活の援助6	事前学習	臥症患者の全身清拭・寝衣交換の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川	
		演習	臥症患者の全身清拭・寝衣交換	2 時間		
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間		
19	清潔・衣生活の援助7	事前学習	臥症患者の洗髪の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川	
		演習	臥症患者の洗髪(ケリーパッド)	2 時間		
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間		
20	清潔・衣生活の援助8	事前学習	臥症患者の洗髪の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川	
		演習	臥症患者の洗髪(ケリーパッド)	2 時間		
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間		

教育内容	21 清潔・衣生活の援助9	事前学習	臥症患者の足浴の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川
		演習	足浴・フットケア	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
	22 飲食の援助1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p28-43まで熟読する。	0.5 時間	伊藤
		講義	食事援助の知識 食事とは・栄養とは 食事援助の方法 口腔ケア	2 時間	
		事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p28-43まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
	23 飲食の援助2	事前学習	臥症患者の食事援助と口腔ケアの手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川
		演習	臥症患者の食事援助法 口腔ケア	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
	24 飲食の援助3	事前学習	臥症患者の食事援助と口腔ケアの手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川
		演習	臥症患者の食事援助法 口腔ケア	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
	25 排泄の援助1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p64-79まで熟読する。	0.5 時間	大谷
		講義	排泄に関する基礎知識 自然排尿・自然排便への援助	2 時間	
		事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p64-79まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
	26 排泄の援助2	事前学習	臥症患者の便器・尿器の介助の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川
		演習	臥症患者の排泄の援助(便器・尿器の介助 おむつ交換 陰部洗浄)	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
	27 排泄の援助3	事前学習	臥症患者のおむつ交換と陰部洗浄の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/大谷 笠原/中川
		演習	臥症患者の排泄の援助(便器・尿器の介助 おむつ交換 陰部洗浄)	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
28 電法	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p156-160まで熟読する。	0.5 時間	伊藤	
	講義	苦痛の緩和・安楽への援助 電法とは 湯たんぼ 氷枕	2 時間		
	事前学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間		
29 技術試験	事前学習		0 時間	伊藤/大谷 笠原/中川	
	試験	臥症患者の日常生活援助の実施 対象の自立度に応じた援助方法を考える能力および演習時に学習した技術の修得状況を評価する。	2 時間		
	事後学習		0 時間		
30 まとめ	事前学習		0 時間	伊藤	
	講義	基礎看護技術Ⅰ 日常生活援助技術について	2 時間		
	事後学習		0 時間		
31 定期試験		筆記試験		伊藤/大谷	
				総学習時間	90 時間
テキスト				参考書	
1. 茂野かおる他著「系統看護学講座 専門分野1基礎看護技術Ⅰ基礎看護学②」医学書院第19版 2. 任和子他著「系統看護学講座 専門分野1基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③」医学書院第18版				・任和子著『根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術』医学書院 ・藤本真記子監修『看護技術がみえるvol.1基礎看護技術』(メディックメディア)	

実務経験と授業科目との関連性	履修要件
<p>病院での看護師経験を持つ教員が、基本的な生活支援技術と個性に合わせた援助の判断とその根拠を指導する。</p>	<p>看護学概論を履修していること。</p>
留意事項	オフィスアワー
<p>1. 看護師としての身だしなみを整え演習に臨むこと。身だしなみが整っていない場合は演習に参加できない。  2. 技術アワーの時間を設定するので、技術の練習・習熟に活用する。  3. 技術演習は演習に関連した講義を受けていない場合は演習を行うことができない。欠席した場合は、授業で配布された資料を熟読し自己学習して担当教員に確認後、演習を履修できる。履修後指定されたレポートの提出により技術演習は修得したとする。</p>	<p>時間：授業前・授業後  場所：各研究室  メール、teamsでの相談も可能  （メールアドレスはシラバス巻末参照）</p>

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
54	基礎看護技術Ⅱ (診療の補助技術)	2	60	必修	演習	1年後期	○伊藤寿満子/大谷健史/中川布沙子
科目概要	何らかの健康問題を持つ人のニーズを踏まえ、必要と科学的根拠に基づいて実施する援助技術で、主として薬物療法、栄養障害のケア、皮膚・排泄障害のケアなどの病態や治療に伴って必要となる看護ケアについて学修する。シミュレーション機器や事例を用いて、安全性・安楽性を考慮し、アセスメントとケアの判断力を修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>治療過程を支える看護師の役割を理解し、倫理的配慮ができる。</li> <li>治療過程を支える看護技術の具体的方法について科学的根拠に基づいた説明ができる。</li> <li>ケアの過程において起こりうる危険を予測し、安全性・安楽性を配慮した方法について説明できる。</li> <li>治療過程を支える援助(薬物療法、検査)が説明できる。</li> <li>すべての看護技術に標準予防策が実施できる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験		80 %	講義、演習について、基礎看護技術の理解度を評価する。	
	2. 主体的行動力		・事前/事後学習の課題、レポート		10 %	演習後に看護技術、倫理的配慮等に関する課題を課し、成績評価の対象とする。	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・その他(技術試験)		10 %	事前に評価表を配布し評価基準を解説する。	
	4. 課題発見能力と課題解決力		合計		100 %		
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力						
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力							
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了3日目以降10日目以内に、○○研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。</li> <li>授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。</li> <li>技術試験のフィードバックは、試験終了後、試験担当教員より評価表を確認しながら評価面談で行う。</li> </ul>						
回	項目	内容				時間	担当教員
1	ガイダンス 感染予防の基礎	事前学習	『基礎看護技術Ⅰ』p78-101熟読する。			0.5 時間	伊藤
		講義	診療の補助技術とは 感染予防の基礎知識 看護専門職に求められる倫理的配慮			2 時間	
		事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』p78-101まで配布された資料と照らしながら熟読する。			0.5 時間	
2	感染予防の考え方とその方法	事前学習	『基礎看護技術Ⅰ』p78-101熟読する。			0.5 時間	伊藤
		講義	感染予防の基礎知識 スタンダードプリコーション			2 時間	
		事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』p78-101まで配布された資料と照らしながら熟読する。			0.5 時間	
3	無菌操作の基本技術1	事前学習	衛生的な手洗い、PPEの着脱方法について手順の確認と、動画の視聴			0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
		演習	スタンダードプリコーション(PPEの着脱) 滅菌手袋の装着			2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する			0.5 時間	
4	無菌操作の基本技術2	事前学習	衛生的な手洗い、PPEの着脱方法について手順の確認と、動画の視聴			0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
		演習	スタンダードプリコーション(PPEの着脱) 滅菌手袋の装着			2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する			1 時間	
5	検査・処置を受ける患者の看護1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』環境調整技術 p416-455まで熟読する。			0.5 時間	大谷
		講義	検尿・検便・喀痰採取とその援助方法 腹腔穿刺・腰椎穿刺時の看護 CTスキャン・MRI等、画像検査時の看護 他			2 時間	
		事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』p416-455まで配布された資料と照らしながら熟読する。			0.5 時間	
6	処置・検査を受ける患者の看護2	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』p406-416まで熟読する。			0.5 時間	大谷
		講義	血液検査と静脈血採血			2 時間	
		事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』p406-416まで配布された資料と照らしながら熟読する。			0.5 時間	
7	処置・検査を受ける患者の看護3	事前学習	静脈血採血の手順の確認と、動画の視聴			0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
		演習	静脈血採血の実際			2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する			0.5 時間	

教育内容	8	処置・検査を受ける患者の看護4	事前学習	静脈血採血の手順の確認と、動画の視聴	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
			演習	静脈血採血の実際	2 時間	
			事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	1 時間	
	9	薬物療法1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p310-325まで熟読する。	0.5 時間	伊藤
			講義	看護における薬物療法の援助 薬物療法の意義・薬物の吸収とその形態 服用方法とその意味 内服・点眼・点鼻・座薬・軟膏塗布・吸入など	2 時間	
			事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p310-325まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
	10	薬物療法2	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p326-345まで熟読する。	0.5 時間	伊藤
			講義	注射法 筋肉内注射・皮下注射・皮内注射	2 時間	
			事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p326-345まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
	11	薬物療法3	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p346-375まで熟読する。	0.5 時間	伊藤
			講義	注射法 点滴静脈内注射 輸液療法 輸血療法	2 時間	
			事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p346-375まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
	12	薬物療法4	事前学習	皮下注射・筋肉内注射の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
			演習	皮下注射・筋肉内注射の実際(モデル使用)	2 時間	
			事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
	13	薬物療法5	事前学習	皮下注射・筋肉内注射の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
			演習	皮下注射・筋肉内注射の実際(モデル使用)	2 時間	
			事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	1 時間	
	14	薬物療法6	事前学習	点滴静脈内注射(静脈内注射と点滴の管理)の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
演習			点滴静脈内注射(静脈内注射と点滴の管理)の実際(モデル使用)	2 時間		
事後学習			演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間		
15	薬物療法7	事前学習	臥症患者の寝衣交換・シーツ交換の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川	
		演習	点滴静脈内注射(静脈内注射と点滴の管理)の実際(モデル使用)	2 時間		
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	1 時間		
16	排泄の援助1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p64-87まで熟読する。前期の排泄の講義を振り返る。	0.5 時間	大谷	
		講義	排尿の機序と排尿障害 一時的導尿 膀胱留置カテーテル挿入患者の観察とケア	2 時間		
		事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p64-87まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間		
17	排泄の援助2	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p87-94まで熟読する。前期の排泄の講義を振り返る。	0.5 時間	大谷	
		講義	排便障害のある患者の看護 排便の機序と排便障害 排便を促す援助 グリセリン浣腸 摘便	2 時間		
		事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p87-94まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間		
18	排尿の援助3	事前学習	導尿の手順の確認と、動画を視聴する。無菌操作の復習を行う。	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川	
		演習	導尿の実際(モデル使用)	2 時間		
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間		
19	排尿の援助4	事前学習	導尿の手順の確認と、動画を視聴する。無菌操作の復習を行う。	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川	
		演習	導尿の実際(モデル使用)	2 時間		
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間		

20	排便の援助5	事前学習	洗腸の手順の確認と動画を視聴する。	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
		演習	洗腸の実際(モデル使用)	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
21	排便の援助6	事前学習	洗腸の手順の確認と動画を視聴する。	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
		演習	洗腸の実際(モデル使用)	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
22	酸素吸入1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p234-239まで熟読する。	0.5 時間	伊藤
		講義	酸素療法とは	2 時間	
		事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p234-239まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
23	酸素吸入2	事前学習	酸素マスク・カニューラの扱いについて確認し、動画を視聴する。酸素ポンベの取り扱いについて復習しておく。	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
		演習	酸素マスク・カニューラの実際 酸素ポンベの取り扱いと酸素残量の計算	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
24	吸引1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p240-263まで熟読する。	0.5 時間	伊藤
		講義	排痰ケアの基礎知識 援助の方法(咳嗽介助、ハフイング) 吸引(一時的吸引:口腔・鼻腔・期間内吸引)の方法	2 時間	
		事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p240-263まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
25	吸引2	事前学習	口腔吸引・鼻腔吸引の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
		演習	口腔吸引・鼻腔吸引の実際(モデル使用)	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
26	吸引3	事前学習	口腔吸引・鼻腔吸引の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
		演習	臥症患者の排泄の援助(便器・尿器の介助 おむつ交換 陰部洗浄)	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
27	包帯法1	事前学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p292-297まで熟読する。	0.5 時間	伊藤
		講義	包帯法の基礎知識 包帯法とは 巻軸帯の巻き方 三角巾を用いた上肢の固定等	2 時間	
		事後学習	『基礎看護技術Ⅱ』 p292-297まで配布された資料と照らしながら熟読する。	0.5 時間	
28	包帯法2	事前学習	包帯法の手順の確認と動画の視聴	0.5 時間	伊藤/ 大谷/中川
		講義	包帯法の実際 巻軸帯の巻き方 三角巾を用いた上肢の固定	2 時間	
		事後学習	演習内容を振り返り、レポートを作成する	0.5 時間	
29	技術試験	事前学習		0 時間	伊藤/大谷
		試験	無菌操作を含む診療の補助技術に関する技術試験 対象の自立度に応じた援助方法を考える能力および演習時に学習した技術の修得状況を評価する。	2 時間	
		事後学習		0 時間	
30	まとめ	事前学習		0 時間	伊藤/大谷
		演習	基礎看護技術Ⅱのまとめ	2 時間	
		事後学習		0 時間	
31	定期試験	筆記試験			伊藤/大谷
				総学習時間	90 時間

テキスト	参考書
1. 茂野かおる他著「系統看護学講座 専門分野1基礎看護技術Ⅰ基礎看護学②」医学書院第19版 2. 任和子他著「系統看護学講座 専門分野1基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③」医学書院第18版	1. 吉田みつ子 写真でわかる「基礎看護技術アドバンス」インターメディカ 2. 三上れつ他「演習・実習に役立つ基礎看護技術」ニューヴェルヒロカワ 3. 竹尾薫子他「看護技術プラクティス」学研メディカル秀潤社
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
病院での看護師経験を持つ教員が、疾病や治療に伴って必要となる看護ケア技術を指導する。	看護学概論、基礎看護技術Ⅰの履修履歴があること
留意事項	オフィスアワー
1. 看護師としての身だしなみを整え演習に臨むこと。身だしなみが整っていない場合は演習に参加できない。 2. 技術アワーの時間を設定するので、技術の練習・習熟に活用する。 3. 技術演習は演習に関連した講義を受けていない場合は演習を行うことができない。欠席した場合は、授業で配布された資料を熟読し自己学習して担当教員に確認後、演習を履修できる。履修後指定されたレポートの提出により技術演習は修得したこととする。	時間：授業前・授業後 場所：各研究室 メール、teamsでの相談も可能 （メールアドレスはシラバス巻末参照）

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
55	基礎看護技術Ⅲ (看護過程と看護理論)	1	15	必修	講義	2年前期	金子 潔子
科目概要	看護の実際において看護の対象となる人々の個性や状況に応じ、看護理論を基に科学的に看護を実践するための看護過程について、看護過程の理論とその概要、重要性、必要性を理解する。						
到達目標	1. 看護過程の概念および看護実践における、目的志向的、患者思考的なツールである意味が理解できる。 2. 一連の看護過程の各段階に必要な基本的知識・技術・態度について、自己の看護観を基盤に理解する。 3. 看護理論の枠組みを使用する意味が理解できる。 4. 看護記録の意義が理解でき、具体的記録方法の基礎理解ができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			評価項目		配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	70 %	基本事項70%、応用問題30%		
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	10 %	基本事項50%、応用問題50%		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	自己学習や課題の記載内容		
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力		・その他(配分する場合は具体的に記載)	0 %			
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	・課題や提出物へのコメントを返す。 ・毎回、リフレクションペーパーを記入し、学生の授業内容等への疑問・質問は次回返答する。 ・定期試験のフィードバックについてはteamsにて問い合わせに応じる。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	・授業の進め方のオリエンテーション ・看護の基盤となる考え方	事前学習	テキストp272～280を熟読する。		1 時間	金子
			講義	・看護理論の概要、問題解決法及び対象理解のための主な理論について理解できる。		2 時間	
			事後学習	・授業資料の振り返りとテキストの事前学習部分を復習する。		2 時間	
	2	・ハンダーソン看護理論と看護過程	事前学習	・配布資料、テキストP192～の熟読と、ハンダーソン看護論の14の基本的欲求について調べてくる。		2 時間	金子
			講義	・ハンダーソン看護論の概要を学び、対象理解のための情報収集の視点を理解できる。		2 時間	
			事後学習	・授業資料の振り返りとテキストの事前学習部分を復習する。		2 時間	
	3	・ハンダーソン看護論 による看護過程の展開 1	事前学習	・事例の疾病について解剖生理、病態、主な症状、検査、治療を課題用紙にまとめる。		2 時間	金子
			講義	・事例のアセスメントガイド作成方法と情報収集について説明を受け、ハンダーソンの枠組みに沿って指定の用紙に個人ワークで記載する。		2 時間	
			事後学習	・事例の情報収集を整理し仕上げる。		2 時間	
	4	・ハンダーソン看護論 による看護過程の展開 2	事前学習	・授業資料、テキストP292～305を熟読する。		2 時間	金子
			講義	・整理した情報のアセスメントの方法について説明し、質問しながら個人ワークでアセスメントを行う。		2 時間	
			事後学習	・事例の情報と病態などの関連について復習する。		2 時間	
	5	・ハンダーソン看護論 による看護過程の展開 3	事前学習	・指定した部分の情報をアセスメントし記載する。		2 時間	金子
			講義	・情報間の関連性を確認し図示する(関連図の作成)。を説明し、助言を受けながら個人ワークで関連図を作成する。		2 時間	
			事後学習	・授業内容を振り返り関連図を完成させ、全体像を記載する。		2 時間	
	6	・ハンダーソン看護論 による看護過程の展開 4	事前学習	・授業資料、テキストp305～318を熟読する。		2 時間	金子
			講義	・看護診断、看護計画について説明を受け、事例の看護問題を優先度をつけたり、看護目標を考えて記載する。		2 時間	
			事後学習	・事例の看護上の問題を問題リストに整理し看護目標を設定する。		2 時間	
	7	・ハンダーソン看護論 による看護過程の展開 5	事前学習	・授業資料、テキスト315～321まで熟読する。		2 時間	金子
			講義	・看護計画の具体策について説明を受け、1つの問題について具体策を立案する。 ・看護の実施と評価について理解する。		2 時間	
			事後学習	・一つの問題について看護計画を完成させる。		2 時間	
	8	・看護記録の書き方	事前学習	テキストp322～327を熟読する。		1 時間	金子
			講義	・看護記録の法的位置づけ、目的や記録管理などについて理解する。 ・経過記録(SOAP)の書き方について説明後、練習を行う。		2 時間	
事後学習			・授業内容の振り返りを行う。		1 時間		

9	定期試験	筆記試験	金子
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
茂野香おる他:基礎看護技術Ⅰ 医学書院		金子道子編:ハンダーソン看護論と看護実践への応用 照林社	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
病院での看護師経験を持つ教員が、看護過程の重要性及び必要性について指導する。		看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメントの履修履歴があること。	
留意事項		オフィスアワー	
・看護理論の学習を活用するので、ハンダーソン看護について理解が必要である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日時:木・金 12:15~13:00</li> <li>・場所:2号館3階 金子研究室</li> <li>・teamsでの問い合わせには随時応じる</li> </ul>	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
56	ヘルスアセスメント	2	60	必修	演習	1年後期	○金子潔子/伊藤寿満子/大谷健史
科目概要	ヘルスアセスメントの概念、目的、方法論の全容を学び、対象を全人的に把握することの重要性とその意義を理解する。ヘルスアセスメントに必要な観察技術や測定技術、コミュニケーション技術を用いて対象の健康状態を査定し、正常と正常からの逸脱を判断できる知識・技術について学修する。シミュレーション機器(シナリオ、フィジコ)を用いグループで共有学習しアセスメント能力を強化する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護におけるヘルスアセスメントの意味を理解し、説明できる。</li> <li>2. ヘルスアセスメントの基本技術(問診・視診・聴診・触診・打診)が実践できる。</li> <li>3. ヘルスアセスメントの基本技術を実践し、その結果から対象の健康状態(正常と正常からの逸脱)を判断し、記述できる。</li> <li>4. 得られたデータをアセスメントし、記録することができる。看護過程の展開のプロセスであることがわかる。</li> <li>5. ヘルスアセスメントを実施する際に、対象者と援助的関係を構築し、個人のプライバシーの保護など倫理的配慮ができる。</li> </ol>						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー	成績評価方法	評価項目	配分 %	評価基準	
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験 ・授業内の小テスト、課題、レポート ・事前/事後学習の課題、レポート ・受講時の積極性、態度等 ・その他(配分する場合は具体的に記載)	・60 % ・20 % ・15 % ・5 % ・0 %	基本事項70% 応用問題20% 拓一問題10%		
		2. 主体的行動力			基本事項80% 応用問題20%		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力			課題の記述内容		
		4. 課題発見能力と課題解決力			演習に向かう姿勢		
		◎ 5. 看護の知識と看護実践力					
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %					
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート提出後、コメントをつけて返却するので必ず修正しておきましょう。</li> <li>・レスポンスペーパーに対する質問などは、次回授業で返答する。</li> <li>・定期試験のフィードバックについてはteamsにて問い合わせに依る。</li> </ul>						
教育内容	1	・授業の進め方についてオリエンテーション ・ヘルスアセスメントの重要性とアセスメントプロセス	事前学習	テキスト2、(基礎看護技術)P124を読んでくる。	0.5 時間	金子	
			講義	・ヘルスアセスメントの意義や重要性、アセスメントプロセスについて理解する。 ・アセスメントのための情報について理解し、健康歴の目的や聴取の方法がわかる。	2 時間		
			事後学習		0 時間		
	2	・ヘルスアセスメントに必要なコミュニケーション	事前学習	テキスト2(基礎看護技術 I )P18～50を精読する。	0.5 時間	金子	
			講義	・看護に必要なコミュニケーションの意義や構成要素、コミュニケーションの手段などについて理解する。	2 時間		
			事後学習	・コミュニケーションに関する授業内容を振り返る。	0.5 時間		
	3	・健康歴とアセスメント	事前学習	テキスト1(看護がみえる)p2～14、2(基礎看護技術)P128～132を精読する。	0.5 時間	金子	
			講義	・健康歴の情報収集について説明を受け、目的や方法を理解する。ロールプレイを観察し健康歴を聴き取ることができる。	2 時間		
			事後学習	・健康歴に関する授業内容を振り返る。	0.5 時間		
	4	・健康歴の聴取	事前学習	テキスト1(看護がみえる)p2～14、2(基礎看護技術)P128～132を精読する。	0.5 時間	金子	
			講義	・健康歴の情報収集について説明を受けた後、ロールプレイを観察し健康歴を指定の用紙に記録する。	2 時間		
			事後学習		0 時間		
	5	・フィジカルアセスメントの基本技術の方法	事前学習	・テキスト1 p15～22を精読する。	0.5 時間	金子	
			講義	・フィジカルアセスメント基本技術について理解する。 ・対象を把握のための情報収集の目的、種類について理解する。	2 時間		
			事後学習	・フィジカルアセスメントの授業内容を振り返り行う。	0.5 時間		
	6	・身体計測	事前学習	・テキスト1 p24～33を精読する。	0.5 時間	金子	
			講義	・身体計測の目的、測定方法、評価について理解する。	2 時間		
			事後学習	・授業内容の振り返りを行う。	0.5 時間		
	7	・フィジカルアセスメントの基本技術の実際	事前学習	・授業資料、テキスト1を確認する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷	
			演習	・フィジカルアセスメントの基本技術(視診・打診・触診・聴診)の方法がわかり実施できる。	2 時間		
			事後学習	演習の振り返りを行う。	0.5 時間		
	8	・呼吸器系・循環器系の フィジカルアセスメントのための基礎知識	事前学習	・呼吸器・循環器系の人体構造機能について、課題をレポートする。	1 時間	大谷	
			講義	・呼吸器系・循環器系の形態機能の知識をフィジカルアセスメントにどう活用するか理解する。	2 時間		
			事後学習	・授業の振り返りを行う。	0.5 時間		

教育内容	9	バイタルサイン測定とアセスメント 1	事前学習	テキスト1p36～59、を精読する。	1 時間	金子
			講義	バイタルサインとは(意識、体温、脈拍、呼吸、血圧)とは、体温・脈拍測定の目的、測定方法について理解する。	2 時間	
			事後学習	授業の振り返りを行う。	0.5 時間	
	10	バイタルサイン測定とアセスメント 2	事前学習	テキスト1p60～83を精読する。	1 時間	金子
			講義	呼吸、血圧測定の目的、測定方法について理解する。	2 時間	
			事後学習	授業の振り返りを行う。	0.5 時間	
	11	バイタルサイン測定の実際 1	事前学習	授業資料・テキストを参考にバイタルサイン測定の方法を確認する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷
			演習	バイタルサイン測定(体温・脈拍、呼吸、血圧)の方法を理解し、チェック表を参考に一人ずつ実施する。	2 時間	
			事後学習	バイタルサイン測定の振り返りレポートを作成する。	0.5 時間	
	12	バイタルサイン測定の実際 2	事前学習	授業資料・テキストを参考にバイタルサイン測定の方法を確認する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷
			演習	バイタルサイン測定(体温・脈拍、呼吸、血圧)の方法を理解し、チェック表を参考に一人ずつ実施する。	2 時間	
			事後学習	バイタルサイン測定の振り返りレポートを作成する。	0.5 時間	
	13	小テストの実施 頭頸部のフィジカルアセスメント	事前学習	テキストp90～99を精読する。	0.5 時間	金子
			講義	小テスト(基本技術・バイタルサイン) 頭頸部・甲状腺・頸部リンパ節のフィジカルアセスメントの目的、方法を理解する。	2 時間	
			事後学習	小テストの振り返りを行う。	0.5 時間	
	14	呼吸器系・循環器系の フィジカルアセスメント 1	事前学習	テキスト・課題レポートを確認し呼吸・循環器系の地租知識を理解しておく。	0.5 時間	大谷
			講義	呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメントの目的、方法、評価について理解する。	2 時間	
			事後学習	授業の振り返りを行う。	0.5 時間	
	15	呼吸器系・循環器系の フィジカルアセスメント 2	事前学習	テキスト・課題レポートを確認し呼吸・循環器系の地租知識を理解しておく。	0.5 時間	大谷
			講義	呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメントの目的、方法、評価について理解する。。	2 時間	
事後学習			授業の振り返りを行う。	0.5 時間		
16	呼吸器系・循環器系の フィジカルアセスメントの実際 1	事前学習	演習課題をレポートにまとめる。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷	
		演習	呼吸・循環器系のフィジカルアセスメントの方法を理解し実施する。	2 時間		
		事後学習	演習で実施した内容をレポートにまとめる。	0.5 時間		
17	呼吸器系・循環器系の フィジカルアセスメントの実際 2	事前学習	演習課題をレポートにまとめる。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷	
		演習	呼吸・循環器系のフィジカルアセスメントの方法を理解し実施する。	2 時間		
		事後学習	演習で実施した内容をレポートにまとめる。	0.5 時間		
18	脳・神経系のフィジカルアセスメント	事前学習	テキスト1p226～ 精読する。	1 時間	金子	
		講義	運動器系のフィジカルアセスメントの目的、方法、評価について理解する。	2 時間		
		事後学習	授業内容の振り返りを行う。	1 時間		
19	運動器系のフィジカルアセスメント	事前学習	テキスト1p226～ 精読する。	0.5 時間	金子	
		講義	脳・神経系のフィジカルアセスメントの目的、方法、評価について理解する。	2 時間		
		事後学習	授業内容の振り返りを行う。	0.5 時間		
20	脳・神経系、運動器系の フィジカルアセスメントの実際 1	事前学習	課題をレポートにまとめる。	1 時間	金子/伊藤/ 大谷	
		演習	脳・神経、運動器系のpフィジカルアセスメントの方法を理解し実施評価する。	2 時間		
		事後学習	事後レポートを作成する。	0.5 時間		

教育内容	21	・脳・神経系、運動器系の フィジカルアセスメントの実際 2	事前学習	・課題をレポートにまとめる。	1 時間	金子/伊藤/ 大谷
			演習	・脳・神経、運動器系のフィジカルアセスメントの方法を理解し実施評価する。	2 時間	
			事後学習	事後レポートを作成する。	0.5 時間	
	22	・小テスト ・腹部のフィジカルアセスメント	事前学習	・テキストp170～203精読する。	1 時間	金子
			講義	・小テスト(呼吸・循環器系) ・腹部のフィジカルアセスメントの目的・方法・評価について理解する。	2 時間	
			事後学習	・授業の振り返りを行う。	0 時間	
	23	・乳房のフィジカルアセスメント	事前学習	・テキストp204～213を精読する。	0 時間	金子
			講義	・乳房のフィジカルアセスメントの目的、方法、評価について理解する。	2 時間	
			事後学習	・授業の振り返りを行う。	0.5 時間	
	24	・腹部、栄養・代謝の フィジカルアセスメントの実際 1	事前学習	・課題レポートを行う。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷
			演習	・腹部および栄養状態のフィジカルアセスメントの方法を理解し実施する。	2 時間	
			事後学習	演習後のレポートを作成する。	0.5 時間	
	25	・腹部、栄養・代謝の フィジカルアセスメントの実際 2	事前学習	・課題レポートを行う。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷
			演習	・腹部および栄養状態のフィジカルアセスメントの方法を理解し実施する。	2 時間	
			事後学習	演習後のレポートを作成する。	0.5 時間	
	26	・感覚器系・自律神経系の フィジカルアセスメント	事前学習	・テキスト1 p322～精読する。	0.5 時間	金子
			講義	・感覚器系・自律神経系のフィジカルアセスメントの目的、方法、評価について理解する。	2 時間	
			事後学習	・授業の振り返りを行う。	0 時間	
	27	・内部環境・生体防御の フィジカルアセスメント	事前学習	・人体構造機能学の内部環境、生体防御機構について精読する。	0.5 時間	金子
			講義	・内部環境・生体防御のフィジカルアセスメントについて理解する。	2 時間	
			事後学習	・授業の振り返りを行う。	0.5 時間	
28	・事例に基づいた フィジカルアセスメントの実施 1	事前学習	・課題のレポートをまとめる。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷	
		演習	事例に基づいて、グループで計画した方法に従い、観察を実施する。	2 時間		
		事前学習		0 時間		
29	・事例に基づいた フィジカルアセスメントの実施 2	事前学習	・課題のレポートをまとめる。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷	
		演習	事例に基づいて、グループで計画した方法に従い、観察を実施する。	2 時間		
		事後学習	・演習後のレポートをまとめる。	0.5 時間		
30	・ヘルスアセスメントのまとめ	事前学習		0 時間	金子	
		講義	・ヘルスアセスメント全体のまとめにより、学習の視点を再確認する。	2 時間		
		事後学習		0 時間		
31	定期試験	筆記試験			金子	
総学習時間					90 時間	
テキスト			参考書			
1. 看護がみえる3 フィジカルアセスメント; メディックメディア 2. 茂野香おる他; 基礎看護学 I 医学書院			なし			
実務経験と授業科目との関連性			履修要件			
病院での看護師経験を持つ教員が、ヘルスアセスメントの概念や目的、方法について指導する。			看護学概論、基礎看護技術 I の履修履歴があること。			
留意事項			オフィスアワー			
・フィジカルアセスメントの学習には人体構造機能学の理解が前提である。この知識を復習しながら授業を進める。			・日時:木・金 12:15～13:00 ・場所:2号館3階 金子研究室 ・teamsでの問い合わせには随時応じる			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
57	看護過程展開論	1	30	必修	演習	2年前期	○金子潔子/伊藤寿満子/大谷健史
科目概要	「基礎看護技術Ⅲ」の基礎的な理解を基に、事例を用いてPBL方式で看護過程の展開の一連のプロセスを演習する。情報収集とその分析、アセスメント、全体像、看護問題の明確化(看護診断)、看護計画の立案、実施、評価、修正の実際、看護記録、看護サマリーを学修する。						
到達目標	1. 事例を通して看護過程を展開し、専門的で多様な理論や知識を活用する意義とその実際の活用ができる。 2. 看護理論の枠組みを使用する意味が理解でき、一連の看護過程が展開できる。 3. 看護実践の記録としての意義と意味を理解し、看護記録ができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価方法	定期試験		50 %	基本事項70% 応用問題20% 拓一問題10%	
	2. 主体的行動力		授業内の小テスト、課題、レポート		30 %	基本事項80% 応用問題20%	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		事前/事後学習の課題、レポート		15 %	課題の記述内容	
	4. 課題発見能力と課題解決力		受講時の積極性、態度等		5 %	授業内の発言・質問の頻度、グループワークでの発言・質問の頻度、他者との協力姿勢を評価する。	
	5. 看護の知識と看護実践力		合計		100 %		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力							
フィードバック	・課題レポート提出後、コメントをつけて返却するので必ず修正しておきましょう。 ・レスポンスペーパーに対する質問などは、次回授業で返答する。 ・定期試験のフィードバックについてはteamsにて問い合わせに応じる。						
教育内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	・授業の進め方についてオリエンテーション ・事例のアセスメントガイドの作成	事前学習 ・課題用紙に事例の病態、検査、治療について調べる。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷		
			講義演習 ・課題の学習内容を確認後、個人でアセスメントガイドを作成する。	2 時間			
			事後学習	0 時間			
	2	・紙上事例の看護過程の展開1 ・健康歴・基本的欲求の情報整理①	事前学習 ・ハンダーソン看護論の基本的欲求についてテキスト2のp26～31精読する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷		
			講義演習 ・事例の常在条件・病理的状态、基本的欲求について情報収集し、指定の用紙に整理する。	2 時間			
			事後学習	0 時間			
	3	・紙上事例の看護過程の展開2 ・基本的欲求の情報整理とアセスメント	事前学習 ・基礎看護技術Ⅲの授業資料、アセスメントの部分を確認する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷		
			講義演習 ・アセスメントの視点、方法について説明後、助言を受けて専門基礎知識を活用しアセスメントを行う。	2 時間			
			事後学習	0 時間			
	4	・紙上事例の看護過程の展開3 ・情報のアセスメント①	事前学習 ・基礎看護技術Ⅲの授業資料、アセスメントの部分を確認する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷		
			講義演習 ・助言を受けて、専門基礎知識を活用し個人でアセスメントを行う。	2 時間			
			事後学習 ・提示した項目の事例のアセスメントを行う。	1 時間			
	5	・紙上事例の看護過程の展開4 ・情報のアセスメント②	事前学習 ・事例の展開例を確認する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷		
			講義演習 ・助言を受けて、専門基礎知識を活用し個人でアセスメントを行う。	2 時間			
			事後学習 ・事例のアセスメントを行う。	0.5 時間			
	6	・紙上事例の看護過程の展開5 ・情報のアセスメント③ ・関連図の作成	事前学習 ・基礎看護技術Ⅲの資料を基に関連図の描き方について見直す。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷		
			講義演習 ・関連図の描き方について説明後、グループで関連図を作成する。	2 時間			
			事後学習 ・関連図の描き方について振り返る。	1 時間			
	7	・紙上事例の看護過程の展開6 ・関連図の作成 ・関連図の発表	事前学習 ・個人で関連図を作成する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷		
			講義演習 ・グループで関連図を作成し、発表する。	2 時間			
			事後学習 ・作成した関連図の全体像を説明する(記述する)。	1 時間			
	8	・紙上事例の看護過程の展開7 ・看護診断の書き方	事前学習 ・看護上の問題について、授業資料、テキストp305～314を精読する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷		
			講義演習 ・看護診断について説明後、個人で診断リストを作成する	2 時間			
		事後学習 ・事例のアセスメントから看護診断までのプロセスを振り返る。	1 時間				

教育内容	9	紙上事例の看護過程の展開8 計画立案①	事前学習	・計画立案について授業資料、テキストp314～318を精読する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷
			演習	計画立案について説明後、グループ一つで看護問題に対する期待される成果、具体策を考え立案する。	2 時間	
			事後学習	・看護上の問題の計画立案ができていないか振り返る。	1 時間	
	10	紙上事例の看護過程の展開9 計画立案②	事前学習	・計画立案について授業資料、テキストp314～318を精読する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷
			演習	・グループで一つ計画を立案する	2 時間	
			事後学習	・グループで立案した以外の問題について個人で計画立案する。	0.5 時間	
	11	紙上事例の看護過程の展開10 援助計画の作成①	事前学習	・グループで取り上げる看護技術項目の物品・方法についてテキストで確認する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷
			演習	・グループで看護問題に対する援助計画(手順書)を作成する。	2 時間	
			事後学習	・個人で援助計画を作成する。	0.5 時間	
	12	紙上事例の看護過程の展開11 援助の実施①	事前学習	援助項目について看護技術のテキストを確認する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷
			演習	・グループで取り上げ計画した事例の看護上の問題に対する援助を実施する。	2 時間	
			事後学習	援助方法を振り返り、レポートに記述する。	0.5 時間	
	13	紙上事例の看護過程の展開12 援助の実施②	事前学習	・援助項目について看護技術のテキストを確認する。	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷
			演習	・グループで取り上げ計画した事例の看護上の問題に対する援助を実施する。	2 時間	
			事後学習	援助方法を振り返り、レポートに記述する。	0.5 時間	
	14	評価について 看護記録(SOAP)の書き方	事前学習	・テキストp320～321を精読する	0.5 時間	金子/伊藤/ 大谷
講義 演習			・看護過程の評価の書き方について説明を受け理解する。 ・看護記録の書き方について説明後,SOAPの書き方を練習する。	2 時間		
事後学習				0 時間		
15	看護記録の作成 まとめ	事前学習	・看護記録について、授業資料、テキストp327を熟読する。	0.5 時間	金子	
		講義	・授業全体のまとめをする。	2 時間		
		事後学習		0 時間		
16	定期試験	筆記試験			金子	
					総学習時間	45 時間
テキスト				参考書		
1. 茂野香おる他;基礎看護学Ⅰ 医学書院 2. 湯楨増他記;看護の基本となるもの 日本看護協会出版会				金子道子編:ハンダーソン看護論と看護実践への応用 照林社		
実務経験と授業科目との関連性				履修要件		
病院での看護師経験を持つ教員が、事例を用いて看護過程の一連のプロセスを指導する。				看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメント、基礎看護学実習Ⅰの履修履歴があること。		
留意事項				オフィスアワー		
・事例に関する専門基礎知識(解剖生理、病態生理、検査、治療など)の学習が前提である。事前学習によりこれらを理解しておく。				・日時:木・金 12:15～13:00 ・場所:2号館3階 金子研究室 ・teamsでの問い合わせには随時応じる		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
58	看護倫理学	1	15	必修	講義	2年後期	○金子潔子/伊藤寿満子
科目概要	看護職として、どのような倫理観をもって判断し行動したらよいかの倫理的態度の基本を修得する。また様々な価値、信条を持つ人々を対象とした倫理的な看護実践を提供するための基礎となる人間の尊厳、意思決定、インフォームドコンセント、個人情報と守秘義務等の理解を基盤に、看護の倫理原則、看護実践上の倫理概念を理解する。この基本的知識を根拠とし、臨床で遭遇する倫理的問題をもつ事例を検討し、倫理的問題へのアプローチの方法を理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践における倫理の重要性について理解する。</li> <li>2. 臨床現場で看護師が遭遇する倫理的問題、ジレンマの背景・本質について考察する。</li> <li>3. 倫理的問題解決のための方法について理解する。</li> <li>4. 臨床で遭遇する医療状況における、患者・家族の確認について考察する。</li> <li>5. 看護者の倫理綱領について検討し、看護専門職者がもつべき倫理的感受性を高め、責務を追究しようとする姿勢が持てる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験 ・授業内的小テスト、課題、レポート ・事前/事後学習の課題、レポート ・その他	70 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。	
		2. 主体的行動力					0 %
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			20 %	与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかを評価する。	
		4. 課題発見能力と課題解決力					
	○	5. 看護の知識と看護実践力			10 %	グループワークへの取り組み、振り返りレポートを評価する	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計					100 %
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前/事後学習で課した課題、レポートについては、コメントを入れて返却する事でフィードバックを行う。</li> <li>・定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了後3日目で以降10日目までの間、○○研究室にて採点基準の解説を通じて行う。</li> </ul>						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	科目ガイダンス 医療・看護倫理の背景	事前学習	教科書第1章を熟読する。	時間	金子	
			講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のガイダンス 倫理とは何か</li> <li>・社会のルールと倫理</li> <li>・看護職が倫理を学ぶ必要性</li> <li>・倫理理論について学ぶ 看護師の基本的責任</li> <li>・看護倫理の歴史的推移 看護師の基本的責任</li> </ul>	2 時間		
			事後学習	・配布資料、教科書第1章を復習する。	2 時間		
	2	専門職の倫理と看護倫理	事前学習	教科書第2章、看護者の倫理綱領を熟読する。	2 時間	金子	
			講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療倫理・看護倫理の基本的な考え方</li> <li>・看護の倫理原則</li> <li>・看護専門職と倫理規範「看護職の倫理綱領」</li> </ul>	2 時間		
			事後学習	配布された資料と照らし合わせながら第2章看護、看護者の倫理綱領を復習する。	2 時間		
	3	看護倫理に関する言葉の概念と考え方1	事前学習	教科書第3章を熟読する。	2 時間	金子	
			講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護倫理における重要な概念</li> <li>【アドボカシー・パートナーリズム・プライバシーと守秘義務・ケアリング、協働等】</li> </ul>	2 時間		
			事後学習	配布された資料と照らし合わせながら第3章看護を復習する。	2 時間		
	4	看護倫理に関する言葉の概念と考え方2	事前学習	看護の基本的責務を熟読する	2 時間	金子	
			講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者と看護師の関係</li> <li>自律性の尊重 インフォームドコンセントと看護師</li> <li>・看護の場における倫理的ジレンマ</li> </ul>	2 時間		
			事後学習	配布された資料と照らし合わせながら第3章看護を復習する。	2 時間		
	5	看護倫理と法	事前学習	教科書P120～を熟読する。	2 時間	金子	
			講義	・基本的人権の尊重、尊厳とは何か、看護職の法的責任について考える。	2 時間		
			事後学習	配布された資料と照らし合わせながら第3章10・11を復習する。	2 時間		
	6	看護実践における 倫理的問題への取り組み1	事前学習	教科書p120～を熟読する	2 時間	金子	
			講義	・倫理的意決定の方法を学ぶ	2 時間		
			事前学習	講義で行った事例について、倫理分析を再考する。	2 時間		
	7	看護実践における 倫理的問題への取り組み1	事前学習	提示した事例を読み込む	1 時間	金子	
			講義	事例から考える看護場面における倫理的な分析と対処②	2 時間		
			事後学習	講義で行った事例について、倫理分析を再考する。	2 時間		
	8	医療安全と医療の質保証	事前学習	教科書p99～を熟読する	2 時間	伊藤	
			講義	・医療事故の要因、ヒューマンエラーとその防止等	2 時間		
事後学習			配布された資料および教科書を用い、講義の振り返りを行い、倫理とは何かを再考する。	2 時間			

9	定期試験	筆記試験	総学習時間 45 時間		金子
			テキスト	参考書	
・小西恵美子編『看護倫理』 南江堂 看護学テキストNICE		・ミルトン・メイヤロフ、田村真、向野宜之助訳『ケアの本質』 ゆるみ出版 ・『看護倫理綱領』 日本看護協会出版会			
実務経験と授業科目との関連性		履修要件			
病院での看護師経験を持つ教員が、看護職者としてどのような倫理観を持って判断し、行動し行動したらよいか指導する。		なし			
留意事項		オフィスアワー			
自分の考えを出し合って多くの価値観に触れることが重要であるので、話し合いが多い。他者の考えをよく聞きながら考え、自己の考えを積極的に表出することが学びとなるため、積極的・主体的に検討会に参加すること。		・日時;木・金 12:15~13:00 ・場所;2号館3階 金子研究室 ・teamsでの問い合わせには随時応じる			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
59	地域・在宅看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	安田 裕子

科目概要 在宅看護の社会的背景をはじめ、在宅看護の目的、基本的な理念や関連する概論を学修し、地域で暮らす対象者への支援の基盤となる制度や役割を学ぶ

- 到達目標
1. 日本の在宅看護が推進される社会的背景を説明できる。
  2. 在宅看護の特徴や役割を説明できる。
  3. 在宅看護の援助の基本や求められる姿勢が説明できる。
  4. 在宅看護を支えるシステムや制度を説明できる。

DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	70 %	筆記試験にて基礎的知識の定着を確認します。
		2. 主体的行動力	・授業内的小テスト、課題、レポート	20 %	課題を提示し重要点を抑えているか確認します。	
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート	・事前/事後学習の課題、レポート	10 %	予習・復習の確認の課題を提示します。	
		4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等	%		
◎	5. 看護の知識と看護実践力	・その他	・その他	%		
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %		

フィードバック

- ・課題・小テストは授業内で講評し返却する。
- ・課題(レポート等)は確認の上、コメントを記入しフィードバックを行い返却する。
- ・定期試験のフィードバックは試験後に行う。

回	項目	内容	時間	担当教員	
1	地域・在宅看護の概念	事前学習	テキスト第1章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。	2 時間	安田
		講義	授業の受講について 地域と生活について 地域・在宅看護の背景と在宅看護の基礎 地域療養を支える在宅看護の役割・機能・基本的理念・倫理について	2 時間	
		事後学習	テキスト第1章の重要点についてまとめておく。	2 時間	
2	在宅療養者と家族支援	事前学習	テキスト第2章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	地域・在宅看護の対象者・在宅療養の成立条件 在宅療養の場における家族の捉え方と家族看護について	2 時間	
		事後学習	テキスト第2章の重要点についてまとめておく。	2 時間	
3	地域包括ケアシステムと多様な生活における看護	事前学習	テキスト第3章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	地域アセスメント、地域包括ケアシステム	2 時間	
		事後学習	課題プリントの実施	2 時間	
4	地域包括ケアシステムと多様な生活における看護	事前学習	テキスト第3章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	多職種・多機関連携について 在宅看護におけるケースマネジメント・ケアマネジメント	2 時間	
		事後学習	課題の実施	2 時間	
5	地域り療養を支える制度	事前学習	テキスト第4章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	社会資源の活用について 医療保険制度 後期高齢者医療制度	2 時間	
		事後学習	課題の実施	2 時間	
6	地域り療養を支える制度	事前学習	テキスト第4章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	介護保険制度	2 時間	
		事後学習	課題の実施	2 時間	
7	地域り療養を支える制度	事前学習	テキスト第4章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	生活保護制度 障害者に関連する法律 難病法	2 時間	
		事後学習	課題の実施	2 時間	
8	地域り療養を支える制度	事前学習	テキスト第4章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 高齢者施策	2 時間	
		事後学習	課題の実施	2 時間	

教育内容	9 在宅療養を支える訪問看護	事前学習	テキスト第5章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	訪問看護の特徴 訪問看護ステーション 訪問看護サービスの流れ	2 時間	
		事後学習	課題の実施	2 時間	
	10 在宅療養を支える訪問看護	事前学習	テキスト第5章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	訪問看護サービスの展開 訪問看護記録 訪問看護師の一日	2 時間	
		事後学習	課題の実施	2 時間	
	11 在宅看護における安全と健康危機管理	事前学習	テキスト第6章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	在宅看護における安全と健康危機管理 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 東日本大震災の事例から	2 時間	
		事後学習	課題の実施	2 時間	
	12 災害時における在宅ケア	事前学習	テキスト第6章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 東日本大震災の事例から	2 時間	
		事後学習	課題の実施	2 時間	
	13 在宅における援助技術	事前学習	テキスト第7章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
		講義	在宅における医療管理を必要とする人と看護 生活ケアと医療的ケア 生活ケアの援助技術	2 時間	
		事後学習	課題の実施	2 時間	
	14 在宅における援助技術	事前学習	テキスト第7章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田
講義		在宅における医療管理を必要とする人と看護 医療ケアの援助技術	2 時間		
事後学習		課題の実施	2 時間		
15 地域・在宅看護の動向と今後の発展	事前学習	テキスト第8章の熟読を行い教員の質問に返答できるよう準備しておく。 事前課題を実施してくる。	2 時間	安田	
	講義	在宅看護の先駆的な取り組み これからの地域・在宅看護の発展にむけて 海外の事例から	2 時間		
	事後学習	テキスト第8章の重要点についてまとめておく。	2 時間		
16 定期試験		筆記試験		安田	
				総学習時間 90 時間	
テキスト			参考書		
・臺有柱編：ナースングラフィカ地域・在宅看護論①在宅療養を支えるケア。メディカ出版			テキスト以外に授業に必要な参考書は授業内で紹介する。必要な資料はそのつど配布する。		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
・訪問看護師、介護支援専門員、保健師、助産師、看護師の実務経験がある教員が、在宅看護の援助の基本と対象に応じた援助方法および臨床判断を行う際の根拠について指導する。 ・地域・在宅援助論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護学実習に関連			要件なし。		
留意事項			オフィスアワー		
1. 既習内容と関連づけ、予習・復習を必ず行い、アクティブな学習に心がけてください。 2. 各回の課題は必ず行ってください。			時間：授業後、昼休み 場所：教室・研究室等 メール、Teamsチャット等 アドレス：y.yasuda●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
60	地域・在宅看護援助論 I	1	30	必修	演習	2年後期	○安田裕子／関永信子

科目概要	地域で生活する人々とその家族を理解し、在宅看護の基本に基づいた援助方法を学修する。さらに臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者に応じた日常生活援助の基本や工夫を理解する。</li> <li>2. 日常生活を支える看護技術を修得する。</li> <li>3. 在宅医療機器の安全な取り扱いと管理が説明できる。</li> <li>4. 社会資源の援助内容と活用方法を理解し、看護の役割を説明できる。</li> </ol>
------	--

DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目	配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	60 %
	2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート		30 %	記述、レポートはポイントを捉えていること
○	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート		10 %	提出期日厳守
	4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等		%	
◎	5. 看護の知識と看護実践力	・その他		%	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %	

フィードバック	課題・小テストは授業内で講評し返却する。 ・定期試験のフィードバックは試験後行う。
---------	--

教育内容	回	項目	内容		時間	担当教員
	教育内容	1	授業のガイダンス 訪問看護技術について	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間
講義				授業の概略、進め方、取り組み方を含めたガイダンスを行う 訪問看護の意義・目的、家庭訪問・初回訪問について 訪問時の手順と倫理やマナー	2 時間	
事後学習				訪問看護の意義・目的、家庭訪問・初回訪問について、訪問時の手順と倫理やマナーについてまとめておく。	0.5 時間	
2		在宅療養生活を支える基本的な技術	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田
			講義	コミュニケーションとコミュニケーションの支援 感染予防 療養環境の整備	2 時間	
			事後学習	感染予防 療養環境の整備についてまとめておく。	0.5 時間	
3		在宅療養生活を支える基本的な技術 食生活のケア	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田
			講義	療養の場における食生活の特徴と包括的アセスメント 食事の工夫 食の支援における地域連携等 PEG 中心静脈栄養	2 時間	
			事後学習	食生活の特徴と包括的アセスメント、PEG、中心静脈栄養についてまとめておく。課題レポートの作成。	0.5 時間	
4		在宅療養生活を支える基本的な技術 排泄のケア	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田/関永
			講義	排泄援助が必要な対象者へのケア 在宅における排泄用具の選び方 排泄用具の数々 紙おむつの種類 排泄援助の工夫 ストーマ 膀胱留置カテーテルの管理	2 時間	
			事後学習	排泄に関するアセスメントについてまとめておく。課題レポートの作成。	0.5 時間	
5		療養を支える看護技術・医療ケア	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田
			講義	医療ケアの原理原則 薬物療法における援助の実際	2 時間	
			事後学習	医療ケアの原理原則、薬物療法における援助についてまとめておく。	0.5 時間	
6		療養を支える看護技術・医療ケア	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田/関永
			演習	在宅医療機器の取り扱い 在宅酸素療法対象者 在宅酸素機器の管理と指導 在宅人工呼吸器の対象者 在宅人工呼吸器の管理と指導	2 時間	
			事後学習	在宅酸素療法対象者、在宅人工呼吸器の対象者のアセスメントについてまとめておく。課題レポートの作成。	0.5 時間	
7		療養を支える看護技術・医療ケア	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田
			講義	在宅における医療管理を要する人の看護 褥瘡予防とケア	2 時間	
			事後学習	褥瘡予防とアセスメント・ケアについてまとめておく。課題レポートの作成。	0.5 時間	
8		療養を支える看護技術・医療ケア	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田
			講義	在宅における医療管理を要する医療的ケア児および家族の支援	2 時間	
			事後学習	医療的ケア児および家族の支援についてまとめておく。	0.5 時間	

教育内容	9	在宅療養を支える基本的な技術事例で学ぶ在宅看護の技術	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。配付資料の熟読を行う。	0.5 時間	安田/関永
			演習	認知症サポーター養成講座 地域で暮らす認知症高齢者の支援について学ぶ	2 時間	
			事後学習	認知症高齢者の支援についてまとめておく。	0.5 時間	
	10	清潔援助が必要な対象者へのケア	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田
			講義	在宅における清潔援助の工夫 身の回りのもので活用する清潔援助	2 時間	
			事後学習	課題レポートの作成。	0.5 時間	
	11	在宅療養を支える看護の展開	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田
			講義	在宅におけるエンド・オブ・ライフケアについて	2 時間	
			事後学習	課題レポートの作成。	0.5 時間	
	12	在宅療養を支える看護の展開	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田
			講義	アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について	2 時間	
			事後学習	課題レポートの作成。	0.5 時間	
	13	在宅療養を支える看護の展開	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田/関永
			演習	在宅における終末期ケア :エンゼルメイク・死生観	2 時間	
			事後学習	課題レポートの作成。	0.5 時間	
	14	在宅療養を支える看護の展開	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田/関永
演習			在宅における終末期ケア :エンゼルメイク・死生観	2 時間		
事後学習			課題レポートの作成。	0.5 時間		
15	在宅療養を支える看護過程の展開	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	0.5 時間	安田	
		講義	在宅看護過程の展開の考え方:ICFの視点から	2 時間		
		事後学習	在宅看護過程の展開についてまとめておく。	0.5 時間		
16	定期試験	試験			安田/関永	
					総学習時間	45 時間
テキスト				参考書		
・臺有柱編:ナーシンググラフィカ地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術。メディカ出版				テキスト以外に授業に必要な参考書は授業内で紹介する。必要な資料はそのつど配布する。		
実務経験と授業科目との関連性				履修要件		
・訪問看護師、介護支援専門員、保健師、助産師、看護師の実務経験がある教員が、在宅看護の援助の基本と対象に応じた援助方法および臨床判断を行う際の根拠について指導する。 ・地域・在宅援助論Ⅱ、地域・在宅看護学実習に関連				要件なし。		
留意事項				オフィスアワー		
1. 既習内容と関連づけ、予習・復習を必ず行い、アクティブな学習に心がけてください。 2. 各回の課題は必ず行ってください。				時間: 授業後、昼休み 場所: 教室・研究室等 メール、Teamsチャット等 アドレス:y.yasuda●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
61	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30	必修	演習	3年前期	○関永信子/安田裕子 在宅看護学教員
科目概要	地域で生活する人々への根拠に基づく援助と求められる援助の実際を学修する						
到達目標	1. 対象者の日常生活を支える支援とシステムが説明できる。 2. 訪問場面を模擬体験し、求められる援助の基本と訪問時の配慮が理解できる。 3. 療養生活における医療機器や生活環境の安全管理が理解できる。 4. 在宅生活を支える看護者の役割と多職種連携が理解できる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	0 %	基礎的問題30% 応用問題10% 事前学習および演習後の知識	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	40 %		
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	50 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
	◎	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	10 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	・授業内で課した、課題やレポート、学びのシートは後日コメントを添えて返却する ・授業などで実施した小テストは、採点后解説し問題と答案用紙を返却する ・当該科目は毎回授業の後半に授業内容を振り返る。						
教育 内容	1	事例で学ぶ在宅看護の技術	事前学習	teamsの第1・2回目の授業資料を予習する	1.5 時間	関永/安田	
			演習	事例から、療養者と家族を取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実践がイメージできる	2 時間		
			事後学習	地域・在宅看護の基礎的理解度を図るため小テストとその解説を行う	2 時間		
	2	事例で学ぶ在宅看護の技術	事前学習	teamsの第1・2回目の授業資料を予習する	1.5 時間	関永/ 在宅看護学 教員	
			演習	在宅療養者と家族の状況に応じた生活支援の方法と技術を検討できる	2 時間		
			事後学習	指定の記録用紙に看護の展開を記載してください	2 時間		
	3	介護予防の支援	事前学習	teamsの第3・4回目の授業資料を予習する	1.5 時間	関永/ 在宅看護学 教員	
			演習	事例に応じた介護予防またはレクリエーションなどの活動をグループで考える	2 時間		
			事後学習	グループ内で考えた活動内容を指定の用紙に記載する	3 時間		
	4	介護予防の支援	事前学習	teamsの第3・4回目の授業資料を予習する	1.5 時間	関永/ 在宅看護学 教員	
			演習	事例に応じた介護予防、レクリエーションなどの活動をグループで考える	3 時間		
			事後学習	グループ内で考えた活動内容を指定の用紙に記載する	3 時間		
	5	医療的ケアの援助	事前学習	teamsの第5・6回目の授業資料を予習する	1.5 時間	関永/安田	
			演習	呼吸療法を必要とする療養者と家族の生活課題を検討できる	2 時間		
			事後学習	指定の記録用紙に学びを記載する	2 時間		
	6	医療的ケアの援助	事前学習	teamsの第5・6回目の授業資料を予習する	1.5 時間	関永/安田	
			演習	在宅酸素療法(HOT)、非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)の医療的ケアを必要とする療養者や家族に対する基礎的な援助と機器の管理方法を検討できる	3 時間		
			事後学習	指定の記録用紙に学びを記載する	2 時間		
	7	療養を支える看護技術	事前学習	teamsの第7・8回目の授業資料を予習する	1.5 時間	関永/ 在宅看護学 教員	
			演習	二人一組になり事例を想定し脳神経のアセスメントを行う	2 時間		
			事後学習	指定の記録用紙に看護の展開を記載する	2 時間		
	8	療養を支える看護技術	事前学習	teamsの第7・8回目の授業資料を予習する	1.5 時間	関永/ 在宅看護学 教員	
			演習	二人一組になり事例を想定し脳神経のアセスメントを行う	3 時間		
			事後学習	指定の記録用紙に看護の展開を記載する	3 時間		

教育内容	9	地域で暮らす認知症高齢者の援助	事前学習	地域包括支援センターについて調べる	1.5 時間	関永/ 在宅看護学 教員
			演習	地域で生活する認知症の療養者と家族の支援を討議できる	2 時間	
			事後学習	指定の記録用紙に学びを記載する	2 時間	
	10	地域で暮らす認知症高齢者の援助	事前学習	地域包括支援センターについて調べる	1.5 時間	関永/ 在宅看護学 教員
			演習	地域で生活する認知症の療養者と家族の支援を討議できる	2 時間	
			事後学習	指定の記録用紙に看護の展開を記載する	2 時間	
	11	初回訪問	事前学習	事例の生活上の課題と援助内容を記載	1.5 時間	関永/ 在宅看護学 教員
			演習	グループ毎に事例に沿った初回訪問の脚本を作成し、家庭訪問を実施する	2 時間	
			事後学習	指定の記録用紙記載する	2 時間	
	12	初回訪問	事前学習	事例の生活上の課題と援助内容を記載	1.5 時間	関永/安田
			演習	グループ毎に事例に沿った初回訪問の脚本を作成し、家庭訪問を実施する	2 時間	
			事後学習	指定の記録用紙に看護の展開を記載する	2 時間	
	13	初回訪問	事前学習	事例の生活上の課題と援助内容を記載	1.5 時間	関永/安田
			演習	グループ毎に事例に沿った初回訪問の脚本を作成し、家庭訪問を実施する	2 時間	
			事後学習	指定の記録用紙に看護の展開を記載する	2 時間	
	14	事例で学ぶ在宅看護の技術	事前学習	指定の記録用紙に看護の展開を記載する	1.5 時間	関永/ 在宅看護学 教員
			講義	指定の記録用紙に看護の見解を記載する	2 時間	
			事後学習	指定の記録用紙に看護の展開を記載してください	3 時間	
15	事例で学ぶ在宅看護の技術	事前学習	指定の記録用紙に看護の展開を記載する	1 時間	関永/ 在宅看護学 教員	
		講義	指定の記録用紙に看護の見解を記載する	2 時間		
		事後学習	指定の記録用紙に看護の展開を記載してください	3 時間		
16	定期試験	試験			関永/安田	
					総学習時間	90 時間
テキスト			参考書			
なし			授業進度、学生の理解に応じて適宜必要な資料、プリントは配布する			
実務経験と授業科目との関連性			履修要件			
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験のある教員が、在宅看護の援助の基本と対象に応じた援助方法および根拠について指導する。			なし			
留意事項			オフィスアワー			
授業開始時に全8回の講義資料および課題を提示する。			関永研究室(2号館3階)において、毎水曜日3限(13:00~14:30)の間に設けます。会議や出張などで不在にすることもあるため、確実に面談を希望する場合は事前に予約をお願いします。			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
62	地域包括ケア論	1	8	必修	授業	1年後期	関永 信子
科目概要	地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを支援するための、地域包括ケアの基盤の理解とサービス提供の仕組みについて理解し、多職種連携やチーム医療による看護の役割を学修する。						
到達目標	1. 暮らしと地域包括ケアの対象を説明できる。 2. 生活を支える地域包括ケアの構成要素とサービス提供の仕組みが説明できる。 3. 対象を取り巻く保健・医療・福祉の必要性が理解できる。 4. 長野県松本市の地域の環境が生活に与える影響をインタビューできる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	60 %	基礎的問題50% 応用問題10%		
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	小テスト 課題学習の知識		
	◎ 3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	課題学習の知識		
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
	○ 5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	・授業内で課した、課題やレポート、学びのシートは後日コメントを添えて返却する ・授業で実施した小テストは、採点后解説し問題と答案用紙を返却する ・当該科目は毎回授業の後半に授業内容を振り返る。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	暮らしと日常生活	事前学習	teamsの第1回目の講義資料を予習する。テキストP20～22を熟読する。	1.5 時間	関永	
			講義	「生活」のとらえ方と「生活援助」について理解する 「日常生活」の意味について理解する	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する。	2 時間		
	2	地域の特性と健康	事前学習	teamsの第2回目の講義資料を予習する。テキストP2～3を熟読する。	1.5 時間	関永	
			講義	「地域」のとらえ方についてさまざまな定義を知る 地域の健康について、ソーシャルキャピタル・ICFモデルを理解する	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する。	2 時間		
	3	ささえ合う地域づくり	事前学習	teamsの第3回目の講義資料を予習する。テキストP4～15を熟読する	1.5 時間	関永	
			講義	統計指標から地域の基本的な課題を知る	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する。	2 時間		
	4	生活を支える仕組み	事前学習	teamsの第4回目の講義資料を予習する。テキストP24～35を熟読する。	1.5 時間	関永	
			講義	生活を支える仕組み 「自助」「互助」「共助」「公助」を理解する	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する。	2 時間		
	5	地域生活の困難者への理解	事前学習	teamsの第5回目の講義資料を予習する	1.5 時間	関永	
			講義	地域生活の困難者について理解する P4～15を熟読する。	2 時間		
			事後学習	地域で暮らす9の事例から1つを選び、事例が抱える課題と解決方法について考える	2 時間		
	6	地域包括ケア	事前学習	teamsの第6回目の講義資料を予習する	1.5 時間	関永	
			講義	地域包括ケアについて	2 時間		
			事後学習	事例から、退院後の地域生活を支えるサービスについて調べる	2 時間		
	7	事例を用いた生活支援の実際	事前学習	teamsの第7回目の講義資料をよく読んで授業に参加する	1.5 時間	関永	
			講義	事例の退院後の生活支援を「自助」「互助」「共助」「公助」に区分する	2 時間		
			事後学習	事例の退院後の生活支援を「自助」「互助」「共助」「公助」に区分する	2 時間		
	8	事例を用いた支え合う仕組み	事前学習	teamsの第1回～第7回の講義資料をよく読んで授業に参加する	1.5 時間	関永	
			講義	高齢者や介護についての身近な相談窓口 地域での暮らしとACPIについて	2 時間		
		事後学習	第1講目～第8講目までの振り返り	3 時間			

9	定期試験	筆記試験、60分、持ち込み不可	関永	総学習時間	45 時間
				テキスト	参考書
		地域包括ケアの基礎的理解と実践, 関永信子編著, 翔雲社, 2024		授業進度、学生の理解に応じて適宜必要な資料、プリントは配布する	
		実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
		訪問看護師、介護支援専門員の実務経験のある教員が、地域包括ケアの基本と暮らしを支える仕組みについて指導する。	なし		
		留意事項		オフィスアワー	
		授業開始時に全8回の講義資料および課題を提示する。		関永研究室(2号館3階)において、毎水曜日3限(13:00~14:30)の間に設けます。会議や出張などで不在にすることもあるため、確実に面談を希望する場合は事前に予約をお願いします。	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
63	家族看護学	1	15	必修	講義	3年前期	○安田裕子/上條節子/鮎川昌代 原岡智子/関永信子/桑原良子/亀井智泉
科目概要	家族看護を基盤に、療養者とその家族の健康と生活に対する課題を理解し、家族に応じた援助の工夫や配慮を学ぶ。近代家族の特徴や家族の機能および家族の基礎理論を理解する。次いで看護領域で用いられる代表的な家族の定義を理解し、時代や文化、社会の変動を踏まえて多様化する家族の価値観やライフスタイルに応じた家族への援助を学ぶ。						
到達目標	1. 近代家族の特徴と多様な家族を説明できる。 2. 要介護者を介護する家族の状況と介護問題を討議できる。 3. 家族への援助のポイントや援助の課題を説明できる。 4. 介護を通してもたらされる家族への影響と看護の役割を説明できる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	100 %	レポート作成形式に則っていること。	
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %		
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(課題レポート授業への取組み)	0 %		
◎	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	・課題(レポート等)は確認の上、コメントを記入しフィードバックを行い返却する。 ・授業内の課題は学生と教員のコメントを口頭にて行い、フィードバックする。						
教育 内容	回	内容				時間	担当教員
	1	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	1.5 時間	安田		
	1	講義	家族のとらえ方 近代家族の特徴・多様な家族形態を理解する 多様な家族の理解と病気体験及び援助関係について	2 時間			
	1	事後学習	テキスト当該課題範囲の復習とまとめを行う。	1.5 時間			
	2	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	2 時間	鮎川		
	2	講義	家族への援助のポイントと課題と在宅療養のプロセスと援助の課題を理解する	2 時間			
	2	事後学習	講義内容の復習とまとめを行う。	2 時間			
	3	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	2 時間	桑原		
	3	講義	高齢者虐待、要介護高齢者を介護する家族の状況を理解し、看護援助を考える 要介護高齢者と家族の理解及び援助について学ぶ	2 時間			
	3	事後学習	講義内容の復習とまとめを行う。	2 時間			
	4	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	2 時間	関永		
	4	講義	母性看護と家族の理解及び援助について学ぶ	2 時間			
	4	事後学習	講義内容の復習とまとめを行う。	2 時間			
	5	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	2 時間	亀井		
	5	講義	小児看護と療養者と家族の理解及び援助について学ぶ	2 時間			
	5	事後学習	講義内容の復習とまとめを行う。	2 時間			
	6	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	2 時間	上條		
	6	講義	精神に障害をもつ療養者と家族の理解及び援助について学ぶ	2 時間			
	6	事後学習	講義内容の復習とまとめを行う。	2 時間			
	7	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	2 時間	原岡		
	7	講義	公衆衛生看護の視点からの家族看護について理解する	2 時間			
	7	事後学習	講義内容の復習とまとめを行う。	2 時間			

8	在宅における家族看護	事前学習	テキスト当該課題範囲の熟読を行う。	1.5 時間	関永
		講義	在宅における家族の理解と援助 在宅看護における家族看護の重要性について理解する。	2 時間	
		事後学習	講義内容の復習とまとめを行う。	1.5 時間	
9	定期試験	試験:筆記試験、レポート課題等			安田
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
『家族看護学 別巻』医学書院			授業内で提示する		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
それぞれの専門分野での実務経験がある教員等が、多様化する家族の価値観やライフスタイルに応じた援助を指導する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
			授業内でそれぞれの領域担当教員に質問してください。 Teamsにて担当教員に問い合わせてください。		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
64	成人看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	○原寛美/鮎川昌代/垣内いづみ/笠原潮美
科目概要	ライフサイクル/成人期(青年期・壮年期・中年期)の人々における発達課題や健康上のニーズ・健康問題を身体的・心理精神的・社会的特徴を統合的にとらえ、対象者の持つ健康課題、その看護について理論的基礎から学び、さらに対象者のセルフケアの促進に視点を向け成人各期の特徴を基本に、ストレスと危機、健康障害について理解を深め、健康管理行動を促進、回復を支援する治療における看護援助の目的・方法、看護の役割を考えることができることをねらいとする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象論の理解:ライフサイクルにおける成人期の位置づけと各サイクルの定義・発達課題について説明できる(対象論の理解)。</li> <li>2. 発達段階の成人各期にある人の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。</li> <li>3. 成人期の健康・健康障害について説明できる。</li> <li>4. 成人看護学で活用される看護理論の概要について説明できる。</li> <li>5. 病気の経過とそれに対する基本的看護の説明ができる。</li> <li>6. 成人看護学実践者として、看護者の役割について説明できる。</li> <li>7. 成人看護学を実践する際の看護過程について説明できる。</li> <li>8. チーム医療について、看護者の立ち位置、役割を説明できる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	55 %	知識・技術力、思考・推論・創造する力 基本事項80%・応用事項20%で構成した記述問題	
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	15 %	知識・技術力、思考・推論・創造する力 各授業内容の復習課題(記述問題)(1点×15回)	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	15 %	発言・表現伝達する力、思考・推論・創造する力 自己学習で得た知識、疑問点等の記載内容(1点×15回)	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	15 %	取り組みの姿勢・意欲、協調性・リーダーシップ(1点×15回)	
	◎	5. 看護の知識と看護実践力		合計	100 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後課題に関しては、授業内での学習につなげるとともに、授業後に資料などを用いた解説をteams上で個別もしくは全体にフィードバックする。</li> <li>・講義後のリアクションペーパーを活用し、内容に応じて次回講義内もしくは WebClass でフィードバックする。</li> <li>・授業内で助言および共有を行う。</li> <li>・定期試験に関しては、授業で配布したプリントに解説済みである。</li> </ul>						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	第1章 成人期にある人の理解①	事前学習 教科書の該当箇所を予習しておくこと		1 時間	原/鮎川	
			講義 成人の位置づけを理解する;成人の特徴を理解する ほか		2 時間		
			事後学習 本日の学びを振り返る		2 時間		
	2	第1章 成人期にある人の理解②	事前学習 教科書の該当箇所を予習しておくこと		2 時間	原/鮎川	
			講義 発達段階から成人を理解する;成人の特徴を理解する ほか		2 時間		
			事後学習 本日の学びを振り返る		2 時間		
	3	第2章 成人を対象とした医療の特性①	事前学習 教科書の該当箇所を予習しておくこと		2 時間	原/鮎川	
			講義 患者の意思を尊重した医療;健康障害の段階に応じた急性期医療 ほか		2 時間		
			事後学習 本日の学びを振り返る		2 時間		
	4	第3章 成人を対象とした医療の特性②	事前学習 教科書の該当箇所を予習しておくこと		2 時間	原/鮎川	
			講義 患者の意思を尊重した医療;健康障害の段階に応じた慢性期医療 ほか		2 時間		
			事後学習 本日の学びを振り返る		2 時間		
	5	第3章 多様なケア環境とチーム医療における看護援成人期にある人の健康助	事前学習 教科書の該当箇所を予習しておくこと		2 時間	原/鮎川	
			講義 地域で療養する人と家族への支援;チーム医療推進のための多職種連携と看護の役割 ほか		2 時間		
			事後学習 本日の学びを振り返る		2 時間		
	6	成人期にある人の健康	事前学習 教科書の該当箇所を予習しておくこと		2 時間	原/鮎川	
			講義 健康レベルにおける枠組み①保健・医療・福祉における動向と課題		2 時間		
			事後学習 本日の学びを振り返る		2 時間		
	7	成人期にある人の健康	事前学習 教科書の該当箇所を予習しておくこと		2 時間	原/鮎川	
			講義 健康レベルにおける枠組み②		2 時間		
		事後学習 本日の学びを振り返る		2 時間			

教育内容	8	第4章 成人看護学に活用される理論・モデル①	事前学習	教科書の該当箇所を予習しておくこと	2 時間	鮎川
			講義	成人看護における倫理と看護者の役割	2 時間	
			事後学習	本日の学びを振り返る	2 時間	
	9	第4章 成人看護学に活用される理論・モデル②	事前学習	教科書の該当箇所を予習しておくこと	2 時間	鮎川
			講義	成人看護における倫理と看護者の役割	2 時間	
			事後学習	本日の学びを振り返る	2 時間	
	10	第4章 成人看護学に活用される理論・モデル③	事前学習	教科書の該当箇所を予習しておくこと	2 時間	鮎川
			講義	成人期にある人への看護援助	2 時間	
			事後学習	本日の学びを振り返る	2 時間	
	11	第4章 成人看護学に活用される理論・モデル④	事前学習	教科書の該当箇所を予習しておくこと	2 時間	鮎川
			講義	成人期にある人への看護援助	2 時間	
			事後学習	本日の学びを振り返る	2 時間	
	12	ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程とNANDA-Iの看護診断とは	事前学習	教科書の該当箇所を予習しておくこと	1 時間	垣内/鮎川 笠原
			演習	事例によるゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程とNANDA-Iの看護診断とは	2 時間	
			事後学習	ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程	4 時間	
	13	ゴードンの機能的健康パターンとNANDA-Iの看護診断の実際	事前学習	教科書の該当箇所を予習しておくこと	1 時間	垣内/鮎川 笠原
演習			事例によるゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程11パターン演習	2 時間		
事後学習			ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程	4 時間		
14	ゴードンの機能的健康パターンとNANDA-Iの看護診断の演習	事前学習		0 時間	垣内/鮎川 笠原	
		演習	事例によるゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程からの看護計画	2 時間		
		事後学習	事例の看護計画	4 時間		
15	ゴードンに基づく看護過程と事例展開まとめ	事前学習	事例の看護過程提出準備	1 時間	鮎川/垣内	
		演習	事例をもとに展開まとめ	2 時間		
		事後学習	全体の学びを振り返る	2 時間		
16	定期試験	筆記試験			原/鮎川/垣内	
					総学習時間	90 時間
テキスト				参考書		
・大西和子他編集『成人看護学概論』(ヌーヴェルヒロカワ) ・NANDA-I 看護診断 定義と分類 2024-2026(医学書院)				・M.ゴードン著、上鶴重美訳『アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断』(医学書院)		
実務経験と授業科目との関連性				履修要件		
専門分野での看護師実務経験がある教員が、成人慢性期看護の特性などについて指導する。				なし		
留意事項				オフィスアワー		
予習、復習の学びを持って1コマの学習とする				teamsのチャット機能で質問や面会予約をすること		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
65	成人急性期看護論	2	60	必修	演習	3年前期	○近藤恵子/垣内いづみ/中沢明美
科目概要	成人急性期看護における基礎知識と実践能力を育む。周術期のシミュレーション課題を通して演習、看護過程の展開を理解・実施し、実践力を付ける。NANDA-Iを活用して情報収集、アセスメント、分析・解釈・看護診断、看護ケア、評価の展開ができる事を目指す。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人急性期に必要な知識、専門用語の習得と説明ができ、看護展開ができる。</li> <li>2. 対象者の手術期のフィジカル・ヘルスアセスメントができる。</li> <li>3. 疾病の特徴、周手術期の期間(術前・術中・術後)に必要な看護ケアの説明ができる。</li> <li>4. 対象者に必要な看護過程の展開ができ、看護診断の理解と説明ができる。</li> <li>5. 術後合併症予防のための看護介入の説明ができる。</li> <li>6. 退院指導、継続看護の必要性を説明できる。</li> </ol>						
DPとの対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価方法	・定期試験	70 %	授業内容全般の理解度を評価する		
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	10 %	2回実施し総合評価に加える		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	5 %	演習時の記録物とその内容		
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	5 %	BLS看護技術演習の参加度をみる		
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力		・その他	10 %	記録内容・追加修正の割合を見る		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	定期試験点数の開示、小テストの振り返り・演習記録の返却と解説を行う。 看護過程については、オフィスアワーを設けて対応予定。						
教育内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	オリエンテーション 急性期・周術期ケアとは	事前学習 「手術」という体験を知る (図書館の本、インターネット、テキスト②26～27どれでも良いので見てくる)	0.5 時間	近藤		
	講義	序章:今日の外科看護の特徴と課題 周術期看護を学ぶに当たって	2 時間				
	事後学習	外科看護の役割:テキスト①p2～10復習、手術期看護:テキスト②p24～26復習	0.5 時間				
	2	外科医療の基礎1	事前学習 麻酔薬による生体の反応予習:テキスト①p36～41、麻酔の種類78～101、 テキスト②32～36読んでくる	0.5 時間	近藤		
	講義	第1章:外科医療の基礎・第3章外科治療を支える分野A麻酔法 手術侵襲と生体の反応	2 時間				
	事後学習	創傷治癒について復習:テキスト①17～48、テキスト②32～51	0.5 時間				
	3	外科医療の基礎2	事前学習 体液管理・栄養管理についてテキスト①110～123	0.5 時間	近藤		
	講義	「手術侵襲と生体反応」の小テスト解説 第3章外科治療を支える分野B呼吸管理・C体液管理・D栄養管理・E輸血療法	2 時間				
	事後学習	第3章外科治療を支える分野B呼吸管理・C体液管理・D栄養管理・E輸血療法復習	0.5 時間				
	4	外科医療の基礎3	事前学習 外科治療の実際:テキスト①p144～168 外科的侵襲の種類:テキスト②p56～68読んでくる	0.5 時間	近藤		
	講義	「体液管理・栄養管理」について小テストの解説 第4章:外科治療の実際	2 時間				
	事後学習	「体液管理・栄養管理」について小テストの振り返り 第4章:外科治療の実際復習	0.5 時間				
	5	周術期看護の概論①	事前学習 周術期看護の概論:テキスト①p194～216読んでくる	0.5 時間	近藤		
	講義	第6章:周術期看護の概論 第7章:手術前患者の看護、A外来看護師の役割	2 時間				
	事後学習	第7章:手術前患者の看護、A外来看護師の役割復習 テキスト①218～232 術前検査の内容を把握する	0.5 時間				
	6	周術期患者の看護①	事前学習 第7章:手術前患者の看護、D手術前の具体的援助 テキスト①232～247	0.5 時間	近藤		
	講義	第7章:手術前患者の看護、D手術前の具体的援助、 E日帰り手術を受ける患者の看護	2 時間				
	事後学習	手術前オリエンテーションの概略をまとめる テキスト②第4章術前の看護の部分参照	0.5 時間				
	7	周術期患者の看護②	事前学習 第8章:手術中患者の看護テキスト①250～291を読んでくる	0.5 時間	近藤		
	講義	第8章:手術中患者の看護	2 時間				
	事後学習	第8章:手術中患者の看護 復習 テキスト②第5章術中の看護の部分熟読	0.5 時間				
	8	周術期患者の看護③	事前学習 第9章:手術後患者の看護 テキスト①p294～331熟読	0.5 時間	近藤		
	講義	第9章:手術後患者の看護 第10章:集中治療を受ける患者の看護	2 時間				
事後学習	第9章:手術後患者の看護復習テキスト①p294～331、テキスト②p112～131 術後合併症について	0.5 時間					

教育内容	9	周術期患者の看護③	事前学習	せん妄、廃用症候群について復習	0.5 時間	近藤
			講義	第12章:手術を受ける高齢者の看護	2 時間	
			事後学習	第12章:手術を受ける高齢者の看護テキスト①p372~389復習	0.5 時間	
	10	周術期患者の看護③	事前学習	術後の継続看護:テキスト②p140~153 熟読	0.5 時間	近藤
			講義	術後の継続看護	2 時間	
			事後学習	術後の形態機能変化について復習 テキスト②p140~144	0.5 時間	
	11	各手術時の看護支援①	事前学習	テキスト②呼吸器系に障害のある人の手術p162~168	0.5 時間	近藤
			演習	呼吸器系に障害のある人の手術(肺がん・気胸) 事例展開:胸腔鏡、ゴードン:健康知覚・健康管理パターン、活動-運動パターンを中心に	2 時間	
			事後学習	看護過程:胸腔鏡	0.5 時間	
	12	各手術時の看護支援①	事前学習	テキスト②呼吸器系に障害のある人の手術p162~168	0.5 時間	近藤
			演習	呼吸器系に障害のある人の手術(肺がん・気胸) 事例展開:胸腔鏡、ゴードン:健康管理パターン、活動-運動パターンを中心に	2 時間	
			事後学習	看護過程:胸腔鏡	0.5 時間	
	13	各手術時の看護支援①	事前学習	看護過程:胸腔鏡	0.5 時間	近藤
			演習	呼吸器系に障害のある人の手術(肺がん・気胸) 説明補講	2 時間	
			事後学習	看護過程:胸腔鏡	0.5 時間	
	14	各手術時の看護支援②	事前学習	テキスト②循環器系に障害のある人の手術p182~209熟読	0.5 時間	近藤
			演習	循環器系に障害のある人の手術(狭心症・弁膜症) 事例展開:開胸 ゴードン:健康管理パターン、栄養-代謝パターン、活動-運動パターンを中心に	2 時間	
			事後学習	看護過程:狭心症または弁膜症	0.5 時間	
	15	各手術時の看護支援②	事前学習	テキスト②循環器系に障害のある人の手術p182~209熟読	0.5 時間	近藤
			演習	循環器系に障害のある人の手術(狭心症・弁膜症) 事例展開:開胸 ゴードン:健康管理パターン、栄養-代謝パターン、活動-運動パターンを中心に	2 時間	
事後学習			看護過程:狭心症または弁膜症	0.5 時間		
16	各手術時の看護支援③	事前学習	テキスト②運動器系に障害のある人の手術(大腿骨頸部骨折)p290~300	0.5 時間	近藤	
		演習	運動器系に障害のある人の手術(大腿骨頸部骨折) 事例展開:牽引後の手術 ゴードン:健康管理パターン、栄養-代謝パターン、排泄パターン、活動-運動パターン、睡眠-休息パターンを中心に	2 時間		
		事後学習	看護過程:大腿骨頸部骨折	0.5 時間		
17	各手術時の看護支援③	事前学習	テキスト②運動器系に障害のある人の手術(大腿骨頸部骨折)p290~300	0.5 時間	近藤	
		演習	運動器系に障害のある人の手術(大腿骨頸部骨折) 事例展開:牽引後の手術 ゴードン:健康管理パターン、栄養-代謝パターン、排泄パターン、活動-運動パターン、睡眠-休息パターンを中心に	2 時間		
		事後学習	看護過程:大腿骨頸部骨折	0.5 時間		
18	各手術時の看護支援④	事前学習	テキスト②消化器系に障害のある人の手術(胃癌、直腸癌)p210~249	0.5 時間	近藤	
		演習	消化器系に障害のある人の手術(胃癌、直腸癌) 事例展開:術前準備ケア ゴードン:全パターン	2 時間		
		事後学習	看護過程:胃癌・直腸癌	0.5 時間		
19	各手術時の看護支援④	事前学習	テキスト②消化器系に障害のある人の手術(胃癌、直腸癌)p210~249	0.5 時間	近藤	
		演習	消化器系に障害のある人の手術(胃癌、直腸癌) 事例展開:術前準備ケア ゴードン:全パターン	2 時間		
		事後学習	看護過程:胃癌・直腸癌	0.5 時間		
20	各手術時の看護支援④	事前学習	テキスト②消化器系に障害のある人の手術(胃癌、直腸癌)p210~249	0.5 時間	近藤	
		演習	消化器系に障害のある人の手術(胃癌、直腸癌) 事例展開:術前準備ケア ゴードン:全パターン	2 時間		
		事後学習	看護過程:胃癌・直腸癌	0.5 時間		

教育内容	21 各手術時の看護支援④	事前学習	テキスト②消化器系に障害のある人の手術(胃癌、直腸癌)p210～249	0.5 時間	近藤
		演習	消化器系に障害のある人の手術(胃癌、直腸癌) 事例展開:術前準備ケア・ゴード:全パターン	2 時間	
		事後学習	看護過程:胃癌・直腸癌	0.5 時間	
	22 各手術時の看護支援⑤	事前学習	テキスト②脳神経系に障害のある人の手術(脳腫瘍、くも膜下出血)p264～277	0.5 時間	近藤
		演習	脳神経系に障害のある人の手術(脳腫瘍、くも膜下出血) 事例展開:緊急入院事例	2 時間	
		事後学習	看護過程:脳腫瘍またはくも膜下出血	0.5 時間	
	23 各手術時の看護支援⑤	事前学習	テキスト②脳神経系に障害のある人の手術(脳腫瘍、くも膜下出血)p264～277	0.5 時間	近藤
		演習	脳神経系に障害のある人の手術(脳腫瘍、くも膜下出血) 事例展開:緊急入院事例	2 時間	
		事後学習	看護過程:脳腫瘍またはくも膜下出血	0.5 時間	
	24 看護技術	事前学習		0.5 時間	近藤
		演習	呼吸管理・循環管理の看護技術 呼吸理学療法・体位ドレナージ・酸素マスク・ルート固定・弾性ストッキング	2 時間	
		事後学習		0.5 時間	
	25 看護技術	事前学習		0.5 時間	近藤/垣内 中沢
		演習	日常生活動作への援助 早期離床・ルートがある人の寝衣交換	2 時間	
		事後学習		0.5 時間	
	26 看護技術	事前学習		0.5 時間	近藤/垣内 中沢
		演習	呼吸理学療法・体位ドレナージ・酸素マスク・ルート固定・弾性ストッキング 早期離床・ルートがある人の寝衣交換	2 時間	
		事後学習		0.5 時間	
	27 救急看護の基礎	事前学習	救急看護の基礎:テキスト①p178～191読んでくる	0.5 時間	近藤
		講義	第5章救急看護の基礎 BLS演習の説明	2 時間	
		事後学習	「応急手当講習テキスト」に基づいて事前エラーニング	0.5 時間	
	28 救急看護の基礎(実践)	事前学習	「応急手当講習テキスト」に基づいて事前エラーニング	0.5 時間	近藤/中沢
		演習	BLS演習	2 時間	
		事後学習		0.5 時間	
	29 救急看護の基礎(実践)	事前学習		0.5 時間	近藤/中沢
		演習	BLS演習	2 時間	
		事後学習		0.5 時間	
	30 救急看護の基礎(実践)	事前学習		0.5 時間	近藤/中沢
		演習	演習のまとめ	2 時間	
		事後学習		0.5 時間	
31 定期試験		定期試験		近藤/垣内	
				総学習時間	90 時間

テキスト	参考書
池上徹(編):系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院 中島美恵子(編):ナースング・グラフィカ 成人看護学④周術期看護、メディカ出版 T.ハザー・ハードマン 上鶴重美訳:NANDA-I看護診断定義と分類、医学書院	なし
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、成人急性期看護における基礎知識と実践能力について指導する	なし
留意事項	オフィスアワー
なし	近藤メール:k.kondo●matsutan.ac.jp 中沢メール:巻末参照 (●は@と置き換える)

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者＝○)
66	成人慢性期看護論	2	60	必修	演習	2年後期	○鮎川昌代/垣内いづみ/近藤恵子 笠原潮美/中沢明美/非常勤
科目概要	成人各期の健康保持や疾病予防と、成人の健康課題・管理・マネージメントに応じた看護について理解し、成人慢性期看護学の基本となる援助方法を学ぶ。リアリティのある事例のシミュレーションを設定し、「気づく」を支援し、ディスカッション(プレブリーフィングとティブリーフィング)を重ね、記録によるリフレクションを活用して、臨床判断能力を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の心身の特徴及び罹患率の高い疾患の看護について理解し、健康問題をもつ成人のアセスメント及びその援助法を学習する。</li> <li>2. 慢性期看護の特徴及びがん看護の特徴を学ぶ。</li> <li>3. 事例を通して、慢性期・終末期における患者のアセスメント、看護上の問題を取り出し、援助計画を立案することができる。</li> <li>4. 慢性期・終末期の患者への具体的な援助技術、援助方法を実践し修得できる。</li> <li>5. 慢性期・終末期にある患者の意思決定支援について、看護の立場から自分の意見を述べるができる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	55 %	知識・技術力、思考・推論・創造する力 基本事項80%・応用事項20%で構成した記述問題	
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	15 %	知識・技術力、思考・推論・創造する力、倫理的思考力 各授業内容の復習課題(記述問題)(1点×15回)	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	15 %	発言・表現伝達する力、思考・推論・創造する力 自己学習で得た知識、疑問点等の記載内容(1点×15回)	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	15 %	取り組みの姿勢・意欲、協調性・リーダーシップ(1点×15回)	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		合計	100 %		
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後課題に関しては、授業内での学習につなげるとともに、授業後に資料などを用いた解説をteams上で個別もしくは全体にフィードバックする。</li> <li>・講義後のリアクションペーパーを活用し、内容に応じて次回講義内もしくは WebClass でフィードバックする。</li> <li>・授業内で助言および共有を行う。・定期試験に関しては、授業で配布したプリントに解説済みである。</li> </ul>						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	慢性疾患をもちながら生きるということ (病みの軌跡とケア)健康課題、clinical judgement	事前学習 医学書院教科書「この本で学ぶこと」を予習しておくこと	0.5 時間	鮎川		
	講義	・慢性期疾患。成人期にある人の発達課題と発達危機について理解し、看護の役割を学習する。・情報と患者ケア技術を使用して、安全で費用対効果の高い質の高いケアを提供する際の臨床的判断①	2 時間				
	事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間				
	2	序章 がんに罹患するということ 系統看護学講座-別巻 がん看護学2022	事前学習 がん看護教科書序章を予習しておくこと	0.5 時間	鮎川		
	講義	・がんの告知を受ける患者の体験、初期治療を受ける患者の体験 ・治療計画と意思決定支援	2 時間				
	事後学習	本日の学びを振り返る。	0.5 時間				
	3	第1章 がん医療の現状と看護	事前学習 教科第1章を予習しておくこと	0.5 時間	鮎川		
	講義	がんを取り巻く状況、がんの疫学とリスク要因、がんの予防と早期発見 エビデンスと早期発見、倫理的課題と対応	2 時間				
	事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間				
	4	第2章 がんの病態と診断	事前学習 教科第2章を予習しておくこと	0.5 時間	鮎川		
	講義	がんの生物学的特性、がんの増殖と文化、がんの特有の病態と症候、 がんの診断	2 時間				
	事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間				
	5	第3章 がんの治療	事前学習 教科第3章を予習しておくこと	0.5 時間	鮎川		
	講義	A.ガン治療の概要、C.薬物療法、D.放射線療法 慢性疾患と共に生きる人の療養法と特徴	2 時間				
	事後学習	本日の学びを振り返る。	0.5 時間				
	6	第4章 がん患者の看護	事前学習 教科第4章を予習しておくこと	0.5 時間	鮎川		
	講義	がん患者の対象と場、がん患者の苦痛のマネジメント がん患者に対する心理的・社会的サポート	2 時間				
	事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間				
	7	第5章 がん治療に対する看護①	事前学習 教科第5章を予習しておくこと	0.5 時間	垣内		
	講義	A.がん治療における看護の重要性、C.薬物療法における看護、 D.放射線療法における看護、造血幹細胞移植と看護	2 時間				
	事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間				
	8	第6章 がん治療に対する看護②	事前学習 教科第6章を予習しておくこと	0.5 時間	垣内		
	講義	F.臨床試験を受ける患者のお看護、G.外来がん患者、H.がん患者の療養支援	2 時間				
事後学習	本日の学びを振り返る。	0.5 時間					

教育内容	9	慢性疾患をもつ患者の看護【消化器】① 成人看護学[5] 消化器 第16版2024	事前学習	学習した教科書や資料を読み返し、消化器系の解剖生理や病態を復習する。	0.5 時間	近藤
			講義	消化器系の慢性疾患をもつ人へのケア①	2 時間	
			事後学習	事後課題に取り組み提出する	0.5 時間	
	10	慢性疾患をもつ患者の看護【消化器】② 成人看護学[5] 消化器 第16版2024	事前学習	教科第1章を予習しておくこと	0.5 時間	近藤
			講義	ストーマ等の慢性疾患をもつ人へのケア② 災害時の看護方法	2 時間	
			事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間	
	11	慢性疾患を持つ患者の看護【内分泌6】 ① 成人看護学[6] 内分泌・代謝 第16版 2024	事前学習	教科書や資料を読み返し、内分泌・代謝系の解剖生理や病態について復習する。	0.5 時間	垣内
			講義	内分泌・代謝系の慢性疾患をもつ人へのケア①	2 時間	
			事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間	
	12	慢性疾患を持つ患者の看護【内分泌6】 ② 成人看護学[6] 内分泌・代謝 第16版 2024	事前学習	教科書や資料を読み返し、内分泌・代謝系の解剖生理や病態について復習する。	0.5 時間	垣内
			講義	内分泌・代謝系の慢性疾患をもつ人へのケア②	2 時間	
			事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間	
	13	処置を受ける患者の看護(演習①)	事前学習	援助技術の目的、適応、ポイント、エビデンス等を確認しながら知識をにまとめる	0.5 時間	垣内/近藤 笠原/中沢 非常勤/鮎川
			演習	白衣 BSチェック・インシュリン注射器	2 時間	
			事後学習	演習の学びを振り返りレポートに記入し提出する	0.5 時間	
	14	処置を受ける患者の看護(演習②)	事前学習	援助技術の目的、適応、ポイント、エビデンス等を確認しながら知識をにまとめる	0.5 時間	垣内/近藤 笠原/中沢 非常勤/鮎川
			演習	白衣 ストーマケア・ドレーン管理・スキントア等、皮膚管理	2 時間	
			事後学習	演習の学びを振り返りレポートに記入し提出する	0.5 時間	
	15	処置を受ける患者の看護(演習③)	事前学習	援助技術の目的、適応、ポイント、エビデンス等を確認しながら知識をにまとめる	0.5 時間	垣内/近藤 笠原/中沢 非常勤/鮎川
			演習	白衣 ストーマケア・ドレーン管理・スキントア等、皮膚管理	2 時間	
事後学習			演習の学びを振り返りレポートに記入し提出する	0.5 時間		
16	慢性疾患をもつ患者の看護【消化器】③ 成人看護学[5] 消化器 第16版2024	事前学習	消化器の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	垣内	
		講義	肝硬変の患者の事例1でゴードンの看護過程とNANDA-Iの展開	2 時間		
		事後学習	事例1でゴードンの看護過程とNANDA-Iの展開	1 時間		
17	慢性疾患をもつ患者の看護【消化器】④ 成人看護学[5] 消化器 第16版2024	事前学習	消化器の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	垣内	
		講義	肝硬変の患者の事例1でゴードンの看護過程とNANDA-Iの展開	2 時間		
		事後学習	演習:事例の理解とゴードンの枠組みを基に情報整理・アセスメント	1 時間		
18	慢性疾患を持つ患者の看護【呼吸器】 成人看護学[2] 呼吸器 第16版 2024	事前学習	呼吸器系の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	鮎川	
		講義	さまざまな喪失をした成人がその人らしく自立して生きるためのセルフケアの再獲得と看護の役割	2 時間		
		事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間		
19	慢性疾患を持つ患者の看護【呼吸器】 成人看護学[2] 呼吸器 第16版 2024	事前学習	呼吸器系の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	鮎川	
		講義	慢性呼吸器疾患患者の病態の理解と看護の役割	2 時間		
		事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間		
20	慢性疾患を持つ患者の看護【循環器】 成人看護学[3] 循環器 第16版 2024	事前学習	循環器系の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	鮎川	
		講義	さまざまな喪失をした成人がその人らしく自立して生きるためのセルフケアの再獲得と看護の役割	2 時間		
		事後学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間		

教育 内容	21	慢性疾患を持つ患者の看護【循環器】 成人看護学[3] 循環器 第16版 2024	事前 学習	循環器系の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	鮎川
			講義	慢性疾患をもつ人のリハビリテーション・障害受容	2 時間	
			事後 学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間	
	22	慢性疾患を持つ患者の看護【腎泌尿器】 成人看護学[8] 腎・泌尿器 第16版 2024	事前 学習	腎・泌尿器系の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	鮎川
			講義	慢性腎不全の日常生活援助について	2 時間	
			事後 学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間	
	23	慢性疾患を持つ患者の看護【腎泌尿器】 成人看護学[8] 腎・泌尿器 第16版 2024	事前 学習	腎・泌尿器系の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	鮎川
			講義	セルフコントロール腹膜透析患者とその家族の援助を理解する	2 時間	
			事後 学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間	
	24	慢性疾患を持つ患者の看護【内分泌6】 ③	事前 学習	パンフレット提出	0 時間	鮎川
			講義	退院指導パンフレットの対象・目的・ポイントなどの発表会	2 時間	
			事後 学習	本日の学びを振り返る	0 時間	
	25	慢性疾患を持つ患者の看護【内分泌6】 ④	事前 学習	プレゼンテーションの練習	0.5 時間	鮎川
			講義	自作のパンフレットを用いて退院指導を実施する	2 時間	
			事後 学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間	
	26	慢性疾患を持つ患者の看護【脳神経】 成人看護学[7] 脳・神経 第16版 2024	事前 学習	脳・神経系の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	垣内
			講義	脳神経疾患受傷後のその人らしく生きていくための看護支援	2 時間	
			事後 学習	本日の学びを振り返る。	0.5 時間	
	27	慢性疾患を持つ患者の看護【脳神経】 成人看護学[7] 脳・神経 第16版 2024	事前 学習	脳・神経系の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	垣内
			講義	さまざまな喪失をした成人がその人らしく自立して生きるためのセルフケアの再獲得と看護の役割	2 時間	
			事後 学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間	
	28	慢性疾患を持つ患者の看護【整形10】 成人看護学[10] 運動器 第15版 2024	事前 学習	運動器系の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	鮎川
			講義	疼痛のある成人慢性期の患者とその家族の援助を理解する	2 時間	
			事後 学習	本日の学びのお振り返る	0.5 時間	
	29	慢性疾患を持つ患者の看護【整形10】 成人看護学[10] 運動器 第15版 2024	事前 学習	運動器系の解剖生理や病態について復習する	0.5 時間	鮎川
			講義	慢性関節痛で生活習慣改善の指導を受けている患者と家族の援助を理解する	2 時間	
			事後 学習	本日の学びを振り返る	0.5 時間	
	30	成人慢性期看護の実践を考える	事前 学習	全体を通して疑問や質問が残っているかをまとめる	0.5 時間	垣内
			講義	成人慢性期の患者教育について 看護計画の立案と看護展開(アセスメント)の理解 事例1の看護展開(アセスメント、情報の統合・判断結果)の理解	2 時間	
			事後 学習	本日の学びを振り返る。	0.5 時間	
	31	定期試験	筆記試験			鮎川/垣内
				総学習時間	90 時間	

テキスト	参考書
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小松浩子他：がん看護学、医学書院</li> <li>・『系統看護学講座 成人看護学総論』(医学書院)</li> <li>・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2～11』(医学書院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖生理学、栄養と代謝、疾病論・障害論で使用したテキスト</li> <li>・Anselm L.Strauss他著、南裕子監訳『慢性疾患を生きる一ケアとクオリティ・ライフの接点』(医学書院 1987)</li> </ul>
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験がある教員が、成人慢性期看護における基礎知識と実践能力について指導する。	なし
留意事項	オフィスアワー
学内演習：実習着とナースシューズを着用し、演習にふさわしい身だしなみで受講してください。主体的な参加を期待します。	teamsにて随時対応します。

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
67	緩和ケア論	1	15	選択	講義	2年後期	○鮎川昌代/垣内いづみ
科目概要	緩和ケアは、WHOによって「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理的問題、スピリチュアルな問題を早期に同定し、適切な評価と治療によって、苦痛の予防と緩和を行うことで、QOLを改善するアプローチである」と定義されている。「基本的な苦痛の緩和」のシミュレーション演習を取り入れながら、知識を持ち実践できる臨床判断能力を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緩和ケア、End-of-Life Care の歴史・理念を理解し、日本の現状について説明できる。</li> <li>2. 緩和ケアの対象者の心身の特徴と必要な看護について説明できる。</li> <li>3. 緩和ケア領域における患者・家族のスピリチュアルな側面について説明することができる。</li> <li>4. 緩和ケアにおける倫理的課題について説明できる。</li> <li>5. 最期を迎える対象者への End-of-Life Care、家族のグリーフワークについて、理解できる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	55 %	知識・技術力、思考・推論・創造する力 基本事項80%・応用事項20%で構成した記述問題	
	◎	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	15 %	知識・技術力、思考・推論・創造する力 各授業内容の復習課題(記述問題)(1点×15回)	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	15 %	発言・表現伝達する力、思考・推論・創造する力 自己学習で得た知識、疑問点等の記載内容(1点×15回)	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	15 %	取り組みの姿勢・意欲、協調性・リーダーシップ(1点×15回)	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		合計	100 %		
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前・事後課題に関しては、授業内での学習につなげるとともに、授業後に資料などを用いた解説をteams上で個別もしくは全体にフィードバックする。</li> <li>・講義後のリアクションペーパーを活用し、内容に応じて次回講義内もしくは WebClass でフィードバックする。</li> <li>・授業内で助言および共有を行う。定期試験に関しては、授業で配布したプリントに解説済みである。</li> </ul>						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	第1章 緩和ケアの現状と展望 第2章 緩和ケアにおけるチームアプローチ 第3章 緩和ケアにおけるコミュニケーション	事前学習	教科書を自己学習しておくこと		1 時間	鮎川
			講義	人生の最後・人間の最後・加齢と老化・個体死		2 時間	
			事後学習	緩和ケアにおけるチームアプローチと看護師の役割についてまとめる		1 時間	
	2	第4章 緩和ケアにおける倫理的課題	事前学習	教科書を自己学習しておくこと		1 時間	垣内
			講義	緩和ケア、安楽死、尊厳死、使命を生きる		2 時間	
			事後学習	緩和ケアを倫理観から考える		1 時間	
	3	第5章 全人的ケアの実践	事前学習	教科書を自己学習しておくこと		1 時間	垣内
			講義	意思決定とコミュニケーション、患者が「死にたい」と言ったら		2 時間	
			事後学習	学修課題に取り組む		1 時間	
	4	第6章 緩和ケアの広がり	事前学習	教科書を自己学習しておくこと		1 時間	垣内
			講義	誰が命を救うのか 医師たちの原発事故/スピリチュアルケア		2 時間	
			事後学習	学修課題に取り組む		1 時間	
	5	第7章 臨死期のケア 第8章 家族のケア	事前学習	教科書を自己学習しておくこと		1 時間	垣内
			講義	意思決定とコミュニケーション/在宅緩和ケア、胃瘻を考える		2 時間	
			事後学習	学修課題に取り組む		1 時間	
	6	第9章 医療スタッフのケア	事前学習	教科書を自己学習しておくこと		1 時間	鮎川
			講義	Palliative Care ライフハック等		2 時間	
			事後学習	学修課題に取り組む		1 時間	
	7	第10章 緩和ケアに関する教育	事前学習	教科書を自己学習しておくこと		0.5 時間	鮎川
			講義	海外の緩和ケアに関する教育		2 時間	
			事後学習	学修課題に取り組む		0.5 時間	

8	最新技術で緩和を	事前学習	ニュースや新聞などで自己学習をしておくこと	0.5 時間	鮎川/垣内
		講義	VR(バーチャルリアリティ: 仮想現実)を緩和ケアに使う！	2 時間	
		事後学習	学修課題に取り組む	0.5 時間	
9	定期試験	筆記試験			鮎川/垣内
				総学習時間	30 時間
テキスト			参考書		
恒藤暁 / 田村恵子系統看護学講座-別巻 緩和ケア 第3版 医学書院 2020			<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定非営利活動法人日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員会(2014)</li> <li>・著:小松浩子他『系統看護学講座別巻 がん看護学』(医学書院 2022)</li> <li>・編:恒藤暁他『緩和ケア』(医学書院 2014)</li> <li>・著:キューラー・ロス、鈴木 晶『死ぬ瞬間』(2001)</li> </ul>		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
専門分野での看護師実務経験がある教員が、緩和ケアに求められる基礎的知識を指導する。担当教員は一般病棟、ICU、救急救命センター、手術室の実務経験を有する。担当教員は幅広い実務経験から、緩和ケアの知識と技術を実践的に教授することができる。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
予習復習においては、関連書籍を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。復習においては講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。 また、緩和ケアや終末期ケアは社会的な問題でもあり、日頃から新聞やテレビなどのメディア、書籍などから最新の情報や現在、何が問題になっているかについて意識を向けておくことも大切である。			teamsにて随時対応します。		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
68	老年看護学概論	1	30	必修	講義	2年前期	○桑原 良子
科目概要	加齢による身体、精神、心理、社会的特徴とそれに伴う生活の変化など、老年期にある人々について理解を深める。老年期の考え方、捉え方について今日的な課題も含めて、様々な側面から考えることができることを目指す。高齢者の健康を支えるための看護の役割とそれに伴う倫理について理解する。生活障害、健康障害を持つ高齢者やその家族について理解し、自己の老年観の形成を目指す。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢変化が引き起こす身体的、心理的、社会的な生活面の変化を理論的・体験的に理解できる。</li> <li>2. 老年者に特徴的な疾患とその看護について説明することができる。</li> <li>3. 高齢者を取り巻く現状(統計的・社会保障面等)と課題について説明できる。</li> <li>4. 自己の老年観を養うことができる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力			・定期試験	80 %	授業の全般についての理解度を評価する
		2. 主体的行動力				0 %	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力				0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力			・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	4・5回授業の事前/事後学習の成果物が、授業内容の視点と絡めて深く考察して作成されているかを評価する。
	○	5. 看護の知識と看護実践力			合計	100 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
フィードバック	レポートは授業内でフィードバックする。 定期試験は、研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	超高齢社会の現状	事前学習 テキスト第2章p24-40		0.5 時間	桑原	
			講義 統計指標から高齢社会の現状を読み取る		2 時間		
			事後学習 講義内容の振り返り		0.5 時間		
	2	高齢者をめぐる社会保障1.	事前学習 テキストp36-53の内容について理解しておくこと		0.5 時間	桑原	
			講義 高齢者に関わる保健医療福祉制度の変遷と現状・課題を理解する		2 時間		
			事後学習 講義内容の振り返り		1.5 時間		
	3	高齢者をめぐる社会保障2.	事前学習 テキストp41-54		0.5 時間	桑原	
			講義 介護保険制度とその現状を理解する		2 時間		
			事後学習 講義内容の振り返り		0.5 時間		
	4	老年期の理解1	事前学習 自身の高齢期について事前レポート作成		0 時間	桑原	
			講義 高齢者体験を通して身体面の加齢変化を理解する(演習)		2 時間		
			事後学習 演習のまとめ		0.5 時間		
	5	老年期の理解2	事前学習 高齢期の生活について事前レポートの作成		0 時間	桑原	
			講義 高齢者体験を通して高齢期の社会的変化を理解する(演習)		2 時間		
			事後学習 演習のまとめ		0.5 時間		
	6	老年期の理解3	事前学習 第1章を予習する		0.5 時間	桑原	
			講義 高齢者体験から自己の高齢期の生活について考える。		2 時間		
			事前学習 講義内容の振り返り		1 時間		
	7	認知症高齢者対策	事前学習 テキスト①p296-316を予習すること		0.5 時間	桑原	
			講義 認知症の基本的な理解と制度や政策について理解する		2 時間		
			事後学習 講義内容の振り返り		0.5 時間		
	8	認知症高齢者の家族と支援	事前学習 テキスト①p296-316を予習すること		0.5 時間	桑原	
			講義 認知症高齢者とその家族の健康問題と要因について理解するDVD視聴		2 時間		
		事後学習 DVDのまとめ		0.5 時間			

9	高齢者の健康問題	事前学習	テキスト①第4章を予習する	0.5 時間	桑原
		講義	高齢期に起こりやすい健康障害と要因について理解する	2 時間	
		事後学習	講義内容の振り返り	0.5 時間	
10	高齢者のエンドオブライフケア	事前学習	テキスト①第8章を予習する	0.5 時間	桑原
		講義	終末期の介護や家族について看護の視点を理解する	2 時間	
		事後学習	講義内容の振り返り	0.5 時間	
11	老年看護の機能する場	事前学習	テキスト①第9章を予習する	0.5 時間	桑原
		講義	老年看護の活動の場とその法的根拠について理解する	2 時間	
		事後学習	講義内容の振り返り	0.5 時間	
12	高齢者の権利擁護	事前学習	テキスト第1章p54-6、6を読んでおくこと	0.5 時間	桑原
		講義	高齢者の意思決定支援・ACP、高齢者虐待防止について理解する	2 時間	
		事後学習	講義内容の振り返り	0 時間	
13	高齢者のリスクマネジメント	事前学習	テキスト第10章p388-406を読んでおくこと	0.5 時間	桑原
		講義	高齢者に起こりやすい医療事故と対策・防止、災害時の支援について理解する	2 時間	
		事後学習	講義内容の振り返り	0.5 時間	
14	老年看護に関する諸理論	事前学習	テキスト第1章p4-22を呼んでおくこと	0.5 時間	桑原
		講義	老年期・高齢者をめぐる理論や学説について理解する	2 時間	
		事後学習	講義内容の振り返り	0.5 時間	
15	老年看護の課題	事前学習	高齢者に関わる社会的ニュースについて1つ以上考えてくこと	0.5 時間	桑原
		講義	高齢者の社会参加、生活環境の変化と家族形態の変化を理解し生活支援について考える。	2 時間	
		事後学習	講義内容の振り返り	0.5 時間	
16	定期試験	記述試験			桑原/荻野
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働省			授業時適時指示する		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
専門分野での実務経験を持つ看護教員が、多様化する家族と療養者の看護援助について解説する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
レポートは指示に従って作成すること。 提出期限を厳守すること。			時間：授業内で伝達する 場所：研究室 桑原メール：y.kuwabara●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)		
69	老年症候群援助論	1	15	必修	講義	2年後期	○桑原良子/荻野貴美子		
科目概要	老年症候群について理解を深め、看護援助が説明できることを目指す。加齢に伴う様々な身体的変化や社会的変化がもたらす高齢者の急性疾患や慢性疾患の特徴的な病態と症状について理解する。様々な症状を多面的に理解しアセスメントする能力を養う。高齢者の看護援助の基本的知識の習得を目指す。								
到達目標	1. フレイルと老年症候群について理解する。 2. 高齢者が多くの疾患や症状を併せ持つことを理解する。 3. 老年症候群に含まれる様々な症状について理解する。 4. 加齢変化と病態・治療とをアセスメントし援助が考えられる。								
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		配分	%	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力				定期試験	100	%	授業の全般についての理解度を評価する	
	2. 主体的行動力					0	%		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力					0	%		
	4. 課題発見能力と課題解決力					0	%		
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力					0	%		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力				合計	100	%			
フィードバック	定期試験は、研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。								
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員		
	1	老年症候群の病態と症状の理解①	事前学習	テキスト②第2章p48-92を予習する		1 時間	桑原		
			講義	フレイルと老年症候群		2 時間			
			事後学習	フレイルについてまとめる		2 時間			
	2	老年症候群の病態と症状の理解②	事前学習	教科書p47-91までを予習する		1 時間	桑原		
			講義	急性疾患・慢性疾患に付随する症状		2 時間			
			事後学習	付随する症状についてまとめる		2.5 時間			
	3	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護1	事前学習	テキスト①p150-160を予習する、消化吸収の解剖生理の復習しておく		1.5 時間	桑原		
			講義	摂食・嚥下機能低下を持つ高齢者のアセスメントと看護		2 時間			
			事後学習	摂食嚥下のメカニズムについてまとめる		2 時間			
	4	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護2	事前学習	テキスト①p161-172を予習する		2 時間	桑原		
			講義	排泄障害を持つ高齢者のアセスメントと看護		2 時間			
			事後学習	失禁、尿閉、便秘についてまとめる		2 時間			
	5	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護3	事前学習	テキスト①p122-146を予習する、運動器の解剖生理を復習しておく		2 時間	桑原		
			講義	運動機能に障害を持つ高齢者のアセスメントと看護		2 時間			
			事後学習	関節可動域、徒手筋力測定についてまとめる		2 時間			
	6	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護4	事前学習	テキスト①p185-198を予習する		1 時間	荻野		
			講義	生活リズムの障害と睡眠障害を持つ高齢者のアセスメントと看護		2 時間			
			事前学習	高齢者と生活リズムについてまとめる		1.5 時間			
	7	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護5	事前学習	テキスト①226-237を予習すること、感覚器の解剖生理を複数しておく		2 時間	荻野		
			講義	感覚器の障害(視覚・聴覚・体性感覚)を持つ高齢者のアセスメントと看護		2 時間			
			事後学習	高齢者の感覚器についてまとめる		2 時間			
	8	高齢者に特徴的な症状・機能低下のアセスメント及び看護6	事前学習	テキスト①198-213を予習する		2 時間	桑原/荻野		
			講義	コミュニケーションに障害を持つ高齢者のアセスメントと看護		2 時間			
		事後学習	失語症、構音障害とその看護についてまとめる		2.5 時間				

9	定期試験	筆記試験			桑原/荻野
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
①系統看護学校座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②系統看護学校座 専門分野Ⅱ 老年看護・病態・疾患論 医学書院			授業に応じて資料や文献を提示する		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
専門分野での実務経験を持つ看護教員が、多様化する家族と療養者の看護援助について解説する。			老年看護学概論の単位が修得できていること		
留意事項			オフィスアワー		
なし			時間: 授業内で伝達する 場所: 研究室 桑原メール:y.kuwabara●matsutan.ac.jp ○○メール: (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
70	老年看護援助論	1	30	必修	演習	3年前期	○荻野貴美子/桑原良子/百瀬ちどり	
科目概要	事例を用いて慢性症状や機能障害を持つ高齢者への看護援助を考える。紙上事例から、老年期に起こりやすい健康問題のアセスメント、看護援助計画の立案、実践のための知識・技術を習得し看護過程が展開できる能力を養う。学内での講義と臨地実習をつなぐことを狙いとす。							
到達目標	1. 生活機能の視点からヘルスケア・アセスメントの技法について習得する。 2. 紙上事例に示された情報から看護に必要な情報を選び、情報の解釈、情報の関連を考えて対象の全体像を把握する。 3. 高齢者が持てる機能を活かして健康に生きてゆくための視点をもって看護援助が考えられる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準	
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	0 %			
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	50 %	プレゼンテーションにより、理解度を評価する		
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	50 %	看護過程を課し、成績評価の対象とする		
	◎	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %			
フィードバック	プレゼンテーションを実施し、15回目の授業で評価する。 看護過程を課し、成績評価の対象とする。プレゼンテーションと課題レポート(看護過程)と合わせて6割以上を単位認定とする。 看護過程のフィードバックは、事例・評価表・評価基準を満たす例を示しながら解説することで行う。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	ガイダンス	事前学習				0 時間	荻野
			講義	老年看護における看護過程の展開-脳血管障害による片麻痺のある高齢者-事例の提示			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習し、記録に反映させる			0.5 時間	
	2	病態の説明	事前学習				0 時間	荻野
			講義	脳血管障害の治療と看護			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習し、記録に反映させる			0.5 時間	
	3	病態の説明	事前学習				0 時間	荻野
			講義	運動・排泄機能障害と看護			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習し、記録に反映させる			0.5 時間	
	4	病態の説明	事前学習				0 時間	荻野
			講義	移乗・移動動作と看護			2 時間	
			事後学習	授業内容を復習し、記録に反映させる			0.5 時間	
	5	臨床における高齢者への看護	事前学習	情報整理、アセスメントを作成する			1 時間	荻野/桑原/ 百瀬
			講義	・情報整理、アセスメント			2 時間	
			事後学習	情報整理、アセスメントを修正する			2 時間	
	6	臨床における高齢者への看護	事前学習	関連図を作成する			2 時間	荻野/桑原/ 百瀬
			講義	・全体像の把握(関連図) ・課題・目標の明確化			2 時間	
			事後学習	関連図から課題の明確化をまとめる			2 時間	
	7	臨床における高齢者への看護	事前学習				0 時間	荻野/桑原/ 百瀬
			講義	・全体像の把握(関連図) ・課題・目標の明確化			2 時間	
			事後学習				0 時間	
	8	臨床における高齢者への看護	事前学習	看護計画を作成する			2 時間	荻野/桑原/ 百瀬
			講義	看護計画を立案する			2 時間	
事後学習			看護計画を修正する			1 時間		

教育内容	9	臨床における高齢者への看護	事前学習	0 時間	荻野/桑原/ 百瀬	
			講義	看護援助に向けての具体的な手順書の作成		2 時間
			事後学習	0 時間		
	10	臨床における高齢者への看護	事前学習	0 時間	荻野/桑原/ 百瀬	
			講義	看護援助に向けての具体的な手順書の作成		2 時間
			事後学習	0 時間		
	11	臨床における高齢者への看護	事前学習	看護計画を作成する	2 時間	荻野/桑原/ 百瀬
			講義	看護計画を立案し、看護実践の結果を記述する	2 時間	
			事後学習	看護計画を立案し、看護実践の結果を修正する	1 時間	
	12	臨床における高齢者への看護	事前学習	0 時間	荻野/桑原/ 百瀬	
			講義	事例のプレゼンテーション(資料作成)		2 時間
			事後学習	0 時間		
	13	臨床における高齢者への看護	事前学習	0 時間	荻野/桑原/ 百瀬	
			講義	事例のプレゼンテーション(資料作成)		2 時間
			事後学習	0 時間		
	14	臨床における高齢者への看護	事前学習	0 時間	荻野/桑原/ 百瀬	
講義			事例のプレゼンテーション	2 時間		
事後学習			0 時間			
15	臨床における高齢者への看護	事前学習	0 時間	荻野/桑原/ 百瀬		
		講義	事例のプレゼンテーション		2 時間	
		事後学習	0 時間			
16	定期試験	レポート試験(看護過程)		荻野/桑原/ 百瀬		
				総学習時間	45 時間	
テキスト			参考書			
-『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』(医学書院)			授業時に適宜紹介する			
実務経験と授業科目との関連性			履修要件			
専門分野での看護師実務経験がある教員が、老年看護の基本的技術について指導する。			老年看護学概論、老年症候群援助論の単位を修得していること			
留意事項			オフィスアワー			
なし			時間: 授業内で伝達する 場所: 研究室 メール: y.kuwabara●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
71	認知症ケア論	1	15	選択	講義	2年後期	○桑原良子/荻野貴美子
科目概要	認知症について、医学的理解を深め多様な症候について理解する。認知症の高齢者の生活障害と生活支援、健康支援のための援助について、看護の役割を理解する。認知症をめぐる政策についても触れ、高齢者と認知症の今日的課題について理解する。入院治療を要する認知症高齢者の急性期に起こりやすい症状、回復期の支援のあり方を学ぶ。						
到達目標	1. 認知症の定義、症状が理解できる。 2. 周辺症状と中核症状と生活障害を理解し援助が考えられる。 3. 認知症高齢者の生活の場、療養の場における看護について理解する。 4. 認知症高齢者の尊厳を守るということを理解する。						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー			評価項目	配分 %	評価基準
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法		・定期試験	0 %	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	50 %	小テスト(5回)を実施し、理解度を評価する	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	50 %	看護過程を課し、成績評価の対象とする	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
	◎	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	小テスト(5回)を実施し、理解度を評価する。看護過程を課し、成績評価の対象とする。小テストと課題レポート(看護過程)と合わせて6割以上を単位認定とする。看護過程のフィードバックは、全学生に対して事例・評価表・評価基準を満たす記載例を示しながら解説することで行う。						
教育 内容	1	認知症の基礎病態	事前学習	教科書P296～P299までを熟読しておく	2	時間	桑原
			講義	・認知症の基礎病態と治療	2	時間	
	事後学習	授業内容(小テスト)を復習し、小テストに備える	2	時間			
	2	認知症の基礎病態	事前学習	教科書P300～P316までを熟読しておく	2	時間	桑原
			講義	・認知症の基礎病態と治療	2	時間	
			事後学習	授業内容(小テスト)を復習し、小テストに備える	2	時間	
	3	認知症の非薬物療法	事前学習	教科書P300～P316までを熟読しておく	2	時間	桑原
			講義	・認知症高齢患者の環境調整 ・コミュニケーション方法	2	時間	
			事後学習	授業内容(小テスト)を復習し、小テストに備える	2	時間	
	4	認知症の非薬物療法	事前学習	教科書P54～P67までを熟読しておく	2	時間	桑原
			講義	・認知症高齢患者へのライフレビュー等	2	時間	
			事後学習	授業内容(小テスト)を復習し、小テストに備える	2	時間	
	5	認知症高齢者の意思決定支援	事前学習	配布する資料を熟読しておく	0.5	時間	桑原
			講義	・認知症高齢患者の倫理的課題と意思決定支援	2	時間	
			事後学習	授業内容(小テスト)を復習し、小テストに備える	2	時間	
	6	臨床における認知症高齢者への看護	事前学習	教科書P308を熟読しておく	0.5	時間	桑原/荻野
			講義	・情報整理、アセスメント	2	時間	
			事後学習	情報整理、アセスメントをまとめる(様式1)	2	時間	
	7	臨床における認知症高齢者への看護	事前学習	関連図(様式2)を作成する	2	時間	桑原/荻野
			講義	・全体像の把握 ・課題・目標の明確化	2	時間	
			事後学習	関連図(様式2)から課題の明確化(様式3)をまとめる	2	時間	
	8	臨床における認知症高齢者への看護	事前学習	看護計画を立案(様式4)する	2	時間	桑原/荻野
			講義	・看護計画	2	時間	
			事後学習	様式1～4をまとめる	2	時間	

16	定期試験	レポート試験(看護過程)	桑原	
			総学習時間	45 時間
テキスト		参考書		
・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』(医学書院)		授業時に適宜紹介する		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
専門分野での看護師実務経験がある教員が、認知症高齢者の基礎病態、および生活支援について指導する。		なし		
留意事項		オフィスアワー		
なし		時間: 授業内で伝達する 場所: 研究室 メール: y.kuwabara●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=〇)	
72	小児看護学概論	2	30	必修	講義	2	山下 恵子	
科目概要	小児看護の特徴及び小児看護を必要とする対象の特徴を把握し、小児看護の基盤となる概念や日常生活援助の方法を理解することを目的とする。また、小児看護の歴史的変遷や現状を把握し、子どもの権利や健康の保持増進などを念頭におきながら、子どもを取り巻く今日的課題を明らかにし、特別な支援が必要とする子どもと家族の援助方法について学ぶ。							
到達目標	1.小児看護の対象と看護の役割について説明できる。 2.新生児期から思春期の身体・心理・社会的成長・発達について説明できる。 3.子どもの権利、法制度について説明できる。 4.子どもの健康な成長・発達を促進する援助について説明できる。 5.特別な支援を必要とする小児と家族の援助について説明できる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験		80 %	授業の内容全般についての理解度		
		2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート		0 %			
		3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート		20 %	留意事項参照		
		4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等		0 %			
	◎	5. 看護の知識と看護実践力	・その他		0 %			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %					
フィードバック	定期試験は個人の質問に応じ、提出された課題については、確認してコメントをつけて返却する。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	小児看護の特徴と理念①	事前学習	第1章小児看護の特徴と理念A・B		0.5 時間	山下	
			講義	小児看護の対象・目的・役割、小児保健統計、小児看護の変遷		2 時間		
			事後学習			0 時間		
	2	小児看護の特徴と理念②	事前学習	第1章小児看護の特徴と理念D・E、第6章家族の看護とアセスメントA～B		1 時間	山下	
			講義	子どもの権利、小児看護における倫理、小児看護の課題、家族の特徴とアセスメント		2 時間		
			事後学習			0 時間		
	3	子どもと家族を取り巻く社会	事前学習	第7章A～H、母性看護学概論の母子保健統計参照のこと		1 時間	山下	
			講義	児童福祉・母子保健・医療費の支援、予防接種・学校保健		2 時間		
			事後学習			0 時間		
	4	子どもの成長・発達と看護	事前学習	第2章A～E:子どもの成長・発達 :p30～54		1 時間	山下	
			講義	発達理論、原則成長発達に影響する因子、成長・発達の評価方法		2 時間		
			事後学習	事前学習に同じ		0 時間		
	5	新生児期・乳児期の看護	事前学習	第3章新生児、乳児:A～B		1 時間	山下	
			講義	形態・機能・心理・社会的発達の特徴、日常生活への援助、起こりやすい健康問題と援助		2 時間		
			事後学習			0 時間		
	6	幼児期・学童期の看護	事前学習	第4章幼児期・学童期:A～B		1 時間	山下	
			講義	形態・機能・心理・社会的発達の特徴、日常生活への援助、起こりやすい健康問題と援助		2 時間		
			事後学習			0 時間		
	7	思春期・青年期の子どもの看護 成人移行期の看護	事前学習	第5章思春期青年期、小児臨床看護総論第3章A 慢性期にある子どもの看護		1 時間	山下	
			講義	形態・機能・心理・社会的発達の特徴、日常生活への援助、起こりやすい健康問題と援助、小児から成人への移行期の援助		2 時間		
			事後学習			0 時間		
	8	遊びと教育	事前学習	第3章乳児:B-b、第4章幼児A-(7)-⑥ 学童B-(8)-③、⑥、⑦、第5章⑤-③、⑩-③～⑦		1 時間	山下	
			講義	小児にとっての遊びの定義と意義、遊びの発達、入院している小児と遊び、小児にとっての教育の意義、入院している小児と教育、プレバレーションについて		2 時間		
事後学習			事前学習に同じ		0 時間			

教育内容	9	小児の事故と予防	事前学習	各論テキスト第19章、概論テキスト第6章C-⑩	1 時間	山下
			講義	子どもに起こりうる主な事故、外傷と看護、事故防止と安全教育、救急看護	2 時間	
			事後学習		0 時間	
	10	発達障害のある小児と家族の看護	事前学習	各論テキスト第18章B-①、②、C-③ *精神看護学のテキストも参照のこと	1 時間	山下
			講義	発達障害の種類と特徴、発達障害のある小児と家族の看護の実際	2 時間	
			事後学習		0 時間	
	11	児童虐待を受けた小児と家族の看護	事前学習	小児臨床看護総論：第8章子どもの虐待と看護	1 時間	山下
			講義	児童虐待の定義、児童虐待に対するアセスメント、児童虐待に対する看護職と機関連携、虐待を受けた子どもと親への支援	2 時間	
			事後学習		0 時間	
	12	災害を受けた小児と家族の看護	事前学習	第2章D、第3章A-③	1 時間	山下
			講義	災害看護とは、災害を受けた小児に起こりやすい症状や状況、災害を受けた小児と家族へのケア、小児から成人への移行期の援助	2 時間	
			事後学習		0 時間	
	13	小児によくある症状と看護	事前学習	小児臨床看護総論：第5章①②③⑧⑨⑩、11、12、13、17を中心に行い、他の症状別看護も学習のこと	2 時間	山下
			講義	不きげん、啼泣、痛み、痙攣、発熱、脱水、嘔吐、下痢、発疹の特徴と看護	2 時間	
			事後学習		0 時間	
	14	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	事前学習	外来における看護(概論p233～) 病気・障害をもつ子どもと家族の看護(概論p196～)	1 時間	山下
講義			病気や障害が子どもと家族に与える影響、子どもの健康問題と看護健康の問題を持つ子どもと家族の看護(はやくげんきになりたいな * VTR)、外来看護	2 時間		
事後学習				0 時間		
15	これからの小児看護とまとめ	事前学習	小児専門看護師について日本看護協会HP等で調べておく。小児救急認定看護師など小児専門の認定資格についても調べる	0.5 時間	山下 特別講師	
		講義	子どもの権利と小児看護の質の向上に貢献する活動と課題： (特別講義)小児看護専門看護師の役割と実践(小児専門看護師特別講師)	2 時間		
		事後学習		0 時間		
16	定期試験	試験			山下	
総学習時間					45 時間	
テキスト			参考書			
・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論』(医学書院) ・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』(医学書院)			・山元恵子監修『写真でわかる小児看護技術アドバンス』(インターメディア) ・舟島なをみ著『看護のための人間発達学』(医学書院) ・中野綾美：ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 (メデイカ出版)(成人への移行期にある健康障害を持つ子どもと家族への看護)			
実務経験と授業科目との関連性			履修要件			
専門分野での看護師実務経験がある教員が、小児の健康障害と看護について指導する。			なし			
留意事項			オフィスアワー			
事前事後学習：子どもの成長と発達の特徴、評価等、各期の特徴と看護、症状別看護は提出あり(加点対象となる)			時間：授業内で伝達 場所：研究室 山下メール：k.yamashita●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
73	小児看護援助論 I (健康障害と看護)	1	30	必修	演習	2年後期	○山下恵子/芳賀了/荻久保弘子
科目概要	小児の健康状態や成長発達に応じた小児の主な健康障害と看護、健康障害が小児とその家族に及ぼす影響について理解することを目的とする。また、健康障害を持つ小児やその家族に対して、成長・発達、生活ニーズに応じた看護が展開できる基礎的知識と技術を学ぶ。						
到達目標	1.健康障害や入院生活が子どもと家族に及ぼす影響について説明できる。 2.小児の主な健康障害と看護について説明できる。 3.模擬事例の子どもの成長・発達と健康障害、生活ニーズについて説明できる。 4.模擬事例のアセスメント、関連図、看護診断、看護計画が立案できる。						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		評価項目	配分 %	評価基準	
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	50 %	授業の内容全般についての理解度	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	30 %	課題で得た知識の記載内容	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
	◎	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	20 %	個人ワークでの内容を複数教員により評価する。	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	定期試験は個人の質問に応じ、提出された課題については、確認してコメントをつけて返却する。						
教育 内容	1	病気・障がいを持つ子どもと家族の看護	事前学習	外来における看護(概論p233～)病気・障害をもつ子どもと家族の看護(概論p196～) 症状別看護など概論で学んだことの復習	0.5 時間	山下 芳賀/荻久保	
			講義	小児看護援助論 I の概要、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	2 時間		
			事後学習		0 時間		
	2	ヘルスアセスメント	事前学習	子どものアセスメント(概論p284～) 学習課題①バイタルサイン、身体的アセスメント、計測(身長・体重・頭囲・胸囲)	1 時間	山下 芳賀/荻久保	
			講義	アセスメントに必要な技術、身体的アセスメントの方法(コミュニケーション、バイタルサイン、身体的アセスメント、計測など)	2 時間		
			事後学習		0 時間		
	3	疾病の経過の特徴と看護①	事前学習	急性期にある子どもと家族の看護(概論p252～)循環器疾患(各論p190～)看護(p213～) 学習課題疾患②フォロー四徴症、川崎病	1 時間	山下 芳賀/荻久保	
			講義	急性期・周手術期の経過の特徴と子どもと家族の看護、先天性心疾患・川崎病の子ども看護救急外来での看護	2 時間		
			事後学習		0 時間		
	4	疾病の経過の特徴と看護②	事前学習	慢性期にある子どもと家族の看護(概論p248～)代謝性疾患と看護(各論p69～、看護p73～) 学習課題疾患③ I 型糖尿病	1 時間	山下 芳賀/荻久保	
			講義	慢性期の特徴と子どもに与える影響とセルフケア能力の育成と支援、I 型糖尿病の特徴と看護	2 時間		
			事後学習		0 時間		
	5	感染症と看護①	事前学習	感染症と看護(各論p140～) 学習課題疾患④麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・髄膜炎	1 時間	山下 芳賀/荻久保	
			講義	小児の感染症の特徴、予防接種と子どもに起こりやすい感染症とその看護(感染症 * DVD)	2 時間		
			事後学習		0 時間		
	6	感染症と看護②	事前学習	呼吸器疾患と看護(各論p176～)、消化器疾患(胃腸炎の看護p266～、p277～、腸重積症) 学習課題疾患⑤肺炎・急性胃腸炎・(腸重積症)	1 時間	山下 芳賀/荻久保	
			講義	呼吸器感染症(かぜ症候群、肺炎)及び消化器感染症(胃腸炎)の子どもと家族の看護	2 時間		
			事後学習		0 時間		
	7	腎泌尿器疾患をもつ子どもの看護	事前学習	腎・泌尿器および生殖器疾患と看護(p338～) 学習課題疾患⑥ネフローゼ症候群・溶連菌感染症後急性糸球体腎炎・急性腎不全	0.5 時間	山下 芳賀/荻久保	
			講義	腎泌尿器疾患の特徴と治療、ネフローゼ症候群等の腎疾患の急性期・慢性期における子どもと家族の看護	2 時間		
			事後学習	授業内容の確認し、わからないことは質問できるようにする	0.5 時間		
	8	先天性障害をもつ子どもの看護及び低出生体重児の看護	事前学習	染色体異常と看護(各論p2～)新生児の看護(各論p18～) 学習課題疾患⑦ダウン症候群・18トリソミー・低出生体重児・新生児仮死	1 時間	山下 芳賀/荻久保	
			講義	出生前診断、ダウン症候群、18トリソミー症候群、低出生体重児、新生児仮死がみとめられる子どもの看護	2 時間		
			事後学習		0 時間		

教育内容	9 障害のある子どもと家族の看護	事前学習	神経疾患と看護(各論p380～) 学習課題疾患⑩けいれん・脳性麻痺	0.5 時間	山下/ 特別講師/ 芳賀/荻久保
		講義	神経疾患の特徴と治療、てんかん、脳性麻痺・重症心身障害のある子どもと家族の看護、医療的ケアの必要な子どもと家族の支援体制と看護(在宅移行への支援 * DVD) 特別講義:当事者ご家族の体験と家族の思い	2 時間	
		事後学習		0.5 時間	
	10 免疫・アレルギー疾患をもつ子どもの看護	事前学習	神経疾患と看護(各論p380～) 学習課題疾患⑩けいれん・脳性麻痺	1 時間	山下 芳賀/荻久保
		講義	小児の免疫機能を理解し、食物アレルギー、気管支喘息の長期的管理における子どもとその看護(免疫とアレルギー疾患 * DVD)	2 時間	
		事後学習		0 時間	
	11 小児がんと看護	事前学習	悪性新生物と看護(各論p302～)終末期の看護(概論p269～) 学習課題疾患⑩貧血・出血傾向・輸血療法、再生不良性貧血・血友病	1 時間	山下 芳賀/荻久保
		講義	小児がんの特徴と治療、治療の経過とその看護、退院・自宅での生活移行期及び長期フォローアップについて、小児がんのトータルケア、終末期の特徴と子どもと家族の心理やその支援گریフケア	2 時間	
		事後学習		0 時間	
	12 小児の看護過程①	事前学習	事例による看護過程の展開(各論p538～)参照、学習課題疾患(再掲)川崎病	0.5 時間	山下 芳賀/荻久保
		講義	健康障害がある小児の看護過程展開、事例紹介、模擬事例の情報収集、アセスメント(事例:川崎病)	2 時間	
		事後学習	模擬事例(川崎病)の情報整理	0.5 時間	
	13 小児の看護過程② アセスメント	事前学習	模擬事例(川崎病)アセスメント	0.5 時間	山下 芳賀/荻久保
		講義	模擬事例(川崎病)のアセスメント、看護問題抽出・関連図作成(個人ワーク)	2 時間	
		事後学習	アセスメントと問題抽出	0.5 時間	
	14 小児の看護過程③ アセスメント・看護問題の抽出・関連図・ 看護計画立案	事前学習	問題抽出、関連図作成	0.5 時間	山下 芳賀/荻久保
講義		模擬事例のアセスメントを行い関連図を作成(個人ワーク)	2 時間		
事後学習		アセスメント関連図	0.5 時間		
15 小児の看護過程④ 関連図・看護計画立案	事前学習	模擬事例のアセスメントと関連図作成	1 時間	山下 芳賀/荻久保	
	講義	模擬事例の看護計画立案(個人ワーク)	2 時間		
	事後学習	看護過程の振り返りをする	0.5 時間		
16 定期試験	試験			山下/荻久保	
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論』(医学書院) ・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』(医学書院) ・山元恵子監修『写真でわかる小児看護技術アドバンス』(インターメディア)			・鴨下重彦/柳澤正義監修『こどもの病気の地図帳』(講談社) ・医学情報研究所 病気がみえる Vol.15 小児科 メディックメディア		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
小児看護学での看護師実務経験がある教員が、小児看護の特徴と看護について指導する。			小児看護学概論の単位を取得していること。		
留意事項			オフィスアワー		
看護過程の展開の演習後には、記録物の提出を求められることがある。			時間:授業内で伝達 場所:研究室 山下メール:k.yamashita●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
74	小児看護援助論Ⅱ (看護技術と看護過程)	1	30	必修	演習	3年前期	○山下恵子/芳賀了/荻久保弘子
科目概要	小児看護学概論及び小児看護援助論Ⅰでの学びをもとに小児の健康状態と成長発達及び小児と家族の状況を踏まえた支援を行うために必要な援助技術を修得することを目的とする。小児の健康上の問題解決のために必要な看護援助技術のエビデンスを理解し、演習を通して技術を修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模擬事例の子どもの成長・発達と健康障害、生活ニーズについて説明できる。</li> <li>2. 小児の健康状態と成長・発達に関する情報収集を演習を通して習得できる。</li> <li>3. 模擬事例のアセスメント、関連図、看護診断、看護計画が立案できる。</li> <li>4. 小児の成長・発達に応じた安全・安楽を考えた小児特有の基礎的看護技術や保健指導が演習を通して習得できる。</li> <li>5. 小児の健康状態と成長・発達及び小児と家族の状況に適したケア方法を考えることができる。</li> </ol>						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		評価項目	配分 %	評価基準	
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	60 %	授業の内容全般についての理解度	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	課題で得た知識の記載内容	
	◎	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	10 %	GWでの発言や他者との協力態度	
		5. 看護の知識と看護実践力		・その他	10 %	複数教員により総合的に評価する	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	定期試験は個人の質問に応じ、提出された課題については、確認してコメントする。						
教育 内容	回	項目		内容	時間	担当教員	
	1	日常生活援助技術	事前学習	既習の基礎看護技術での下記の項目の確認をする	0.5 時間	山下/芳賀 荻久保	
			講義	安全なベッドと環境(転倒・転落防止、ベッド柵の扱い方)、衣類交換、小児のバイタルサイン測定方法などの小児看護技術	2 時間		
			事後学習	既習の基礎看護技術、講義資料、小児看護学テキスト、小児看護技術アドバンスを用いて上記の項目についてまとめる	1 時間		
	2	検査・治療処置の看護	事前学習	既習の基礎看護技術での下記の項目の確認をする	0.5 時間	山下/芳賀 荻久保	
			講義	採尿、経口与薬、輸液管理、吸入、酸素療法、腰椎穿刺の実施時の看護	2 時間		
			事後学習	講義資料、小児看護学テキスト、小児看護技術アドバンスを用いて、上記の項目についてまとめる	1 時間		
	3	小児の看護過程、アセスメント①	事前学習		0 時間	山下/芳賀 荻久保	
			講義	模擬事例(DVD)を通して、情報収集(基本情報用紙)、情報の整理とアセスメントを行う(個人ワーク)	2 時間		
			事後学習	上記の不足分を補う	1 時間		
	4	小児の看護過程、アセスメント②	事前学習		0 時間	山下/芳賀 荻久保	
			講義	アセスメントと関連図の作成を行う(個人ワーク)	2 時間		
			事後学習	上記の不足分を補う	1 時間		
	5	関連図・看護問題の明確化①	事前学習		0 時間	山下/芳賀 荻久保	
			講義	アセスメントと関連図を見直しながら看護問題の明確にする(個人ワーク)	2 時間		
			事後学習	上記の不足分を補う	1 時間		
	6	関連図・看護問題の明確化②	事前学習		0 時間	山下/芳賀 荻久保	
			講義	アセスメント・関連図から看護問題から看護目標を立案する(GW)	2 時間		
			事後学習	上記の不足分を補う	1 時間		
	7	看護計画①	事前学習		0 時間	山下/芳賀 荻久保	
			講義	導き出された看護問題の看護計画の立案する(GW)	2 時間		
			事後学習	上記の不足分を補う	1 時間		
	8	看護計画②	事前学習		0 時間	山下/芳賀 荻久保	
			講義	導き出された看護問題の看護計画の立案する(GW)	2 時間		
事後学習			上記の不足分を補う	1 時間			

教育内容	9 看護計画③	事前学習	0 時間	山下/芳賀 荻久保	
		講義	具体的な看護援助に向けて援助計画の立案(環境整備、バイタルサイン、観察、持続点滴中の患児の清拭)する。(GW)		2 時間
		事後学習	上記の不足分を補う		1 時間
	10 看護の実践①(技術演習)	事前学習	0 時間	山下/芳賀 荻久保	
		講義	立案した看護計画・2年次の事前学習をもとにしながら、環境整備、バイタルサイン測定・観察、持続点滴中の患児の清拭を考え実施する		2 時間
		事後学習			0 時間
	11 看護の実践②(技術演習)	事前学習	0 時間	山下/芳賀 荻久保	
		講義	立案した看護計画・2年次の事前学習をもとにしながら、環境整備、バイタルサイン測定・観察、持続点滴中の患児の清拭を考え実施する		2 時間
		事後学習	演習技術の振り返りと確認をする		2 時間
	12 力を引き出す技術①	事前学習	0 時間	山下/芳賀 荻久保	
		講義	看護計画をもとに、グループごとプレパレーション、ディストラクション、病気や検査の説明などの具体的な方法を考える		2 時間
		事後学習	上記の不足分を補う		1 時間
	13 力を引き出す技術②	事前学習	0 時間	山下/芳賀 荻久保	
		講義	看護計画をもとに、グループごとプレパレーション、ディストラクション、病気や検査の説明などの具体的な方法を考える		2 時間
		事後学習	上記の不足分を補う		1 時間
	14 模擬事例の看護発表①	事前学習	0 時間	山下/芳賀 荻久保	
講義		看護計画をもとに、グループごと考えたプレパレーションの発表を行う	2 時間		
事後学習			0 時間		
15 模擬事例の看護発表②	事前学習	0 時間	山下/芳賀 荻久保		
	講義	看護計画をもとに、グループごと考えたプレパレーションの発表を行う		2 時間	
	事後学習	看護計画にフィードバックし振り返りと確認と修正を行う		1 時間	
16 定期試験	試験		山下/荻久保		
			総学習時間	45 時間	

テキスト	参考書
<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論』(医学書院)</li> <li>・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』(医学書院)</li> <li>・山元恵子監修『写真でわかる小児看護技術アドバンス』(インターメディア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鴨下重彦/柳澤正義監修『こどもの病気の地図帳』(講談社)</li> <li>・医学情報研究所 病気がみえる Vol.15 小児科 メディックメディア</li> <li>・小児看護学概論や小児看護援助論Ⅰの配布資料</li> </ul>
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
小児看護学での看護師実務経験がある教員が、健康障害を持つ子どもの特徴と看護について指導する。	小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰの単位を修得していること
留意事項	オフィスアワー
グループでの学びが大きいため欠席する場合はグループメンバーに必ず伝えること。	時間: 授業内で伝達 場所: 研究室 山下メール: k.yamashita@matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者ー〇)
75	小児発達学	1	15	選択	講義	2年後期	〇山下恵子/芳賀了
科目概要	小児を取り巻く社会の現状や成長・発達のプロセスと各期の特徴、評価方法を理解し、発達を促進する基礎的な援助方法を修得することを目的とする。隔離や活動制限、在宅療養の場などの様々な状況下での成長発達を促進する具体的な援助方法を修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の成長発達のプロセスを説明できる。</li> <li>2. 子どもにとっての栄養、遊び、学習の過程について説明できる。</li> <li>3. 小児専門看護師の役割と現場での活動について説明できる。</li> <li>4. 入院生活で起こりうる隔離、活動制限、在宅療養の場での発達を促す具体的な援助を考えることができる。</li> </ol>						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		成績評価方法	評価項目	配分 %	評価基準
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験 ・授業内の小テスト、課題、レポート ・受講時の積極性、態度等 ・その他 (他のグループの評価、まとめ資料・発表)	50 %	0 %	選択した課題に対するの理解度
		2. 主体的行動力					
		3. 地域貢献力と多職種連携能力			20 %	30 %	GWでの発言や他者との協力態度
		4. 課題発見能力と課題解決力					
		◎ 5. 看護の知識と看護実践力			100 %	他グループ及び複数教員により総合的に評価する	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計					
フィードバック	発表時に各グループへのコメントと提出されたレポートへのコメントを記載する。 定期試験は個人の質問に応じる。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	小児発達学の概要	事前学習	小児看護学概論(第7章子どもを取り巻く社会)、国民衛生の動向などを参考にして自分が深めたい発達段階を考えておく	0.5 時間	山下/芳賀	
			講義	小児の成長・発達、ライフサイクル、発達に影響を与える要因について考える	2 時間		
			事後学習	事前学習や講義内容から、より深めたい発達段階を考え決める。	0.5 時間		
	2	各発達段階の特徴と疾患の特徴と看護①	事前学習	決定した発達段階について個人学習	1 時間	山下/芳賀	
			講義	各発達段階の特徴と看護(GW)のまとめ	2 時間		
			事後学習	決定した発達段階のGWでの振り返りを行い不足の学習	1 時間		
	3	各発達段階の特徴と疾患の特徴と看護②	事前学習	選択した発達段階で設定された疾患を学習する	1.5 時間	山下/芳賀	
			講義	各発達段階での疾患の特徴と看護(GW)のまとめ	2 時間		
			事後学習	選択した疾患の特徴のまとめ	1 時間		
	4	各発達段階の特徴と疾患の特徴と看護③(発表)	事前学習	発表準備	1 時間	山下/芳賀	
			講義	各発達段階の特徴と遊びの意義、疾患の特徴と看護と疾患や治療が遊びに与える影響のまとめをPPTにまとめ発表する	2 時間		
			事後学習	発表を聴いての振り返り	0.5 時間		
	5	療養生活における発達支援①	事前学習	選択した発達段階の特徴や疾患による特徴が設定された状況にどのような影響があるか考える	1 時間	山下/芳賀	
			講義	選択した発達段階の特徴と疾患の特徴を考え、「隔離を必要とする小児」「活動制限されている小児」「在宅療養をしている小児」の発達を促進する具体的な援助(遊びや学習などを考えた道具等の作成)	2 時間		
			事後学習	GWからさらに必要と思われたことを学習する	1 時間		
	6	療養生活における発達支援②	事前学習	選択した発達段階の特徴や疾患による特徴が設定された状況にどのような影響があるか考える	1 時間	山下/芳賀	
			講義	選択した発達段階の特徴と疾患の特徴を考え、「隔離を必要とする小児」「活動制限されている小児」「在宅療養をしている小児」の発達を促進する具体的な援助(遊びや学習などを考えた具体的な道具等の作成)	2 時間		
			事後学習	GWから必要と思われたことを学習する	1 時間		
	7	療養生活における発達支援③	事前学習	援助に必要と考えた道具等の作成の必要物品等を準備する	1 時間	山下/芳賀	
			講義	選択した発達段階の特徴と疾患の特徴を考え、「隔離を必要とする小児」「活動制限されている小児」「在宅療養をしている小児」の発達を促進する具体的な援助(遊びや学習などを考えた具体的な道具等の作成と発表の準備)	2 時間		
			事後学習	グループ発表の準備の不足分を補う	0.5 時間		
	8	グループワーク発表とまとめ	事前学習	発表準備打ち合わせ等	1 時間	山下/芳賀	
			講義	援助内容(パンフレットや遊びなどの工夫の具体的な作品)を発表する/他のグループの評価と自己評価	2 時間		
		事後学習	グループ発表の評価	0.5 時間			

9	定期試験	試験			山下/芳賀
			総学習時間	30 時間	
テキスト			参考書		
・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論』(医学書院) ・奈良間美保他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』(医学書院)			・舟島なをみ著『看護のための人間発達学』(医学書院)		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
専門分野での看護師実務経験がある教員が、小児の発達支援について指導する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
グループでの学びが大きいため欠席する場合はグループメンバーに必ず伝えること。			時間: 授業内で伝達 場所: 研究室 山下メール: k.yamashita●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
76	母性看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	○小林由美/加藤香織
科目概要	リプロダクティブヘルス/ライツなどの母性看護の基盤となる概念を理解し、性と生殖をめぐる健康の課題について、女性のライフステージ各期だけでなく、多様な性をもつ対象者への支援の必要性を考えられるようにする。また、わが国における母子保健の歴史の変遷や現状を把握し、母子保健の意義を理解する。						
到達目標	1. 母性看護の役割を理解し、それを説明することができる。 2. 母性看護学に必要な理論と概念について説明することができる。 3. 女性の生涯を通じた健康の保持・増進への援助の必要性を説明することができる。 4. 現代日本の母子保健における課題について説明することができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	80 %	筆記試験(記述と選択問題)	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	20 %	授業内容の復習テスト	
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
	◎	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %				
フィードバック	授業内の課題は次回の授業時に解説する。 定期試験については試験終了後5日目以降10日目以内に小林研究室にて採点基準の解説を通じて行うので事前アポイントメントを取って来てください。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	ガイダンス 母性看護学とその対象	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林	
			講義	ガイダンス 母性看護学とは 母性看護の対象とは 第1章ABF	2 時間		
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間		
	2	母性看護学の基盤となる概念①	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林	
			講義	ウェルネス志向、ヘルスプロモーション、ジェンダー 第1章DE 第3章C 第4章	2 時間		
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間		
	3	母性看護学の基盤となる概念②	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林	
			講義	リプロダクティブヘルス/ライツ 第1章D	2 時間		
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間		
	4	母性看護学の基盤となる概念③	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林	
			講義	セクシュアリティ 多様な性 第1章C	2 時間		
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間		
	5	歴史の変遷と現状	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林	
			講義	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 第2章A①⑤ B	2 時間		
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間		
	6	母子保健統計	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	加藤	
			講義	母子保健統計 第2章A②	2 時間		
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間		
	7	関係法規と政策	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林	
			講義	関係法規と施策 第2章A③④⑤	2 時間		
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間		
	8	倫理的問題	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林	
			講義	母性看護における倫理的問題・課題 第1章G	2 時間		
		事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間			

教育内容	9	ライフステージ各期の健康問題と看護①	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林
			講義	女性ホルモンと月経 第5章A 第3章A	2 時間	
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間	
	10	ライフステージ各期の健康問題と看護②	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	加藤
			講義	妊娠と人工妊娠中絶 第3章A 第6章A・D	2 時間	
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間	
	11	ライフステージ各期の健康問題と看護③	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林
			講義	DV、性暴力、虐待 第6章F・G	2 時間	
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間	
	12	ライフステージ各期の健康問題と看護④	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林
			講義	性感染症 第6章B	2 時間	
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間	
	13	ライフステージ各期の健康問題と看護⑤	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	加藤
			講義	多様な分娩 周産期の死 第2章A① 第4章C③	2 時間	
			事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間	
	14	ライフステージ各期の健康問題と看護⑥	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	加藤
講義			不妊と生殖補助医療 第1章F②	2 時間		
事後学習			授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間		
15	ライフステージ各期の健康問題と看護⑦	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	2 時間	小林	
		講義	更年期・老年期の健康問題と看護 第5章DE	2 時間		
		事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2 時間		
16	定期試験	試験			小林	
総学習時間					90 時間	
テキスト			参考書			
・森恵美他著『母性看護学[1] 母性看護学概論』(医学書院)			授業時に適宜紹介する。			
実務経験と授業科目との関連性			履修要件			
専門分野での助産師実務経験がある教員が、母性看護の特徴および対象者の特徴を指導する。			なし			
留意事項			オフィスアワー			
なし			時間: 授業内で伝達 場所: 研究室 小林メール: mjc-y.kobayashi●matsutan.ac.jp 加藤メール: k.okuhara●matsutan.ac.jp (●は@に置き換える)			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
77	母性看護援助論 I (対象の理解と援助)	1	30	必修	演習	2年後期	○小林由美/加藤香織
科目概要	周産期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)に焦点を置いて、各期の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、母子とその家族のウェルネスに向けた看護を展開していく上で必要とされる基礎的理論を理解することを目的とする。妊娠前からの女性・家族への支援、妊婦・産婦・褥婦と新生児の看護について、それぞれ身体的特徴と心理・社会的特性、アセスメントおよびより健康で安全に経過できるための支援方法について学ぶ。						
到達目標	1. 妊娠期の経過と健康逸脱と必要な看護について説明することができる。 2. 分娩期の経過と健康逸脱と必要な看護について説明することができる。 3. 産褥期の経過と健康逸脱と必要な看護について説明することができる。 4. 新生児期の経過と健康逸脱と必要な看護について説明することができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験		70 %	基本事項の記述・選択問題	
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート		30 %	自己学習で得た知識・復習テスト	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート		0 %		
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等		0 %		
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力		・その他		0 %		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	授業内の課題は次回の授業時に解説する。 定期試験については試験終了後5日目を以降10日目を以内に小林研究室にて採点基準の解説を通して行うので事前アポイントメントを取って来てください。						
教育 内容	1	ガイダンス 正常妊娠経過	事前 学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	小林	
			講義	オリエンテーション 妊娠経過 第3章AB	2 時間		
	事後 学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間				
	2	妊娠経過	事前 学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間		小林
			講義	妊娠経過の正常と異常 第7章 I	2 時間		
	事後 学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間				
	3	妊娠期のアセスメントと看護①	事前 学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	小林	
			講義	妊娠期のアセスメントと看護 第3章CD	2 時間		
	事後 学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間				
	4	妊娠期のアセスメントと看護②	事前 学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間		小林
			講義	妊娠期のアセスメントと看護 第3章CD	2 時間		
	事後 学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間				
	5	正常分娩経過	事前 学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	加藤	
			講義	小テスト 分娩経過の正常と異常 第4章AB 第7章 II	2 時間		
	事後 学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間				
	6	分娩経過	事前 学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間		加藤
			講義	分娩経過の正常と異常 第4章AB 第7章 II	2 時間		
	事後 学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間				
	7	分娩期のアセスメントと看護①	事前 学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	加藤	
			講義	分娩期のアセスメントと看護 第4章CD 第7章 II	2 時間		
	事後 学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間				
	8	分娩期のアセスメントと看護②	事前 学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間		加藤
			講義	分娩期のアセスメントと看護 第4章E 第7章 II	2 時間		
	事後 学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間				

教育内容	9 正常産褥経過	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	小林
		講義	小テスト 産褥経過 第6章A	2 時間	
		事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間	
	10 産褥経過	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	小林
		講義	産褥経過の正常と異常 第6章A 第7章IV	2 時間	
		事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間	
	11 新生児①	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	小林
		講義	新生児の胎外生活適応 第5章A	2 時間	
		事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間	
	12 新生児②	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	小林
		講義	新生児の正常と異常 第7章III	2 時間	
		事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間	
	13 産褥経過のアセスメントと看護①	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	小林
		講義	小テスト 産褥経過のアセスメントと看護 第6章BC	2 時間	
		事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間	
	14 産褥経過のアセスメントと看護② 新生児のアセスメントと看護	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	小林
		講義	産褥経過のアセスメントと看護 第6章BC 付章D 新生児のアセスメントと看護 第5章B	2 時間	
		事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間	
15 新生児のアセスメントと看護	事前学習	テキストの該当箇所を熟読して出席する。	0.5 時間	小林	
	講義	新生児のアセスメントと看護 第5章B 付章C	2 時間		
	事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	0.5 時間		
16 定期試験	試験			小林	
				総学習時間	45 時間
テキスト		参考書			
・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学①)』(医学書院) ・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学②)』(医学書院)		授業時に適宜紹介する。			
実務経験と授業科目との関連性		履修要件			
専門分野での助産師実務経験がある教員が、周産期に焦点をあて身体的・心理的・社会的特徴を指導する。		母性看護学概論の単位を修得していること。			
留意事項		オフィスアワー			
なし		時間: 授業内で伝達 場所: 研究室 小林メール: mjc-y.kobayashi●matsutan.ac.jp 加藤メール: k.okuhara●matsutan.ac.jp (●は@に置き換える)			

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
78	母性看護援助論Ⅱ (看護の展開とその理論)	1	30	必修	演習	3年前期	○加藤香織/小林由美
科目概要	母性看護概論および母性看護学Ⅰの学びを基に、周産期にある対象の身体的・心理社会的特徴をふまえ、母子とその家族のウェルネスに向けた支援を行うために必要な援助技術を修得することを目的とする。妊婦・産婦・褥婦・新生児の生理的変化への適応促進と、健康上の問題解決のために必要な看護援助技術のエビデンスを理解し、シミュレーターを用いよりリアリティがある演習を通して技術を修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点をもとに、多様な価値観を尊重した看護のあり方を説明することができる。</li> <li>2. 産褥期、新生児期の母子の健康状態(健康上の問題)を判断し、健康増進に向けて必要な看護を説明することができる。</li> <li>3. 産褥期および新生児期にある母子の家族の看護に必要な基本的技術を実践することができる。</li> <li>4. 学生同士で協力し協調性及びリーダーシップをばくむことができる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・授業内の小テスト、課題、レポート		30 %	ワークノートの指定された項目を対象とする	
	2. 主体的行動力		・受講時の積極性、態度等		10 %	看護過程の展開を各項目2回以上提出している	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・その他(看護過程の展開記録)		60 %	情報整理(15%)根拠に基づいたアセスメント(30%)看護計画立案(15%)で評価する	
	4. 課題発見能力と課題解決力						
	5. 看護の知識と看護実践力						
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			合計	100 %			
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内の課題は次回の授業までにコメントを入れ返却する</li> <li>・最終提出物についてもコメントを入れ返却する</li> </ul>						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	ガイダンス 看護過程の展開	事前学習	母性看護学概論・母性看護援助論Ⅰの復習を行う		0.5 時間	加藤/小林
			講義	ウェルネス看護診断について 事例提示と看護過程展開の説明		2 時間	
			事後学習	わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる		0.5 時間	
	2	看護過程の展開	事前学習	事例のアセスメントを行う		0.5 時間	加藤/小林
			講義	母児の看護過程の展開【褥婦:子宮復古・全身復古】		2 時間	
			事後学習	わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる		0.5 時間	
	3	看護過程の展開	事前学習	事例のアセスメントを行う		0.5 時間	加藤/小林
			講義	母児の看護過程の展開【褥婦:子宮復古・全身復古】		2 時間	
			事後学習	わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる		0.5 時間	
	4	看護過程の展開	事前学習	事例のアセスメントを行う		0.5 時間	加藤/小林
			講義	母児の看護過程の展開【褥婦:進行性変化】		2 時間	
			事後学習	わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる		0.5 時間	
	5	看護過程の展開	事前学習	事例のアセスメントを行う		0.5 時間	加藤/小林
			講義	母児の看護過程の展開【褥婦:進行性変化】		2 時間	
			事後学習	わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる		0.5 時間	
	6	看護過程の展開	事前学習	事例のアセスメントをする。		0.5 時間	加藤/小林
			講義	母児の看護過程の展開【新生児:子宮外生活への適応】		2 時間	
			事後学習	わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる		0.5 時間	
	7	看護過程の展開	事前学習	事例のアセスメントを行う		0.5 時間	加藤/小林
			講義	母児の看護過程の展開【新生児:子宮外生活への適応】		2 時間	
			事後学習	わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる		0.5 時間	
	8	看護過程の展開	事前学習	事例のアセスメントを行う		0.5 時間	加藤/小林
			講義	母児の看護過程の展開【新生児:生理的変化・栄養状態】		2 時間	
事後学習			わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる		0.5 時間		

教育内容	9 看護過程の展開	事前学習	事例のアセスメントをする。	0.5 時間	加藤/小林
		講義	母児の看護過程の展開【新生児:生理的变化・栄養状態】	2 時間	
		事後学習	わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる	0.5 時間	
	10 看護過程の展開	事前学習	事例のアセスメントを行う	0.5 時間	加藤/小林
		講義	母児の看護過程の展開【褥婦:心理適応過程】	2 時間	
		事後学習	わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる	0.5 時間	
	11 看護過程の展開	事前学習	事例のアセスメントを行う	0.5 時間	加藤/小林
		講義	母児の看護過程の展開【褥婦:心理適応過程】	2 時間	
		事後学習	わからないところを調べる。看護過程の展開をすすめる	0.5 時間	
	12 技術演習	事前学習	ワークノートに基づき、演習内容について目的・方法・留意点を調べる	0.5 時間	加藤/小林
		講義	妊婦健康診査に必要な看護技術 演習:レオポルド触診法、胎児心音聴取、NST装着・判読	2 時間	
		事後学習	演習からの学びをワークノートにまとめる	0.5 時間	
	13 技術演習	事前学習	ワークノートに基づき、演習内容について目的・方法・留意点を調べる	0.5 時間	加藤/小林
		講義	妊婦健康診査に必要な看護技術 演習:レオポルド触診法、胎児心音聴取、NST装着・判読	2 時間	
		事後学習	演習からの学びをワークノートにまとめる	0.5 時間	
	14 技術演習	事前学習	ワークノートに基づき、演習内容について目的・方法・留意点を調べる	0.5 時間	加藤/小林
講義		新生児のケアに必要な看護技術を習得する。 演習:新生児の観察・沐浴	2 時間		
事後学習		演習からの学びをワークノートにまとめる	0.5 時間		
15 技術演習	事前学習	ワークノートに基づき、演習内容について目的・方法・留意点を調べる	0.5 時間	加藤/小林	
	講義	新生児のケアに必要な看護技術を習得する。 演習:新生児の観察・沐浴	2 時間		
	事後学習	演習からの学びをワークノートにまとめる	0.5 時間		
16 定期試験	レポート試験(看護過程の展開記録)			加藤/小林	
				総学習時間	45 時間

テキスト		参考書	
・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学①)』(医学書院) ・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学②)』(医学書院)		太田操 編著:ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第4版,医歯薬出版株式会社,2024 佐瀬 正勝他(編集):ウェルネスからみた母性看護過程 第4版:+病態関連図,医学書院,2022 平澤 美恵子(監修):写真でわかる母性看護技術 アドバンス,インターメディカ,2020 中村幸代(編集):根拠がわかる母性看護技術,南江堂,2024 他、適宜紹介する	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
専門分野での助産師実務経験がある教員が、母子とその家族のウェルネスに向けた支援を指導する。		母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰの単位を修得していること。	
留意事項		オフィスアワー	
・看護過程展開シートは各項目必ず2回以上は教員に提出し、修正をする ・講義時間内に図書館に行く場合は教員の許可を得る ・講義中のスマートフォン使用は原則禁止とする		時間:授業内で伝達 場所:研究室 小林メール:mjc-y.kobayashi@matsutan.ac.jp 加藤メール:k.okuhara@matsutan.ac.jp (●は@に置き換える)	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
79	地域母子保健学	1	15	選択	講義	2年後期	○小林由美/加藤香織	
科目概要	地域における子育て世代を包括的に支援する必要性が高まっている現状を理解し、多職種と連携・協働した地域母子保健活動の実際について理解を深め、地域での子育て支援や相談活動の現状と課題を考察する。社会変化に伴う母子のニーズを探り、看護職による地域母子保健活動の役割と機能・課題を明らかにする。また、地域母子保健における事例を通して、母子への支援や少子化対策などの政策的課題を考察する能力を養う。							
到達目標	1. 地域母子保健の意義と対象を説明することができる。 2. 地域母子保健の変遷を説明することができる。 3. 母子保健施策の実際を理解できる。 4. 地域母子保健の今後の課題を説明することができる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績評価方法		評価項目	配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	○	◎	成績評価方法	・定期試験	30 %	記述問題	
	2. 主体的行動力				・授業内の小テスト、課題、レポート	70 %	自己学習で得た知識などの記載内容・発表	
	3. 地域貢献力と多職種連携能力				・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
	4. 課題発見能力と課題解決力				・受講時の積極性、態度等	0 %		
	5. 看護の知識と看護実践力				・その他	0 %		
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計				100 %			
フィードバック	授業内の課題は次回の授業時に解説する。 定期試験については試験終了後5日目を以降10日目を以内に小林研究室にて採点基準の解説を通じて行うので事前アポイントメントを取って来てください。							
教育 内容	1	ガイダンス 地域母子保健の意義	事前学習	授業内容を予習学習する。	0	時間	小林/加藤	
			講義	ガイダンス 地域母子保健の意義	2	時間		
		2	地域母子保健制度	事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2	時間	小林/加藤
				事前学習	授業内容を予習学習する。	2	時間	
		3	地域母子保健の現状と課題	講義	地域母子保健活動の実際	2	時間	小林/加藤
				事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2	時間	
		4	地域母子保健の現状と課題	事前学習	授業内容を予習学習する。	2	時間	小林/加藤
				講義	提示された課題について調べその支援方法を検討する	2	時間	
		5	地域母子保健の現状と課題	事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2	時間	小林/加藤
				事前学習	授業内容を予習学習する。	2	時間	
		6	地域母子保健の現状と課題	講義	提示された課題について調べその支援方法を検討する	2	時間	小林/加藤
				事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2	時間	
		7	地域母子保健の現状と課題	事前学習	授業内容を予習学習する。	2	時間	小林/加藤
				講義	提示された課題について調べその支援方法を検討する	2	時間	
		8	地域母子保健の現状と課題	事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	2	時間	小林/加藤
				事前学習	授業内容を予習学習する。	2	時間	
				講義	提示された課題について調べその支援方法を検討する	2	時間	
				事後学習	授業内容、さらに自分で調べたことをノートにまとめる。	1	時間	

9	定期試験	試験	小林/加藤
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
テキストはない。作成した授業資料をテキストとする。		参考書はない。作成した授業資料を参考書とする。	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
専門分野での助産師実務経験がある教員が、地域母子保健の現状や母子保健活動の実際について指導する。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
なし		時間：授業内で伝達 場所：研究室 小林メール：mjc-y.kobayashi●matsutan.ac.jp 加藤メール：k.okuhara●matsutan.ac.jp (●は@に置き換える)	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
80	精神看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	上條節子/○藤川君江
科目概要	精神看護学の基礎知識を学ぶ。精神看護学の対象は全ての人を対象とする。こころの健康とは何か学ぶ。こころの健康をケアする時に倫理的判断ができるように歴史的背景、法制度、人権擁護の考え方の基礎知識を学修する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心の健康について脳の構造・機能について説明できる。</li> <li>2. ライフサイクルの各期におこりやすい精神保健上の問題について説明できる。</li> <li>3. 主な精神症状と看護の基本について説明することができる。</li> <li>4. 精神障害者の人権問題について精神医療の歴史、法制度と関連づけて説明できる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			評価項目		配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	定期試験		100 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。
		2. 主体的行動力		授業内の小テスト、課題、レポート		0 %	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		事前/事後学習の課題、レポート		0 %	
		4. 課題発見能力と課題解決力		受講時の積極性、態度等		0 %	
	◎	5. 看護の知識と看護実践力		その他		0 %	
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読し出席する。</li> <li>2. 「ライフサイクルで生じる精神保健の特徴について」、A4用紙1枚程度のレポートにまとめて授業に臨む。</li> <li>3. 講義後は事後課題を行い指示された日時に提出をする。提出期限を厳守する。</li> <li>4. 定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了7日目以内のオフィスアワーに、藤川研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。</li> </ol>						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	精神保健の考え方	事前学習	テキスト1. P2～25熟読する。		2 時間	藤川
			講義	1. 精神保健看護学 2. 精神看護と精神科看護の違い 3. こころとは何か		2 時間	
			事後学習	授業資料を熟読する。		2 時間	
	2	こころのとらえ方	事前学習	テキスト1. P27～44熟読する。		2 時間	藤川
			講義	精神(心)の構造とはたらきについて学ぶ意味を理解する。		2 時間	
			事後学習	授業資料を熟読する。		2 時間	
	3	こころのしくみと人格発達	事前学習	テキスト1. P45～70熟読する。		2 時間	藤川
			講義	精神(心)の構造とはたらきについて学ぶ意味を理解する 精神(心)の構造とはたらきについて精神力動理論を理解する		2 時間	
			事後学習	授業資料を熟読する。		2 時間	
	4	こころの危機理論	事前学習	テキスト1. P71～98、p149～170熟読する。		2 時間	藤川
			講義	1. 危機理論を理解する。 2. ストレスとストレスコーピングについて理解する。 ルフマネジメントの考え方と方法を理解する。		3. セ 2 時間	
			事後学習	授業資料を熟読する。		2 時間	
	5	家族と精神(心)の健康	事前学習	テキスト1. P99～120熟読する。		2 時間	藤川
			講義	1. 家族の構造と機能について理解する。 2. 家族の役割機能と精神の健康との関連について考える。 3. 家族の捉え方と家族病理について理解する。		2 時間	
			事後学習	授業資料を熟読する。		2 時間	
	6	暮らしの場と精神(こころ)の健康	事前学習	テキスト1. P121～148熟読する。		2 時間	藤川
			講義	1. 社会病理現象が精神的健康、生活に及ぼす影響を理解できる。 2. 家庭における精神保健と精神看護 3. 学校における精神保健と精神看護 4. 職場における精神保健と精神看護		2 時間	
			事後学習	授業資料を熟読する。		2 時間	
	7	現代社会と精神(心)の問題	事前学習	テキスト1. P170～228熟読する。		2 時間	藤川
			講義	社会構造や生活様式の変化などに伴う心の健康につながる課題を理解する。 依存症について理解する。		2 時間	
			事後学習	授業資料を熟読する。		2 時間	
	8	主な精神疾患/障害(1)	事前学習	テキスト2. P25～98熟読する。		2 時間	上條
			講義	I 精神障害の診断と分類 II 主な精神疾患/障害 A. 神経発達症候群/神経発達障害		2 時間	
事後学習			授業資料を熟読する。		2 時間		

教育内容	9 主な精神疾患／障害(2)	事前学習	テキスト2. P99～123熟読する。	2 時間	上條
		講義	II 主な精神疾患／障害 B. 統合失調症スペクトラム障害 C. 双極性障害および関連障害群	2 時間	
		事後学習	授業資料を熟読する。	2 時間	
	10 主な精神疾患／障害(3)	事前学習	テキスト2. P99～106熟読する。	2 時間	上條
		講義	II 主な精神疾患／障害 D. 抑うつ	2 時間	
		事後学習	授業資料を熟読する。	2 時間	
	11 主な精神疾患／障害(4)	事前学習	テキスト2. P107～149熟読する。	2 時間	上條
		講義	II 主な精神疾患／障害 E. 不安症群 F. 強迫症および関連症群／強迫性障害および関連障害群	2 時間	
		事後学習	授業資料を熟読する。	2 時間	
	12 主な精神疾患／障害(5)	事前学習	テキスト2. P135～149熟読する。	2 時間	上條
		講義	II 主な精神疾患／障害 G. 心的外傷およびストレス因関連障害 H. 乖離症群／解離性障害群 I. 身体症状および関連症群 J. 食行動障害および摂食障害群 K. 睡眠-覚醒障害群 L. 物質関連障害および嗜癖性障害群 M. 神経認知障害群 N. パーソナリティ障害群 O. てんかん	2 時間	
		事後学習	授業資料を熟読する。	2 時間	
	13 主な精神疾患／障害(6)	事前学習	テキスト2. P56～98熟読する。	2 時間	上條
		講義	III. 薬物療法 IV. 電気けいれん療法 V. リハビリテーション療法 VI. 精神療法	2 時間	
		事後学習	授業資料を熟読する。	2 時間	
	14 精神医療の歴史	事前学習	テキスト1. P229～279熟読する。	2 時間	藤川
講義		法と精神障害者処遇の変遷。1900年の精神病者監護法。精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律(精神保健福祉法と略す)に至る法制度と精神障害者の処遇を考える。	2 時間		
事後学習		授業資料を熟読する。	2 時間		
15 精神看護学概論学びのまとめ	事前学習	今までの配布資料を熟読する。	2 時間	藤川	
	講義	精神看護学の基礎 心の健康と精神を病む患者を知る。	2 時間		
	事後学習	授業で説明したポイントを整理する。	2 時間		
16 定期試験	試験			上條/藤川	

総学習時間 90 時間

テキスト	参考書
1. 『精神看護学概論』(メテカルフレンド社) 2. 病態治療論[12]精神疾患(南江堂)	・『精神障害を持つ人の看護』(メテカルフレンド社)
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
看護師として、総合病院と単科の精神科病院で20年以上の経験があり、その経験を活かして、看護学概論を教授する。	なし
留意事項	オフィスアワー
受講上の注意点、30分以上の遅刻は欠席となります。単位認定試験を受けられるのは授業3分の2以上の出席が必要です。 授業中はスマートフォンの電源を切るかマナーモードにして鞆の中に仕舞うこと。積極的に授業に参加し、私語は厳禁とする。	時間:水曜日の12時～15時 場所:藤川研究室 藤川メール:k.fujikawa●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
81	精神看護援助論 I (対象理解)	1	30	必修	演習	2年後期	○藤川君江/牛山陽介
科目概要	本科目では、精神看護の実践の基礎となる、心のしくみと働き、心の発達と精神の健康問題、精神の健康問題が人々の生活に及ぼす影響、精神の健康問題に対する治療と看護を学ぶ。						
到達目標	1. 精神の健康概念と精神の健康問題について考察し、説明できる。 2. 精神の健康問題に対する治療と看護の基本が説明できる。 3. 精神医療保健福祉サービスにおける多職種の協働について説明できる。またその中で看護師が果たす役割を考えることができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	100 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。	
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %		
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %		
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
	◎	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %			
フィードバック	定期試験のフィードバックは、全学生の試験終了7日目以内のオフィスアワーに、藤川研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	授業ガイダンス こころの健康	事前 学習	テキストp1～20読んで授業に参加する。	1 時間	藤川	
			講義	精神を病むとはどういうことか、精神障害と差別、精神障害を持つ人はどのようなことを経験しているか、精神障害とともに生きる	2 時間		
			事後 学習	資料を熟読する。	時間		
	2	精神障害を持つ人への看護(1)	事前 学習	テキストp193～224読んで授業に参加する。	1 時間	牛山	
			講義	統合失調症、幻覚妄想の看護	2 時間		
			事後 学習	資料を熟読する。	時間		
	3	精神障害を持つ人への看護(2)	事前 学習	テキストp112、305読んで授業に参加する。	1 時間	藤川	
			講義	依存症の看護(アルコール、薬物、ギャンブル)、食行動の異常	2 時間		
			事後 学習	資料を熟読する。	時間		
	4	精神障害を持つ人への看護(3)	事前 学習	テキストp64～74、88、137を読んで授業に参加する。	1 時間	牛山	
			講義	神経発達障害群/知的能力障害、コミュニケーション障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動症、不安症	2 時間		
			事後 学習	資料を熟読する。	時間		
	5	精神障害を持つ人への看護(4)	事前 学習	テキストp294～336読んで授業に参加する。	1 時間	牛山	
			講義	双極性障害及び抑うつ障害群、強迫症及び関連症群	2 時間		
			事後 学習	資料を熟読する。	時間		
	6	精神障害を持つ人への看護(5)	事前 学習	テキストp151～192読んで授業に参加する。	1 時間	藤川	
			講義	薬物療法、電気痙攣療法、リハビリテーション療法、精神療法	2 時間		
			事後 学習	資料を熟読する。	時間		
	7	精神科病棟における事故防止・安全管理 と倫理的配慮	事前 学習	テキストp257～273読んで授業に参加する。	1 時間	藤川	
			講義	精神科看護における安全管理	2 時間		
			事後 学習	資料を熟読する。	時間		
	8	精神障害を持つ人への看護援助の展開	事前 学習	テキストp215～224を読んで授業に参加する。	1 時間	牛山	
			講義	自己を振り返ることの意味、プロセスレコード	2 時間		
		事後 学習	資料を熟読する。	時間			

教育内容	9	精神障害を持つ人のセルフケアの援助	事前学習	テキストp225～256を読んで授業に参加する。	1	時間	牛山
			講義	セルフケアについて、セルフマネジメント	2	時間	
			事後学習	資料を熟読する。		時間	
	10	地域生活の再構築の社会参加	事前学習	テキストp355～427読んで授業に参加する。	1	時間	藤川
			講義	精神障害者へのケアシステムと訪問看護	2	時間	
			事後学習	資料を熟読する。		時間	
	11	災害時の看護	事前学習	テキストp467～481読んで授業に参加する。	1	時間	藤川
			講義	DPAT	2	時間	
			事後学習	資料を熟読する。		時間	
	12	地域生活の再構築の社会参加	事前学習	地域活動支援センター及び訪問看護について調べる。	1	時間	藤川
			講義	地域生活支援の実際、当事者授業	2	時間	
			事後学習			時間	
	13	リエゾン精神看護	事前学習	テキストp427～443読んで授業に参加する。	1	時間	牛山
			講義	リエゾン精神看護とは、リエゾン精神看護活動、リエゾン精神看護の実際	2	時間	
			事後学習			時間	
	14	司法精神看護と災害時の精神看護	事前学習	テキストp443～467読んで授業に参加する。	1	時間	牛山
講義			司法精神医療と看護	2	時間		
事後学習			資料を熟読する。		時間		
15	病気を持つことへの理解	事前学習	1～15回の授業資料を熟読する。	1	時間	藤川	
		講義	授業のまとめ	2	時間		
		事後学習			時間		
16	定期試験	筆記試験				藤川/牛山	
					総学習時間	45	時間
テキスト			参考書				
・『精神看護学概論』(メチカルフレンド社) ・『精神障害を持つ人の看護』(メチカルフレンド社)			なし				
実務経験と授業科目との関連性			履修要件				
看護師として、総合病院と単科の精神科病院で20年以上の経験があり、その経験を活かして、精神看護学援助論Ⅰを教授する。			なし				
留意事項			オフィスアワー				
受講上の注意点、30分以上の遅刻は欠席となります。単位認定試験を受けられるのは授業3分の2以上の出席が必要です。授業中はスマートフォンの電源を切るかマナーモードにして鞆の中に仕舞うこと。積極的に授業に参加し、私語は厳禁とする。			時間:水曜日の12時～15時 場所:藤川研究室 藤川メール:k.fujikawa●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)				

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)			
82	精神看護援助論Ⅱ (看護の展開)	1	30	必修	演習	3年前期	○藤川君江/牛山陽介			
科目概要	本科目では、精神的健康に問題を持つ対象とその家族の理解、問題状況への危機介入から地域社会生活への適応に向けた精神看護援助技術の基本的援助技法を学ぶ。代表的な症状を呈する事例のシミュレーションを通して、情報収集、アセスメント、看護計画を立案する。									
到達目標	1. 精神保健、精神看護、リエゾン精神看護の役割を説明できる。 2. 精神科リハビリテーションと地域生活の支援について理解できる。 3. 身体疾患を有する患者への精神看護について説明できる。 4. 患者・看護師関係の構築および効果的なコミュニケーションの方法について理解できる。									
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準			
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	2. 主体的行動力		3. 地域貢献力と多職種連携能力	4. 課題発見能力と課題解決力	5. 看護の知識と看護実践力	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	・授業内の小テスト、課題、レポート	10 %	与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。
					・事前/事後学習の課題、レポート	80 %	看護過程の病態・情報収集・アセスメント・関連図・看護問題を各20%として評価する。			
					・受講時の積極性、態度等	10 %	授業中の発言や質問の頻度を評価する。			
					合計	100 %				
	フィードバック							統合失調症、双極性障害のパーパー患者について看護過程(情報収集・アセスメント・関連図・看護計画)の展開を行い、支持された日時に提出する。提出期限を遵守する。		
教育 内容	1	アセスメントに用いられる理論	事前学習	オレムアンダーウッド理論について学習する。	2 時間	藤川				
			講義	精神看護学におけるアセスメントの特徴を理解し、オレムアンダーウッド理論セルフケアモデルアセスメントの視点について学習する。	2 時間					
			事後学習	授業資料を熟読する。	2 時間					
	2	看護過程(1)	事前学習	統合失調症の症状、治療についてまとめる。	2 時間	藤川/牛山				
			講義	統合失調症の急性期①パーパー患者の事例を読み、情報の整理とアセスメントを行う。	2 時間					
			事後学習	事例の情報収集とアセスメント	2 時間					
	3	看護過程(2)	事前学習	統合失調症の看護についてまとめる。	2 時間	藤川/牛山				
			講義	統合失調症の急性期②情報収集とアセスメントの不足を確認し整理する。	2 時間					
			事後学習	アセスメントから看護問題を見出す	2 時間					
	4	看護過程(3)	事前学習	抽出した看護問題を整理する。	2 時間	藤川/牛山				
			講義	統合失調症の急性期③看護問題を確認し関連図作成	2 時間					
			事後学習	作成した関連図を完成させる。	2 時間					
	5	看護過程(4)	事前学習	立案した看護過程を見直す。	2 時間	藤川/牛山				
			講義	統合失調症の急性期④ アセスメント用紙と関連図を完成させる。	2 時間					
			事後学習	看護問題の整理	2 時間					
	6	看護過程(5)	事前学習	看護計画立案する。	2 時間	藤川/牛山				
			講義	統合失調症の急性期④ 看護計画	2 時間					
			事後学習	看護計画完成させる。	2 時間					
	7	看護過程(6)	事前学習	統合失調症の回復期の看護についてまとめる。	2 時間	牛山				
			講義	統合失調症の回復期① 統合失調症の回復期の事例を熟読し、情報収集・アセスメントの行う。	2 時間					
			事後学習	情報収集・アセスメントの見直し。	2 時間					
	8	看護過程(7)	事前学習	統合失調症の回復期の看護についてまとめる。	2 時間	牛山				
			講義	統合失調症の回復期② アセスメントから看護問題を見出す	2 時間					
			事後学習	看護問題の整理	2 時間					

教育内容	9 看護過程(8)	事前学習	関連図	2 時間	牛山
		講義	統合失調症の回復期③ 関連図	2 時間	
		事後学習	関連図を完成する。	2 時間	
	10 看護過程(9)	事前学習	発表の準備をする。	2 時間	牛山
		講義	統合失調症回復期④ 看護問題と関連図の発表①	2 時間	
		事後学習	看護計画立案	2 時間	
	11 看護過程(10)	事前学習	看護問題と関連図発表のための記録の整理。	2 時間	牛山
		講義	統合失調症回復期④ 看護問題と関連図の発表②	2 時間	
		事後学習	看護過程提出準備のまとめ	2 時間	
	12 看護過程(11)	事前学習	気分感情障害の原因、症状、治療についてまとめる。	2 時間	藤川/牛山
		講義	気分感情障害の事例① 気分感情障害のペーパーパーシエントを熟読し、情報収集・アセスメント	2 時間	
		事後学習	情報収集・アセスメントの見直し。	2 時間	
	13 看護過程(12)	事前学習	関連図作成のための学習をする。	2 時間	藤川/牛山
		講義	気分感情障害の事例② 看護問題抽出し関連図作成	2 時間	
		事後学習	関連図を完成する。	2 時間	
	14 看護過程(13)	事前学習	看護計画立案のための学習をする。	2 時間	藤川/牛山
講義		気分感情障害の事例③ 看護計画作成	2 時間		
事後学習		看護計画	2 時間		
15 看護過程(14)	事前学習	発表準備のまとめ	2 時間	藤川/牛山	
	講義	気分感情障害の看護過程を完成させる。	2 時間		
	事後学習	看護過程提出の確認し期日までに提出する。	2 時間		
16 定期試験	発表試験と論述試験			藤川/牛山	
				総学習時間	90 時間
テキスト			参考書		
精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開(医歯薬出版株式会社)			・『精神障害を持つ人の看護』(メテカルフレンド社) ・『精神看護学概論』(メテカルフレンド社) ・病態治療論[12]精神疾患(南江堂)		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
看護師として、総合病院と単科の精神科病院で20年以上の経験があり、その経験を活かし、看護過程を教授する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
受講上の注意点、30分以上の遅刻は欠席となります。単位認定試験を受けられるのは授業3分の2以上の出席が必要です。 授業中はスマートフォンの電源を切るかマナーモードにして鞆の中に仕舞うこと。積極的に授業に参加し、私語は厳禁とする。			時間: 水曜日の12時~15時 場所: 藤川研究室 藤川メール: k.fujikawa●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
83	地域精神保健学	1	15	選択	講義	2年後期	○藤川君江/牛山陽介
科目概要	地域精神保健は、精神疾患のみならず、住民の立場に基づくニーズへの取り組み、適正な支援、サービス、資源の広範なネットワーク化の推進など地域住民のための精神的な健康の促進に必要な原則と実践を科学的根拠に基づいて考える基礎的能力を学修する。						
到達目標	1. 精神障害の対象について精神科入院患者以外の地域精神保健について説明ができる。 2. 入院治療だけでなく、地域医療的な対応の必要性について説明ができる。 3. 学校、職場のカウンセリング、高齢者や認知症の精神保健学について説明ができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・事前/事後学習の課題、レポート			80 %	地域の精神保健について、講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。	
	2. 主体的行動力						
	◎ 3. 地域貢献力と多職種連携能力	・受講時の積極性、態度等			20 %		
	4. 課題発見能力と課題解決力						
	○ 5. 看護の知識と看護実践力						
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	授業内に課したレポートのフィードバックは、次回の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	地域で暮らす高齢者のメンタルヘルス	事前 学習	身近な高齢者と話をして高齢で良いと感じたことや困ったことを聞く。	2 時間	藤川	
			講義	地域で暮らす高齢者の心身の健康を考える。	2 時間		
			事後 学習	本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間		
	2	ライフスタイルと精神保健	事前 学習	エリクソンの発達課題について調べる。	2 時間	牛山	
			講義	自我と防衛機制 ライフスタイルの危機 あなたの人生は？	2 時間		
			事後 学習	本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間		
	3	喪失感・死への不安	事前 学習	高齢者の喪失感について調べる。	2 時間	藤川	
			講義	初老期、高齢者の喪失感、死生観、人生観、尊厳死の心の危機	2 時間		
			事後 学習	本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間		
	4	地域で暮らす高齢者のメンタルヘルス	事前 学習	認知症の病態を調べる。	2 時間	牛山	
			講義	認知症の事例を通して、家族、当事者のメンタルヘルスを考える	2 時間		
			事後 学習	本日の資料を熟読し、課題を考える。	2 時間		
	5	地域精神保健の課題	事前 学習	自分の関心のあるテーマの文献を探す。	2 時間	藤川	
			講義	自分の調べたいテーマを検討し決定する。	2 時間		
			事後 学習	自分の関心のある文献を読みレポートを作成する。	2 時間		
	6	地域精神保健の課題	事前 学習	自分の関心のあるテーマの文献を読む。	2 時間	藤川	
			講義	自己のテーマを調べる。	2 時間		
			事後 学習	自分の関心のある文献を読みレポートを作成する。	時間		
	7	地域精神保健の課題	事前 学習	自分の関心のあるテーマの文献を読む。	2 時間	藤川	
			講義	自己のテーマについて発表できるようにパワーポイントを作成する。	2 時間		
			事後 学習	自分の関心のある文献を読みレポートを作成する。	2 時間		
	8	地域精神保健の課題	事前 学習	自分の関心のあるテーマの文献を読む。	1 時間	藤川	
			講義	自己で調べたテーマの現状と課題を発表する。	2 時間		
事後 学習			自分の調べた課題の現状と今後の対策について1600字～2000字にまとめる。	2 時間			

9	定期試験	発表試験	藤川	
			総学習時間	45 時間
テキスト		参考書		
指定なし		精神看護学1こころの健康と地域包括ケア・萱間真美、稲垣中他・南江堂・2022年		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
看護師として、総合病院と単科の精神科病院で20年以上の経験があり、その経験を活かして、地域精神保健学を教授する。		精神看護学概論を履修していること。		
留意事項		オフィスアワー		
受講上の注意点、30分以上の遅刻は欠席となります。単位認定試験を受けられるのは授業3分の2以上の出席が必要です。授業中はスマートフォンの電源を切るかマナーモードにして鞆の中に仕舞うこと。積極的に授業に参加し、私語は厳禁とする。		時間：水曜日の12時～15時 場所：藤川研究室 藤川メール：k.fujikawa●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
84	救急看護学	2	30	選択 (救急・災害必修)	講義	3年前期	○今井栄子/近藤恵子
科目概要	救急医療と救急看護の特徴を理解し、救急患者とその家族に適切な医療・看護ケアを行えるよう学び、説明をしながら実施できる。 1. 救急病態を理解し、必要な処置・治療に関する知識を習得し、説明できることを目的とする。 2. 急速に進歩している分野であることを知り、蘇生法など新規規定を理解し、説明・実施できることを学ぶ。 3. 救急患者の観察・アセスメントから、看護・クライシス理論をもち看護過程の展開を実施できることを目的とする。						
到達目標	1. 地域における救急体制とその仕組みが理解でき、その中で救急医療・看護の特徴と役割、現状について理解する。 2. 救急看護体制、一次、二次、三次救急医療体制の違いを知り、各体制の救急医療と看護展開が理解できる。 3. 救急患者の特徴や生活状況が理解でき、観察・アセスメントから看護過程の展開について理解できる。 4. 救急時の看護技術を習得し、説明・体得できる。 5. 日常の暮らしの中で、救急時に備えた準備体制の重要性について他職種間で連携し、初期治療や連絡体制などがどのように整えられているか、モデル地域などを参考に皆で考えることができる。						
DP との対応		ディプロマ・ポリシー			評価項目	配分 %	評価基準
		1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績	・定期試験	60 %	全般についての理解度を評価	
		2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート	15 %	配布用紙の完成度		
	◎	3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート	15 %	ActiveNote の完成度		
		4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等	10 %	発言頻度や協力程度		
	○	5. 看護の知識と看護実践力	・その他	0 %			
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %				
フィードバック	課題・レポート・発表を通して評価につなげ、必要な個人には各指導実施						
教育内容	1	オリエンテーション 救急看護の概念	事前学習	教科書p2～45 熟読して出席	2 時間	今井	
			講義	救急看護とは 救急医療体制 救急看護の場 救急看護と法的・倫理的側面	2 時間		
			事後学習	講義内威容をActive Note(A4推奨)にまとめる	2 時間		
	2	救急看護の対象の理解 救急看護体制と看護の展開	事前学習	教科書p48～107 熟読して出席	2 時間	今井	
			講義	救急患者の特徴 救急患者家族の特徴 初期・二次・三次・災害時・院内急変時・終末期・在宅医療・学校保健等救急医療における対応	2 時間		
			事後学習	講義内威容をActive Note(A4推奨)にまとめる	2 時間		
	3	救急患者の観察とアセスメント	事前学習	教科書p110～177 熟読して出席	2 時間	今井	
			講義	周囲の状況確認と感染予防対策 全身の概観の観察とアセスメント 緊急検査 各系統別フィジカルアセスメント(脳・神経～精神状態)	2 時間		
			事後学習	講義内威容をActive Note(A4推奨)にまとめる	2 時間		
	4	主要病態に対する救急処置と看護 臨床推論	事前学習	教科書p110～177 熟読して出席	2 時間	今井	
			講義	心肺停止状態・意識障害・呼吸障害・ショック・循環障害への対応 急性腹症～精神症状への対応	2 時間		
			事後学習	講義内威容をActive Note(A4推奨)にまとめる	2 時間		
	5	主要病態に対する救急処置と看護 臨床推論	事前学習	教科書p110～177 熟読して出席	2 時間	今井	
			講義	急性腹症～精神症状への対応	2 時間		
			事後学習	講義内威容をActive Note(A4推奨)にまとめる	2 時間		
	6	主要病態に対する救急処置と看護 臨床推論	事前学習	教科書p110～177 熟読して出席	2 時間	今井	
			講義	急性腹症～精神症状への対応	2 時間		
			事後学習	講義内威容をActive Note(A4推奨)にまとめる	2 時間		
	7	主要病態に対する救急処置と看護 臨床推論 まとめ発表	事前学習	発表準備	2 時間	近藤	
			講義	主要病態に対する救急処置と看護 臨床推論 まとめ発表	2 時間		
			事後学習	主要病態に対する救急処置と看護 臨床推論 まとめ発表振り返り	2 時間		
	8	救急時の看護技術 ①	事前学習	教科書p310～339	2 時間	近藤	
			講義	搬送、止血法、酸素投与、血管確保、輸液と津血	2 時間		
			事後学習	講義内威容をActive Note(A4推奨)にまとめる	2 時間		

教育内容	9 救急時の看護技術 ②	事前学習	教科書p340～369	2 時間	近藤
		講義	心電図モニター、胃管挿入・胃洗浄、穿刺、整復固定と牽引、創処置	2 時間	
		事後学習	講義内威容をActive Note(A4推奨)にまとめる	2 時間	
	10 救急時に使用される医薬品	事前学習	教科書p374～384	2 時間	近藤
		講義	救急時に使用する主な医薬品、救急カート	2 時間	
		事後学習	講義内威容をActive Note(A4推奨)にまとめる	2 時間	
	11 primary survey の実際 外傷時の救急処置	事前学習	教科書266～277	2 時間	近藤
		講義	primary survey の実際	2 時間	
		事後学習	ABCDEアプローチについてまとめる	3 時間	
	12 primary survey の実際	事前学習	教科書266～277	2 時間	近藤
		講義	primary survey の実際 事例展開(循環器疾患)	2 時間	
		事後学習	ABCDEアプローチについてまとめる(事例の振り返り)	2 時間	
	13 primary survey の実際	事前学習	教科書266～277	2 時間	近藤
		講義	primary survey の実際 事例展開(重症外傷)	2 時間	
		事後学習	ABCDEアプローチについてまとめる(事例の振り返り)	2 時間	
	14 外来トリアージの実際	事前学習	教科書p62～69、主要病態に対する救急処置の復習	2 時間	近藤
講義		外来トリアージの実際 事例展開(めまい・吐き気)	2 時間		
事後学習		不足していると思える技術や思考の再確認	2 時間		
15 地域の救急体制	事前学習	救急救命士について概要を調べる	1 時間	近藤	
	講義	救急時に備えた準備体制、多職種間の連携、初期治療・連絡体制についてまとめる グループ討議	2 時間		
	事後学習	実習で学びたい(確認したい)ことをまとめる	2 時間		
16 定期試験	試験			今井/近藤	
				総学習時間 90 時間	

テキスト	参考書
山勢博彰 救急看護学 医学書院2024 ISBN978-4-260-05307-5 C3347	なし
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護師実務経験のある教員が救急医療と救急看護の特徴を指導する。	なし
留意事項	オフィスアワー
1.救急看護学実習を(救急・災害)を選択する人は履修してください。 2.事前事後学習、特に実習に持参するためActive Note(推奨A4)を作成のこと 3.レポート等提出物は日時厳守	今井メール:mjc-e.imai●matsutan.ac.jp 近藤メール:k.kondo●matsutan.ac.jp 〇〇メール: (●は@と置き換える)

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
85	災害看護学	2	30	選択 (救急・災害必修)	講義	3年前期	○今井栄子/近藤恵子/牛山陽介
科目概要	我が国は地震や毎年の台風の襲来などによる風水害をはじめいくつかの自然災害が多発し、被災地の人々は命や健康をそこない、財産が消滅するなど、多くの被害を受けてきた歴史がある。近代までは、地域の人々の助け合いにより、このような災害をしのいできた。ここ数年においての地震災害、台風による自然災害が多発していることを受けて、被災地外からの医療従事者、救護団体、ボランティア活動が著明になってきている。こうした状況において、看護職者としてどのような啓蒙活動と臨地マネジメントが必要か支援活動の特徴・課題、防災・減災の必要性について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害時の保健医療福祉における看護職の位置づけと役割の概要が理解できる。</li> <li>2. 災害看護の目的、対象、看護独自の機能が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① チーム医療における対人関係、被災者とのコミュニケーション</li> <li>② トリアージについて</li> <li>③ 看護ケアの実践について理解できる</li> </ol> </li> <li>3. 被災地における倫理的対応・その重要性について説明できる。</li> <li>4. 本科目の学びを本県や当地域に関連させて実態と課題が理解でき、臨地実習への学習課題が明確になる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			評価項目		配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績	・定期試験	60 %	全般の知識の確認		
	2. 主体的行動力	評価方法	・授業内的小テスト、課題、レポート	15 %	感想レポート、支援のあり方レポート		
	◎ 3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	15 %	workノートの提出		
	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	10 %	グループワークの参加度		
	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	各授業終了後の事後学習としてのwork復習、課題レポートで各学生の理解度を判断、次につなげる。						
教育内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	オリエンテーション 災害看護学 国際看護学を学ぶにあたって	事前学習 教科書p2～p18 熟読して授業に出る	2 時間	今井		
	講義	看護とグローバル化した社会 求められる災害看護学と国際看護学 災害看護・国際看護の原則	2 時間				
	事後学習	p18 work復習と課題 ①～⑥ 次週授業前提出	2 時間				
	2	災害看護学	事前学習 教科書p20～p84 熟読して授業に出る	2 時間	今井		
	講義	災害看護の歩み 災害医療の基礎知識 災害医療の特徴	2 時間				
	事後学習	p193 work復習と課題 ①～⑫ 次週授業前提出	2 時間				
	3	災害看護学	事前学習 教科書p84～p192 熟読して授業に出る	2 時間	今井		
	講義	災害看護の基礎知識	2 時間				
	事後学習	p193 work復習と課題 ①～⑫ 次週授業前提出	2 時間				
	4	地震災害看護の展開	事前学習 教科書p193～p240 熟読して授業に出る	2 時間	今井		
	講義	発災直後から救護班として出動するまでの看護 急性期の救護班における看護 被災病院にける災害発生時直後から数日後までの看護活動 亜急性期の救護班における看護 慢性期・復興期の看護ケア班における看護	2 時間				
	事後学習	p236の演習1～6をよんで評価・感想をレポート	2 時間				
	5	国際看護学 災害看護学・国際看護学における教育・研究	事前学習 教科書p242～p257 p348～354 熟読して授業に出る	2 時間	今井		
	講義	健康を取り巻く世界の課題 わが国における文化や制度を考量した在留外国人への看護	2 時間				
	事後学習	p343 復習と課題④⑤⑫ p.354 work 復習と課題③	2 時間				
	6	① 実践に基づいた災害看護に必要な知識	事前学習 総論該当部分の復習	2 時間	牛山		
	講義	2016年に発生した熊本地震災害の復興期において実践した災害支援活動に基づいて災害看護に必要な知識(技術や態度を含む)について学習する。	2 時間				
	事後学習	配布資料と講義内容の復習	2 時間				
	7	② 実践に基づいた災害看護に必要な知識	事前学習 総論該当部分の復習	2 時間	牛山		
	講義	2024年に発生した能登半島地震災害の復興期において実践した災害支援活動に基づいて災害看護に必要な知識(技術や態度を含む)について学習する。	2 時間				
	事後学習	配布資料と講義内容の復習	2 時間				
	8	実体験に基づいた国際看護に必要な知識	事前学習 総論該当部分の復習	2 時間	牛山		
	講義	参加した海外看護研修の実体験に基づいて国際看護に必要な知識(技術や態度を含む)について学習する。	2 時間				
事後学習	配布資料と講義内容の復習	2 時間					

教育内容	9	災害看護において必要となる精神看護	事前学習	総論該当部分の復習	2 時間	牛山
			講義	災害看護において必要となる精神看護について、2014年に発生した御嶽山火山噴火災害の実際の事例に基づいて学習する。	2 時間	
			事後学習	配布資料と講義内容の復習	2 時間	
	10	ハザードマップを使用した災害発生時の危機管理(グループワーク) or (災害看護において必要となる感染症対策)	事前学習	今井教授担当分の災害看護(総論)該当部分の復習	0.5 時間	牛山
			講義	災害看護において必要となるハザードマップを使用した災害発生時の危機管理について、グループワーク演習を通して学習する。	2 時間	
			事後学習	グループワーク演習内容の復習	2 時間	
	11	災害看護学 (慢性疾患患者への対応)	事前学習	総論該当部分の復習	2 時間	近藤
			講義	慢性疾患と災害 薬剤師の対応(災害時の実際・防災対策に向けて)	2 時間	
			事後学習	配布資料と講義内容の復習	2 時間	
	12	災害看護学 (小児・母性・高齢者への対応)	事前学習	総論該当部分の復習	2 時間	近藤
			講義	母性・小児看護と災害、高齢者と災害(災害時の実際・防災対策に向けて)	2 時間	
			事後学習	配布資料と講義内容の復習	2 時間	
	13	災害看護学 (保健師の役割)	事前学習	総論該当部分の復習	2 時間	近藤
			講義	災害時の保健師の役割 避難所の環境と感染予防対策	2 時間	
			事後学習	配布資料と講義内容の復習	2 時間	
	14	災害看護学と倫理、支援の在り方	事前学習	総論該当部分の復習	2 時間	近藤
講義			被災者の心理、地域看護 DVD鑑賞「遺体」	2 時間		
事後学習			看護師として支援の在り方(医療者として・個人として)レポート	2 時間		
15	災害看護と法的基盤	事前学習	ホームページ閲覧	2 時間	近藤	
		講義	松本市の防災状況と計画、県の意向も含めて対応策 職能団体としての防災対策	2 時間		
		事後学習	14回目と同様	2 時間		
16	定期試験	試験			今井/近藤/牛山	

総学習時間 時間

テキスト	参考書
庄野泰乃他「災害看護学・国際看護学」医学書院 ISBN978-4-260-05301-3 C3347	なし
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での看護実践経験がある教員が、地域の特性や課題から防災・減災の必要性、看護職者としての支援活動を指導する。	なし
留意事項	オフィスアワー
1.事前・事後学習を必ず行うこと 2.レポートは指定日時に必ず提出のこと。 3.総論該当部分は教員から指示あるので必ず事前学習を行うこと。	今井メール:mjc-e.imai●matsutan.ac.jp 近藤メール:k.kondo●matsutan.ac.jp 牛山メール:mjc-y.ushiyama●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
86	地域医療連携システム論	1	15	選択 (多職種必修)	講義	2年後期	安田 裕子
科目概要		継続的な医療の仕組みと、生活の場への円滑な移行や保健・医療・福祉の連携の仕組みを通して看護の役割を学修する。					
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域医療の連携が推進される社会的背景を理解できる</li> <li>2. 療養の場の移行に伴う連携の必要性和看護師役割を述べられる。</li> <li>3. 継続的な医療を必要とする人々への援助の工夫を説明できる。</li> <li>4. 長野県松本市の健康問題を説明できる。</li> </ol>					
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成	・定期試験		30 %	レポート作成形式に則っていること。	
	2. 主体的行動力	績	・授業内の小テスト、課題、レポート		50 %	課題発表の内容、見易さ、分かりやすさ。	
	◎ 3. 地域貢献力と多職種連携能力	評	・事前/事後学習の課題、レポート		10 %	自己評価が客観的に記入されている。	
	4. 課題発見能力と課題解決力	価	・受講時の積極性、態度等		10 %	プレゼン力等自己評価の客観性。	
	○ 5. 看護の知識と看護実践力	方	・その他		0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	法	合計		%		
フィードバック		<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題(レポート等)は確認の上、コメントを記入しフィードバックを行い返却する。</li> <li>・授業内の課題発表(8回)は学生と教員のコメントを口頭にて行い、フィードバックする。評価の基準は、評価基準一覧表を配付し記入する。その結果はグループ(個人)に返却し自己評価に役立てる。</li> <li>・定期試験のフィードバックは試験後に行う。</li> </ul>					
教育 内容	回	内容			時間	担当教員	
	1	地域医療の現状について	事前学習 地域・在宅看護論②事例 pp.204-243を熟読する。	2 時間	安田		
	講義	地域医療連携システムについて 生活の場で提供される医療事例提供	2 時間				
	事後学習	1事例を選択する。担当事例を熟読し、不明な部分を明確にする学修を行う。	2 時間				
	2	多職種連携と医療連携システムについて	事前学習 地域・在宅看護論②事例 pp.204-243を再度熟読し必要時他の参考文献を検索し学修する。	2 時間	安田		
	講義	多職種連携図作成 事例の作成と発表準備(グループワーク) 医療連携システム	2 時間				
	事後学習	地域・在宅看護論②事例 pp.204-243を再度熟読し必要時他の参考文献を検索し学修する。	2 時間				
	3	多職種連携と医療連携システムについて	事前学習 地域・在宅看護論②事例 pp.204-243を再度熟読し必要時他の参考文献を検索し学修する。課題の文書を作成する。	2 時間	安田		
	講義	多職種連携図作成 事例の作成と発表準備(グループワーク) 医療連携システム	2 時間				
	事後学習	地域・在宅看護論②事例 pp.204-243を再度熟読し必要時他の参考文献を検索し学修する。課題の文書を作成する。	2 時間				
	4	事例からみる多職種連携と医療連携システム	事前学習 地域・在宅看護論②事例 授業該当ページを再度熟読し必要時他の参考文献を検索し学修する。課題の文書を作成し発表の準備を行う。	2 時間	安田		
	講義	1. 在宅での生活を希望する脳卒中後遺症のある高齢者	2 時間				
	事後学習	在宅での生活を希望する脳卒中後遺症のある高齢者の事例から多職種連携についてまとめる。	2 時間				
	5	事例からみる多職種連携と医療連携システムについて	事前学習 地域・在宅看護論②事例 授業該当ページを再度熟読し必要時他の参考文献を検索し学修する。課題の文書を作成し発表の準備を行う。	2 時間	安田		
	講義	2. 被虐待が疑われる認知症高齢者 3. 在宅で不安を抱きつつ退院するALS療養者	2 時間				
	事後学習	被虐待が疑われる認知症高齢者、在宅で不安を抱きつつ退院するALS療養者の事例から多職種連携についてまとめる。	1.5 時間				
	6	事例からみる多職種連携と医療連携システムについて	事前学習 地域・在宅看護論②事例 授業該当ページを再度熟読し必要時他の参考文献を検索し学修する。課題の文書を作成し発表の準備を行う。	1.5 時間	安田		
	講義	4. 重度心身障害を持ちながら地域で生活する小児：小児在宅医療の現状と課題 5. 在宅での生活を希望する精神障害者	2 時間				
	事後学習	重度心身障害を持ちながら地域で生活する小児：小児在宅医療の現状と課題、在宅での生活を希望する精神障害者の事例から多職種連携についてまとめる。	2 時間				
	7	事例からみる多職種連携と医療連携システムについて 課題の事例のまとめ・講評	事前学習 地域・在宅看護論②事例 授業該当ページを再度熟読し必要時他の参考文献を検索し学修する。課題の文書を作成し発表の準備を行う。	1.5 時間	安田		
	講義	6. 事故により中途障害者となった成人男性療養者 7. 最期まで自宅で過ごしたい終末期のがん療養者	2 時間				
	事後学習	事故により中途障害者となった成人男性療養者、最期まで自宅で過ごしたい終末期のがん療養者の事例から多職種連携についてまとめる。	1.5 時間				
	8	事例からみる多職種連携と医療連携システムについて 課題の事例のまとめ・講評	事前学習 地域・在宅看護論②事例 授業該当ページを再度熟読し必要時他の参考文献を検索し学修する。課題の文書を作成し発表の準備を行う。	1.5 時間	安田		
	講義	8. 独居で終末期を迎える高齢療養者	2 時間				
事後学習	独居で終末期を迎える高齢療養者の事例から多職種連携についてまとめる。 試験準備を行う。	1.5 時間					

9	定期試験	試験	安田
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
・臺有桂編：ナースングラフィカ地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術・メディカ出版		テキスト以外に授業に必要な参考書は授業内で紹介する。必要な資料はそのつと配布する。	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
保健師、助産師、看護師、訪問看護師、介護支援専門員の実務経験がある教員が、地域の医療ニーズに応じた連携の実際と看護の役割、多職種連携について体験を交えて講義する。		要件なし。	
留意事項		オフィスアワー	
<ol style="list-style-type: none"> <li>4年次の多職種連携実習(在宅)を選択する人は受講してください。</li> <li>地域で暮らす『医療的ケア』が必要な人々に関心を持つ。</li> <li>地域医療を支援する人々と、本科目を関連づける。</li> </ol>		時間：授業後、昼休み 場所：教室・研究室等 メール、Teamsチャット等 アドレス:y.yasuda●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
87	在宅生活支援論	1	8	必修	講義	3年前期	関永 信子
科目概要	療養者の安全な暮らしの基本と、日常生活の維持・拡大・自立や社会参加を促すための事故防止の工夫や生活支援について学ぶ。						
到達目標	1. 在宅生活における事故防止の基本を説明できる。 2. 在宅療養の場におけるリスクの特徴を説明できる。 3. 在宅生活の場で、発生頻度の高い事故や課題に対する予防策を述べられる。 4. 安全な住環境を事例を通して討議できる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・定期試験	50 %	基礎的問題40% 応用問題10%	
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	30 %	小テスト 課題学習の知識	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	課題学習の知識	
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
	◎	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %		
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %				
フィードバック	・授業内で課した、課題やレポート、学びのシートは後日コメントを添えて返却する ・授業で実施した小テストは、採点后解説し問題と答案用紙を返却する ・当該科目は毎回授業の後半に授業内容を振り返る。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	在宅における安全管理①	事前学習	teamsの第1回目の講義資料を予習する	1.5 時間	関永	
			講義	在宅におけるリスクマネジメントとヒューマンエラー	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する	2 時間		
	2	在宅における安全管理②	事前学習	teamsの第2回目の講義資料を予習する	1.5 時間	関永	
			講義	在宅におけるリスクマネジメントの実際	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する	2 時間		
	3	在宅における事故防止①	事前学習	teamsの第3回目の講義資料を予習する	1.5 時間	関永	
			講義	在宅における情報の漏洩 指示変更や伝達ミス	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する	2 時間		
	4	在宅における事故防止②	事前学習	teamsの第4回目の講義資料を予習する	1.5 時間	関永	
			講義	在宅ケア中の事故 医療機器のトラブル	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する	2 時間		
	5	在宅における事故防止③	事前学習	teamsの第5回目の講義資料を予習する	1.5 時間	関永	
			講義	介護と家族の危機的状況 虐待の防止	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する	2 時間		
	6	住まいの事故防止	事前学習	teamsの第6回目の講義資料を予習する	1.5 時間	関永	
			講義	事例を用い事故防止を提案する 段差 手すり 福祉用具の活用	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する	2 時間		
	7	住環境の整備	事前学習	teamsの第7回目の講義資料を予習する	1.5 時間	関永	
			講義	安全な住まい	2 時間		
			事後学習	講義で学んだことを要約する	2 時間		
	8	感染予防	事前学習	teamsの第8回目の講義資料を予習する	1.5 時間	関永	
			講義	在宅における感染予防	2 時間		
		事後学習	講義で学んだことを要約する	3 時間			

9	定期試験	試験	関永	
			総学習時間	45 時間
テキスト		参考書		
臺有佳編著：地域療養を支えるケア メディカ出版		授業進度、学生の理解に応じて適宜必要な資料、プリントは配布する		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験のある教員が、安全な暮らしの基本と在宅における事故防止や感染予防について指導する。		なし		
留意事項		オフィスアワー		
授業開始時に全8回の講義資料および課題を提示する。		関永研究室(2号館3階)において、毎水曜日3限(13:00~14:30)の間に設けます。会議や出張などで不在にすることもあるため、確実に面談を希望する場合は事前に予約をお願いします。		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
88	公衆衛生看護学概論	2	30	必修	講義	2年前期	原岡 智子	
科目概要	公衆衛生看護の基本となる概念と理念、歴史的過程から保健師活動の対象の特性及び地域活動の場について学修する。社会の動向を踏まえ、健康課題の捉え方を理解し、さらに、基本的公衆衛生看護活動をふまえて地域住民・組織への公衆衛生看護過程の展開、地域ケアシステムなどの基礎を学ぶ。							
到達目標	1. 公衆衛生看護の理論と変遷、ヘルスプロモーションの理念を説明することができる。 2. 公衆衛生看護の対象と場について説明することができる。 3. 保健活動の活動方法を説明することができる。 4. 健康に影響する社会的要因や生活環境について説明することができる。 5. 事業化・施策化・システム化について説明することができる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	○	◎		・定期試験	75 %	授業内容全般の理解度を評価する	
	2. 主体的行動力				・授業内的小テスト、課題、レポート	0 %		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力				・事前/事後学習の課題、レポート	0 %	グループワークの積極性を評価する	
	4. 課題発見能力と課題解決力				・受講時の積極性、態度等	5 %		
	5. 看護の知識と看護実践力				・その他	20 %	課題発表で内容と態度を評価する	
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計			100 %				
フィードバック	毎回授業の理解度を把握するためにレスポンスカードの提出を求める。質問については次の授業で説明する。授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。 定期試験のフィードバックは、成績発表後公衆衛生看護学担当の研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。							
教育 内容	1	公衆衛生の理念	事前学習	シラバスの内容の確認しておく。教科書のP7～P11を熟読しておく。	2 時間	原岡		
			講義	プライマリーヘルケアとヘルスプロモーション公衆衛生看護の理念と概念	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間			
	2	公衆衛生看護の理念	事前学習	教科書のP2～P6、P12～P22を熟読しておく。	2 時間	原岡		
			講義	公衆衛生看護の理念と概念	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間			
	3	公衆衛生看護の歴史	事前学習	教科書のP256～P276を熟読しておくこと。	2 時間	原岡		
			講義	公衆衛生看護の社会情勢と公衆衛生看護の歴史	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間			
	4	公衆衛生看護の対象(1)	事前学習	教科書のP24～P29を熟読しておく。	2 時間	原岡		
			講義	対象としての個人・家族	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間			
	5	公衆衛生看護の対象(2)	事前学習	教科書のP30～P31を熟読しておく。	2 時間	原岡		
			講義	対象としての集団・組織・地域	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間			
	6	公衆衛生看護の場(1)	事前学習	教科書のP34～P39を熟読しておく。	2 時間	原岡		
			講義	保健師活動の場について(保健所)	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間			
	7	公衆衛生看護の場(2)	事前学習	教科書のP39～P68を熟読しておく。	2 時間	原岡		
			講義	保健師活動の場について(市町村・その他)	2 時間			
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間			
	8	個人・家族の健康課題	事前学習	各ライフサイクルの中での健康課題を調べてくる。	2 時間	原岡		
			講義	ライフサイクル別の健康課題と保健医療、福祉対策、個人の対策(母子・成人・高齢者など)＜個人ワーク＞	2 時間			
			事後学習	授業で個人ワークした課題について次回の授業に提出できるように調べて検討しまとめる	2 時間			

教育内容	9	社会環境の変化と健康課題(1)	事前学習	教科書のP7～P11を熟読しておくこと。	2 時間	原岡
			講義	健康課題の変遷と保健医療福祉対策、個人の対策,発表の準備(グループでのまとめ)(個人レポート提出)	2 時間	
			事後学習	グループで協力し合い発表の内容についてまとめ、検討して、グループ発表の準備をする。	2 時間	
	10	社会環境の変化と健康課題(2)	事前学習	グループで発表ができるように準備する。	2 時間	原岡
			講義	グループ発表、評価	2 時間	
			事後学習	国民衛生の動向で、発表・評価した健康課題に該当するページを読み、理解を深める。	2 時間	
	11	社会環境の変化と健康課題(3)	事前学習	グループで発表ができるように準備する。	2 時間	原岡
			講義	グループ発表、評価	2 時間	
			事後学習	国民衛生の動向で、発表・評価した健康課題に該当するページを読み、理解を深める。	2 時間	
	12	公衆衛生看護の活動方法(1)	事前学習	教科書のP101～P103を熟読しておく。法に基づく個人等への支援を調べてくる。	2 時間	原岡
			講義	個人・家族への支援(家庭訪問・保健指導など)	2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間	
	13	公衆衛生看護の活動方法(2)	事前学習	教科書のP104～P107を熟読しておく。居住地の集団等の支援を調べてくる。	2 時間	原岡
			講義	集団・地域への支援(健康診査・健康教育・ヘルスケアチームづくり)	2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間	
	14	公衆衛生看護の活動方法(3)	事前学習	教科書のP88～P100を熟読しておく。	2 時間	原岡
			講義	ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ,公衆衛生看護活動の理論と保健行動	2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間	
15	健康課題と事業化	事前学習	教科書のP107～P108を熟読しておく。	2 時間	原岡	
		講義	事業化・施策化・システム化	2 時間		
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間		
16	定期試験	筆記試験			原岡	
総学習時間					90 時間	

テキスト		参考書	
1. 標美奈子他「標準保健師講座(1)公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院 2. 「国民衛生の動向」最新版 厚生統計協会		授業時に適宜紹介する。	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
専門分野での保健師実務経験がある教員が、公衆衛生看護の基本理念や目的などを指導する。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
なし		時間:授業の前後、毎週木曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所:原岡研究室	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
89	公衆衛生看護活動論 I (対象別支援)	2	30	選択 (保健師必修)	講義	2年後期	○原岡智子/五十嵐佳寿美
科目概要	法制度と関連づけながら、地域で生活する人々のライフサイクル別に発達段階や健康課題をふまえた健康支援、疾病・障害を持つ人々や支援ニーズの高い人々への健康支援、個人及び地域における保健師の活動や役割について理解する。さらに、災害・感染症・虐待などの健康危機に対する予防や対応における保健師の役割、対策について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクル別の個々の健康支援を説明することができる。</li> <li>2. 疾病・障害を持つ人々、支援ニーズの高い人々への健康支援を説明することができる。</li> <li>3. 保健師の個人及び地域における活動、役割を述べるができる。</li> <li>4. 健康危機、健康危機における保健師の役割、対策を述べるができる。</li> </ol>						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験		100 %	授業の内容全般についての理解度を評価する。	
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート		0 %		
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート		0 %		
	○ 4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等		0 %		
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力		・その他		0 %		
○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	<p>毎回授業の理解度を把握するためにレスポンスカードの提出を求める。質問については次の講義で説明する。</p> <p>定期試験については、試験終了後公衆衛生看護学担当の研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。</p>						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	ライフサイクル別保健活動①	事前学習	シラバスの内容の確認、教科書2のP2～43を読み、ポイントをノートにまとめる。		2 時間	五十嵐
			講義	母子保健福祉の法と動向、乳幼児期の保健指導		2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。		2 時間	
	2	ライフサイクル別保健活動②	事前学習	教科書2P45～60を読み、ポイントをノートにまとめる。		2 時間	五十嵐
			講義	子育てのリスクを持つ親子への保健指導(虐待含む)		2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。		2 時間	
	3	ライフサイクル別保健活動③	事前学習	教科書2P62～74を読み、ポイントをノートにまとめる。		2 時間	五十嵐
			講義	成人保健の法と動向、健康課題		2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。		2 時間	
	4	ライフサイクル別保健活動④	事前学習	教科書2P76～90を読み、ポイントをノートにまとめる。		2 時間	五十嵐
			講義	生活習慣病予防、特定健診・特定保健指導		2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。		2 時間	
	5	ライフサイクル別保健活動⑤	事前学習	教科書2P92～102、234～245を読み、ポイントをノートにまとめる。		2 時間	五十嵐
			講義	高齢者保健福祉の法と動向、保健指導、歯科保健について		2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。		2 時間	
	6	ライフサイクル別保健活動⑥	事前学習	教科書2P102～119を読み、ポイントをノートにまとめる。		2 時間	五十嵐
			講義	高齢者の介護予防、認知症、虐待予防について		2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。		2 時間	
	7	支援ニーズの高い人々への保健活動①	事前学習	教科書2P122～135を読み、ポイントをノートにまとめる。		2 時間	原岡
			講義	精神保健福祉の動向と精神障害者への保健活動		2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。		2 時間	
	8	支援ニーズの高い人々への保健活動②	事前学習	教科書P136～149を読み、ポイントをノートにまとめる。		2 時間	原岡
			講義	社会病理を背景とする精神的問題		2 時間	
		事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。		2 時間		

教育内容	9	支援ニーズの高い人々への保健活動③	事前学習	教科書2P152～172を読み、ポイントをノートにまとめる。	2 時間	原岡
			講義	障害者(児)の保健福祉の動向と保健活動	2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。	2 時間	
	10	支援ニーズの高い人々への保健活動④	事前学習	教科書2P174～186を読み、ポイントをノートにまとめる。	2 時間	原岡
			講義	難病対策の動向と難病療養者・家族の健康と生活	2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。	2 時間	
	11	支援ニーズの高い人々への保健活動⑤	事前学習	教科書2P187～198を読み、ポイントをノートにまとめる。	2 時間	原岡
			講義	難病対策の動向と難病療養者・家族への保健活動	2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。	2 時間	
	12	健康危機への対応①	事前学習	教科書2P322～を読み、ポイントをノートにまとめる。	2 時間	原岡
			講義	災害対策の動向と平常時の災害予防対策	2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。	2 時間	
	13	健康危機への対応②	事前学習	教科書2P353～368を読み、ポイントをノートにまとめる。	2 時間	原岡
			講義	災害と保健活動	2 時間	
			事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。	2 時間	
	14	健康危機への対応③	事前学習	教科書2P200～215を読み、ポイントをノートにまとめる。	2 時間	原岡
講義			感染症対策の動向と保健活動	2 時間		
事後学習			授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。	2 時間		
15	健康危機への対応④	事前学習	教科書2P216～232、337～352を読み、ポイントをノートにまとめる。	2 時間	原岡	
		講義	おもな感染症と保健活動	2 時間		
		事後学習	授業の配布資料、教科書の該当ページを読み返し、ノートに整理する。	2 時間		
16	定期試験	筆記試験			原岡/五十嵐	
総学習時間					90 時間	

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座(1)公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院 2. 中谷芳美他「標準保健師講座(3)対象別公衆衛生看護活動 Standard textbook」第5版 医学書院 3. 「国民衛生の動向」最新版 厚生統計協会	・鳩野洋子他「公衆衛生看護学 JP第6版」(インターメディカル)
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、保健活動の介入方法を指導する。	公衆衛生看護学概論、健康支援論、保健統計学 I の単位を修得していること
留意事項	オフィスアワー
1. 公衆衛生看護学実習 I (保健師課程)を選択する人は受講してください。 2. 公衆衛生看護の対象者は全ての年代、様々な健康レベルであるため、他の看護領域の学修内容を深めておくこと。	時間: 授業内で伝達 場所: 研究室 原岡メール: t.haraoka●matsutan.ac.jp 五十嵐メール: mjc-k.igarashi●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
90	公衆衛生看護活動論Ⅱ (産業・学校)	1	15	選択 (保健師必修)	講義	2年後期	原岡智子/○五十嵐佳寿美	
科目概要	産業保健活動の基本的な概念、産業現場での健康に関する現状と問題、関連法規、産業保健チームの位置づけを通して、産業保健師の活動や機能・役割について理解を深める。 学校保健の法規や学校保健活動の現状と課題を踏まえ、児童生徒の生活の場としてとらえた学校における養護教諭の活動や役割に必要な知識・技術、及び学校と地域の保健医療福祉との連携についての理解を深める。							
到達目標	1. 学校・産業保健の理念と目的を説明できる。 2. 学校・産業保健における健康課題について説明することができる。 3. 学校・産業保健の基盤となる制度とシステムについて説明することができる。 4. 学校・産業保健の意義と活動内容について説明することができる。 5. 学校・産業保健と地域保健との連携の必要性について説明することができる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準		
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験		100 %	授業内容全般の理解度を評価する		
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート		0 %			
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート		0 %			
	○ 4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等		0 %			
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力		・その他		0 %			
○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %					
フィードバック	毎回授業の理解度を把握するためにレスポンスカードの提出を求める。質問については次の授業で説明する。授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。 定期試験のフィードバックは、成績発表後公衆衛生看護学担当の研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	産業保健の概要	事前 学習	シラバスの内容の確認してくる。教科書のP7～P11を熟読してくる。			2 時間	原岡
			講義	産業保健の理念と目的、歴史、健康課題の変遷、産業保健制度とシステム			2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	2	産業保健と保健活動①	事前 学習	教科書のP296～P299を熟読してくる。			1 時間	原岡
			講義	作業管理・作業環境管理・健康管理と保健師の役割			2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	3	産業保健と保健活動②	事前 学習	教科書のP301～P320を熟読してくる。			1 時間	原岡
			講義	総括管理、労働衛生教育と保健師の役割			2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	4	産業保健活動の実際	事前 学習	これまで配布したプリントを見返し、教科書のP282～P320を再度熟読してくる。			2 時間	原岡
			講義	活動の実際(特別講師)			2 時間	
			事後 学習	これまで配布したプリントおよび教科書P282～P320を読み返し、授業内容と比較して理解を深めておく。			3 時間	
	5	学校保健の概要	事前 学習	教科書のP248～P253を熟読してくる。			1 時間	五十嵐
			講義	学校保健の理念と目的、歴史、組織と人材			2 時間	
			事後 学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	6	学校保健活動	事前 学習	教科書のP253～P259を熟読してくる。			1 時間	五十嵐
			講義	学校保健のしくみ、学校給食と食育			2 時間	
事後 学習			授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間		

7	学校保健活動と養護教諭の役割①	事前学習	教科書のP260～P279を熟読してくる。	1 時間	五十嵐
		講義	子どもたちの健康課題、養護教諭の職務内容	2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。	2 時間	
8	学校保健活動と養護教諭の役割②	事前学習	これまで配布したプリントを見返し、教科書のP248～P279を再度熟読してくる。	2 時間	五十嵐
		講義	活動の実際(特別講師)	2 時間	
		事後学習	これまで配布したプリントおよび教科書P282～P320を読み返し、授業内容と比較して理解を深めておく。	3 時間	
9	定期試験	筆記試験			原岡/五十嵐
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
1. 中谷芳美他「標準保健師講座(3)対象別公衆衛生看護活動 Standard textbook」第5版 医学書院 2. 「国民衛生の動向」最新版 厚生統計協会			授業時に適宜紹介する。		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
専門分野での保健師実務経験がある教員が、疾病予防、健康保持・増進を図るための産業保健活動と学校保健活動を指導する。			公衆衛生看護学概論、健康支援論、保健統計学Ⅰの単位を修得していること		
留意事項			オフィスアワー		
公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師)を選択する人は受講してください。			時間: 授業の前後、毎週木曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所: 研究室 原岡メール: t.haraoka●matsutan.ac.jp 五十嵐メール: mjc-k.igarashi●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
91	健康支援論	1	15	必修	講義	2年前期	原岡智子/○五十嵐佳寿美
科目概要	個人が健康課題を認識し行動変容を進めていくための健康教育に意義と理論を理解し、対象に応じた実践的介入方法を理解する。具体的には、健康教育の実際として、対象理解のためのアセスメント及び企画・実施・評価までの一連の展開過程を理解し、実践できる知識、技術、態度を修得する。						
到達目標	1. 健康教育の意義と理論を説明することができる。 2. 対象者の健康課題が理解できる。 3. 健康教育の展開過程が実施できる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	50 %	基本事項の理解度を評価する		
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %			
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	50 %	作成した企画書・指導案・媒体、発表の内容で評価する		
	◎ 4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
	○ 5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	作成した企画書、指導案、媒体について演習後指導教員より口頭による講評やレポートにコメントをつけて返却する。 定期試験については、試験終了後公衆衛生看護学担当の研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	健康教育の意義と理論	事前学習	シラバスを読む、教科書1p101～108を読み、ノートにまとめる。	1 時間	五十嵐	
			講義	健康教育の目的、対象、理論	2 時間		
			事後学習	授業資料を読み直し、ノートに整理する。	1 時間		
	2	健康教育の方法①	事前学習	事前に配布した資料を読み、ノートにまとめる。	1 時間	五十嵐	
			講義	健康教育の計画書、方法、媒体、評価などの一連の過程	2 時間		
			事後学習	授業資料を読み直し、ノートに整理する。	1 時間		
	3	健康教育の方法②	事前学習	事前に配布した資料を読み、ノートにまとめる。	1 時間	五十嵐	
			講義	健康教育のための課題設定方法	2 時間		
			事後学習	課題の設定方法を復習する。	2 時間		
	4	健康教育の方法③	事前学習	課題設定のための情報収集をする。	2 時間	五十嵐	
			講義	グループ毎に対象のアセスメントをして健康課題を明らかにする。	2 時間		
			事後学習	明らかにした健康課題に関連する情報収集をする。	2 時間		
	5	健康教育の実際①	事前学習	企画書の作成を個人で進める。	2 時間	五十嵐	
			講義	企画書の作成	2 時間		
			事後学習	企画書をグループで仕上げる。	3 時間		
	6	健康教育の実際②	事前学習	指導案、媒体の作成を進める。	2 時間	五十嵐	
			講義	健康課題に応じた資料の作成①	2 時間		
			事後学習	グループで指導案、媒体の作成を進める。	3 時間		
	7	健康教育の実際③	事前学習	指導案、媒体の作成を進める。	2 時間	五十嵐	
			講義	健康課題に応じた資料の作成②	2 時間		
			事後学習	教員の指摘事項について確認、修正を行う。発表の役割分担を確認する。	3 時間		
	8	健康教育の実際④	事前学習	指導案、媒体を完成に向けて作成する。発表の練習をする。	2 時間	五十嵐/原岡	
			演習	グループ毎に作成した資料の発表	2 時間		
事後学習			実施報告書を作成する。	1 時間			

9	定期試験	試験	五十嵐	
			総学習時間	45 時間
テキスト		参考書		
1. 標美奈子他「標準保健師講座 Standard textbook1 公衆衛生看護学概論」第6版 医学書院 2. 「国民衛生の動向」最新版 厚生統計協会 3. プリントを配布		・鳩野洋子他『公衆衛生看護学 JP第6版』(インターメディカル)		
実務経験と授業科目との関連性		履修要件		
専門分野での保健師実務経験がある教員が、健康レベルや地域特性に応じた公衆衛生看護活動の支援過程を指導する。		なし		
留意事項		オフィスアワー		
グループで行うので、協力して行うこと。 資料は授業時に配布またはTeamsにアップする。 課題の提出は期限までに提出すること スマートフォンは授業時指示がない限り使用しないこと。 私語はしないこと。		時間: 授業内で伝達 場所: 研究室 原岡メール: t.haraoka●matsutan.ac.jp 五十嵐メール: mjc-k.igarashi●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
92	公衆衛生看護管理論	1	15	選択 (保健師必修)	講義	4年前期	○原岡智子/五十嵐佳寿美
科目概要	保健師や保健師活動を管理する公衆衛生看護管理の特徴と目的、公衆衛生看護管理の対象である各管理の機能について基礎的知識を習得する。また、地域における健康危機、リスクマネジメント、健康危機の種類に応じた保健師活動を通しての健康危機管理について理解する。						
到達目標	1. 公衆衛生看護管理の基本と機能の概要・構造について理解できる。 2. 公衆衛生看護管理の各機能の方法について理解できる。 3. 健康危機管理における保健師の役割・機能について理解できる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価方法	・定期試験	100 %	授業内容全般の理解度を評価する		
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %			
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %			
	○ 4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %				
フィードバック	毎回授業の理解度を把握するためにレスポンスカードの提出を求める。質問については次の授業で説明する。授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。定期試験のフィードバックは、成績発表後公衆衛生看護学担当の研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	公衆衛生看護管理の基本	事前学習	シラバスの内容の確認してくる。教科書のP7～P11を熟読してくる。		1 時間	原岡
			講義	公衆衛生看護管理の特徴、目的、機能の概要・構造・前提条件		2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。		2 時間	
	2	公衆衛生看護管理の機能(1)	事前学習	教科書1のP199～P202、P206～P223を熟読してくる。		2 時間	原岡
			講義	地区管理、事例管理、情報管理		2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。		2 時間	
	3	公衆衛生看護管理の機能(2)	事前学習	教科書1のP196～P199、P202～P203を熟読してくる。		2 時間	原岡
			講義	事業・業務管理、予算管理		2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。		2 時間	
	4	公衆衛生看護管理の機能(3)	事前学習	教科書1のP189～P196、P204～P20を熟読してくる。		2 時間	原岡
			講義	組織運営管理、人材育成・人事管理、地域ケアの質保証		2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。		2 時間	
	5	リスクとリスクマネジメント	事前学習	教科書1のP232～P236および教科書2のP325～P327を熟読してくる。		1 時間	原岡
			講義	リスクとリスクマネジメント、リスクコミュニケーション		2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。		2 時間	
	6	健康危機管理の実際(1)	事前学習	教科書1のP237～P240および教科書2のP327～P336を熟読してくる。		1 時間	原岡/五十嵐
			演習	保健所・市町村における平常時および危機発生の健康危機管理対策		2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。		2 時間	
	7	健康危機管理の実際(2)	事前学習	教科書1のP247～P253および教科書2のP337～P352を熟読してくる。		2 時間	原岡/五十嵐
			演習	感染症集団発生に対する健康危機管理対策と保健活動		2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。		2 時間	
	8	健康危機管理の実際(3)	事前学習	教科書1のP240～P246および教科書2のP353～P368を熟読してくる。		2 時間	原岡/五十嵐
			演習	自然災害に対する健康危機管理対策と保健活動		2 時間	
		事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。		2 時間		

9	定期試験	筆記試験			原岡/五十嵐
				総学習時間	45 時間
テキスト			参考書		
1. 標美奈子他「標準保健師講座(1)公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院 2. 中谷芳美他「標準保健師講座(3)対象別公衆衛生看護活動論 Standard textbook」第5版 医学書院			・井伊久美子他編『新版 保健師業務要覧』(日本看護協会出版会) ・平野かよ子編『最新 保健学講座5 公衆衛生看護管理論』(メジカルフレンド社)		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
専門分野での保健師実務経験がある教員が、経験を生かして公衆衛生看護管理の基本と機能について指導している。			公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱ、保健・医療・福祉行政論の単位を修得していること		
留意事項			オフィスアワー		
公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。			時間: 授業の前後、毎週木曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所: 研究室 原岡メール: t.haraoka●matsutan.ac.jp 五十嵐メール: mjc-k.igarashi●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
93	公衆衛生看護方法論Ⅰ (訪問・相談)	2	30	選択 (保健師必修)	講義	3年前期	原岡智子/○五十嵐佳寿美 横山芳子
科目概要	個人・家族が健康課題を認識し、主体的に解決するための支援の展開方法と必要な基本的知識を身につける。具体的には、家庭訪問、健康相談において、個人・家族の生活と健康を多角的に捉え、情報の収集とアセスメントから課題を抽出し、課題に応じた計画の立案、社会資源の活用を含めた実施、評価までの一連の展開方法について理解する。						
到達目標	1. 家庭訪問、健康相談の目的、対象、特徴、機能について説明できる。 2. 健康問題を有する対象者を把握し、情報収集、計画立案、実施、評価までの家庭訪問、健康相談の技術を用いて実施することができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	定期試験	70 %	授業内容の理解度を評価する		
	2. 主体的行動力		授業内の小テスト、課題、レポート	0 %			
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		事前/事後学習の課題、レポート	15 %	家庭訪問・健康相談のアセスメントと計画		
	4. 課題発見能力と課題解決力		受講時の積極性、態度等	0 %			
	○ 5. 看護の知識と看護実践力		その他(配分する場合は具体的に記載)	15 %	家庭訪問・健康相談ロールプレイ		
○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。 定期試験のフィードバックは、成績発表後公衆衛生看護学担当の研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。						
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員
	1	公衆衛生看護の基盤となる理論	事前学習	「公衆衛生看護技術」P34～51を読みまとめる。		2 時間	五十嵐
			講義	保健行動理論・保健指導で活用できる理論を理解する。		2 時間	
			事後学習	「公衆衛生看護技術」P57～65を熟読する。		1 時間	
	2	家庭訪問の展開方法①	事前学習	対人支援の基本P90～112を熟読する。		2 時間	五十嵐
			講義	家庭訪問の目的、対象、特徴、機能について学ぶ		2 時間	
			事後学習	授業内容について、テキストの該当箇所を参考に振り返りを行う。		1 時間	
	3	家庭訪問の展開方法②	事前学習	テキストのP144～153まで熟読する。		1 時間	五十嵐
			講義	家庭訪問のプロセス、具体的手順について学ぶ		2 時間	
			事後学習	授業内容について、テキストの該当箇所を参考に振り返りを行う。		1 時間	
	4	家庭訪問の実際①	事前学習	新生児期の特徴について調べて記載する。		3 時間	五十嵐
			講義	事例(新生児訪問)について必要な情報収集し整理する。		2 時間	
			事後学習	事例について必要な情報を推測し記述する。		3 時間	
	5	家庭訪問の実際②	事前学習	テキストP154～159までを熟読する。		1 時間	五十嵐
			講義	家庭訪問に必要なアセスメント、計画立案をたてる。		2 時間	
			事後学習	家庭訪問の流れについて復習する。		3 時間	
	6	家庭訪問の実際③	事前学習	アセスメント、立案した計画が十分か確認し提出する。		3 時間	五十嵐
			講義	アセスメント、立案した計画についてグループワークで深める。		2 時間	
			事後学習	グループワークで出た意見も含め自分のアセスメント、計画を見直し修正する。		2 時間	
	7	家庭訪問の実際④	事前学習	訪問される側の設定を考えて記録し、ロールプレイのシミュレーションをする。		2 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	家庭訪問の実施(ロールプレイ)、実施後の評価、家庭訪問の記録をする。		2 時間	
			事後学習	ロールプレイの自己評価をし、記録をまとめ提出する。		2 時間	
	8	家庭訪問の実際⑤	事前学習	訪問される側の設定を考えて記録し、ロールプレイのシミュレーションをする。		2 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	家庭訪問の実施(ロールプレイ)、実施後の評価、家庭訪問の記録をじっし実施する。		2 時間	
事後学習			ロールプレイの自己評価をし、記録をまとめ提出する。		2 時間		

教育内容	9	健康相談の展開方法①	事前学習	テキストのP90～112の対人支援の基本を読みまとめる。	1 時間	原岡
			講義	健康相談の目的、対象、方法、特徴を理解する。	2 時間	
			事後学習	授業内容について、テキストの該当箇所を参考に振り返りを行う。	1 時間	
	10	健康相談の展開方法②	事前学習	テキストのP114～118を熟読する。	1 時間	原岡
			講義	健康相談の展開のプロセスの基本、基本姿勢を学ぶ。	2 時間	
			事後学習	授業内容について、テキストの該当箇所を参考に振り返りまとめる。	1 時間	
	11	健康相談の実際①	事前学習	特定健康診査・特定保健指導の概要を復習しまとめる。	2 時間	原岡
			講義	事例(特定保健指導)の病態生理と生活習慣の関係を学ぶ。	2 時間	
			事後学習	メタボリックシンドロームの病態をまとめる。	3 時間	
	12	健康相談の実際②	事前学習	メタボリックシンドロームから引き起こされる生活習慣病の関連について調べる。	3 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	事例のアセスメント、計画立案を実施する。	2 時間	
			事後学習	事例のアセスメント、計画立案をまとめ保健指導に使用したい資料を検討する。	3 時間	
	13	健康相談の実際③	事前学習	主として説明したい保健指導の内容を検討し、アセスメント・計画を提出する。	3 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	アセスメント、立案した計画についてグループワークで深める。	2 時間	
			事後学習	グループワークで出た意見も含め自分のアセスメント、計画を見直し修正する。	3 時間	
	14	健康相談の実際④	事前学習	指導される側の設定を考えて記録し、ロールプレイのシュミレーションをする。	2 時間	原岡/五十嵐 横山
演習			健康相談の実施(ロールプレイ)、実施後の評価、記録する。	2 時間		
事後学習			ロールプレイの自己評価をし、記録をまとめ提出する。	2 時間		
15	健康相談の実際⑤	事前学習	指導される側の設定を考えて記録し、ロールプレイのシュミレーションをする。	2 時間	原岡/五十嵐 横山	
		演習	健康相談の実施(ロールプレイ)、実施後の評価、記録する。	2 時間		
		事後学習	ロールプレイの自己評価をし、記録を提出しまとめる。	2 時間		
16	定期試験	筆記試験			原岡/五十嵐	

総学習時間 90 時間

テキスト	参考書
・標美奈子他「標準保健師講座(1) 公衆衛生看護学概論Standard textbook」第6版 医学書院 ・中村裕美子他「標準保健師講座(2) 公衆衛生看護技術Standard textbook」第5版 医学書院 ・中谷芳美他「標準保健師講座(3) 対象者別公衆衛生看護活動Standard textbook」第5版 医学書院	・病気がみえる
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、健康レベルや地域特性に応じた公衆衛生看護活動の支援過程を指導する。	公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、疫学、保健統計Ⅱ、衛生関係法規の単位を修得していること
留意事項	オフィスアワー
欠席・遅刻・途中退中は学則に則る。 資料は授業時に配布、または、Teamsにアップする場合もある。課題の提出は授業時に説明し期限までに提出すること。スマートフォンは授業時指示がない限り使用しない。水分摂取のみ可。私語はしないこと。	・授業の前後または公衆衛生看護担当教員のオフィスアワーの日時・時間 原岡メール: t.haraoka●matsutan.ac.jp 五十嵐メール: mjc-k.igarashi●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
94	公衆衛生看護方法論Ⅱ (地域診断)	2	30	選択 (保健師必修)	講義	3年前期	○原岡智子/五十嵐佳寿美 横山芳子	
科目概要	公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断に必要な理論、地域の健康レベルのアクセスメントから健康ニーズを明確化して、地域住民及び保健医療福祉と連携して健康課題を解決し、評価する方法を、地域の情報を用いた演習を通して学ぶ。また、地域における保健医療福祉事業の計画・実施・評価のプロセス、施策化、社会資源の開発について学ぶ。							
到達目標	1. 地域診断の目的・意義を理解することができる。 2. 地域診断における一連のプロセスを理解することができる。 3. 地域診断に関連する理論モデルとその活用について理解することができる。 4. 地域の情報を地区踏査やインタビュー、既存の資料から収集し、分析して健康課題を抽出することができる。 5. 地域診断から保健事業の計画・実施・評価のプロセス、施策化、社会資源の開発までのプロセスを理解することができる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準		
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	75 %	授業内容全般の理解度を評価する			
	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %				
	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	0 %				
	○ 4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	5 %	グループワークの積極性を評価する			
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力		・その他(グループワーク)	20 %	課題発表で内容と態度を評価する			
○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %					
フィードバック	毎回授業の理解度を把握するためにレスポンスカードの提出を求める。質問については次の授業で説明する。授業内に課したレポートのフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。 定期試験のフィードバックは、成績発表後公衆衛生看護学担当の研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通して行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	地域診断の概念	事前学習	シラバスの内容の確認してくる。教科書のP7～P11を熟読してくる。			2 時間	原岡
			講義	地域診断の意義、目的、視点、個人の健康課題と地域の健康課題			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	2	地域診断のプロセス	事前学習	教科書のP111～P113、P118～P119を熟読してくる。			2 時間	原岡
			講義	地域診断の基本プロセス、PDCAサイクル			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	3	地域診断に関連する理論モデル	事前学習	教科書のP117～P119を熟読してくる。			2 時間	原岡
			講義	プリシード・プロシードモデル、コミュニティ・アズ・パートナーモデル			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	4	地域診断の進め方①	事前学習	教科書のP113～P115を熟読してくる。			2 時間	原岡
			講義	地域の情報の種類と収集方法・活用			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	5	地域診断の進め方②	事前学習	教科書のP113～P114を熟読してくる。			2 時間	原岡
			講義	理論に基づく情報の整理			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	6	地域診断の進め方③	事前学習	教科書のP115～P117、P130～P140を熟読してくる。			2 時間	原岡
			講義	情報のアクセスメント、分析と診断、課題の抽出、計画と評価			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	7	地域診断の発展	事前学習	教科書のP120～P128、P141～P146を熟読してくる。			2 時間	原岡
			講義	保健事業計画の策定プロセス、施策化への発展プロセス			2 時間	
			事後学習	授業時に配布したプリントおよび教科書の該当ページを読み返し、理解を深めておく。			2 時間	
	8	地域診断の方法・情報①	事前学習	教科書のP136～P138を熟読してくる。			2 時間	原岡
			講義	情報源と情報アクセスメント(個人ワーク)			2 時間	
事後学習			情報のアクセスメントを完成させる			2 時間		

教育内容	9	地域診断の方法・情報②	事前学習	教科書のP115を熟読してくる。提示した課題について調べてくる	2 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	地区視診、インタビューの方法と情報収集(個人ワーク)	2 時間	
			事後学習	地区視診等で得た情報をまとめる。	2 時間	
	10	地域診断の方法・情報③	事前学習	地区診断を行う地域と既存資料の種類を調べてくる。	2 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	既存資料、活動実績からの情報収集(グループワーク)	2 時間	
			事後学習	グループワークの内容を基にこれまでのプリントや教科書を読み返し理解を深める。	2 時間	
	11	地域診断の方法・情報④	事前学習	得られた情報の整理と加工の仕方について考えてくる。	2 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	収集した情報の整理と加工(グループワーク)	2 時間	
			事後学習	グループワークの内容を基にこれまでのプリントや教科書を読み返し理解を深める。	2 時間	
	12	地域診断の方法・アセスメント①	事前学習	モデルを基にした情報の整理とアセスメントについて考えてくる。	2 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	理論モデルを活用した情報の整理とアセスメント(グループワーク)	2 時間	
			事後学習	グループワークの内容を基にこれまでのプリントや教科書を読み返し理解を深める。	2 時間	
	13	地域診断の方法・アセスメント②	事前学習	モデルを基にした情報の整理とアセスメントについて考えてくる。	2 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	理論モデルを活用した情報のアセスメント(グループワーク)	2 時間	
			事後学習	グループワークの内容を基にこれまでのプリントや教科書を読み返し理解を深める。	2 時間	
	14	地域診断の方法・アセスメント③	事前学習	複数の情報のアセスメントからの総合的アセスメントと課題について考えてくる	2 時間	原岡/五十嵐 横山
演習			理論モデルを活用した情報の総合的アセスメント、健康課題の抽出と優先性の判断(グループワーク)	2 時間		
事後学習			グループワークの内容を基にこれまでのプリントや教科書を読み返し理解を深める。	2 時間		
15	地域診断の方法・健康課題特定	事前学習	地域診断結果の発表・評価の準備をする	2 時間	原岡/五十嵐 横山	
		演習	地域診断結果の発表・評価	2 時間		
		事後学習	全グループの発表・評価からと、これまでのプリントや教科書を読み返し理解を深める。	2 時間		
16	定期試験	筆記試験			原岡/五十嵐	

総学習時間 90 時間

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座(1)公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院 2. 「国民衛生の動向」最新版 厚生統計協会	授業時に適宜紹介する。
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、経験を生かし地域診断の意義や目的などを指導する。	公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、疫学、保健統計Ⅱ、衛生関係法規の単位を修得していること
留意事項	オフィスアワー
1. 公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。 2. グループで行うので、協力しあうこと。	時間: 授業の前後、毎週木曜日の昼休み(所用により不在の場合は除く) 場所: 研究室 原岡メール: t.haraoka●matsutan.ac.jp 五十嵐メール: mjc-k.igarashi●matsutan.ac.jp (●は@と置き換える)

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
95	公衆衛生看護方法論Ⅲ (技術演習)	2	60	選択 (保健師必修)	演習	4年前期	○原岡智子/五十嵐佳寿美 横山芳子
科目概要	地域で生活する個人・家族、集団・組織、地域の特徴を理解して、事例を用いた演習を通し、課題解決のための家庭訪問、保健指導、健康教育と実習地域の情報を用いた地域診断の展開を行う。その際住民が主体的に課題解決に取り組み、本来の力を発揮できるよう支援するための方法を修得する。						
到達目標	1. 個人・家族の健康課題を明らかにし、自らが課題解決できるための支援技術を身につけることができる。 2. 集団を対象とする公衆衛生看護活動の基本の展開方法を身につけることができる。 3. PDCAサイクルに基づいた地域診断のプロセスにおいて、地域特性を把握し説明することができる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	20 %	基本事項の理解度を評価する	
	○	2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	0 %		
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	25 %	課題の内容(家庭訪問15%、健康教育10%)	
	◎	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	15 %	地域診断5%、家庭訪問5%、健康教育5%	
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	40 %	演習の到達度(家庭訪問20%、健康教育20%)	
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %			
フィードバック	授業内に課した課題のフィードバックは、次回以降の授業時にレポートにコメントを入れて返却する事で行う。 定期試験のフィードバックは、成績発表後公衆衛生看護学担当の研究室にて採点後の答案用紙の閲覧と採点基準の解説を通じて行う。希望する場合は事前にアポイントを取ったうえで訪問すること。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	地域診断の展開方法	事前学習	テキスト1P130～145の復習しておく。	0.5 時間	原岡	
			講義	地域アセスメントの進め方を理解する。	2 時間		
			事後学習	授業内容について振り返りを行う。	0.5 時間		
	2	地域診断の実際①	事前学習	実習市町村のホームページから社会特性についての記載を見てくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山	
			演習	地域(実習市町村)の地域の社会特性の情報収集・整理をする。	2 時間		
			事後学習	社会特性の情報収集と記録用紙に整理する。	0.5 時間		
	3	地域診断の実際②	事前学習	実習市町村のホームページから健康状況についての記載を見てくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山	
			演習	地域(実習市町村)の健康状況の情報収集・整理をする。	2 時間		
			事後学習	健康状況の情報収集と記録用紙に整理する。	0.5 時間		
	4	地域診断の実際③	事前学習	実習市町村のホームページから保健活動とシステムについての記載を見てくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山	
			演習	地域(実習市町村)の対象や地域の人々の行動認識と保健活動とシステムの情報収集・整理をする。	2 時間		
			事後学習	地域の人々の行動認識と保健活動とシステムの情報収集と記録用紙に整理する。	0.5 時間		
	5	地域診断の実際④	事前学習	今までの情報からアセスメントを考えてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山	
			演習	グループで地域(実習市町村)の情報のアセスメントをする。	2 時間		
			事後学習	アセスメントしたことを記録用紙に整理する。	0.5 時間		
	6	地域診断の実際⑤-1	事前学習	実習保健所の管轄する地域を保健所関係のデータベースで見てくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山	
			演習	実習保健所の管轄する地域の情報収集・整理をする。	2 時間		
			事後学習	実習保健所の市町村の概要を整理する。	0.5 時間		
	7	地域診断の実際⑤-2	事前学習	地域(実習保健所)の情報(地域の社会特性)のアセスメントを考えてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山	
			演習	地域(実習保健所)の情報(地域の社会特性)のアセスメントをする。	2 時間		
			事後学習	アセスメントしたことを記録用紙に整理する。	0.5 時間		
	8	地域診断の実際⑤-3	事前学習	地域(実習保健所)の情報(健康状況)のアセスメントを考えてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山	
			演習	地域(実習保健所)の情報(健康状況)のアセスメント	2 時間		
事後学習			アセスメントしたことを記録用紙に整理する。	0.5 時間			

教育内容	9	地域診断の実際⑤-4	事前学習	地域(実習保健所)情報(対象や地域の人々の行動認識と保健活動とシステム)のアクセスメントを考えてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	地域(実習保健所)情報(対象や地域の人々の行動認識と保健活動とシステム)のアクセスメントしグループでまとめる。	2 時間	
			事後学習	アクセスメントしたことを記録用紙に整理する。	0.5 時間	
	10	地域診断の実際⑥-1	事前学習	発表内容を整理する。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	各グループで地域の情報収集とアクセスメントの発表①	2 時間	
			事後学習	まとめと自己グループと他者グループの評価をする。	0.5 時間	
	11	地域診断の実際⑥-2	事前学習	発表内容を整理する。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	各グループで地域の情報収集とアクセスメントの発表②	2 時間	
			事後学習	まとめと自己グループと他者グループの評価をする。	0.5 時間	
	12	家庭訪問の展開方法	事前学習	テキスト2P144~152の復習しておく。	0.5 時間	五十嵐
			講義	家庭訪問の基本と展開を理解する。	2 時間	
			事後学習	授業内容について振り返りを行う。	0.5 時間	
	13	家庭訪問の実際①	事前学習	テキスト2P154~159の事例1を熟読してくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	事例 支援ニーズが高い母子について情報収集・アクセスメントをする。	2 時間	
			事後学習	情報収集・アクセスメントを記録用紙に整理する。	0.5 時間	
	14	家庭訪問の実際②-1	事前学習	家庭訪問時に収集すべき情報を考えてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	事例 支援ニーズが高い母子について家庭訪問の計画立案をする。	2 時間	
			事後学習	記録用紙にまとめ、次回授業時に各自で提出する。	0.5 時間	
	15	家庭訪問の実際②-2	事前学習	保健師による家庭訪問の意義について復習してくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
演習			事例 支援ニーズが高い母子について家庭訪問の計画立案(グループワーク)をする。	2 時間		
事後学習			グループワークから自己の計画案の見直しをする。	0.5 時間		
16	家庭訪問の実際②-3	事前学習	家庭訪問される側の家族設定を考えて記載してくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山	
		演習	事例 支援ニーズが高い母子について計画立案の修正をする。	2 時間		
		事後学習	記録を見なくてもロールプレイができるようシュミレーションしてくる。	0.5 時間		
17	家庭訪問の実際③-1	事前学習	記録を見なくてもロールプレイができるようシュミレーションしてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山	
		演習	家庭訪問の展開(ロールプレイ)、評価の実施をする。	2 時間		
		事後学習	実施と考察の記録と自己・他者評価をする。	0.5 時間		
18	家庭訪問の実際③-2	事前学習	記録を見なくてもロールプレイができるようシュミレーションしてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山	
		演習	家庭訪問の展開(ロールプレイ)、評価の実施をする。	2 時間		
		事後学習	実施と考察の記録と自己・他者評価をする。	0.5 時間		
19	健康教育の展開方法①	事前学習	テキスト2P180~184を熟読してくる。	0.5 時間	五十嵐	
		講義	健康教育の目的・対象・技術、健康教育のプロセスを理解する。	2 時間		
		事後学習	授業内容について振り返りを行う。	0.5 時間		

教育内容	20	健康教育の展開方法②-1	事前学習	テキスト2P199～208を熟読してくる。	0.5 時間	五十嵐
			講義	健康教育の進め方を理解する。	2 時間	
			事後学習	授業内容について振り返りを行う。	0.5 時間	
	21	健康教育の実際	事前学習	テキスト2P209～211を熟読し、健康教育のテーマを考えてくる。	0.5 時間	五十嵐
			講義	企画書の作成をする。	2 時間	
			事後学習	企画書を仕上げる。	0.5 時間	
	22	健康教育の実際②-1	事前学習	テキスト2P212を熟読し、指導案を考えてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	指導案の作成をする①	2 時間	
			事後学習	指導案を作成する。	0.5 時間	
	23	健康教育の実際②-2	事前学習	対象者に合わせた指導案が見直しする。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	指導案の作成をする②	2 時間	
			事後学習	指導案を仕上げ、次の授業時に各自で企画書と指導案を提出する。	0.5 時間	
	24	健康教育の実際③-1	事前学習	テキスト2P194～198を熟読し、教育媒体を考えてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	教育媒体の作成をする①	2 時間	
			事後学習	教育媒体のための資料を収集する。	0.5 時間	
	25	健康教育の実際③-2	事前学習	教育媒体のための資料を収集する。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	教育媒体をグループで仕上げる②	2 時間	
			事後学習	健康教育の進捗を考えてくる。	0.5 時間	
	26	健康教育の実際④	事前学習	健康教育の進捗を考えてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	グループ内デモンストレーションをする。	2 時間	
			事後学習	良かった点・修正点を含め再考する。	0.5 時間	
	27	健康教育の実際⑤-1	事前学習	デモンストレーションをしてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	全体デモンストレーションの実施、評価をする①	2 時間	
			事後学習	デモンストレーションの評価をする。	0.5 時間	
	28	健康教育の実際⑤-2	事前学習	デモンストレーションをしてくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	全体デモンストレーションを実施し、評価をする②	2 時間	
			事前学習	デモンストレーションの評価をする。	0.5 時間	
	29	健康教育の実際⑥-1	事前学習	修正点を検討してくる。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
			演習	グループで指導案、教育媒体の修正をする。	2 時間	
			事後学習	修正点を整理してくる。	0.5 時間	
	30	健康教育の実際⑥-2	事前学習	修正点に関する資料などの情報収集をする。	0.5 時間	原岡/五十嵐 横山
演習			グループで指導案、教育媒体の修正をする。	2 時間		
事後学習			指導案、教育媒体の修正をし仕上げる。	0.5 時間		
31	定期試験	筆記試験			原岡/五十嵐	
					総学習時間	90 時間

テキスト	参考書
1. 標美奈子他「標準保健師講座(1)公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院 2. 中村裕美子他「標準保健師講座(2)公衆衛生看護技術 Standard textbook」第5版 医学書院 3. 中谷芳美他「標準保健師講座(3)対象別公衆衛生看護活動 Standard textbook」第4版 医学書院	・『国民衛生の動向』(厚生統計協会) 他、授業時に適宜紹介する
実務経験と授業科目との関連性	履修要件
専門分野での保健師実務経験がある教員が、健康レベルや地域特性に応じた公衆衛生看護活動の支援過程を指導する。	公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱ、保健・医療・福祉行政論の単位を修得していること
留意事項	オフィスアワー
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生看護学実習Ⅰ(保健師課程)を選択する人は受講してください。</li> <li>・グループで行うので、協力しあうこと。・欠席・遅刻・途中退出は学則に則る。</li> <li>・資料は授業時に配布、または、Teamsにアップする場合もある。</li> <li>・課題の提出は授業時に説明し期限までに提出すること。</li> <li>・スマートフォンは授業時指示がない限り使用しない。水分摂取のみ可。私語はしないこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の前後または公衆衛生看護担当教員のオフィスアワーの日時・時間</li> <li>原岡メール:t.haraoka●matsutan.ac.jp</li> <li>五十嵐メール:mjc-kigarashi●matsutan.ac.jp</li> <li>(●は@と置き換える)</li> </ul>

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=〇)
96	ターミナル看護	1	15	必修	講義	4年後期	金子 潔子
科目概要	人生の最後の時期を生きる患者や家族を、看護師はどう支えることができるか、多角的な視点から看護の役割について学ぶ。終末期にある患者のケアに関して「ターミナル看護」「ターミナルケア」「ホスピスケア」「終末期ケア」「緩和ケア」「エンドオブライフケア」などさまざまな言葉が使われ、微妙な違いを含んでいる。本教科では用語の概説とその変遷についても学ぶ。						
到達目標	1. 終末期(ターミナル期)における歴史や医療問題について理解する。 2. 終末期(ターミナル期)における倫理的問題について議論できる。 3. 終末期(ターミナル期)にある人のトータルペインについて理解し、特に身体的苦痛について理解する。 4. 死に行くひとを支え、その人の望む生き方を尊重した援助について考える。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		評価項目		配分 %	評価基準	
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・課題レポート	80 %	死生観についてのレポートを課し、記載内容を評価する	
	◎	2. 主体的行動力		・事前/事後学習の課題、レポート	20 %	自己学習で得た知識、疑問などの記載内容	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・定期試験	0 %		
		4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %		
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他(配分する場合は具体的に記載)	0 %		
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力		合計	100 %		
フィードバック	・課題の返却やレスポンスペーパーの返答は次回の講義で説明する。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	・ターミナルケアの概念や歴史的背景、	事前学習	・死生観レポート作成に向けて死に関する文献・図書を探索する。	1 時間	金子	
			講義	・ターミナルケアの背景と現状について理解する。	2 時間		
			事後学習	・授業内容を振り返る。	2 時間		
	2	・「死とは何か」考える	事前学習	・探索した死に関する文献・図書を精読する。1	2 時間	金子	
			講義	・人間の死について、資料を参考に考える。	2 時間		
			事後学習	・授業内容を振り返る。	2 時間		
	3	・ターミナル期にある人の理解1	事前学習	・探索した死に関する文献・図書を精読する。2	2 時間	金子	
			講義	・ターミナル期にある人の特徴と援助の方法を理解する。	2 時間		
			事後学習	・授業内容を振り返る。	2 時間		
	4	・ターミナル期にある人の理解2	事前学習	・探索した死に関する文献・図書を精読する。3	2 時間	金子	
			講義	・ターミナル期にある人と家族の特徴と看護の方法を理解する。	2 時間		
			事後学習	・授業内容を振り返る。	2 時間		
	5	・死をめぐる倫理的課題1	事前学習	・探索した死に関する文献・図書を精読する。4	2 時間	金子	
			講義	・見取りの看護年子の処置について理解する。患者の権利について歴史的背景やインフォームドコンセントについて理解する。	2 時間		
			事後学習	・授業内容を振り返る。	2 時間		
	6	・死をめぐる倫理的課題2	事前学習	・提示した死をめぐる倫理的課題の資料を精読する。	2 時間	金子	
			講義	・脳死と倫理的問題について理解する。	2 時間		
			事後学習	・授業内容を振り返る。	2 時間		
	7	・尊厳死と安楽死	事前学習	・安楽死に関する文献(資料)を精読する。	2 時間	金子	
			講義	・安楽死と尊厳死の歴史的背景を理解し、事例をもとに討議する。	2 時間		
			事後学習	・授業内容を振り返る。	2 時間		
	8	・見取りの看護	事前学習	・見取りに関する文献(資料)を精読する。	2 時間	金子	
			講義	・見取りの看護および死後の処置について理解する。	2 時間		
事後学習				0 時間			

9	定期試験	レポート試験	金子
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
・授業に必要な資料を配布する。		・キューブラー・ロス;死ぬ瞬間 ・西川喜作;輝け我が命の日々よ 新潮社 ・柳田邦男;死の医学への序章 新潮文庫 ・日野原重明;死をどう生きたか 中公新書 ・徳永 進;死の中の笑み ゆるみ出版 など	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
専門分野での看護師実務経験がある教員が、終末期を生きる患者や家族の支える看護の役割を指導する。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
なし		・日時:木・金 12:15~13:00 ・場所:2号館3階 金子研究室 ・teamsでの問い合わせには随時応じる	

	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
97	ヘルスカウンセリング	1	15	選択	講義	4年後期	田中 秀明	
科目概要	医療従事者として患者や利用者にかウンセリングマインドをもって接する姿勢を深め、様々な心理療法理論を通して、人を多面的に理解する視点を身につける。精神分析療法、認知行動療法、フォーカシング等、様々な心理療法理論を通じたコミュニケーション技術とその事例・実践を通して、多様なニーズをもつ人に接する技術を習得する。							
到達目標	1. 看護師としてカウンセリングマインドをもって患者に接することの重要性について説明することができる。 2. 基礎的なカウンセリング技法について説明することができる。 3. さまざまな心理療法理論・技法について説明することができる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			評価項目		配分 %	評価基準	
	◎	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績 評価 方法	・定期試験	52 %	記述式問題		
		2. 主体的行動力		・授業内の小テスト、課題、レポート	32 %	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容		
		3. 地域貢献力と多職種連携能力		・事前/事後学習の課題、レポート	16 %	各授業内容の復習テスト(選択問題)		
	○	4. 課題発見能力と課題解決力		・受講時の積極性、態度等	0 %			
	○	5. 看護の知識と看護実践力		・その他	0 %			
○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計		100 %				
フィードバック	事後学習における疑問点等は、授業内において解説する。事前学習における課題は翌授業回にコメントを付し返却する。最終課題は定期試験日に返却する。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	カウンセリングの「こころ」	事前学習	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと		1.5 時間	田中	
			講義	カウンセリングの基本的な考え方を学び、人を「理解する」ことについて考える。また看護職に必要なヘルスカウンセリングとは何か、その目的・意義を理解する。		2 時間		
			事後学習	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること 自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する		2 時間		
		2	看護におけるカウンセリングマインド	事前学習	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと			1.5 時間
				講義	カウンセリングマインドとは何か、カウンセリングマインドをもって患者に接することの重要性を学ぶ。またカウンセリングマインドを生かした看護について考える。			2 時間
				事後学習	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること 自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する			2 時間
	3	コミュニケーションスキルを高める (1)話す・きく	事前学習	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと		1.5 時間		
			講義	対人援助の基礎となるコミュニケーション(話す・きく)の重要性を理解し、ロールプレイを通して、そのスキルを高める。		2 時間		
			事後学習	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること 自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する		2 時間		
	4	コミュニケーションスキルを高める (2)みる	事前学習	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと		1.5 時間		
			講義	ノンバーバル(非言語的)コミュニケーションの重要性を理解し、ロールプレイなどを通して「みる力」を養う。		2 時間		
			事後学習	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること 自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する		2 時間		
	5	基礎的なカウンセリング技法	事前学習	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと		1.5 時間		
			講義	カウンセリング場面で用いるさまざまな基礎的技法について、ロールプレイを通して体験的に学ぶ。		2 時間		
			事後学習	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること 自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する		2 時間		
	6	さまざまな心理療法的アプローチ (1)精神分析療法・行動療法	事前学習	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと		1.5 時間		
			講義	多様なニーズをもつ人を援助するさまざまな理論・技法があることを理解し、その代表的なアプローチである精神分析療法・行動療法について学ぶ。		2 時間		
			事後学習	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること 自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する		2 時間		
	7	さまざまな心理療法的アプローチ (2)クライアント中心療法ほか	事前学習	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと		1.5 時間		
			講義	クライアント中心療法ほかさまざまな心理療法的アプローチを紹介し、人を多面的に理解する視点を身につける。		2 時間		
			事後学習	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること 自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する		2.5 時間		
	8	事例を読む	事前学習	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと		1.5 時間		
			講義	カウンセリングマインドを生かした看護などの事例を紹介し、グループで読み込んでみる		2 時間		
事後学習			配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること 自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する		2.5 時間			

9	定期試験	試験	田中
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
なし。印刷教材を配布する		岡堂哲雄監修『看護・介護・保育の心理学シリーズ1～4』（新曜社）	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
臨床発達心理士としての心理臨床活動経験を活かし、ヘルスカウンセリングに関する理論・技法について講義する。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
なし		時間:講義終了後 場所:研究室 teamsでは適宜連絡可能	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
98	看護マネジメント論	1	15	必修	講義	4年前期	鄭 佳紅
科目概要	保健・医療・福祉におけるヘルスケアシステムは、常に社会や行政の影響を受け、変化している。これらを踏まえ、変化に応じて質の高い看護サービスを提供するために必要となる基礎的知識(看護におけるリーダーシップや組織論、マネジメントなどの諸理論)を学ぶ。看護管理学はそのプロセスにおいて、諸理論を活用して現象を科学的に分析し、マネジメントし、確実な成果を得るための学問である。従って、日々の看護実践において、職位に関わらず必要となる知識と技術である。これらの知識を基盤として、社会や所属する組織で、変革に能動的に関わることができる姿勢を養う。						
到達目標	1. 保健・医療・福祉における看護管理の機能について理解できる。 2. 安全で質の高い看護ケアを組織的に提供するために必要な理論的知識(組織論、リーダーシップ論、医療安全管理、ケアの質管理、労務管理)について理解できる。 3. 社会の変化に対応できる看護職の人材育成およびキャリア開発について理解できる。						
DP との対応	ディプロマ・ポリシー			成績 評価 方法	評価項目	配分 %	評価基準
	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	・定期試験	50 %		授業の内容全般についての理解度を評価する		
	2. 主体的行動力	・授業内の小テスト、課題、レポート	40 %		毎回の授業の理解度の確認を行う		
	○ 3. 地域貢献力と多職種連携能力	・事前/事後学習の課題、レポート	0 %				
	4. 課題発見能力と課題解決力	・受講時の積極性、態度等	10 %		授業中の発言や質問の頻度、他者との協力姿勢を評価する		
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力	・その他	0 %				
○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %					
フィードバック	毎回の授業後は、授業内容について不明だった点、印象に残った点などについて、学生からのフィードバックを得る。その内容を受けて次回には補足説明等を加える。また、小テスト終了後、解説をおこない、定期試験結果についても、成績確定後、速やかに返却を行う。						
教育 内容	回	項目	内容		時間	担当教員	
	1	看護管理の機能	事前学習	テキスト(該当箇所)を読んでおく	1 時間	鄭	
			講義	ヘルスケアシステムの現状と課題、看護管理とは	2 時間		
			事後学習	授業内容を復習し、不明な点、さらに興味を持った点等を明確にする	2 時間		
	2	組織論	事前学習	テキスト(該当箇所)を読んでおく	2 時間	鄭	
			講義	組織構造と組織原則、組織運営の5要素	2 時間		
			事後学習	授業内容を復習し、不明な点、さらに興味を持った点等を明確にする	2 時間		
	3	リーダーシップ理論	事前学習	テキスト(該当箇所)を読んでおく	1.5 時間	鄭	
			講義	リーダーシップとは、フォロワーシップとは、集団の弊害、組織文化	2 時間		
			事後学習	授業内容を復習し、不明な点、さらに興味を持った点等を明確にする	2 時間		
	4	チーム医療と専門看護職の役割	事前学習	テキスト(該当箇所)を読んでおく	2 時間	鄭	
			講義	チーム医療、他職種連携、スペシャリストの役割と活躍	2 時間		
			事後学習	授業内容を復習し、不明な点、さらに興味を持った点等を明確にする	2 時間		
	5	医療安全管理	事前学習	テキスト(該当箇所)を読んでおく	1.5 時間	鄭	
			講義	医療安全の動向、リスクマネジメントの考え方、危機管理	2 時間		
			事後学習	授業内容を復習し、不明な点、さらに興味を持った点等を明確にする	2 時間		
	6	ケアの質管理	事前学習	テキスト(該当箇所)を読んでおく	2 時間	鄭	
			講義	医療・看護における質評価指標、質保証と質改善の方法	2 時間		
			事後学習	授業内容を復習し、不明な点、さらに興味を持った点等を明確にする	2 時間		
	7	看護職の人材育成	事前学習	テキスト(該当箇所)を読んでおく	1.5 時間	鄭	
			講義	看護師のキャリア開発、クリニカルリーダー、動機づけ、新人看護職員研修	2 時間		
			事後学習	授業内容を復習し、不明な点、さらに興味を持った点等を明確にする	2 時間		
	8	労務管理	事前学習	テキスト(該当箇所)を読んでおく	1.5 時間	鄭	
			講義	看護師の労務管理、ワークライフバランス、ストレスマネジメント	2 時間		
事後学習			授業内容を復習し、不明な点、さらに興味を持った点等を明確にする	2 時間			

9	定期試験	筆記試験	
			総学習時間 45 時間
テキスト		参考書	
上泉和子他: 系統看護学講座 看護の統合と実践(1)看護管理 第11版, 医学書院. 978-4-260-05304-4		適宜、紹介する。	
実務経験と授業科目との関連性		履修要件	
病院での看護師経験を持つ教員が、医療・看護に関する社会の変化に応じて質の高い看護サービスを提供するために必要となる基礎的知識と諸理論を基に看護におけるマネジメントを教授する。		なし	
留意事項		オフィスアワー	
なし		時間: 講義終了後 場所: 講師控室	

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
99	卒業研究	2	60	必修	演習	4年通年	○桑原良子/近藤恵子/小林由美/金子潔子/原岡智子/ 藤川君江/鮎川昌代/安田裕子/関永信子/山下恵子/ 伊藤寿満子/垣内いづみ/加藤香織/高下梓/ 五十嵐佳寿美/牛山陽介/大谷健史	
科目概要	科学的な思考力、倫理観を養い自ら探求する態度と研究方法の基礎を身につける。学生の自主性を尊重し、ゼミナル形式で行い、指導教員のもと研究テーマを定め、文献検討を行い、研究計画書を作成するところから始め、結果の分析、論文作成に至るまでのプロセスを体得する。この体験を通して、研究的視点の必要性を理解し、達成感を得るとともに、他者と討論することで、看護に対する視野を広げ、自分の看護観を明らかにしていく。							
到達目標	1. 研究的態度と姿勢が修得できる。 2. 研究プロセスが体得できる。 3. 自己の看護観が明確になる。							
DP との対応	ディプロマ・ポリシー		成績 評価 方法	評価項目		配分 %	評価基準	
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力		・受講時の積極性、態度等	10 %	ゼミ活動での発言・質問の頻度、他者との協力姿勢を評価する。		
	○	2. 主体的行動力		・その他(研究計画書)	30 %	詳細な評価表あり、初回講義の際に配布・解説する。		
	◎	3. 地域貢献力と多職種連携能力		・その他(論文作成)	30 %	詳細な評価表あり、初回講義の際に配布・解説する。		
	◎	4. 課題発見能力と課題解決力		・その他(論文発表)	30 %	詳細な評価表あり、初回講義の際に配布・解説する。		
	○	5. 看護の知識と看護実践力			0 %			
		6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	合計	100 %				
フィードバック	・ゼミで発表した成果物に関しては、ゼミ中に口頭及び成果物にコメントを入れてフィードバックする。 ・研究計画書・論文作成・論文発表に関しては、希望があれば評価表と成果物を見ながら評価面談を行う。							
教育 内容	回	項目	内容			時間	担当教員	
	1	ガイダンス	事前学習	既習の研究入門、研究方法論の復習をする。			1 時間	担当教員全員
			講義	授業の進め方について理解する。			2 時間	
			事後学習	授業を振り返り、自己の研究テーマを考える。			0.5 時間	
	2	研究計画書の作成 1	事前学習	自己の研究テーマを明確にする。			0.5 時間	担当教員全員
			講義	研究目的を明確にし、研究計画を立案する。			2 時間	
			事後学習	研究テーマに関連する文献を検索する。			0.5 時間	
	3	研究計画書の作成 2	事前学習	研究テーマに関連する文献を検索する。			0.5 時間	担当教員全員
			演習	研究目的を明確にし、研究計画を立案する。			2 時間	
			事後学習	研究テーマに関連する文献を検索する。			0.5 時間	
	4	研究の準備 1	事前学習	研究テーマに関連する文献を検索する。			0.5 時間	担当教員全員
			演習	担当教員の指導(個別または集団ゼミ形式)により、各自の取り組む研究課題について、原則として以下の内容に取り組む。 1)文献検索 2)研究目的 3)研究方法 4)結果 5)考察			2 時間	
			事後学習	自己の研究テーマを決定する			0.5 時間	
	5	研究の準備 2	事前学習	文献を読み込み、研究目的、方法を考える。			0.5 時間	担当教員全員
			講義	担当教員の指導(個別または集団ゼミ形式)により、各自の取り組む研究課題について、原則として以下の内容に取り組む。 1)文献検索 2)研究目的 3)研究方法 4)結果 5)考察			2 時間	
			事後学習	文献を読み込み、研究目的、方法を考える。			0.5 時間	
	6	研究の準備 3	事前学習	文献を読み込み、研究目的、方法を考える。			0.5 時間	担当教員全員
			講義	担当教員の指導(個別または集団ゼミ形式)により、各自の取り組む研究課題について、原則として以下の内容に取り組む。 1)文献検索 2)研究目的 3)研究方法 4)結果 5)考察			2 時間	
			事後学習	文献を読み込み、研究目的、方法を考える。			0.5 時間	
	7	研究データの収集 1	事前学習	研究の進め方について考える。			0.5 時間	担当教員全員
			演習	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。			2 時間	
			事後学習	指導の内容を踏まえ、研究の進め方を考える。			0.5 時間	
	8	研究データの収集 2	事前学習	実施した内容について、記載し指導を受けられるようにする。			0.5 時間	担当教員全員
			演習	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。			2 時間	
事後学習			指導を受けた内容について、振り返る。			0.5 時間		

教育内容	9	研究データの収集 3	事前学習	実施した内容について、記載し指導を受けられるようにする。	0.5 時間	担当教員全員
			講義	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	2 時間	
			事後学習	指導を受けた内容について、振り返る。	0.5 時間	
	10	研究データの分析 1	事前学習		0.5 時間	担当教員全員
			講義	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	2 時間	
			事後学習	指導を受けた内容について、振り返る。	0.5 時間	
	11	研究データの分析 2	事前学習		0.5 時間	担当教員全員
			講義	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	2 時間	
			事後学習	指導を受けた内容について、振り返る。	0.5 時間	
	12	研究データの分析 3	事前学習		0.5 時間	担当教員全員
			演習	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	2 時間	
			事後学習	指導を受けた内容について、振り返る。	0.5 時間	
	13	研究データの分析 4	事前学習		0.5 時間	担当教員全員
			演習	個人またはグループで、各分野の教員の指導を受け研究を行う。	2 時間	
			事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	
	14	論文の作成 1	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	担当教員全員
			演習	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	2 時間	
			事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	
	15	論文の作成 2	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	担当教員全員
			演習	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	2 時間	
			事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	
16	論文の作成 3	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	担当教員全員	
		講義	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	2 時間		
		事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間		
17	論文の作成 4	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	担当教員全員	
		講義	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	2 時間		
		事後学習	指導を受けた内容について、振り返る。	0.5 時間		
18	論文の作成 5	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	担当教員全員	
		演習	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	2 時間		
		事後学習	指導を受けた内容について、振り返る。	0.5 時間		
19	論文の作成 6	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	担当教員全員	
		演習	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	2 時間		
		事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間		
20	論文の作成 7	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	担当教員全員	
		演習	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	2 時間		
		事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間		

教育内容	21 論文の作成 8	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	担当教員全員
		演習	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	2 時間	
		事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	
	22 論文の作成 9	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	担当教員全員
		講義	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	2 時間	
		事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	
	23 論文の作成 10	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	担当教員全員
		演習	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文の作成を行う。	2 時間	
		事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめる。	0.5 時間	
	24 論文発表の準備 1	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめ、発表原稿を作成する。	0.5 時間	担当教員全員
		講義	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文発表の原稿作成を行う。	2 時間	
		事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめ、発表原稿を作成する。	0.5 時間	
	25 論文発表の準備 2	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめ、発表原稿を作成する。	0.5 時間	担当教員全員
		演習	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文発表の原稿作成を行う。	2 時間	
		事後学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめ、発表原稿を作成する。	0.5 時間	
	26 論文発表の準備 3	事前学習	指導を受けた内容について振り返り、実施した研究をまとめ、発表原稿を作成する。	0.5 時間	担当教員全員
		演習	個人又はグループで各分野の教員の指導を受け論文発表の原稿作成を行う。	2 時間	
		事後学習	発表原稿を作成する。	0.5 時間	
	27 論文発表 1	事前学習	論文発表のための準備を行う。	0.5 時間	担当教員全員
		講義	論文発表	2 時間	
		事後学習		時間	
	28 論文発表 2	事前学習		時間	担当教員全員
		講義	論文発表	2 時間	
		事後学習		時間	
	29 論文発表 3	事前学習		時間	担当教員全員
		試験	論文発表	2 時間	
		事後学習		時間	
	30 論文発表 4	事前学習		時間	担当教員全員
		演習	論文発表	2 時間	
		事後学習	指導を受けた内容について振り返り、再度研究をまとめる。	3 時間	
	31 定期試験		レポート試験(研究計画書・論文) 発表試験(論文発表)		担当教員全員
				総学習時間 90 時間	
テキスト			参考書		
適宜指定する。			授業時に適宜紹介する。		
実務経験と授業科目との関連性			履修要件		
病院等での看護師(助産師、保健師)実務経験がある教員が、看護を多角的視野から考察し指導する。			なし		
留意事項			オフィスアワー		
1. 3年次後半から研究テーマの選定などの準備を行っていく。 2. 指導教員は、学生のテーマによって希望を聞いた上で決定する。 3. 指導を受ける者としてのマナーを守る 4. 約束や連絡、報告を行い連携を密にとる。 5. 提出期日には遅れないこと。遅れた場合は評価に影響し、未提出の場合は未認定となる。			時間: 授業内で伝達 場所: 研究室 teamsチャットでは適宜連絡可能です。		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
100	基礎看護学実習 I	2	90	必修	実習	1年前期	金子潔子/関永信子/山下恵子/桑原良子/ ○伊藤寿満子/近藤恵子/垣内いつみ/加藤香織/芳賀了/ 五十嵐佳寿美/牛山陽介/荻野貴美子/大谷健史/ 笠原潮美/荻久保弘子/中川布沙子/中沢明美
科目概要	看護の対象となる様々な健康レベルの人々が、療養もしくは生活する場としての医療施設等を知り、受け持ち患者への関わりを通して、人間関係を形成し本来的な地域での生活に向けた看護とは何かの追究を体験的に学ぶとともに、カンファレンスの機会を重視し、学生が自ら課題を見つけ、看護に対する動機づけや関心、看護の可能性などの考えを深めることができる討議を修得する。						
到達目標	1. さまざまなライフステージにある人々やあらゆる健康レベルの人々の生活の一部を知り、健康生活のための環境や看護の関わりについて、既習の知識と統合して考えることができる。 2. 看護の対象となる人々とのコミュニケーションを通し、看護活動を展開するために相互に信頼できる関係形成構築のための自己の在り方を考えることができる。 3. 看護職者の活動する場を知り、保健・医療・福祉において、看護職が果たす役割を知り、社会の中におけるネットワークの一部が分かる。 4. 看護の対象となる人々との関わりや看護職者の活動に触れ、「看護とは何か」、その必要性、重要性について、既習の学習内容を想起し考えを整理して、説明できる。						
DP との対応	◎ 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 ◎ 2. 主体的行動力 ○ 3. 地域貢献力と多職種連携能力 ○ 4. 課題発見能力と課題解決力 ○ 5. 看護の知識と看護実践力 ○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準	具体的な評価項目と配分を記した実習要項評価表に基づいて、実習目標達成度ならびに出席状況、実習内容(記録物、患者との関係性、カンファレンスでの発言内容、グループメンバーとの協調性)も含め、総合的に評価する。				オフィスアワー 時間: 実習前/実習後 場所: 各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
事前学習	看護の基本となるコミュニケーションや対象理解等、関連科目の内容を予習・復習しておく。 ナイチンゲールの『看護覚え書』、V. ハンダーソンの『看護の基本となるもの』を熟読する。						
事後学習	なし						
フィードバック	おおむね実習終了1週間以内に、実習担当教員より評価表をもとに評価面接を行う。						
教育 内容	内容						
	1. 看護の対象となる人々の生活の一部を知り、健康生活のための環境を、既習の知識と統合して考える。 2. 看護の対象となる人々とのコミュニケーションを通し、看護活動を展開するために相互に信頼できる関係形成構築のための自己の在り方を考える。 3. 看護職者の活動する場を知り、保健・医療・福祉において看護職が果たす役割を知り、社会の中におけるネットワークの一部を知る。 4. 看護の対象となる人々との関わりや看護職者の活動に触れ、「看護とは何か」、その必要性、重要性について、既習の学習内容を想起し考えを整理して説明できる。						
	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者
	1	月	病院・病棟のオリエンテーション 看護管理者より、病院の機能と役割、病院の理念、看護部の理念について説明を受ける。 各部門の見学を行い、説明を受け、各部門の役割を知る。 受け持ち患者の紹介を受け、患者の説明を受ける				病棟担当教員
		火	受け持ち患者を中心にコミュニケーションおよび観察から患者のニーズを知る。 看護師が実施する患者の援助を見学し、その必要性について理解する。 カンファレンスを行う				病棟担当教員
		水	各自が立案した援助計画をもとに、受け持ち患者の環境調整を指導者の指導のもと行う。 コミュニケーションおよび観察から得られた受け持ち患者のニーズを充足するための方法を考え、指導者の指導のもと実践する。 カンファレンスを行う				病棟担当教員
木		各自が立案した援助計画をもとに、受け持ち患者の環境調整を指導者の指導のもと行う。 コミュニケーションおよび観察から得られた受け持ち患者のニーズを充足するための方法を考え、指導者の指導のもと実践する。 カンファレンスを行う				病棟担当教員	
金		学内学習 実習のまとめを行う				担当教員全員	
テキスト			参考書				
適宜指定する			・ナイチンゲール著 湯楨ますほか訳『看護覚え書』(現代社) ・バージニア・ハンダーソン著 湯楨ますほか訳『看護の基本となるもの』(日本看護協会出版会)				
実務経験と授業科目との関連性			履修要件				
病院での看護師経験を持つ教員が看護の役割を体験的に指導する。			看護学概論の履修				
留意事項	1. オリエンテーションを基に事前に自己学習や実習準備(ユニフォーム、メモ紙等)をしておく。 2. 終日の実習であるため、規則正しい生活の励行や体調管理に務める。 3. 実習は感染症等の状況により変更する場合がある。						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
101	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	必修	実習	2年前期	○金子潔子/関永信子/山下恵子/桑原良子/ 伊藤寿満子/近藤恵子/垣内いつみ/加藤香織/芳賀了/ 五十嵐佳寿美/牛山陽介/荻野貴美子/大谷健史/ 笠原潮美/荻久保弘子/中川布沙子/中沢明美 笠原潮美/荻久保弘子/中川布沙子
科目概要	基礎看護学実習Ⅰの学修を踏まえ、健康上の問題のために生活の日常性が損なわれている対象者と援助関係を築きながら、日常生活援助を中心に、対象の安全性・安楽性・個別性、自立性を考慮した看護を計画し実践する能力を育む。1名の患者を受け持ち、科学的根拠と看護理論を活用し、本来の日常性への回帰を視野に入れた看護過程の展開の実践を学ぶ。また、看護実習の体験から、患者と看護師関係のあり方、看護倫理について考察する。実習中のカンファレンスやレポート作成などを通して実施した看護を振り返り、自己の学びや今後の課題を明確にする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生として自分の責任や能力を自覚し、適切な行動がとれる。</li> <li>2. 患者との援助的人間関係を成立・発展させることができる。</li> <li>3. 受け持ち患者に一連の看護過程を展開し、必要な援助を実施して評価し、修正ができる。</li> <li>4. 患者の安全、安楽、自立を考えて、援助計画が適切に実践できる。</li> <li>5. 患者を取り巻く人々(家族、医療従事者など)との調整的役割の重要性が理解できる。</li> <li>6. 対象者の尊厳を守り、倫理的な配慮に基づく看護の必要性を理解できる。</li> </ol>						
DP との対応	<input type="radio"/> 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 <input type="radio"/> 2. 主体的行動力 <input type="radio"/> 3. 地域貢献力と多職種連携能力 <input checked="" type="radio"/> 4. 課題発見能力と課題解決力 <input type="radio"/> 5. 看護の知識と看護実践力 <input type="radio"/> 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準	具体的な評価項目と配分を記した実習要項評価表に基づいて、実習目標達成度ならびに出席状況、実習態度、実習内容(記録物、援助の展開、患者との関係性、カンファレンスでの発言内容、グループメンバーとの協調性)も含め、総合的に評価する。				オフィスアワー ・日時:木・金 12:15~13:00 ・場所:2号館3階 金子研究室 ・時間:実習前/実習後 ・場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護過程の展開の基礎知識の確認</li> <li>・受け持ち患者の病態や治療処置など、また検査等の基礎データの解釈をして実習に臨むこと</li> <li>・その他、予習・復習をする</li> </ul>						
事後学習	なし						
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中はその都度、学生に返し指導する。</li> <li>・実習集終了後概ね1週間以内に、実習担当教員と評価表と実習記録を確認しながら評価面接を行う。</li> </ul>						
週	曜日	実習内容及び実習方法					担当者
1	月	・オリエンテーション					実習担当教員
	火	・1人の対象者を受け持ち情報収集を行う。					実習担当教員
	水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィジカルアセスメントやバイタルサイン測定により対象者を把握する。</li> <li>・指導を受け観察や必要な援助を指導者とする。</li> </ul>					実習担当教員
	木	・学内で看護過程の指導を受ける。					実習担当教員
	金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に基づいて援助を実施する。</li> <li>・中間カンファレンス</li> </ul>					実習担当教員
2	月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に基づいて援助を実施する。</li> <li>・中間カンファレンス</li> </ul>					実習担当教員
	火	・計画に基づいて援助を実施する。					実習担当教員
	水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に基づいて援助を実施する。</li> <li>・実施した援助を評価する。</li> </ul>					実習担当教員
	木	・実施した援助を評価・修正する					実習担当教員
	金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習まとめ</li> <li>・評価面接</li> </ul>					実習担当教員
テキスト			参考書				
授業で使用したテキストや資料			看護過程の理論と展開の授業で使用したテキスト及び資料				
実務経験と授業科目との関連性			履修要件				
病院での看護師経験を持つ教員が、看護過程の展開を通し、対象への看護実践を指導する。			看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ、看護過程展開論、ハルスアセスメント、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していること。				
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションを基に事前に自己学習や実習準備(ユニフォームの準備等)しておく。</li> <li>2. 終日の実習であるため、規則正しい生活の励行や体調を管理し整えておく。</li> <li>3. 実習は感染症等の状況によって変更する場合がある。</li> </ol>						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
102	地域・在宅看護学実習	3	135	必修	実習	3年後期	○関永信子/安田裕子	
科目概要	訪問看護ステーションなどの実習を通して、地域で生活する対象者に応じた援助方法や、地域包括ケアシステムにおける保健医療福祉サービスを理解し関係機関との連携や協働の実践方法を学修する							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者の健康状態と生活状況を記述できる。</li> <li>2. 対象者の健康上のニーズを把握し、援助の必要性を抽出できる。</li> <li>3. 指導の下で対象者に求められる看護を実践できる</li> <li>4. 対象者の健康と生活を支える社会資源の意義が表現できる</li> <li>5. 在宅看護の役割を表現できる</li> </ol>							
DP との対応		ディプロマ・ポリシー		成績評価基準	評価項目		配分 %	オフィスアワー  時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は担当教員と調整)
	○	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力			対象理解	20	%	
	○	2. 主体的行動力			対象者とのコミュニケーション	20	%	
	○	3. 地域貢献力と多職種連携能力			看護実践	20	%	
	○	4. 課題発見能力と課題解決力			社会資源の理解	20	%	
	◎	5. 看護の知識と看護実践力			学修者としての姿勢	20	%	
	○	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力			合計	100	%	
*詳細は実習要項評価表参照								
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の自己管理に心がけ、円滑な実習ができるよう日常生活を整えるスキルを身につけておく。</li> <li>2. マナーに配慮した言動に心がけができるよう準備しておく。</li> <li>3. 地域包括ケア論、地域在宅看護論など、すでに終えた学習内容と授業資料は見直しておく。</li> <li>4. 実習で活用できるよう事前学習の準備しておく</li> </ol>							
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習を振り返り、援助の意味や学んだことや自分の考えを、カンファレンスや発表の場で表現する。</li> <li>2. 実習後は自己の課題を明らかにし、学びの活用を明らかにする。</li> <li>3. 他者理解、自己理解に心がけグループメンバーと学びを共有する。</li> </ol>							
フィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日々のカンファレンスで援助の意味や看護の役割が導けるようアドバイスする。</li> <li>2. 実習後の結果に基づき目標に対する成果の情報提供を提供する。</li> <li>3. 実習後の面談で「よかった点」「改善点」について具体的にアドバイスする。</li> </ol>							
教育内容	内容							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1週目 学内で実習オリエンテーションを受け、訪問看護ステーションに関連する施設や介護保険施設で地域包括ケアの実践や多職種連携の実習を体験します。</li> <li>2週目・3週目 訪問看護ステーションで訪問看護の体験と看護過程を展開します。</li> </ol>							
	週	曜日	実習内容及び実習方法					担当者
	1	月	学内	OR	技術確認(VS測定・家庭訪問面接技術)午後より臨地			関永/安田
		火	臨地		介護保険などの施設またはステーションに関連する施設			関永/安田
		水	臨地		介護保険などの施設またはステーションに関連する施設			関永/安田
		木	臨地		介護保険などの施設またはステーションに関連する施設			関永/安田
		金	臨地		介護保険などの施設またはステーションに関連する施設 カンファレンス(前半のまとめ)			関永/安田
	2	月	臨地		訪問看護ステーション			関永/安田
		火	臨地		訪問看護ステーション			関永/安田
		水	臨地		訪問看護ステーション			関永/安田
		木	臨地		訪問看護ステーション			関永/安田
		金	学内		中間カンファレンス			関永/安田
	3	月	臨地		訪問看護ステーション			関永/安田
		火	臨地		訪問看護ステーション			関永/安田
		水	臨地		訪問看護ステーション			関永/安田
		木	臨地		最終カンファレンス(自己目標に対する振り返り、看護過程展開と3週間の学び)			関永/安田
		金	学内		実習のまとめ(各施設における学びの発表(PP) 実習記録の提出 面談)			関永/安田
	テキスト				参考書			
	臺有佳編著:地域療養を支えるケア メディカ出版 臺由香編著:在宅療養を支える技術 メディカ出版				なし			
実務経験と授業科目との関連性				履修要件				
訪問看護師、介護支援専門員の実務経験のある教員が、地域・在宅看護の援助の実際や役割および保健医療福祉の連携について指導する。				基礎看護学実習Ⅱ, 地域・在宅看護学概論, 地域・在宅看護援助論Ⅰ, 地域・在宅看護援助論Ⅱ, 家族看護学, 在宅生活支援論				
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護学実習に関する詳細は実習要項を参照する</li> <li>2. 地域・在宅看護学実習ORは7月～9月の期間に2回程度実施するので参加する事。</li> </ol>							

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
103	成人急性期看護学実習	2	90	必修	実習	3年通年	○近藤恵子/中沢明美	
科目概要	成人急性期/周手術期看護の看護過程の展開を中心に、看護師の役割、機能、チーム医療の展開を実践を通して学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人急性期の対象者を受け持ち、術前・術中・術後を通して看護過程の展開ができる。</li> <li>2. 外来・病棟・手術室など臨床看護師の役割機能を説明できる。</li> <li>3. 成人急性期の対象者を取りまく家族・社会の環境と配慮の必要性を説明できる。</li> <li>4. 退院後の生活を考え対象者に必要な社会的援助、退院指導ができる</li> </ol>							
DP との対応	◎ 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 ○ 2. 主体的行動力 ○ 3. 地域貢献力と多職種連携能力 ○ 4. 課題発見能力と課題解決力 ○ 5. 看護の知識と看護実践力 ○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習評価表に準ずる。</li> <li>・具体的な評価項目と配分を記した実習要項評価表に基づいて、看護実践内容、課題および実習記録の内容、カンファレンスへの参加状況などから総合的に評価する。</li> </ul>				オフィスアワー	時間:実習前 / 実習後 場所:研究室 (実習中は各担当教員と調整)
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受け持ち患者の疾患の病態生理、症状、検査、術式、治療と生体への影響、看護に関する学習を行う。</li> <li>2. 急性期における合併症、予防のための看護技術、退院支援に関する学習しておく。</li> <li>3. 在院日数の短縮などから実習時間が2週間になった。そのため、在院中の看護ケアと退院後のQOLを考慮して看護過程を展開できるようにする。</li> </ol>							
事後学習	ゴードンの機能的健康パターンと看護診断による看護過程の展開を理解して使用する事ができたか自己評価する							
フィードバック	提出物(実習記録やレポート)の内容とカンファレンスにおいて発表された内容に基づいてフィードバックを行う							
教育内容	内容							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周術期にある患者を1名受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>2. 急性期治療の場である手術室やICU、HCU等での見学実習を行う。</li> <li>3. 病院から回復期病棟等や自宅への移行期の看護(早期回復や生活支援)を実施する。</li> <li>4. 退院支援と継続看護の必要性を検討し、看護を計画・実施する。</li> <li>5. 退院後に向けて、退院カンファレンス等に参加し、多職種連携・協働の実際を学ぶ。</li> </ol>							
	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者	
	1	月	成人看護急性期・周手術期の関連部署と医療チームの在り方を理解する。各部署のオリエンテーション(急性期病棟、手術室、HCU等)、受け持ち患者決定(承諾、情報収集など)				近藤/中沢	
		火					近藤/中沢	
		水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・術前看護ケアを看護師について、見学実習する。</li> <li>・対象への倫理的配慮を十分に行いことうする。術前オリエンテーション、インフォームドコンセントの機会を逃さず見学し理解する。</li> <li>・看護チームにおける継続的な看護の在り方について考え、報告・連絡・相談を行う。</li> <li>・外科病棟における、対象を取り巻く医療チームの多職種と連携・協働の実際と一員であることを認識する。</li> <li>・受け持ちに対し、①対象を理解し、②看護問題を抽出し、看護計画の立案・実施・評価を行う。</li> <li>・金曜日にカンファレンス、個人評価面接を行う。受け持ち患者の捉え方や看護の方向性が妥当かどうかについて、質問指導を受ける。</li> </ul>				近藤/中沢	
		木					近藤/中沢	
		金					近藤/中沢	
	2	月					近藤/中沢	
		火	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術室やICU、HCU等での見学実習を計画し、特性や看護の様子などオリエンテーションを受ける。</li> <li>・手術・手術室見学を通して医療チーム連携を理解する。機会があれば、受け持ち患者の手術見学、医師・看護師・技師などの連携の実際を知る。</li> <li>・手術室の入室から麻酔・手術終了、帰室までの一連の流れを看護師について学ぶ。</li> <li>・ICU・HCUでは、病室の看護とは異なる看護の特徴を理解する。</li> <li>・術後日数が経過することで、退院後の通院、社会復帰への準備を患者と共に考える。退院する患者に指導書を渡すなどの指導を行う。</li> <li>・実習最終日にカンファレンスを行い、サマリーの発表や学びを共有する。</li> <li>・実習の自己評価を行い、受け持ち患者・家族、病棟スタッフ・指導者への挨拶を行う。</li> </ul>				近藤/中沢	
水						近藤/中沢		
木						近藤/中沢		
金						近藤/中沢		
テキスト			参考書					
成人急性期看護論に準じる			成人急性期看護論に準じる					
実務経験と授業科目との関連性			履修要件					
専門分野での看護師実務経験を有する教員が実習全体を統括・管理する			基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人急性期看護論の単位を修得していること					
留意事項	なし							

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
104	成人慢性期看護学実習	4	180	必修	実習	3年通年	○鮎川昌代/垣内いづみ/ 笠原潮美/非常勤	
科目概要	(Clinical Practice of Adult Nursing: Chronic Care) Chronic illnessを持ちながら生活する患者の、療養行動への援助を通して、看護を考察する。 慢性期疾患患者の生活過程を整えながら社会生活を営み、セルフマネジメント能力を患者自身につけるための援助の在り方を学ぶ。健康障害を持ちながら暮らしている人、もしくは終末期にある人とその家族の、身体的・心理・社会的影響を理解し必要な援助を、看護優先度に基づいてチーム看護を行うことの根拠について理解する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>受け持ち患者の発達段階をふまえて、Chronic illness をもちながら生活している患者の健康問題を整理し、身体、心理、社会的側面から理解できる。</li> <li>培ってきた生活のありようをふまえて、Chronic illness をもちながら生活している患者のセルフマネジメント力を分析し、その能力を高めることができる。</li> <li>受け持ち患者の不安や苦痛を理解し、緩和するための援助ができる。</li> <li>看護過程の思考プロセスを理解し、事例に適用できる。</li> <li>受け持ち患者への援助を振り返り、Chronic illness をもちながら生活している患者および家族への看護を考察することができる。加えて、これらの対象者に多職 種とともに援助を行い、対象の安寧と安楽の促進について考えることができる。</li> <li>退院後の生活の再構築や社会復帰に必要な病院と地域の連携システムについて理解する。</li> <li>必要な援助を、看護優先度に基づいて、チーム看護を行うことの根拠について理解する</li> <li>自己の課題を意識し、主体的・積極的に学習する。</li> </ol>							
DP との対応	○ 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価基準	・実習評価表に準ずる。 ・具体的な評価項目と配分を記した実習要項評価表に基づいて、看護実践内容、課題および実習記録の内容、カンファレンスへの参加状況などから総合的に評価する。	オフィスアワー				
	○ 2. 主体的行動力			時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)				
	○ 3. 地域貢献力と多職種連携能力							
	○ 4. 課題発見能力と課題解決力							
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力							
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力							
事前学習	・既存学修(慢性期疾患、基礎看護技術など)の復習							
事後学習	・実習記録(実習要項を参照)							
フィードバック	事前学習課題をまとめたノートは、実習初日に内容を確認し、フィードバックを行う。 日々の実習記録や検討会資料は、実習中に確認し、フィードバックを行う。 実習最終日のまとめのカンファレンスや、実習全体に対するコメントを面談で行う。							
教育内容	内容							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>成人期にあり、慢性的な疾患を有する人または終末期にある人を1名受け持ち看護過程を展開する。</li> <li>入院中の患者に退院支援を計画する。</li> <li>外来において、退院後の患者と家族に対して継続看護を計画する。</li> <li>保健医療福祉システムにおける多職種との連携や協働、社会資源の活用に参加する。</li> <li>終末期にある対象や家族との信頼関係を形成しながら、対象や家族のニーズを尊重して関わる。</li> <li>テーマカンファレンスを行い、終末期の援助観や学生個々の死生観を深める。</li> </ol>							
	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者	
	1	月	臨地	病棟オリエンテーション 患者決定 情報収取				鮎川/垣内 笠原/非常勤
		火	臨地	患者理解を目的とした日常生活援助と情報収集				鮎川/垣内 笠原/非常勤
		水	学内	関連図作成				鮎川/垣内 笠原/非常勤
		木	臨地	患者理解を目的とした日常生活援助	関連図カンファレンス			鮎川/垣内 笠原/非常勤
		金	臨地	患者理解を目的とした日常生活援助	関連図カンファレンス			鮎川/垣内 笠原/非常勤
	2	月	臨地	看護計画に基づいた援助の実施	テーマカンファ			鮎川/垣内 笠原/非常勤
		火	臨地	看護計画に基づいた援助の実施	テーマカンファ			鮎川/垣内 笠原/非常勤
		水	学内	看護計画の追加修正	文献検索			鮎川/垣内 笠原/非常勤
		木	臨地	看護計画に基づいた援助の実施	看護計画カンファレンス			鮎川/垣内 笠原/非常勤
		金	臨地	看護計画に基づいた援助の実施	看護計画カンファレンス			鮎川/垣内 笠原/非常勤

3	月	臨地 看護計画に基づいた個別性のある援助の実施 ケースカンファレンス	鮎川/垣内 笠原/非常勤
	火	臨地 看護計画に基づいた個別性のある援助の実施と看護計画追加修正 ケースカンファレンス	鮎川/垣内 笠原/非常勤
	水	臨地 看護計画に基づいた個別性のある援助の実施と看護計画評価 ケースカンファレンス	鮎川/垣内 笠原/非常勤
	木	臨地 看護計画に基づいた個別性のある援助の実施と看護計画評価 受持ち患者からの学びのカンファレンス	鮎川/垣内 笠原/非常勤
	金	学内 ケーススタディ	鮎川/垣内 笠原/非常勤
4	月	学内 ケーススタディ発表会	鮎川/垣内 笠原/非常勤
	火	臨地 部屋持ち看護師のShadowing 処置・検査・治療の見学	鮎川/垣内 笠原/非常勤
	水	臨地 部屋持ち看護師のShadowing 処置・検査・治療の見学	鮎川/垣内 笠原/非常勤
	木	臨地 部屋持ち看護師のShadowing 処置・検査・治療の見学 最終カンファレンス	鮎川/垣内 笠原/非常勤
	金	学内 評価面接 最終記録提出13:00	鮎川/垣内 笠原/非常勤
		テキスト	参考書
		1.茂野香おる編「系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」医学書院、2.任和子他:「系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」医学書院、3.鈴木久美 他:看護テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護改訂第2版(南江堂) その他、適宜紹介する。	成人看護学(慢性期看護)、がん看護学の他、人体構造機能学、疾病治療論、薬理学、病理学等の参考書も必要。
		実務経験と授業科目との関連性	履修要件
		担当教員はいずれも看護師として大学病院や専門病院に勤務の経験あり。実習で学生が受け持つ患者の疾患や病態、病期、治療の知識に基づき、退院後の生活を見据えた看護過程を展開し、必要な援助を行えるように指導にあたる。	基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人慢性期看護論の単位を修得していること。
留意事項	体調管理に留意し、実習開始前から日々の検温等の健康観察を行い記録しておくこと。 詳細は事前の実習オリエンテーションで説明する。 共通実習要項を熟読後、実習病院で実習すること		

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
105	老年看護学実習 I	1	45	必修	実習	3年前期	○桑原良子/荻野貴美子
科目概要	多様な場での高齢者の生活について理解する。高齢者とのコミュニケーションや、活動の実際に触れて、多職種との連携や家族支援の実践について学ぶ。地域包括ケアシステムと介護保険施設の役割、地域の中の施設の役割とそこでの求められる看護の役割について実践を通じて理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアシステムにおける地域固有の介護予防の多様性を学び説明できる。</li> <li>2. 地域で生活する高齢者の介護予防意識をコミュニケーションを通じて学び、理解ができる。</li> <li>3. 認知症予防について健康教室参加を通じ、高齢者と共に実践し、仲間づくりとコミュニケーションの意義を理解できる。</li> <li>4. 挑戦期としての高齢期を生きる人々を尊敬し尊重した行動が実践できる。</li> </ol>						
DP との対応	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価基準	実習要項の各項目に対する到達度並びに学習態度・実習記録・面接等による。 (詳細は実習要項評価表を参照)			オフィスアワー  時間:実習中は各担当教員と調整 場所:各研究室	
	◎ 2. 主体的行動力						
3. 地域貢献力と多職種連携能力							
○ 4. 課題発見能力と課題解決力							
○ 5. 看護の知識と看護実践力							
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力							
事前学習	実習要項に示す						
事後学習	実習要項に示す						
フィードバック	実習担当教員より、実習記録と実習評価表を確認しながら評価の根拠について説明する。 希望する場合は、実習担当教員とアポイントメントをとる事。						
教育内容	内容						
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者施設において、地域で生活する健康な高齢者とのコミュニケーションを通して、高齢者の身体的、心理的、社会的特徴を把握する。</li> <li>2. 高齢者に関する情報を収集し、健康長寿を維持する方法について考察(グループワーク)する。</li> <li>3. 日々のカンファレンス及び最終日の全体討議を通して、実習で得た事実をもとに健康な高齢者の特徴をグループ間で共有する。</li> </ol>						
	週	曜日	実習内容及び実習方法			担当者	
	1	月～金	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアシステムにおける地域固有の介護予防の多様性を学び説明できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の高齢化の実際</li> <li>2. 地域の高齢者との関りまなぶ高齢者の生活</li> <li>3. 高齢者とその家族、地域とのかかわり</li> <li>4. 地域包括ケアシステムの実践</li> <li>5. 地域保健医療福祉の中の看護の役割</li> <li>6. 介護保険施設の看護の役割</li> <li>7. 介護予防の取り組みについてそれぞれの職種の役割</li> <li>8. 地域の高齢者行政の中の看護の役割</li> </ol>	担当者全員		
		<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 地域で生活する高齢者の介護予防意識をコミュニケーションを通じて学び、理解ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な状況で生活する高齢者とのコミュニケーション</li> <li>2. 生活の場としての介護保険施設の役割</li> <li>3. 地域と介護保険施設の関り</li> </ol>	担当者全員			
		<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 高齢期を生きる人々を尊重した実践ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の人権擁護と安全対策</li> <li>2. 家族とのかかわり</li> <li>3. 自己の老年観</li> </ol>	担当者全員			
テキスト			参考書				
老年看護学関連で用いたテキスト・資料等を活用する。			”老い”に関する書籍				
実務経験と授業科目との関連性			履修要件				
専門分野での看護師実務経験がある教員が、地域包括ケアシステムと介護保険施設の役割などを実践を通じて指導する。			基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学概論の単位を修得していること。				
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の安全のため、絶対に援助は一人では行わない。</li> <li>2. 高齢者の人生に敬意を払いそれを表現してコミュニケーションをとる。</li> <li>3. 分からないこと、判断に迷うことは必ず、関係者または教員に相談すること。</li> <li>4. 健康な高齢者が自立して生活できる姿勢から学ぶこと。</li> <li>5. その他、実習の一般的注意事項は実習要項を熟読すること。</li> </ol>						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
106	老年看護学実習Ⅱ	2	90	必修	実習	3年通年	○桑原良子/荻野貴美子
科目概要	老年看護学の諸理論を踏まえ、高齢者や家族の生活及び健康と健康レベルや療養形態に応じた対象とその家族に対する看護について理解し老年看護の基本的知識と技術を実践を通じて習得する。老年期の疾病と健康回復、生活の再構築に向けた看護を高齢者の生理的変化に配慮して実践する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療機関及び介護保険施設における高齢者ケアチームと看護の役割について説明できる。</li> <li>2. 受け持ち対象者の個性を踏まえた看護過程の理解と実践ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 受け持ち対象者の加齢に伴う身体的変化と疾患・治療について説明できる。</li> <li>2) 必要な情報を収集し、アセスメントから看護問題を明らかにすることができる。</li> <li>3) 高齢者の生き方や価値観を尊重した個別性のある看護計画が立案できる。</li> <li>4) 看護計画に基づいて、高齢者の健康状態に応じた尊厳ある援助が実践できる。</li> <li>5) より良い看護実践のために、計画内容と援助の実際を評価修正できる。</li> </ol> </li> </ol>						
DPとの対応	◎ 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価基準	実習要項の各項目に対する到達度並びに学習態度・実習記録・面接等による。(詳細は実習要項評価表を参照)	オフィスアワー			
	○ 2. 主体的行動力			時間:実習中は各担当教員と調整 場所:各研究室			
	○ 3. 地域貢献力と多職種連携能力						
	○ 4. 課題発見能力と課題解決力						
	○ 5. 看護の知識と看護実践力						
	○ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
事前学習	実習要項に示す						
事後学習	実習要項に示す						
フィードバック	実習最終日に実習担当教員より、実習記録と実習評価表を確認しながら評価面接を行う。						
教育内容	内容						
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 治療を必要として医療機関に入院している高齢者を1名受け持ち、よい人間関係を築き看護過程を展開する。</li> <li>2. 高齢者の健康課題と生活上の課題を明らかにして、健康の回復、合併症の予防、生活行動の維持・拡大を目指す看護を実践する。</li> <li>3. 高齢者の健康増進や生活支援に活用できる社会資源を、家族などの支援者と共に検討する機会を持つ。</li> <li>4. 退院後に必要な治療が継続できるように、医師、外来看護師、MSW、家族などと共に退院計画を検討する機会に参加する。</li> <li>5. 医療チームとの連携・協働により、退院後の高齢者の健康の維持・増進と生活を整えるために活用できる社会資源を検討する。</li> </ol>						
	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者
	1	月～金	1. 医療機関及び介護保険施設における高齢者ケアチームと看護の役割について説明できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者ケアのチームの中での看護の役割</li> <li>2. 多職種連携のカンファレンスからの受け持ち患者の情報収集</li> <li>3. チームの一員としての報告・連絡・相談</li> </ol>			
2	月～金	2. 受け持ち対象者の個性を踏まえた看護過程の理解と実践ができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の状況を加齢変化・現病歴・生活機能障害・心理面からの統合的な情報収集</li> <li>2. 高齢者の入院の目的、治療内容、退院支援</li> <li>3. 収集した情報を基にしたアセスメント・看護問題抽出</li> <li>4. 看護問題の優先順位</li> <li>5. 対象の個性に合わせた看護目標設定</li> <li>6. 対象にあった具体的な看護計画立案</li> <li>7. 日々の対象の変化に合わせた毎日の行動目標立案</li> <li>8. 高齢者のベースに合わせた日々の援助計画修正</li> <li>9. 対象の個性や状況を考慮し反応に合わせ原理原則を遵守した安全安楽を考えた援助</li> <li>10. 対象および家族の人格や価値観を尊重した倫理的な態度での実践</li> <li>11. 対象の反応を客観的にとらえたSOAPで記述の評価</li> <li>12. 実習全般における看護の実際と残された課題を客観的に考えられたサマリーの記載</li> </ol>				担当者全員
		3. 地域連携を中心とした保健医療福祉の連携・協働の実際を説明できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 退院に向けた多職種間の連携</li> <li>2. 介護保険施設の役割と看護の役割</li> <li>3. 医療機関と介護保険施設の連携</li> </ol>				担当者全員
テキスト			参考書				
老年看護学関連で用いたテキスト・資料等を活用する。			実習中に適宜紹介する。				
実務経験と授業科目との関連性			履修要件				
専門分野での看護師実務経験がある教員が、高齢者や家族の生活などに応じた看護を実践を通して指導する。			老年看護学実習Ⅰ、老年症候群援助論、老年看護援助論の単位を修得していること。				
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の適応能力の低下に配慮し対象者のベースを尊重し、安全安楽に十分に配慮し行うこと。</li> <li>2. 援助に関しては必ず指導者、病棟スタッフ、教員と共に行う。</li> <li>3. 高齢者の情報は適宜指導者やスタッフ、教員に報告する。</li> <li>4. その他、実習要項の実習の注意事項を熟読しておくこと。</li> </ol>						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
107	小児看護学実習 I	1	45	必修	実習	3年前期	○山下恵子/芳賀了/荻久保弘子
科目概要	乳幼児期の成長発達や日常生活行動の特徴を踏まえて、適切な日常生活援助技術ができるための基礎的な能力を養う。また小児を取り巻く医療と地域の連携を知ることが目的とする。乳幼児期の成長発達に応じた日常生活援助の実践と小児専門病院と地域との連携を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の成長発達、日常生活、心理・社会的特徴、各発達段階・発達課題について説明できる。</li> <li>2. 小児の援助に必要な知識、技術、態度、方法を学び、小児の成長発達を促す遊びの必要性について説明できる。</li> <li>3. 小児を取り巻く環境、子どもと家族と地域との関連について説明できる。</li> <li>4. 小児専門病院の役割と機能を説明できる。</li> </ol>						
DP との対応	<input type="checkbox"/>	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価基準	実習内容、実習記録、レポートを総合して評価する。 * 実習要項の実習評価表にて詳細で具体的な評価項目と配分を明示する。	オフィスアワー  時間: 実習前/実習後 場所: 各研究室 (実習中は各担当教員と調整)		
	<input type="checkbox"/>	2. 主体的行動力					
	<input type="checkbox"/>	3. 地域貢献力と多職種連携能力					
	<input type="checkbox"/>	4. 課題発見能力と課題解決力					
	<input checked="" type="checkbox"/>	5. 看護の知識と看護実践力					
	<input type="checkbox"/>	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力					
事前学習	小児看護学概論・小児看護援助論 I をしっかり復習し実習に臨む。 * 詳細は実習要項参照						
事後学習	実習で学んだことをさらに自分で調べて記録やレポートにまとめる。						
フィードバック	最終提出レポートで確認し記録とともに返却する						
教育内容	内容						
	保育現場での保育士の保育の実際を通して、発達段階に応じた成長発達を促す援助や基本的な生活習慣への援助を考え実践する。 小児専門病院の特徴と看護および地域との連携についての講義を受け、見学を通してその実際を知る。						
	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者
	1	月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所ごとに施設側より園の特徴や注意点等のオリエンテーションを受ける。</li> <li>2. 保育士と子どもの関わりを通し、健康的に成長するための保育実践する。</li> <li>3. 遊びの場面における保育士の関わりから心身の発達の促進する方法を考え実践する。</li> <li>4. 子どもの気持ちや欲求表現を観察し受け止めて関わる。</li> <li>5. 日々の関わりの中で安全・事故防止、感染防止対策のための実際を知る。</li> <li>6. 日常生活習慣や保育環境、さらには地域環境と保育について考える。</li> <li>7. 家庭との連携、協働について連絡帳や行事等の意義について考える。</li> <li>8. 小児専門病院での見学実習により、地域における小児専門病院の役割と機能、看護の実際を知る。</li> <li>9. まとめの会(保育園・こども病院とも)それぞれを行い、学びを共有し深める。</li> </ol> ※詳細は実習要項参照				担当教員全員
		火					
		水					
		木					
		金					
	2	月					
		火					
水							
木							
	金						
テキスト				参考書			
小児看護学関連で用いたテキスト及び資料				小児看護学概論および小児看護援助論 I・II で提示した参考書			
実務経験と授業科目との関連性				履修要件			
専門分野での看護師実務経験がある教員がまたは現場の保育士が小児期の特徴を把握し、実践を通して指導する				基礎看護学実習 II、小児看護学概論の単位を修得していること。			
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学習を復習し実習に臨む。</li> <li>2. 実習要項を参照し、到達目標・行動目標をふまえて日々の課題に取り組む。</li> <li>3. 体調管理に十分気を付け欠席しないようにする。</li> </ol>						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
108	小児看護学実習Ⅱ	1	45	必修	実習	3年後期	○山下恵子/芳賀了/萩久保弘子
科目概要	健康障害を持つ小児とその家族に対する適切な援助ができるための基礎的な看護実践能力を養うことを目的とする。健康障害を持つ小児を受け持ち、看護計画立案、実践、評価する能力を身につける。受け持ち事例を通して、健康障害の回復過程を促進する支援を行うために必要な援助を受け持ちを通して修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害をもつ小児の疾患の特徴、治療や看護及び子どもとその家族への影響について説明できる。</li> <li>2. 健康障害をもつ小児及びその家族を取り巻く状況、必要とされる援助をアセスメントし、科学的根拠に基づいた看護を計画し、実施及び評価できる。</li> <li>3. 小児の健康障害の程度、発達段階に応じた事故防止、感染防止対策について説明できる。</li> <li>4. 子どもとその家族の権利を擁護ができる。</li> <li>5. 保健医療チームとしての自己の役割を認識し、活動に参加できる。</li> </ol>						
DPとの対応	<input type="radio"/> 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 <input type="radio"/> 2. 主体的行動力 <input type="radio"/> 3. 地域貢献力と多職種連携能力 <input type="radio"/> 4. 課題発見能力と課題解決力 <input checked="" type="radio"/> 5. 看護の知識と看護実践力 <input type="radio"/> 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準	実習記録、自己評価、最終レポートを総合して評価する。 * 実習要項の実習評価表にて詳細で具体的な評価項目と配分を明示する。				オフィスアワー 時間: 実習前/実習後 場所: 各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
事前学習	小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの授業内容の事前学習内容を復習する。 * 詳細は実習要項参照。						
事後学習	実習で学んだことをさらに自分で調べて記録にまとめる。						
フィードバック	実習中の指導や最終提出レポートで確認し、記録とともに返却する。						
教育内容	内容						
	病棟や小児科外来で患児1名もしくは2名を受け持ち、看護過程の展開し看護を実践する。						
	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者
1	月	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病棟にてオリエンテーションを受け、受け持ち患児を決定する。</li> <li>2. 患児の1日の流れを知り担当ナースと共に看護を行う。</li> <li>3. 受け持ち児の病態・疾病の経過・治療・予後などを理解し、病状に合わせた適切な看護を考え看護を実践する。</li> <li>4. 子どもと家族の背景や思いを把握するとともに親子関係を知る。</li> <li>5. 疾病と子どもの発達を関連づけて治療や処置の援助に生かすよう考える。</li> <li>6. 病児の安全や院内感染の予防を考え日々配慮する。</li> <li>7. 病気のとらえ方、自己の在り方、生き方など子どもらしく前向きに受け止める力を支援し考える。</li> <li>8. 実習最終日には、受け持ち児の看護を通して学んだことや病棟からの助言や看護師との看護援助を通して学んだこと、疑問や質問などを出し合い学びを深める。</li> <li>9. 受け持ち児との関わりからの学びや心に感じたことを小児の看護観としてまとめ提出する。</li> </ol> ※詳細は実習要項参照				担当教員全員	
テキスト			参考書				
小児看護学関連で用いたテキスト及び資料			小児看護学概論および小児看護援助論Ⅰ・Ⅱで提示した参考書				
実務経験と授業科目との関連性			履修要件				
専門分野での看護師実務経験がある教員が、小児期の特徴を把握し、実践を通して指導する			小児看護学実習Ⅰ、小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱの単位を修得していること。				
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学習を復習し実習に臨む。</li> <li>2. 実習要項を参照し、到達目標・行動目標をふまえて日々の課題に取り組む。</li> <li>3. 体調管理に十分気を付け欠席しないようにする。</li> </ol>						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
109	母性看護学実習	2	90	必修	実習	3年通年	○小林由美/加藤香織
科目概要	周産期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)にある対象とその家族に対する適切な援助ができるための基礎的な看護実践能力を養うことを目的とする。周産期にある対象の特徴を把握するとともに、母子を受け、看護計画立案、実践、評価する基礎的能力を身につける。受け持ち事例を通して、母子とその家族のウェルネスに向けた支援を行うために必要な援助や健全な母子関係を成立させるために必要な指導について母子への実践や学内でのシミュレーター演習を通して理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期にある女性の妊娠・分娩期の変化と経過が説明できる。</li> <li>2. 周産期にある母子の経過とニーズに応じた看護過程を実践することができる。</li> <li>3. 新生児の生理的特徴と胎外生活への適応がスムーズにできるような援助を理解する。</li> <li>4. 周産期にある母子とその家族への継続的な援助の重要性を知り、母子保健に関する制度・社会資源・地域活動を理解し、継続的な支援を考えることができる。</li> <li>5. 専門職者として守るべき看護倫理について理解し、対象の権利と保護を踏まえた援助ができる。</li> </ol>						
DP との対応	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価基準	実習前課題、実習内容、実習記録、事後レポートを総合して評価する。 * 実習要項の実習評価表にて詳細で具体的な評価項目と配分を明示する。	オフィスアワー	時間: 実習前/実習後 場所: 各研究室 (実習中は各担当教員と調整)		
	○ 2. 主体的行動力						
	3. 地域貢献力と多職種連携能力						
	○ 4. 課題発見能力と課題解決力						
	◎ 5. 看護の知識と看護実践力						
	6. 地域の多様な健康課題に対応できる力						
事前学習	1. 母性看護学概論・援助論Ⅱをしっかりと復習し実習に臨む。						
事後学習	1. 実習で学んだことをさらに自分で調べて記録にまとめる。						
フィードバック	面談し実習振り返りを行う。						
教育内容	内容						
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産科病棟(褥室)、分娩室、新生児室、産科外来、助産所で実習する。</li> <li>2. 産科病棟(褥室)・新生児室実習では、1組の母子を受け持ち、看護過程を用いた看護実践を行う。</li> <li>3. 分娩見学では、分娩経過中の産婦を受け持ち、産婦に必要な基本的な看護を実施する。</li> <li>4. 産科外来実習では、妊娠初期・中期・末期の妊婦健康診査を見学し、妊婦と胎児の健康状態を判断する方法を援助を受けて一部実施する。</li> <li>5. 病棟、外来で行われている集団指導・個別指導の実践を学ぶ。</li> <li>6. 助産所で1日実習を行い、地域母子保健の実践を学ぶ。</li> </ol>						
	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者
	1	月	オリエンテーション 知識・技術チェック				加藤/小林
		火	病棟オリエンテーション				加藤/小林
		水	産褥期の母子の看護	/	妊婦・産婦・新生児の看護	加藤/小林	
		木	産褥期の母子の看護	/	妊婦・産婦・新生児の看護	加藤/小林	
		金	産褥期の母子の看護	/	妊婦・産婦・新生児の看護	加藤/小林	
	2		妊婦・産婦・新生児の看護	/	産褥期の母子の看護	加藤/小林	
		火	妊婦・産婦・新生児の看護	/	産褥期の母子の看護	加藤/小林	
		水	妊婦・産婦・新生児の看護	/	産褥期の母子の看護	加藤/小林	
		木	助産所 地域母子保健の実践			加藤/小林	
		金	学内 カンファレンス まとめ			加藤/小林	
	テキスト				参考書		
・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学①)』(医学書院) ・著:森恵美他『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(母性看護学②)』(医学書院)				適宜紹介する。			
実務経験と授業科目との関連性				履修要件			
専門分野での助産師実務経験がある教員が、周産期にある対象の特徴を把握し、実践を通して指導する。				基礎看護学実習Ⅱ、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱの単位を修得していること。			
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学習を復習し実習に臨む。</li> <li>2. 実習要項を参照し、到達目標・行動目標をふまえて日々の課題に取り組む。</li> <li>3. 体調管理に十分気を付け欠席しないようにする。</li> </ol>						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
110	精神看護学実習	2	90	必修	実習	3年通年	○藤川君江/牛山陽介	
科目概要	精神保健上の問題により、日常生活や対人関係に困難を有している人々に関わり、これまでに学んだ知識・技術および態度の統合を図り、精神看護の実践能力を養う。受け持ち患者との関わりを通してリアリティのある精神看護学実習の具体的な方法を学修する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護の目的、機能、役割を説明できる。</li> <li>2. 精神看護特有の看護方法を説明できる。</li> <li>3. 患者・看護者関係の治療的意味を説明できる。</li> <li>4. 患者の状態をアセスメントし看護計画が立案できる。</li> <li>5. プロセスレコードの活用から、患者の思いや、自己の対人関係の傾向に気づくことができる。</li> <li>6. 精神保健福祉法に基づき人権擁護や処遇について説明ができる。</li> <li>7. 患者の関わる他職種との役割と連携について説明ができる。</li> </ol>							
DPとの対応	<input type="radio"/> 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 <input type="radio"/> 2. 主体的行動力 <input checked="" type="radio"/> 3. 地域貢献力と多職種連携能力 <input checked="" type="radio"/> 4. 課題発見能力と課題解決力 <input type="radio"/> 5. 看護の知識と看護実践力 <input type="radio"/> 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準	評価項目	配分 %	オフィスアワー			
			・実習態度・内容・記録、演習(再構成)	80 %	時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)			
			・事前学習レポート	10 %				
			・事後学習レポート	10 %				
			合計	100 %				
	*詳細は実習要項評価表参照							
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習要項をよく読み、実習目的・目標や方法を理解しておく。</li> <li>2. 主な精神疾患及び精神症状に対する援助の方法やコミュニケーションの在り方。</li> <li>3. 主な精神疾患の診断・検査・治療についてまとめ実習に活用できるよう準備しておく。</li> <li>4. 精神保健福祉法、障害者自立支援法についてまとめ実習に活用できるよう準備しておく。</li> <li>5. 精神科病棟の機能や特徴、保護室の目的、精神科病院の安全管理についてまとめ実習に活用できるよう準備しておく。</li> </ol>							
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の過程を振り返り、学んだことなどについてレポートし提出する。</li> <li>2. 実習終了後は、学習成果と自己の課題を明らかにし、実習記録類一式に学びのレポートを提出する。</li> </ol>							
フィードバック	<p>臨地での実習指導および実習記録の確認を行い、学修目標の達成状況を確認する。</p> <p>提出された課題は適宜確認し、実習施設および学内講義室等で個別にフィードバックを行う。</p>							
教育内容	内容							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害を持つ人を1名受け持ち、看護過程に沿った看護実践を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神看護実践に必要な情報を収集し、アセスメントを行い、看護過程を展開する。</li> <li>・精神症状と、それによる日常生活への影響、ストレスに注目し健康な部分にも目を向ける。</li> <li>・患者-看護師関係における相互作用の意味を理解する。</li> </ul> </li> <li>2. 日々の看護計画や実践報告は、臨床指導者の指導を受けながら、看護問題やその援助方法を立案する。</li> <li>3. 退院支援や社会資源の活用、継続ケアについて、病院及びデイケアでの取り組みに参加し、地域包括支援に関する多職種連携の実践を学ぶ。</li> <li>4. 日々のカンファレンスで、一日の実習での学びや気づき、患者との関係における感情体験について共有する。</li> <li>5. プロセスレコードの記述と検討を通して、患者との相互作用について考察し、対象の理解とともに自己への気づきを深める。</li> <li>6. 日々カンファレンスを行う。日時の設定、依頼の仕方、セッティング、準備、司会、書記、運営は学生主体で行う。依頼から当日の運営まで、グループで協力し実施する。チームワーク、司会、運営の学びとなる。</li> <li>7. 病棟で行われている治療プログラムやチーム医療のカンファレンスに参加する。</li> <li>8. 精神障害を持つ人やその家族の尊厳を守り、人権やプライバシーに配慮する。</li> <li>9. 2週目にデイケアでの実習を1日行う。</li> </ol>							
	実習内容及び実習方法						担当者	
	月	・オリエンテーション:施設の特性および病棟特性構造などオリエンテーション、患者説明と紹介、挨拶(自己紹介)、実習受け持ちの承諾を得る、基本的情報の収集等					担当教員全員	
	火							
	水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に関心を寄せ、生きてきた人生を想像し傾聴、共感し治療的関係の構築に努力する。</li> <li>・看護過程を展開し、集団におけるチームワークと看護者としての役割を認識する。</li> <li>・プロセスレコードの活用から、双方へどのように影響を及ぼすか気づくことができる。</li> </ul>					担当教員全員	
	木							
	金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間カンファレンスを行う。これまでの病棟実習の中で疑問点、質問、困っていること、について自己表出しともに解決し、次週の実習に生かす。</li> <li>・学生の自己評価をもとに指導教員、臨床指導者と面接し、次週の実習に生かすよう話し合う。</li> </ul>					担当教員全員	
	月							
	火	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院支援や社会資源の活用、継続ケア、病院及びデイケアでの取り組みに参加し、地域包括支援に関する多職種連携がどのようにされているかの実践を学ぶ。</li> <li>・患者や家族にとっての社会資源の役割とその活用をと同時に、家族の尊厳を守り、人権やに配慮できているかを観察する。</li> <li>・病棟で行われている治療プログラムやチーム医療のカンファレンスに参加する。</li> </ul>					担当教員全員	
水								
木								
金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終カンファレンス:病棟実習での学びや気づきを共有し精神看護実習についての理解を深めるディスカッションをすることで、気づきや学びを増やすカンファレンスとする。</li> </ul>					担当教員全員		
テキスト			参考書					
精神看護学の授業で使用した教科書及び配布資料等			<ul style="list-style-type: none"> <li>・萱間真美編『パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版』(照林社)</li> <li>・『アクティブ・ナースング ころを癒す:実践オレム-アンダーウッド理論』</li> </ul>					
実務経験と授業科目との関連性			履修要件					
看護師として、総合病院と単科の精神科病院で20年以上の経験があり、その経験を活かして、精神看護学援助論Ⅰを教授する。			基礎看護学実習Ⅱ、精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの単位を修得していること。					
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習オリエンテーションには必ず参加すること。</li> <li>2. 実習要項を熟読して実習に臨むこと。</li> </ol>							

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
111	救急看護学実習	1	45	選択 (救急・災害必修)	実習	4年前期	○近藤恵子/荻久保弘子/中沢明美	
科目概要	救急看護学を修得した者が実践の場で救急看護の実際を実習を通して学ぶ。救急看護の患者対応・家族対応や救急チーム医療の一員として看護技術をケアにどのように活用していくか。観察・アセスメントを救急での看護過程にどう生かしているかなど。対人関係・クリティカルシンキング・危機理論を使った看護過程など今まで学習してきた知識、能動的行動すべてをフル活用して実習で学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急医療の臨床において、救急看護の位置づけと役割の概要を説明できる。</li> <li>2. 救急看護の目的、対象、救急看護独自の特長を説明できる。</li> <li>3. 救急患者・家族の対応を経験し、救急時救急看護の果たす役割・必要事項を説明できる。</li> </ol>							
DP との対応	1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力	成績評価基準	・実習評価表に準じる。 ・具体的な評価項目と配分を記した実習要項評価表に基づいて、看護実践内容、課題および実習記録の内容、カンファレンスへの参加状況などから総合的に評価する。	オフィスアワー				
	2. 主体的行動力			時間:実習前 / 実習後 場所:研究室 (実習中は各担当教員と調整)				
◎ 3. 地域貢献力と多職種連携能力								
4. 課題発見能力と課題解決力								
○ 5. 看護の知識と看護実践力								
6. 地域の多様な健康課題に対応できる力								
事前学習	救急看護学・ウライシス理論の復習 まとめたノートの確認 成人急性期看護学の復習 山岳事故や自然災害時の救急搬送時の特長と対処方法について下調べしておく							
事後学習	日々経験した事象・医療や看護の経過を記載しておく							
フィードバック	提出物(実習記録やレポート)の内容とカンファレンスにおいて発表された内容に基づいてフィードバックを行う。							
教育内容	内容							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 松本市内の救急受け入れ病院の救急部、救急救命センター、HCUで実習する。</li> <li>2. 救急外来時の看護を救急外来で学ぶ。 1) 医師および看護師の指導の下、問診・観察・検査・処置などに参加しながら、患者にとっての説明、声かけ、処置の説明など、そのケアの目的、重要性、看護の役割等の意味について学ぶ。</li> <li>2) 患者・家族の心理状態にも関心を向け、救急患者のメンタルケアの重要性を学ぶ。</li> <li>3) 主訴や事故の状況から予測される病態や診断の特殊性を学ぶ。</li> <li>4) 医療機関における自然災害等における救急搬送や処置を想定した対処の実際を学ぶ。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 救急外来からHCUに収容された対象の看護を学ぶ。(急性期実習のHCUでの学を活かす) 1) 患者に関する情報を身体、精神、社会関係、時の流れの4点で整理し、患者の全体像を把握する</li> <li>2) 患者の身体状態を主要機能の面から把握し、アセスメントする。</li> <li>3) 患者に行われている治療の意味を理解する</li> <li>4) 患者の苦痛を推測し、緩和に努める</li> <li>5) 患者・家族にも配慮し、必要なケアを行う。</li> </ol>							
	週 曜日	実習内容及び実習方法					担当者	
	1日目	オリエンテーション 救急医療について(臨床講義)救急車両・ヘリポート見学、救急看護実習に関するオリエンテーション。 病院・センターの構造、業務体制、役割の概要について説明を受ける (相澤病院)					近藤 荻久保/中沢	
	2~3日目	施設および救急時にかかわる使命・役割、関連する場所や部署、機材等のオリエンテーション <b>3次または2次を2日間経験</b> 多職種連携の救急の場において看護職の果たす役割を理解する。 救急医療を受ける患者・家族の看護実践を見学する。					近藤 荻久保/中沢	
4~5日目	病院・センターの構造、業務体制、役割の概要について説明を行ける 施設および救急時にかかわる使命・役割、関連する場所や部署、機材等のオリエンテーション <b>3次または2次を2日間経験</b> 多職種連携の救急の場において看護職の果たす役割を理解する。 救急医療を受ける患者・家族の看護実践を見学する。					近藤 荻久保/中沢		
	まとめの会:各自の個人目標が達成できたのか否か 他職種・他院との連携について振り返る					近藤 荻久保/中沢		
テキスト				参考書				
救急看護に準ずる				救急看護に準ずる				
実務経験と授業科目との関連性				履修要件				
救急看護学領域に関する実践経験や教授経験を有する教員が実習全体を統括・管理する				救急看護学・感染看護学の単位を取得していること				
留意事項	救急・災害看護学実習の選択希望者は必ず履修および出席すること。 2次救急受け入れ病院と、3次救急受け入れ病院の2カ所を2日間づつ経験する。							

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
112	災害看護学実習	1	45	選択 (救急・災害必修)	実習	4年前期	○牛山陽介／近藤恵子
科目概要	災害発生時の看護活動における基礎的能力を養うとともに病院における災害時の看護の役割と機能の実際を学ぶことを目的とする。市町村や病院などが主催する自然災害を想定した防災訓練に積極的に参加し、災害に対する活動の体験を通して、災害時の看護の役割と機能の実際を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 防災訓練での傷病者や災害に関する活動などを体験し、被災者の身体・こころ・社会面への影響を考える。</li> <li>2. 災害医療チームメンバーとの交流を通して災害医療チーム活動の実際を学ぶ。</li> <li>3. 災害時に傷病者を支援する医療施設での看護職者の役割の実際を学ぶ。</li> <li>4. 初動体制や管理体制、地域との連携を踏まえ、災害時の情報、物的、人的な視点から、看護の専門性を考える。</li> </ol>						
DP との対応	<input checked="" type="radio"/> 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 <input type="radio"/> 2. 主体的行動力 <input type="radio"/> 3. 地域貢献力と多職種連携能力 <input type="radio"/> 4. 課題発見能力と課題解決力 <input type="radio"/> 5. 看護の知識と看護実践力 <input type="radio"/> 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準	・実習評価表に準じる。 ・具体的な評価項目と配分を記した実習要項評価表に基づいて、看護実践内容、課題および実習記録の内容、カンファレンスへの参加状況などから総合的に評価する。				オフィスアワー 時間:実習前 / 実習後 場所:研究室 (実習中は各担当教員と調整)
事前学習	災害看護学に関連した配布資料や講義資料 <ol style="list-style-type: none"> <li>1.災害看護学の復習</li> <li>2.防災訓練に関する基礎知識の復習</li> <li>3.災害医療チームに関する学修</li> </ol>						
事後学習	実習を通して学んだ内容を提出物(実習記録やレポート)に適切にまとめてカンファレンスにおいて発表する。						
フィードバック	提出物(実習記録やレポート)の内容とカンファレンスにおいて発表された内容に基づいてフィードバックを行う。						
教育内容	内容						
	災害看護に精通した地域災害拠点病院に実際に赴き、具体的かつ実践的な講義や演習を通して災害看護を体験的に学習する。地震災害発症時を想定し、実際の救護活動等一連の過程の中における、看護の役割とその実際を模擬的に参加、体験する。						
	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者
	1	月	被災地での実際の災害看護活動に関する実践報告(DMAT) 病院での備蓄の現状や管理の実際の見学 避難所(本学体育館)のレイアウトの実践 災害看護活動を実践する際の感染症対策の実践				担当教員全員
		火	トリアージ(一次)の実践・搬送法・応急処置の実践 MASSトリアージとCSCA の理解				
		水	救護所(医療救護所)の運営の実践やCSCATTTの理解				
木		カンファレンス(学内)					
金		集団災害訓練への参加 日程(○月○日予定)					
テキスト			参考書				
なし			なし				
実務経験と授業科目との関連性			履修要件				
災害看護学領域に関する実践経験や教授経験を有する教員が実習全体を統括・管理する			災害看護学・感染看護学の単位を取得していること				
留意事項	救急・災害看護学実習の選択希望者は必ず履修および出席すること。実習を通して学んだ内容を提出物(実習記録やレポート)に適切にまとめて規定日時までに提出する。						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
113	多職種連携実習	2	90	選択 (多職種必修)	実習	4年前期	○安田裕子/関永信子
科目概要	地域包括支援センターの実習を通して、地域包括ケアシステムにおける、保健・医療・福祉サービスを理解し関係職種との連携や協働の実践方法を学修する						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括支援センターの機能や役割を説明できる</li> <li>2. 地域包括支援センターの対象者について説明できる</li> <li>3. 社会資源の活用や多職種との連携や協働について記録できる</li> <li>4. 多職種連携の看護の役割について議論できる</li> </ol>						
DP との対応	<input type="radio"/> 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 <input type="radio"/> 2. 主体的行動力 <input checked="" type="radio"/> 3. 地域貢献力と多職種連携能力 <input type="radio"/> 4. 課題発見能力と課題解決力 <input type="radio"/> 5. 看護の知識と看護実践力 <input type="radio"/> 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準		事前課題、実習記録の状況、実習への取り組み、課題レポート、実習評価(学生自己評価、指導者評価、教員評価)などをもとに総合的に評価する。 * 実習要項の実習評価表にて詳細で具体的な評価項目と配分を明示する。		オフィスアワー 場所:実習室・研究室等 メール、Teamsチャット等 アドレス:y.yasuda@matsutan.ac.jp アドレス:n.sekinaga@matsutan.ac.jp 必要時、携帯に連絡	
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康への自己管理に心がけ、円滑な実習ができるように日常生活を整えるスキルを身につけておく。</li> <li>2. 社会人としてのマナーを身につけ、配慮した言動ができるよう訓練しておく。</li> <li>3. 暮らしを支える制度、介護保険制度、地域包括ケアシステムについて学修しておく。</li> <li>4. 関係機関、多職種との連携や協働について学修しておく。</li> <li>5. 社会資源の活用およびケアマネジメントについて学修しておく。</li> </ol>						
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習を振り返り、援助の意味や学んだことをカンファレンスや発表の場で表現する。</li> <li>2. 実習後、自己の課題と多職種連携実習の学びをどう生かすか明らかにする。</li> <li>3. 他者理解、自己理解に心がけ、グループメンバーと学びを共有する。</li> </ol>						
フィードバック	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 挨拶がしっかりとできマナーに配慮することができるよう、その都度フィードバックする。</li> <li>2. 記載された記録に口頭または記述にて修正・追加・承認等のフィードバックをする。必要時、学生は記録を青ペンで修正する。</li> </ol>						
内容							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 松本市地域包括支援センターで2週間の実習を行う。</li> <li>2. 実習地域の地域調査を行う。</li> <li>3. 松本市市役所高齢福祉課での臨地実習</li> <li>4. 地域包括支援センター実習では、対象者訪問や総合相談業務、権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント業務、介護予防を含めた様々な包括的支援事業に参加する。</li> <li>5. 介護予防教育や健康教育、レクリエーションを実施する。</li> </ol>							
教育 内容	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者
	1	月	実習オリエンテーション(学内) 事前学習の確認、実習準備、備品準備、実習の概要について、マナー・コミュニケーションについて、基礎看護技術の演習を行う。				担当教員全員
		火	市役所にてオリエンテーション・地域包括支援センターについて、介護保険についての学び 地域調査				担当教員全員
		水	地域調査(実習施設を中心とした地域を調査) 地域調査のまとめ				担当教員全員
		木	地域包括支援センターでの実習				担当教員全員
		金	地域包括支援センターでの実習				担当教員全員
	2	月	地域包括支援センターでの実習				担当教員全員
		火	地域包括支援センターでの実習 介護予防教育や健康教育、レクリエーションの実施(事業日程で実施)				担当教員全員
		水	地域包括支援センターでの実習				担当教員全員
		木	地域包括支援センターでの実習 まとめのカンファレンス				担当教員全員
金		まとめの実習(学内) 多職種連携実習での学びの発表 ・フィードバック ・評価 ・面談 記録の提出				担当教員全員	
テキスト				参考書			
ナースングラフィカ地域・在宅看護論① 在宅療養を支えるケア。メディカ出版 ナースングラフィカ地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術。メディカ出版				必要時参考文献、資料を紹介する。			
実務経験と授業科目との関連性				履修要件			
・訪問看護師、介護支援専門員、保健師、助産師、看護師の実務経験がある教員が、在宅看護の援助の基本と対象に応じた援助方法および臨床判断を行う際の根拠について指導する。				地域医療連携システム論(選択)、地域包括ケア論の単位修得			
留意事項	なし						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
114	公衆衛生看護学実習 I	2	90	選択 (保健師必修)	実習	4年前期	○原岡智子/五十嵐佳寿美
科目概要	地域で生活する多様なレベルの個人・家族・集団・組織、地域を対象とした公衆衛生看護活動の実践を通して、対象の理解を深め、対象の健康課題を把握し、それに応じた保健活動の実践能力を身につける。具体的には市町村において家庭訪問、健康相談、健康教育、地域診断等を実施し、社会資源の活用、関係機関との連携、市町村保健師の役割と専門性を修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生活動における市町村の保健行政機関の役割、機能を理解することができる。</li> <li>2. 地域診断に必要な情報を収集し、地域の特性を説明することができる。</li> <li>3. 地域における個人・家族・集団の健康課題を明らかにし、住民自らが解決・改善し健康増進能力を高める保健活動を実施することができる。</li> <li>4. 集団・組織・地域の健康増進能力を高める保健活動の方法について理解することができる。</li> <li>5. 市町村の保健活動の意義と保健師の役割や機能について考察することができる。</li> <li>6. 専門職として主体的に学び、実践の質的向上を図る態度を修得できる。</li> </ol>						
DPとの対応	<input type="radio"/> 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 <input type="radio"/> 2. 主体的行動力 <input type="radio"/> 3. 地域貢献力と多職種連携能力 <input type="radio"/> 4. 課題発見能力と課題解決力 <input type="radio"/> 5. 看護の知識と看護実践力 <input checked="" type="radio"/> 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準		実習目標に対する到達度を実践状況、実習記録、報告会の参加状況や内容、グループ活動での協働の姿勢から総合的に判断する。60点以上を合格とする。 *実習要項の実習評価表にて詳細で具体的な評価項目と配分を明示する。		オフィスアワー 時間:実習前/実習後 場所:各研究室 (実習中は各担当教員と調整)	
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループで事前に決めた地域診断の対象に関する実習市町村の情報収集と、健康教育の計画を立案する。</li> <li>2. 保健事業と法的根拠、各制度の復習、その他詳細は実習要領・要綱を参照する。</li> </ol>						
事後学習	実習を振り返り自己の課題を明らかにする。						
フィードバック	全体の最終報告会直後に口頭でフィードバックする。 実習記録にコメントを記して返却する。						
教育内容	内容						
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場所:市町村保健センター(10市町村)で実習する。</li> <li>2. 実習期間:2週間 実習施設において、毎日のデイリーカンファレンス、中間カンファレンス、終了報告会を行う。いずれも学生主体で運営し指導者の助言を受ける。実習Ⅲまで終了後に最終報告会を行う。</li> <li>3. 保健センターにおける各種保健事業への参加、学生主体で家庭訪問または保健指導を実施し、グループで健康教育と地域診断を実施する。</li> </ol>						
	週	日にち	実習内容及び実習方法				担当者
	1	1日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション(実習期間全体について)</li> <li>・市町村保健センターの組織機構、業務内容、財源等について説明を受け情報をまとめ記述する。</li> <li>・実習市町村の地域課題、事業計画について説明を受ける。</li> </ul>				担当教員全員
	1	2日目 目～5日 目AM、 2日目1日 目～5日 目AM	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健事業、健康診査、健康教室等に参加し、計画・実施・評価の一連のプロセスを述べる。</li> <li>・保健事業に携わっている保健師の役割と多職種の役割を考察する。</li> <li>・保健事業と関係機関・職種との連携について考察する。</li> <li>・地区組織の育成・支援方法と保健師の役割について述べる。</li> <li>・地域診断において実習市町村でしか得られない既存資料から情報を収集する。</li> <li>・地区踏査、地域診断の対象である住民や関係者等へのインビューから情報を収集する。</li> <li>・収集した情報をモデルを活用し整理しアセスメントする。</li> <li>・総合的にアセスメントを行い、地域の特性を捉え、健康課題を抽出する。</li> <li>・家庭訪問または保健指導の対象となる個人および家族の情報を収集しアセスメントする。</li> <li>・支援に必要な社会資源、関係機関を検討し、支援計画を立案する。</li> <li>・学生が主体となって家庭訪問または保健指導を実施する。</li> <li>・実施した内容に対し、評価して、今後の支援の方向性を検討する。</li> <li>・事前に作成していた健康教育の企画書と媒体を実習市町村の対象と関連づけて評価し作成する。</li> <li>・健康教育を実施し、評価する。</li> <li>・実習全体の経験と公衆衛生看護管理の各機能を関連づける。</li> <li>・虐待などの市町村における健康危機に対する体制と保健師の役割について述べる。</li> <li>・実習全体からの経験から、実習での学びを整理し、市町村における保健活動の意義と保健師の役割・機能について考察する。</li> <li>・尊厳と権利を守り、主体的に考えて発言し周囲との関係を構築し自己の看護観を明確にする。</li> </ul>				担当教員全員
	1	5日目 (PM)	・中間カンファレンスを行い、1週目の学びと目標達成度を報告し、意見交換や指導者の助言等により、2週目の実習目標と内容を明確にする				担当教員全員
2	5日目 (PM)	・実習の目的・目標に対する学習結果を実習経験を基にまとめ、グループでは地域診断についてのプレゼンテーション、個人では実習の学びと考察を発表し、指導者等からの助言を基に学習の学びを深める。				担当教員全員	
テキスト			参考書				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標本奈子他「標準保健師講座(1)公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院</li> <li>2. 中村裕美子他「標準保健師講座(2)公衆衛生看護技術 Standard textbook」第5版 医学書院</li> <li>3. 中谷芳美他「標準保健師講座(3)対象別公衆衛生看護活動 Standard textbook」第5版 医学書院</li> </ol>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 藤内修二他編「標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院)</li> <li>2. 尾崎米厚他編「標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学」(医学書院)</li> <li>3. 日本看護協会監修「新版 保健師業務要覧」(日本看護協会出版協会)</li> <li>4. 『厚生」の指標増刊 国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)</li> </ol>				
実務経験と授業科目との関連性			履修要件				
行政機関で保健師の実務経験がある教員が、経験をいかして科目と関連性を保ちながら市町村における公衆衛生看護活動と保健師の役割を指導する。			基礎看護学実習Ⅱ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、公衆衛生看護管理論、保健・医療・福祉行政論、健康支援論、疫学、保健統計学Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。				
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護活動の対象者は様々な年代や健康レベルにあるので、ほかの専門領域の学習内容、授業資料等を活用して学習を進めること。</li> <li>2. 記録は所定の期限までに提出し、提出できない理由がある場合は期限までに教員へ連絡すること。</li> <li>3. 保健師選択コースの者は履修すること。</li> </ol>						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
115	公衆衛生看護学実習Ⅱ	1	45	選択 (保健師必修)	実習	4年前期	○原岡智子/五十嵐佳寿美
科目概要	個人・家族、集団・組織、地域を対象に広域的・専門的・技術的に支援する保健所の役割と機能を理解し、保健所保健師の役割と保健師活動の専門性を修得する。具体的には保健所において保健師の実践活動から健康危機管理を含む公衆衛生看護管理の機能と、市町村や関係機関との連携した広域的な支援について修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護活動における保健所の役割、機能を理解することができる。</li> <li>2. 保健所管内の地域の情報を収集、アセスメントし、地域の特性を説明することができる。</li> <li>3. 人々の健康増進のための広域的・専門的・技術的な保健活動と保健師の役割を理解することができる。</li> <li>4. 保健活動における保健所保健師の役割や機能について考察することができる。</li> <li>5. 専門職として主体的に学び、実践の質的向上を図る態度を習得できる。</li> </ol>						
DP との対応	<input type="radio"/> 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 <input type="radio"/> 2. 主体的行動力 <input type="radio"/> 3. 地域貢献力と多職種連携能力 <input type="radio"/> 4. 課題発見能力と課題解決力 <input type="radio"/> 5. 看護の知識と看護実践力 <input checked="" type="radio"/> 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準		実習目標に対する到達度を実践状況、実習記録、報告会の参加状況や内容、グループ活動での協働の姿勢から総合的に判断する。60点以上を合格とする。 * 実習要項の実習評価表にて詳細で具体的な評価項目と配分を明示する。		オフィスアワー  時間: 実習前/実習後 場所: 各研究室 (実習中は各担当教員と調整)	
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設管内の地域診断に必要な情報を収集し、アセスメントしておく。</li> <li>2. 国民衛生の動向や各種資料を用いて保健所の役割・機能をまとめておく。</li> </ol>						
事後学習	実習を振り返り、保健所保健師の役割・機能を整理する。						
フィードバック	全体の最終報告会直後口頭でフィードバックする。 実習記録にコメントを記して返却する。						
教育内容	内容						
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場所: 保健所(5保健所)で実習する。</li> <li>2. 実習期間: 1週間</li> <li>3. 実習内容: 実習先保健所の管轄内における各種保健事業への参加や説明を受ける。実習施設において、毎日デイリーカンファレンスを行い、金曜に終了報告会を行う。いずれも学生主体で運営し指導者の助言を受ける。実習Ⅲまで終了後に最終報告会を行う。</li> </ol>						
	週	日にち	実習内容及び実習方法				担当者
	1	1日目 ~ 4日目 (臨地)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションで、保健医療福祉システムにおける保健所の組織機構、各課・係の主な業務と内容を述べる。</li> <li>・保健所の役割・機能について考察する。</li> <li>・事前学習でグループで作成した保健所管内の地区診断を発表する。</li> <li>・発表後、地域診断に必要な不足している地域の情報を既存の資料と保健師や保健所の職員からの聞き取りにより収集する。</li> <li>・収集した情報を含めて、総合的にアセスメントし管内の地域特性を発表する。</li> <li>・困難な問題を抱える事例や保健所が主に対応する事例について情報を収集し、支援計画を立案する。</li> <li>・支援計画を基に、家庭訪問は見学訪問、事例検討は説明することで実施し、評価する。</li> <li>・問題解決のために行われている多職種と連携や協働活動(チームケア等)について述べる。</li> <li>・個別支援を通じて行われている集団での組織活動や地域ケアシステムについて述べる。</li> <li>・管内の市町村と協働した広域的な保健活動について述べる。</li> <li>・保健師の活動を通し、保健師の役割とマネジメント機能について考察する。</li> <li>・感染症、自然災害等の健康危機管理について、保健所の取り組み、県や市町村との連携について述べる。</li> <li>・既存の健康危機の対応から、保健所の体制と保健師の役割を考察する。</li> <li>・保健師活動および職位別職務と公衆衛生看護管理の各機能を関連づける。</li> <li>・実習全体からの学びを整理し、保健所における保健活動の意義と保健師の役割・機能について考察する。</li> <li>・尊厳と権利を守り、主体的に考えて発言し周囲との関係を構築し自己の看護観を明確にする。</li> </ul>				担当教員全員
		4日目 (PM)	・実習の目的・目標に対する学習結果を実習経験を基にまとめ、グループでは地域診断についてのプレゼンテーション、個人では実習の学びと考察を発表し、指導者等からの助言を基に学習の学びを深める。				担当教員全員
5日目 (学内)		・記録の整理、最終報告会の資料を作成する。				担当教員全員	
テキスト				参考書			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標美奈子他「標準保健師講座(1)公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院</li> <li>2. 中村裕美子他「標準保健師講座(2)公衆衛生看護技術 Standard textbook」第5版 医学書院</li> <li>3. 中谷芳美他「標準保健師講座(3)対象別公衆衛生看護活動 Standard textbook」第5版 医学書院</li> </ol>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 藤内修二他編『標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論』(医学書院)</li> <li>2. 尾崎米厚他編『標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学』(医学書院)</li> <li>3. 日本看護協会監修『新版 保健師業務要覧』(日本看護協会出版協会)</li> <li>4. 『厚生指標増刊 国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)</li> </ol>			
実務経験と授業科目との関連性				履修要件			
行政機関で保健師の実務経験がある教員が、経験をいかして科目と関連性を保ちながら保健所における公衆衛生看護活動と保健師の役割を指導する。				公衆衛生看護学実習Ⅰの単位を修得していること。			
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護活動の対象者は様々な年代や健康レベルにあるので、ほかの専門領域の学習内容、授業資料等を活用して学習を進めること。</li> <li>2. 保健師選択コースの者は履修すること。</li> </ol>						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
116	公衆衛生看護学実習Ⅲ	1	45	選択 (保健師必修)	実習	4年前期	○原岡智子/横山芳子/五十嵐佳寿美
科目概要	個人・家族・集団・組織、地域の健康課題から事業化し実施化する過程において、企画・立案から評価までのプロセス、地域住民や関係する部署・機関との連携調整、社会資源の活用・開発、各基本方針・基本計画との整合、予算管理を中心とした公衆衛生看護管理について、市町村の保健師活動の実践を通して修得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政策や地域の健康課題と関連づけ、実施されている各種保健事業や保健医療福祉計画について理解することができる。</li> <li>2. 地域の健康水準を高めるための保健事業や社会資源の開発、施策化、システム化の過程について理解することができる。</li> <li>3. 事業化、施策化、システム化、社会資源の開発における保健師の役割について考察することができる。</li> <li>4. 地域の個人・家族の健康課題を理解し、継続的な支援方法について理解することができる。</li> <li>5. 専門職として主体的に学び、実践の質的向上を図る態度を習得できる。</li> </ol>						
DP との対応	<input type="radio"/> 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 <input type="radio"/> 2. 主体的行動力 <input type="radio"/> 3. 地域貢献力と多職種連携能力 <input type="radio"/> 4. 課題発見能力と課題解決力 <input type="radio"/> 5. 看護の知識と看護実践力 <input checked="" type="radio"/> 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準	実習目標に対する到達度を実践状況、実習記録、報告会の参加状況や内容、グループ活動での協働の姿勢から総合的に判断する。60点以上を合格とする。 * 実習要項の実習評価表にて詳細で具体的な評価項目と配分を明示する。				オフィスアワー  時間: 実習前/実習後 場所: 各研究室 (実習中は各担当教員と調整)
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設の各種の保健医療福祉計画や保健事業、施策、政策についての情報を収集し整理しておく。</li> <li>2. 継続的な支援が必要と考えられる対象者の健康課題と社会資源について情報を収集し整理しておく。</li> </ol>						
事後学習	実習を振り返り、市町村保健師の役割・機能を整理する。						
フィードバック	全体の最終報告会直後に口頭でフィードバックする。 実習記録にコメントを記して返却する。						
教育内容	内容						
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場所: 市町村保健センター(10市町村)で実習する。公衆衛生看護学実習Ⅰ(技術・実践)と同じ実習場所で実習する。</li> <li>2. 実習期間: 1週間</li> <li>3. 実習内容: 実習施設において、各種保健事業の説明を受け、参加する。毎日デイリーカンファレンスを行い、金曜に終了報告会を行う。いずれも学生主体で運営し指導者の助言を受ける。実習Ⅲまで終了後に最終報告会を行う。</li> </ol>						
	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者
	1	1日目 ～ 5日目 (AM)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生看護学実習Ⅰでの対象を限定した地域診断で抽出された健康課題を踏まえ、指導者の助言をもとに実習市町村の健康課題を述べる。</li> <li>・各種保健医療福祉計画の目的・意義を述べる。</li> <li>・政策や地域の健康課題と各種保健事業や保健医療福祉計画を関連づける。</li> <li>・事業化の実際とその過程について述べる。</li> <li>・施策化の実際とその過程について述べる。</li> <li>・社会資源を活用・開発・管理する実際とその過程について述べる。</li> <li>・ケアシステムを構築する実際とその過程について述べる。</li> <li>・事業化、施策化における公衆衛生看護管理の機能について述べる。</li> <li>・事業化、施策化、システム化、社会資源の開発における保健師の役割について考察する。</li> <li>・継続的な支援が必要な個人・家族の健康課題に対し、支援方法の展開と関係機関・職種との連携について述べる。</li> <li>・尊厳と権利を守り、主体的に考えて発言し周囲との関係を構築し自己の看護観を明確にする。</li> </ul>				担当教員全員
	5日目 (PM)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目的・目標に対する学習結果を実習経験を基にまとめ、グループでは地域診断についてのプレゼンテーション、個人では実習の学びと考察を発表し、指導者等からの助言を基に学習の学びを深める。</li> </ul>				担当教員全員	
	翌週1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村における実習経験を基に実習の学びを共有し理解を深めるために、実習グループごとに実習目的、目標に対する学習結果と地域診断についてプレゼンテーションを行う。</li> <li>・意見交換をする。</li> </ul>				担当教員全員	
テキスト			参考書				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標美奈子他「標準保健師講座(1)公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院</li> <li>2. 中村裕美子他「標準保健師講座(2)公衆衛生看護技術 Standard textbook」第5版 医学書院</li> <li>3. 中谷芳美他「標準保健師講座(3)対象別公衆衛生看護活動 Standard textbook」第5版 医学書院</li> </ol>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 藤内修二他編「標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院)</li> <li>2. 尾崎米厚他編「標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学」(医学書院)</li> <li>3. 日本看護協会監修「新版 保健師業務要覧」(日本看護協会出版協会)</li> <li>4. 『厚生指標増刊 国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)</li> </ol>				
実務経験と授業科目との関連性			履修要件				
行政機関で保健師の実務経験がある教員が、経験をいかして科目と関連性を保ちながら市町村における公衆衛生看護活動と保健師の役割を指導する。			公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位を履修していること。				
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護活動の対象者は様々な年代や健康レベルにあるので、ほかの専門領域の学習内容、授業資料等を活用して学習を進めること。</li> <li>2. 保健師選択コースの者は履修すること。</li> </ol>						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)
117	公衆衛生看護学実習Ⅳ	1	45	選択 (保健師必修)	実習	4年後期	○原岡智子/五十嵐佳寿美
科目概要	事業場における作業環境管理、作業管理、健康管理の実際を通し、産業看護職の活動と事業場の組織構造の理解を深め、職場巡視、健康相談等を展開することができる。 学校における養護教諭の保健教育、保健管理の実際を通して、養護教諭の活動と役割、学校の組織構造や関係者・機関との連携を理解し、健康教育、児童・生徒への対応方法を身につけることができる。						
到達目標	1. 事業場における労働安全衛生管理を理解することができる。 2. 事業場で働く人々の特徴と健康状態をアセスメントし、健康課題に対する支援の方法を理解することができる。 3. 事業場で働く人々の健康保持増進能力を高めるための看護活動のプロセスを理解することができる。 4. 児童・生徒の学校生活および心身の健康状態について理解する。 5. 学校における保健活動の概要と養護教諭の役割を理解する。 6. 専門職として主体的に学び実践の質的向上を図る態度を修得する。						
DP との対応	○ 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 ○ 2. 主体的行動力 ○ 3. 地域貢献力と多職種連携能力 ○ 4. 課題発見能力と課題解決力 ○ 5. 看護の知識と看護実践力 ◎ 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準	実習目標に対する到達度を実践状況、実習記録、報告会の参加状況や内容、グループ活動での協働の姿勢から総合的に判断する。60点以上を合格とする。 * 実習要項の実習評価表にて詳細で具体的な評価項目と配分を明示する。			オフィスアワー 時間: 実習前/実習後 場所: 各研究室 (実習中は各担当教員と調整)	
事前学習	1. 教科書の該当箇所、講義で配布した資料を熟読しておく。 2. 実習施設の概要を調べておく。						
事後学習	実習を振り返り自己の課題を明らかにする。						
フィードバック	全体の最終報告会直後に口頭でフィードバックする。 実習記録にコメントを記して返却する。						
教育内容	内容						
	A産業保健活動実習 1. 実習場所: 企業の健康管理部門 2. 実習内容: ①企業の健康管理部門に向き、保健師、衛生管理者、産業医等から活動の実際を学ぶ。 ②施設内の見学等により労働内容や労働環境、労働条件と健康課題の関連について学ぶ。 ③健康教育の実施 3. 実習期間: 1週間 B学校保健活動実習 1. 実習場所: 小学校、養護学校 2. 実習内容: ①養護教諭から活動の実際を学ぶ。 ②保健室運営の参加・見学 ③保健教育活動参加見学④行事やクラス運営に参加、見学 ⑤健康教育の実施 3. 実習期間: 1週間						
	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者
1	1日目 ~ 4日目	A: 産業保健活動実習 場所: 企業 実習項目: オリエンテーション、職場巡視、安全衛生委員会、保健指導など、デイリーカンファレンス B: 学校保健活動実習 場所: 小学校または養護学校 実習項目: オリエンテーション、校内巡視、保健室運営の参加・見学、保健教育活動参加・見学、クラス運営参加・見学など、デイリーカンファレンス				担当教員全員	
	5日目	場所: 学内 (午前)記録、報告会準備 (午後)報告会、レポート作成				担当教員全員	
テキスト					参考書		
1. 標美奈子他「標準保健師講座(1)公衆衛生看護学概論 Standard textbook」第6版 医学書院 2. 中村裕美子他「標準保健師講座(2)公衆衛生看護技術 Standard textbook」第5版 医学書院 3. 中谷芳美他「標準保健師講座(3)対象別公衆衛生看護活動 Standard textbook」第5版 医学書院					公衆衛生看護学関連の科目で使用した資料等、他授業時に適宜紹介する		
実務経験と授業科目との関連性					履修要件		
専門分野での保健師実務経験がある教員が、産業保健活動と産業保健師の役割について指導する。 専門分野での保健師実務経験がある教員が、学校保健活動と養護教諭の役割について指導する。					公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を修得していること		
留意事項	1. 看護活動の対象者は様々な年代や健康レベルにあるので、ほかの専門領域の学習内容、授業資料等を活用して学習を進めること。 2. 保健師選択コースの者は履修すること。						

No.	教科目名	単位数	時間数	必修/選択	授業形態	開講時期	教員名(複数の教員が担当する場合、科目責任者=○)	
118	統合実習	2	90	必修	実習	4年前期	小林由美/金子潔子/原岡智子/藤川君江/○鮎川昌代/ 安田裕子/関永信子/山下恵子/桑原良子/近藤恵子/ 垣内いづみ/加藤香織/伊藤寿満子/五十嵐佳寿美/ 牛山陽介/芳賀了/大谷健史/荻野貴美子/笠原潮美/ 荻久保弘子/中川布沙子/中沢明美	
科目概要	4年間の実習を統合し、療養生活送る人々の多様なニーズに対し、安全で効率的な看護を提供するために必要な看護サービスマネジメントの実習を学ぶ。また、医療施設において複数の患者を受け持ち、限定された期間の中での看護を実践する方法を修得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の患者を受け持ち、看護師と共に優先順位をつけ看護を実践できる。</li> <li>2. 看護師と共に行動し、リーダー及びメンバーの役割について知る。</li> <li>3. 一勤務帯を通して看護を実践し、そこの看護師の役割について説明できる。</li> <li>4. 看護管理や病棟管理の実際を知る。</li> <li>5. チームの一員として協働し、倫理的視点に根差した看護を実践する。</li> <li>6. 専門職者として守るべき看護倫理について理解し、対象の権利と保護を踏まえた援助ができる。</li> </ol>							
DPとの対応	<input type="radio"/> 1. 多様な人との関係を成立・発展できる能力 <input checked="" type="radio"/> 2. 主体的行動力 <input type="radio"/> 3. 地域貢献力と多職種連携能力 <input type="radio"/> 4. 課題発見能力と課題解決力 <input type="radio"/> 5. 看護の知識と看護実践力 <input type="radio"/> 6. 地域の多様な健康課題に対応できる力	成績評価基準		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習評価表に準ずる。</li> <li>・具体的な評価項目と配分を記した実習要項評価表に基づいて、看護実践内容、課題および実習記録の内容、カンファレンスへの参加状況などから総合的に評価する。</li> </ul>		オフィスアワー  時間: 実習前/実習後 場所: 各研究室 (実習中は各担当教員と調整)		
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護マネジメント論の学習内容の復習</li> <li>2. 「看護師の倫理綱領」の確認、基本的看護技術の復習と確認</li> <li>3. 既習の講義・演習・実習から、考えられる学習課題や専門性を更に深めたいところを明らかにしておく</li> </ol>							
事後学習	提示された事後レポートの課題と記録一式を締め切りまでに提出する							
フィードバック	提出物(実習記録やレポート)の内容とカンファレンスにおいて発表された内容に基づいてフィードバックを行う。							
内容								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の持っている課題などを確認し、実習領域や場所、施設等できるだけ学生の希望に沿うことを原則とする。</li> <li>2. 病棟の看護チームの一員として活動することを前提にしながら、看護実践をする。</li> <li>3. カンファレンスは学生主導で行う。</li> </ol>								
教育内容	週	曜日	実習内容及び実習方法				担当者	
	1	月	学内	オリエンテーション、グループワーク				担当教員全員
		火	臨地	<ol style="list-style-type: none"> <li>①病棟オリエンテーション・管理に関する講義</li> <li>・看護部長による病棟・看護部の理念、組織、方針についての説明</li> <li>・病棟における病棟管理、看護管理の概要</li> <li>②病棟オリエンテーション</li> <li>・病棟の構造、業務の流れ、受け持ち患者の情報収集</li> </ol>				
		水	臨地	<ol style="list-style-type: none"> <li>①受け持ち患者への看護(情報収集・アセスメント・看護計画・実施・評価)</li> <li>②shadowing: 師長</li> <li>③shadowing: リーダー</li> <li>④shadowing: メンバー</li> </ol>				
		木	臨地					
		金	臨地					
	2	月	臨地	実習期間を通して②～④を1回ずつ経験				
		火	臨地	それ以外の日は①を実施				
		水	臨地	臨地最終日にはまとめカンファレンスを実施				
		木	臨地					
	金	学内	最終カンファレンス・グループワーク・発表					
テキスト				参考書				
適宜指定する				適宜指定する				
実務経験と授業科目との関連性				履修要件				
病院等で看護経験を有する教員が、安全で効率的な看護を提供するために必要な看護サービスマネジメントを指導する。看護管理者経験のある教員が実習全体を統括・管理する				地域・在宅看護学実習、成人急性期看護学実習、成人慢性期看護学実習、老年看護学実習Ⅱ、小児看護学実習Ⅱ、母性看護学実習、精神看護学実習の単位を修得していること				
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全員が積極的に参加し、主体的に学びを進めていく。</li> <li>2. 事前学習は必ず行い、実習に望む。</li> <li>3. 課題学習及び実習記録は指定された日時、方法で提出する。</li> </ol>							



## 2021年度以前入学者向け 科目読替対応表

看護学科では、2022年度から新しいカリキュラムが実施され、一部科目の名称や単位数が変わっています。本表は、2021年度以前入学者が自身の履修要覧に掲載されている科目を修得したい場合に、履修登録すべき科目を網羅的に示したものです。

履修登録の際には、下記の手順にて登録手続きを行ってください。

- ・自身の入学年度(2021年度)の「シラバス」で、修得したい科目を確認。
- ・本表で、その科目を修得するにはどの科目を履修登録すればよいかを確認。
- ・履修登録を行う。

### 4年次開講科目

2021年度入学生カリキュラム						2022年度以降入学生カリキュラム						備考
No.	教科目名	単位数	必修・選択別	授業形態	開講時期	No.	教科目名	単位数	必修・選択別	授業形態	開講時期	
90	救急看護学実習	1	選択	実習	前期	111	救急看護学実習	1	選択	実習	前期	
91	災害看護学実習	1	選択	実習	前期	112	災害看護学実習	1	選択	実習	前期	
95	多職種連携実習	1	選択	実習	前期		なし					別途開講
102	公衆衛生看護学実習Ⅰ	2	選択	実習	前期	114	公衆衛生看護学実習Ⅰ	2	選択	実習	前期	
103	公衆衛生看護学実習Ⅱ	1	選択	実習	前期	115	公衆衛生看護学実習Ⅱ	1	選択	実習	前期	
104	公衆衛生看護管理実習	2	選択	実習	前期	116	公衆衛生看護学実習Ⅲ	1	選択	実習	前期	
						117	公衆衛生看護学実習Ⅳ	1	選択	実習	後期	
111	看護マネジメント論	1	必修	講義	前期	98	看護マネジメント論	1	必修	講義	前期	
112	統合実習	2	必修	実習	前期	118	統合実習	2	必修	実習	前期	
113	卒業研究	2	必修	演習	通年	99	卒業研究	2	必修	演習	通年	
35	キャリア形成論	1	選択	講義	後期	32	キャリア形成論	1	選択	講義	後期	
93	ターミナル看護	2	選択	講義	後期	96	ターミナル看護	2	選択	講義	後期	
110	ヘルスカウンセリング	1	選択	講義	後期	97	ヘルスカウンセリング	1	選択	講義	後期	

## 履修モデル(看護師)

の科目を選択した場合

		1年次				2年次				
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	
教養科目	コミュニケーション 関連科目	英語 I	◎2	カウンセリング理論	○1	英語 II	○2			
		人間関係論	◎1	コミュニケーション支援論	○1	中国語	○2			
	科学的思考 関連科目	情報リテラシー	○1	情報科学	◎1					
		科学論	○1							
		社会学	○1							
		生物学	○2							
		日本国憲法	○2							
		比較文化論	○1							
		環境学	○1							
	人間と生活 社会の理解 関連科目	教育学	○1							
		生命倫理	◎1	法と人権	◎1					
		臨床心理学	◎1	家庭支援論	○1					
健康とスポーツ		○1	国際理解入門	○1						
体育実技		◎1	ボランティア論	○1						
連携科目	智の創造 関連科目			音楽療法	○1					
				松本の歴史と文化	○1					
	教養ゼミナル	教養ゼミナル	◎1	研究入門	◎1	連携ゼミナル I	◎1	研究方法論	◎1	
		言葉と表現	○1							
	専門基礎科目	人体構造と機能	形態機能学 I	◎2	形態機能学 II	◎2	臨床栄養学	◎1		
					形態機能学 III	◎1				
					生化学	◎2				
		疾病の成り立ちと 回復の促進			病態治療学 I	◎2	病態治療学 II	◎2	臨床薬理学	◎2
					看護とリハビリテーション	◎1	感染症学	◎2	感染看護学	○1
		健康支援と 保健医療システム			公衆衛生学	◎1	保健統計学 I	◎1	疫学	◎2
					社会保障制度	◎1			衛生関係法規	◎1
					看護援助的関係論	○1			保健統計学 II	○1
専門科目		看護の基礎	看護学概論	◎2	基礎看護技術 II	◎2	基礎看護技術 III	◎1	看護倫理学	◎1
			基礎看護技術 I	◎2	ヘルスアセスメント	◎2	看護過程展開論	◎1	地域・在宅看護援助論 I	◎1
				地域包括ケア論	◎1	地域・在宅看護学概論	◎2			
	看護の実践					成人看護学概論	◎2	成人慢性期看護論	◎2	
						老年看護学概論	◎2	緩和ケア論	○1	
						小児看護学概論	◎2	老年症候群援助論	◎1	
						母性看護学概論	◎2	認知症ケア論	○1	
						精神看護学概論	◎2	小児看護援助論 I	◎1	
								小児発達学	○1	
								母性看護援助論 I	◎1	
	看護の発展と統合							地域母子保健学	○1	
								精神看護援助論 I	◎1	
								地域精神保健学	○1	
	看護の実践 (臨地実習)	基礎看護学実習 I	◎1			公衆衛生看護学概論	◎2	地域医療連携システム論	○1	
						健康支援論	◎1	公衆衛生看護活動論 I	○2	
モデル	必修合計	◎14	◎18	◎26	◎14					
	選択合計	○7	○5	○2	○5					
学生	合計	21	23	28	19					
	必修合計									
	選択合計									
	合計									

3年次				4年次				単位数	
前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	履修単位	卒業要件
								◎3単位 ○4単位	◎3単位 ○3単位以上
								◎1単位 ○7単位	◎1単位 ○5単位以上
								◎4単位 ○3単位	◎4単位 ○3単位以上
連携ゼミナルⅡ	◎1					キャリア形成論	○1	◎5単位 ○1単位	◎5単位 ○1単位以上
								◎23単位 ○3単位	◎23単位 ○2単位以上
保健・医療・福祉行政論	◎2								
地域・在宅看護援助論Ⅱ	◎1								
家族看護学	◎1								
成人急性期看護論	◎2								
老年看護援助論	◎1								
小児看護援助論Ⅱ	◎1								
母性看護援助論Ⅱ	◎1								
精神看護援助論Ⅱ	◎1								
救急看護学	○2			公衆衛生看護管理論	○1	ターミナル看護	◎1	◎70単位 ○11単位	◎70単位 ○11単位以上
災害看護学	○2			公衆衛生看護方法論Ⅲ	○2	ヘルスカウンセリング	○1		
在宅生活支援論	◎1			看護マネジメント論	◎1				
公衆衛生看護方法論Ⅰ	○2			卒業研究			◎2		
公衆衛生看護方法論Ⅱ	○2								
老年看護学実習Ⅰ	◎1			救急看護学実習	○1	公衆衛生看護学実習Ⅳ	○1		
小児看護学実習Ⅰ	◎1			災害看護学実習	○1				
地域・在宅看護学実習			◎3	多職種連携実習	○2				
成人急性期看護学実習			◎2	公衆衛生看護学実習Ⅰ	○2				
成人慢性期看護学実習			◎4	公衆衛生看護学実習Ⅱ	○1				
老年看護学実習Ⅱ			◎2	公衆衛生看護学実習Ⅲ	○1				
小児看護学実習Ⅱ			◎1	統合実習	◎2				
母性看護学実習			◎2						
精神看護学実習			◎2						
—			◎28	—			◎6	◎106単位	◎106単位
—			○6	—			○4	○29単位	○24単位以上
—			34	—			10	135単位	130単位以上
									◎106単位
									○24単位以上
									130単位以上

## 履修モデル(保健師)

の科目を選択した場合

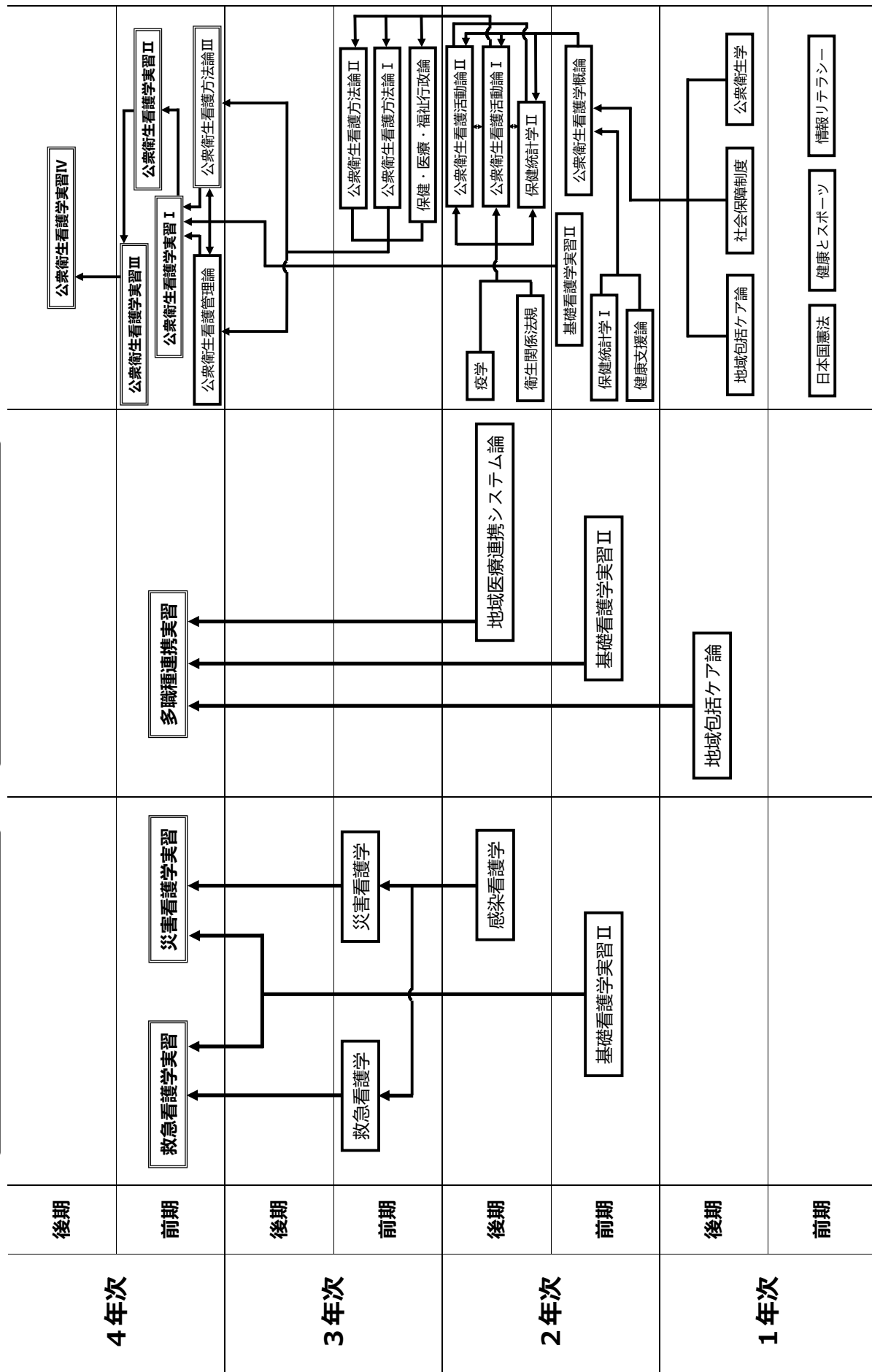
		1年次				2年次				
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	
教養科目	コミュニケーション 関連科目	英語Ⅰ	◎2	カウンセリング理論	○1	英語Ⅱ	○2			
		人間関係論	◎1	コミュニケーション支援論	○1	中国語	○2			
	科学的思考 関連科目	情報リテラシー	◎1	情報科学	◎1					
		科学論	○1							
		社会学	○1							
		生物学	○2							
		日本国憲法	◎2							
		比較文化論	○1							
		環境学	○1							
	人間と生活 社会の理解 関連科目	教育学	○1							
		生命倫理	◎1	法と人権	◎1					
		臨床心理学	◎1	家庭支援論	○1					
		健康とスポーツ	◎1	国際理解入門	○1					
		体育実技	◎1	ボランティア論	○1					
	連携科目	智の創造 関連科目			音楽療法	○1				
教養ゼミナール			◎1	松本の歴史と文化	○1					
言葉と表現			○1							
専門基礎科目	人体構造と機能	形態機能学Ⅰ	◎2	形態機能学Ⅱ	◎2	臨床栄養学	◎1			
				形態機能学Ⅲ	◎1					
				生化学	◎2					
	疾病の成り立ちと 回復の促進			病態治療学Ⅰ	◎2	病態治療学Ⅱ	◎2	臨床薬理学	◎2	
				看腹とリハビリテーション	◎1	感染症学	◎2	感染看護学	○1	
	健康支援と 保健医療システム			公衆衛生学	◎1	保健統計学Ⅰ	◎1	疫学	◎2	
				社会保障制度	◎1			衛生関係法規	◎1	
				看護援助的関係論	○1			保健統計学Ⅱ	◎1	
	専門科目	看護の基礎	看護学概論	◎2	基礎看護技術Ⅱ	◎2	基礎看護技術Ⅲ	◎1	看護倫理学	◎1
			基礎看護技術Ⅰ	◎2	ヘルスアセスメント	◎2	看護過程展開論	◎1	地域・在宅看護援助論Ⅰ	◎1
看護の実践				地域包括ケア論	◎1	地域・在宅看護学概論	◎2			
						成人看護学概論	◎2	成人慢性期看護論	◎2	
						老年看護学概論	◎2	緩和ケア論	○1	
						小児看護学概論	◎2	老年症候群援助論	◎1	
						母性看護学概論	◎2	認知症ケア論	○1	
						精神看護学概論	◎2	小児看護援助論Ⅰ	◎1	
								小児発達学	○1	
								母性看護援助論Ⅰ	◎1	
看護の発展と統合								地域母子保健学	○1	
								精神看護援助論Ⅰ	◎1	
								地域精神保健学	○1	
						公衆衛生看護学概論	◎2	地域医療連携システム論	○1	
看護の実践 (臨床実習)						健康支援論	◎1	公衆衛生看護活動論Ⅰ	◎2	
								公衆衛生看護活動論Ⅱ	◎1	
モデル	必修合計	◎18		◎18		◎26		◎18		
	選択合計	○4		○3		○2		○3		
	合計	22		21		28		21		
学生	必修合計									
	選択合計									
	合計									

3年次				4年次				単位数	
前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	履修単位	卒業要件
								◎3単位 ○3単位	◎3単位 ○3単位以上
								◎4単位 ○3単位	◎4単位 ○2単位以上
								◎5単位 ○2単位	◎5単位 ○2単位以上
連携ゼミナルⅡ	◎1					キャリア形成論	○1	◎5単位 ○1単位	◎5単位 ○1単位以上
								◎26単位 ○1単位	◎26単位
保健・医療・福祉行政論	○2								
地域・在宅看護援助論Ⅱ	◎1								
家族看護学	◎1								
成人急性期看護論	◎2								
老年看護援助論	◎1								
小児看護援助論Ⅱ	◎1								
母性看護援助論Ⅱ	◎1								
精神看護援助論Ⅱ	◎1								
救急看護学	○2			公衆衛生看護管理論	◎1	ターミナル看護	◎1	◎85単位 ○5単位	◎85単位
災害看護学	○2			公衆衛生看護方法論Ⅲ	◎2	ヘルスカウンセリング	○1		
在宅生活支援論	◎1			看護マネジメント論	◎1				
公衆衛生看護方法論Ⅰ	◎2			卒業研究			◎2		
公衆衛生看護方法論Ⅱ	◎2								
老年看護学実習Ⅰ	◎1			救急看護学実習	○1	公衆衛生看護学実習Ⅳ	◎1		
小児看護学実習Ⅰ	◎1			災害看護学実習	○1				
地域・在宅看護学実習		◎3		多職種連携実習	○2				
成人急性期看護学実習		◎2		公衆衛生看護学実習Ⅰ	◎2				
成人慢性期看護学実習		◎4		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎1				
老年看護学実習Ⅱ		◎2		公衆衛生看護学実習Ⅲ	◎1				
小児看護学実習Ⅱ		◎1		統合実習	◎2				
母性看護学実習		◎2							
精神看護学実習		◎2							
—		◎24		—		◎14		◎128単位	◎128単位
—		○2		—		○1		○15単位	○8単位以上
—		36		—		15		143単位	136単位以上
									◎128単位
									○8単位以上
									136単位以上

救急・災害

地域・在宅

公衆衛生



二重線で囲まれた科目は卒業要件に該当する選択実習科目

矢印は履修要件を示す